

第56回 The 56th Japanese Occupational Therapy  
Congress & Expo in Kyoto 2022

# 日本作業療法学会 プログラム

持続可能な社会を創る作業療法

2022年9月16日(金)～18日(日)

会場 国立京都国際会館  
〒606-0001京都市左京区岩倉大鷲町422番地

主催 一般社団法人  
日本作業療法士協会

学会長 村田 和香  
群馬パース大学 リハビリテーション学部



<http://ot56.umin.jp/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

# 第56回日本作業療法学会

The 56th Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Kyoto 2022

## 持続可能な社会を創る作業療法

Occupational Therapy for Creating a Sustainable Society

主催／ 一般社団法人日本作業療法士協会

後援／ 厚生労働省

京都府

京都市

NPO法人日本リハビリテーション看護学会

一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会

一般社団法人全国デイ・ケア協会

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設協会

一般社団法人日本医療法人協会

一般社団法人日本介護支援専門員協会

一般社団法人日本義肢協会

一般社団法人日本言語聴覚士協会

一般社団法人日本高次脳機能障害学会

一般社団法人日本在宅介護協会

公益社団法人日本生体医工学会

一般社団法人日本精神科看護協会

一般社団法人日本病院会

一般社団法人日本福祉用具供給協会

一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会

一般社団法人日本慢性期医療協会

公益社団法人日本介護福祉士会

公益財団法人日本訪問看護財団

公益財団法人テクノエイド協会

公益社団法人全国精神保健福祉会連合会

公益社団法人全国有料老人ホーム協会

公益社団法人全国老人福祉施設協議会

公益社団法人全国老人保健施設協会

公益社団法人全日本病院協会

公益社団法人日本リハビリテーション医学会

公益社団法人日本栄養士会

公益社団法人日本看護協会

公益社団法人日本社会福祉士会

公益社団法人日本整形外科学会

公益社団法人日本精神科病院協会

公益社団法人日本精神神経学会

公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人日本理学療法士協会

公益社団法人日本医師会

日本職業リハビリテーション学会

日本病院・地域精神医学会

一般社団法人日本脳卒中学会

公益財団法人日本パラスポーツ協会

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会





会場別日程表		1日目 2022年 9月16日(金) 受付開始時間9:00～																		LIVE :ライブ配信						
		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30				
参加受付 (イベントホール)		受付																								
第1会場 (メインホール)				開会式 LIVE	10:00～10:50 学会長講演 個人の幸せの追求は持続可能な社会を創る LIVE			11:20～12:30 スペシャルセッション SS-1-1～SS-1-4 LIVE			13:00～14:30 基調講演 1 「はじまりの「あーと」その理論と実践 LIVE			14:40～16:10 シンポジウム 1 自分らしい働きがいのある仕事のために LIVE												
第2会場 (Annex1)							11:00～12:30 教育講演 1 司法領域における作業療法の可能性				13:00～14:30 教育講演 2 2030年に活躍できるOTのために			14:40～16:10 国際企画プログラム (事前録画を放映) Occupational Therapy in Australia: Current status and issues/ オーストラリアの作業療法について:現状と課題												
第3会場 (Annex2)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 1 がん	12:10～13:10(Oral) 脳血管疾患等 1 OA-1-1～OA-1-5			13:20～14:20(Oral) 脳血管疾患等 2 OA-2-1～OA-2-5			14:30～15:30(Oral) 脳血管疾患等 3 OA-3-1～OA-3-5			15:40～16:50(Oral) 脳血管疾患等 4 OA-4-1～OA-4-6			17:00～18:00 企画セミナー 1 ロボットと作業療法研究会						
第4会場 (RoomA)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 2 高次脳機能障害	12:10～13:10(Oral) 運動器疾患 1 OD-1-1～OD-1-5			13:20～14:20(Oral) 運動器疾患 2 OD-2-1～OD-2-5			14:30～15:30(Oral) 地域 1 ON-1-1～ON-1-5			15:40～16:50(Oral) 地域 2 ON-2-1～ON-2-6			17:00～18:00 企画セミナー 2 Review Circle on Rehabilitation for Demantia						
第5会場 (RoomB-1)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 3 摂食嚥下	12:10～13:10(Oral) 基礎研究 1 OP-1-1～OP-1-5			13:20～14:20(Oral) 管理運営 1 OQ-1-1～OQ-1-5			14:30～15:30(Oral) 精神障害 1 OH-1-1～OH-1-5			15:40～16:50(Oral) 基礎研究 2/内科疾患 1 OP-2-1～OP-2-6			17:00～18:00 企画セミナー 3 リハビリテーション栄養学会						
第6会場 (RoomB-2)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 4 特別支援教育	12:10～13:10(Oral) 教育 1 OR-1-1～OR-1-5			13:20～14:20(Oral) 教育 2 OR-2-1～OR-2-5			14:30～15:30(Oral) 神経難病 1 OE-1-1～OE-1-5			15:40～16:50(Oral) 心大血管疾患 1 OB-1-1～OB-1-6			17:00～18:00 企画セミナー 4 アディクシオン関連問題作業療法研究会						
第7会場 (RoomD)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 5 手外科	12:10～13:10(Oral) 高齢期 1 OJ-1-1～OJ-1-5			13:20～14:20(Oral) 高齢期 2 OJ-2-1～OJ-2-5			14:30～15:30(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む)1 OK-1-1～OK-1-5			15:40～16:50(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む)2 OK-2-1～OK-2-6			17:00～18:00 企画セミナー 5 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会						
第8会場 (RoomE)							11:00～12:00 専門作業療法士セミナー 6 訪問作業療法	12:10～13:10(Oral) がん 1 OF-1-1～OF-1-5			13:20～14:20(Oral) がん 2 OF-2-1～OF-2-5			14:30～15:30(Oral) 発達障害 1 OI-1-1～OI-1-5			15:40～16:50(Oral) 発達障害 2 OI-2-1～OI-2-6			17:00～18:00 企画セミナー 6 ICTリハビリテーション研究会						
ポスター会場 (イベントホール)	ポスター受付・掲示								12:00～13:00(Poster) 脳血管疾患等 1 PA-1-1～PA-1-11			13:00～14:00(Poster) 脳血管疾患等 2 PA-2-1～PA-2-11			14:00～15:00(Poster) 脳血管疾患等 3 PA-3-1～PA-3-12			15:00～16:00(Poster) 脳血管疾患等 4 PA-4-1～PA-4-12			16:00～17:00(Poster) 脳血管疾患等 5 PA-5-1～PA-5-12					
												13:00～14:00(Poster) 心大血管疾患 1 PB-1-1～PB-1-5										16:00～17:00(Poster) 呼吸器疾患 2 PC-2-1～PC-2-5				
															14:00～15:00(Poster) 呼吸器疾患 1 PC-1-1～PC-1-5								16:00～17:00(Poster) 運動器疾患 5 PD-5-1～PD-5-5			
										12:00～13:00(Poster) 運動器疾患 1 PD-1-1～PD-1-6			13:00～14:00(Poster) 運動器疾患 2 PD-2-1～PD-2-6			14:00～15:00(Poster) 運動器疾患 3 PD-3-1～PD-3-6			15:00～16:00(Poster) 運動器疾患 4 PD-4-1～PD-4-5				16:00～17:00(Poster) 神経難病 2 PE-2-1～PE-2-5			
										12:00～13:00(Poster) 神経難病 1 PE-1-1～PE-1-5														16:00～17:00(Poster) がん 3 PF-3-1～PF-3-5		
										12:00～13:00(Poster) がん 1 PF-1-1～PF-1-4						14:00～15:00(Poster) がん 2 PF-2-1～PF-2-5										
										12:00～13:00(Poster) 内科疾患 1 PG-1-1～PG-1-4																
										12:00～13:00(Poster) 精神障害 1 PH-1-1～PH-1-6			13:00～14:00(Poster) 精神障害 2 PH-2-1～PH-2-6					15:00～16:00(Poster) 精神障害 3 PH-3-1～PH-3-5						16:00～17:00(Poster) 精神障害 4 PH-4-1～PH-4-5		
										12:00～13:00(Poster) 発達障害 1 PI-1-1～PI-1-6			13:00～14:00(Poster) 発達障害 2 PI-2-1～PI-2-6					15:00～16:00(Poster) 発達障害 3 PI-3-1～PI-3-5						16:00～17:00(Poster) 発達障害 4 PI-4-1～PI-4-5		
												13:00～14:00(Poster) 高齢期 1 PJ-1-1～PJ-1-6			14:00～15:00(Poster) 高齢期 2 PJ-2-1～PJ-2-5			15:00～16:00(Poster) 高齢期 3 PJ-3-1～PJ-3-5						16:00～17:00(Poster) 高齢期 4 PJ-4-1～PJ-4-5		
										12:00～13:00(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)1 PK-1-1～PK-1-6			13:00～14:00(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)2 PK-2-1～PK-2-6			14:00～15:00(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)3 PK-3-1～PK-3-5			15:00～16:00(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)4 PK-4-1～PK-4-5							
										12:00～13:00(Poster) 援助機器 1 PL-1-1～PL-1-4															16:00～17:00(Poster) 援助機器 2 PL-2-1～PL-2-5	
										12:00～13:00(Poster) MTDLP 1 PM-1-1～PM-1-4									15:00～16:00(Poster) MTDLP 2 PM-2-1～PM-2-5							
										12:00～13:00(Poster) 地域 1 PN-1-1～PN-1-8			13:00～14:00(Poster) 地域 2 PN-2-1～PN-2-8			14:00～15:00(Poster) 地域 3 PN-3-1～PN-3-8			15:00～16:00(Poster) 地域 4 PN-4-1～PN-4-7					16:00～17:00(Poster) 地域 5 PN-5-1～PN-5-7		
																14:00～15:00(Poster) 基礎研究 1 PP-1-1～PP-1-6			15:00～16:00(Poster) 基礎研究 2 PP-2-1～PP-2-5							
												13:00～14:00(Poster) 管理運営 1 PQ-1-1～PQ-1-4													16:00～17:00(Poster) 管理運営 2 PQ-2-1～PQ-2-5	
										12:00～13:00(Poster) 教育 1 PR-1-1～PR-1-6					14:00～15:00(Poster) 教育 2 PR-2-1～PR-2-5			15:00～16:00(Poster) 教育 3 PR-3-1～PR-3-5						16:00～17:00(Poster) 教育 4 PR-4-1～PR-4-5		
		展示会場 (イベントホール)		企業展示、書籍展示、大学院説明ブース																						

キリトリ

会場別日程表

2日目 2022年 9月17日(土) 受付開始時間8:00～ LIVE :ライブ配信

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30										
参加受付 (イベントホール)	受付																														
第1会場 (メインホール)	9:00～10:00 専門作業療法士セミナー 7 脳血管障害		10:30～12:00 基調講演 2 ケアとジェンダー -家族社会学の視点から- <b>LIVE</b>		13:00～14:30 シンポジウム 2 生活に寄り添う災害作業療法 <b>LIVE</b>		14:40～16:10 基調講演 3 作業を困難にする「健康の社会的決定要因(SDH)」とは? <b>LIVE</b>		16:20～17:50 教育講演 3 AIとロボットの活用に向けて																						
第2会場 (Annex1)	9:00～10:00 専門作業療法士セミナー 8 認知症		10:10～11:10(Oral) 脳血管疾患等 6 OA-6-1～OA-6-5		11:20～12:20(Oral) 脳血管疾患等 8 OA-8-1～OA-8-5		12:30～13:30(Oral) 脳血管疾患等 10 OA-10-1～OA-10-5		13:40～14:40(Oral) 脳血管疾患等 11 OA-11-1～OA-11-5		14:50～16:00(Oral) 脳血管疾患等 12 OA-12-1～OA-12-6		16:40～17:40 企画セミナー 7 臨床家・教育者のための生活 リスク・コミュニケーション研究会																		
第3会場 (Annex2)	9:00～10:00 専門作業療法士セミナー 9 就労支援		10:10～11:10(Oral) 地域 3 ON-3-1～ON-3-5		11:20～12:20(Oral) 地域 4 ON-4-1～ON-4-5		12:30～13:40(Oral) 地域 5 ON-5-1～ON-5-6		13:50～15:00(Oral) 地域 6 ON-6-1～ON-6-6		15:10～16:20(Oral) 地域 7 ON-7-1～ON-7-6		16:40～17:40 企画セミナー 8 クリニカルワークシップに基づく 作業療法臨床教育研究会																		
第4会場 (RoomA)	9:00～10:00 専門作業療法士セミナー 10 福祉用具		10:10～11:10(Oral) 運動器疾患 3 OD-3-1～OD-3-5		11:20～12:20(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む)3 OK-3-1～OK-3-5		12:30～13:30(Oral) MTDLP 1/理論 1 OM-1-1～OM-1-5		13:40～14:40(Oral) 運動器疾患 4 OD-4-1～OD-4-5		14:50～16:00(Oral) 認知障害(高次脳機能障害を含む)4 OK-4-1～OK-4-6		16:40～17:40 企画セミナー 9 日本作業療法士協会制度対策部障害保健 福祉対策委員会(就労支援チーム)																		
第5会場 (RoomB-1)	9:00～10:00 専門作業療法士セミナー 11 精神科急性期		10:10～11:10(Oral) がん 3 OF-3-1～OF-3-5		11:20～12:20(Oral) 神経難病 2 OE-2-1～OE-2-5		12:30～13:30(Oral) 援助機器 1 OL-1-1～OL-1-5		13:40～14:40(Oral) 神経難病 3 OE-3-1～OE-3-5		14:50～16:00(Oral) がん 4 OF-4-1～OF-4-6		16:40～17:40 企画セミナー 10 Park-OT Journal Club																		
第6会場 (RoomB-2)	9:00～10:00(Oral) 基礎研究 3 OP-3-1～OP-3-5		10:10～11:10(Oral) 基礎研究 4 OP-4-1～OP-4-5		11:20～12:20(Oral) 基礎研究 5 OP-5-1～OP-5-5		12:30～13:30(Oral) 管理運営 2 OQ-2-1～OQ-2-5		13:40～14:40(Oral) 管理運営 3/援助機器 2 OQ-3-1～OQ-3-5		14:50～16:00(Oral) 呼吸器疾患 1 OC-1-1～OC-1-6		16:40～17:40 企画セミナー 11 司法精神作業療法全国研究会(LAHPC研究会、京都 精神科分野協議会、アドベクション発達障害作業療法研究会)																		
第7会場 (RoomD)	9:00～10:00(Oral) 高齢期 3 OJ-3-1～OJ-3-5		10:10～11:10(Oral) 発達障害 3 OI-3-1～OI-3-5		11:20～12:20(Oral) 教育 3 OR-3-1～OR-3-5		12:30～13:30(Oral) 教育 4 OR-4-1～OR-4-5		13:40～14:40(Oral) 高齢期 4 OJ-4-1～OJ-4-5		14:50～16:00(Oral) 発達障害 4 OI-4-1～OI-4-6		16:40～17:40 企画セミナー 12 日本ハンドセラピスト学会																		
第8会場 (RoomE)	9:00～10:00(Oral) 脳血管疾患等 5 OA-5-1～OA-5-5		10:10～11:10(Oral) 脳血管疾患等 7 OA-7-1～OA-7-5		11:20～12:20(Oral) 脳血管疾患等 9 OA-9-1～OA-9-5		12:30～13:40(Oral) 英語セッション ES-1-1～ES-1-6		13:50～15:00(Oral) 精神障害 2 OH-2-1～OH-2-6		15:10～16:20(Oral) 基礎研究 6/援助機器 3 OP-6-1～OP-6-6		16:40～17:40 企画セミナー 13 CIOTS Japan																		
ポスター会場 (イベントホール)	ポスター受付・掲示		10:30～11:30(Poster) 脳血管疾患等 6 PA-6-1～PA-6-12		11:30～12:30(Poster) 脳血管疾患等 7 PA-7-1～PA-7-12		12:30～13:30(Poster) 脳血管疾患等 8 PA-8-1～PA-8-12		13:30～14:30(Poster) 脳血管疾患等 9 PA-9-1～PA-9-12		14:30～15:30(Poster) 脳血管疾患等 10 PA-10-1～PA-10-12		15:30～16:30(Poster) 脳血管疾患等 11 PA-11-1～PA-11-12		ポスター撤去																
			12:30～13:30(Poster) 心大血管疾患 2 PB-2-1～PB-2-5		13:30～14:30(Poster) 運動器疾患 8 PD-8-1～PD-8-5		14:30～15:30(Poster) 運動器疾患 9 PD-9-1～PD-9-5		15:30～16:30(Poster) 運動器疾患 10 PD-10-1～PD-10-5																						
			12:30～13:30(Poster) 呼吸器疾患 3 PC-3-1～PC-3-5		14:30～15:30(Poster) 神経難病 4 PE-4-1～PE-4-5		15:30～16:30(Poster) がん 6 PF-6-1～PF-6-5																								
			10:30～11:30(Poster) 運動器疾患 6 PD-6-1～PD-6-5		11:30～12:30(Poster) 運動器疾患 7 PD-7-1～PD-7-5		12:30～13:30(Poster) がん 5 PF-5-1～PF-5-5		13:30～14:30(Poster) 精神障害 7 PH-7-1～PH-7-5		14:30～15:30(Poster) 精神障害 8 PH-8-1～PH-8-6		15:30～16:30(Poster) 精神障害 9 PH-9-1～PH-9-6																		
			10:30～11:30(Poster) 神経難病 3 PE-3-1～PE-3-5		11:30～12:30(Poster) がん 4 PF-4-1～PF-4-5		12:30～13:30(Poster) 内科疾患 2 PG-2-1～PG-2-3		13:30～14:30(Poster) 精神障害 7 PH-7-1～PH-7-5		14:30～15:30(Poster) 精神障害 8 PH-8-1～PH-8-6		15:30～16:30(Poster) 精神障害 9 PH-9-1～PH-9-6																		
			10:30～11:30(Poster) 精神障害 5 PH-5-1～PH-5-5		11:30～12:30(Poster) 精神障害 6 PH-6-1～PH-6-5		12:30～13:30(Poster) 発達障害 7 PI-7-1～PI-7-5		13:30～14:30(Poster) 発達障害 7 PI-7-1～PI-7-5		14:30～15:30(Poster) 発達障害 8 PI-8-1～PI-8-6		15:30～16:30(Poster) 発達障害 8 PI-8-1～PI-8-6																		
			10:30～11:30(Poster) 発達障害 5 PI-5-1～PI-5-5		11:30～12:30(Poster) 発達障害 6 PI-6-1～PI-6-5		12:30～13:30(Poster) 高齢期 7 PJ-7-1～PJ-7-5		13:30～14:30(Poster) 高齢期 7 PJ-7-1～PJ-7-5		14:30～15:30(Poster) 高齢期 8 PJ-8-1～PJ-8-5		15:30～16:30(Poster) 高齢期 9 PJ-9-1～PJ-9-5																		
			10:30～11:30(Poster) 高齢期 5 PJ-5-1～PJ-5-5		11:30～12:30(Poster) 高齢期 6 PJ-6-1～PJ-6-5		12:30～13:30(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)5 PK-5-1～PK-5-5		13:30～14:30(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)6 PK-6-1～PK-6-5		14:30～15:30(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)7 PK-7-1～PK-7-5		15:30～16:30(Poster) 認知障害(高次脳機能障害を含む)8 PK-8-1～PK-8-5																		
			10:30～11:30(Poster) 援助機器 3 PL-3-1～PL-3-5		14:30～15:30(Poster) 援助機器 4 PL-4-1～PL-4-5		15:30～16:30(Poster) MTDLP 3 PM-3-1～PM-3-4																								
			10:30～11:30(Poster) 地域 6 PN-6-1～PN-6-7		11:30～12:30(Poster) 地域 7 PN-7-1～PN-7-7		12:30～13:30(Poster) 地域 8 PN-8-1～PN-8-7		13:30～14:30(Poster) 地域 9 PN-9-1～PN-9-7		14:30～15:30(Poster) 地域 10 PN-10-1～PN-10-8		15:30～16:30(Poster) 地域 11 PN-11-1～PN-11-8																		
			10:30～11:30(Poster) 理論 1 PO-1-1～PO-1-3		12:30～13:30(Poster) 基礎研究 3 PP-3-1～PP-3-5		13:30～14:30(Poster) 基礎研究 4 PP-4-1～PP-4-5		14:30～15:30(Poster) 管理運営 3 PQ-3-1～PQ-3-5		15:30～16:30(Poster) 基礎研究 5 PP-5-1～PP-5-6																				
			10:30～11:30(Poster) 教育 5 PR-5-1～PR-5-5		13:30～14:30(Poster) 教育 6 PR-6-1～PR-6-5		14:30～15:30(Poster) 教育 7 PR-7-1～PR-7-5		15:30～16:30(Poster) 教育 8 PR-8-1～PR-8-6																						
			12:30～13:30(Poster) 基礎研究 3 PP-3-1～PP-3-5		13:30～14:30(Poster) 基礎研究 4 PP-4-1～PP-4-5		14:30～15:30(Poster) 管理運営 3 PQ-3-1～PQ-3-5		15:30～16:30(Poster) 基礎研究 5 PP-5-1～PP-5-6																						
			10:30～11:30(Poster) 教育 5 PR-5-1～PR-5-5		13:30～14:30(Poster) 教育 6 PR-6-1～PR-6-5		14:30～15:30(Poster) 教育 7 PR-7-1～PR-7-5		15:30～16:30(Poster) 教育 8 PR-8-1～PR-8-6																						
			展示会場 (イベントホール)	企業展示、書籍展示、大学院説明ブース																											



会場別日程表

3日目 2022年 9月18日(日) 受付開始時間8:30～ LIVE :ライブ配信

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	
参加受付 (イベントホール)	受付										
第1会場 (メインホール)				9:30～11:00 シンポジウム 3 SDGsなまちづくり～Share, Discover and Greet with smile を楽しもう! <span style="float: right;">LIVE</span>							閉会式表彰式 <span style="float: right;">LIVE</span>
第2会場 (Annex1)	8:30～9:30(Oral) 脳血管疾患等 13 OA-13-1～OA-13-5			9:40～10:40(Oral) 脳血管疾患等 14 OA-14-1～OA-14-5			10:50～11:50 企画セミナー 14 循環器臨床作業療法研究会				
第3会場 (Annex2)	8:30～9:30(Oral) 運動器疾患 5 OD-5-1～OD-5-5			9:40～10:40(Oral) 高齢期 5 OJ-5-1～OJ-5-5			10:50～11:50 企画セミナー 15 Occupational Therapy in Oncology - Researchers Network				
第4会場 (RoomA)	8:30～9:30(Oral) 精神障害 3 OH-3-1～OH-3-5			9:40～10:40(Oral) 教育 5/理論 2 OR-5-1～OR-5-5							
第5会場 (RoomB-1)	8:30～9:30(Oral) 地域 8 ON-8-1～ON-8-5			9:40～10:40(Oral) 地域 9 ON-9-1～ON-9-5							

[オンデマンド配信]日程表

2022年9月19日(月)～10月23日(日)

オンデマンド：ライブの録画をオンデマンド配信  
 ※質疑はオンデマンド配信のシステムから可能  
 ※一部のコンテンツはCOVID-19の影響により事前に登録したデータを放映することがあります。

学会長講演 (50分)	学会長講演 個人の幸せの追求は持続可能な社会を創る 座長:長尾 徹 演者:村田 和香 <b>オンデマンド</b>						
国際企画プログラム (90分)	国際企画プログラム Occupational Therapy in Australia: Current status and issues/ オーストラリアの作業療法について:現状と課題 座長:池田 望 講師:Carol McKinstry						
教育講演 (90分)	教育講演 1 司法領域における作業療法の可能性 座長:宮口 英樹 講師:棟近 展行 <b>オンデマンド</b>	教育講演 2 教育 2030年に活躍できるOTのために 座長:藤原 瑞穂 講師:佐藤 善久 <b>オンデマンド</b>					
基調講演 (90分)	基調講演 1 「はじまりの・あーと」その理論と実践 座長:石井 良和 演者:郡司ベギオ幸夫 <b>オンデマンド</b>	基調講演 2 ケアとジェンダー -家族社会学の視点から- 座長:宇田 薫 講師:木脇奈智子 <b>オンデマンド</b>					
シンポジウム (90分)	シンポジウム 1 自分らしい働きがいのある仕事のために 座長:馬場 順子 シンポジスト:清野 一博、若尾 勝己、鈴木 玲央、根本 歩実 <b>オンデマンド</b>	シンポジウム 2 生活に寄り添う災害作業療法 座長:川又 寛徳 シンポジスト:中山奈保子、近藤 吉輝、川又 寛徳 <b>オンデマンド</b>					
スペシャルセッション (70分)	シンポジウム 3 SDGsなまちづくり～Share, Discover and Greet with smile を楽しもう! 座長:白井はる奈 シンポジスト:小林 敬子、山本安佳里、岩隈 美穂 <b>オンデマンド</b>						
スペシャルセッション (70分)	スペシャルセッション 座長:柴田 克之 演者:伊藤 竜司、畑辺真之介、野村 健太 藤田さより <b>オンデマンド</b>						
企画セミナー (60分)	①ロボットと作業療法研究会 <b>オンデマンド</b>	②Review Circle on Rehabilitation for Demantia <b>オンデマンド</b>	③リハビリテーション栄養学会 <b>オンデマンド</b>	④アディクション関連問題作業療法研究会 <b>オンデマンド</b>	⑤呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会 <b>オンデマンド</b>		
	⑥ICTリハビリテーション研究会 <b>オンデマンド</b>	⑦臨床家・教育者のための生活リスク・コミュニケーション研究会 <b>オンデマンド</b>	⑧アグリカルクラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会 <b>オンデマンド</b>	⑨日本作業療法士協会制度対策部障害保健福祉対策委員会(就労支援チーム) <b>オンデマンド</b>	⑩Park-OT Journal Club <b>オンデマンド</b>		
	⑪司法精神科作業療法全国事例検討会、LAHPE研究会、京都精神科分野勉強会、アディクション関連問題作業療法研究会 <b>オンデマンド</b>	⑫日本ハンドセラピ学会 <b>オンデマンド</b>	⑬CIOTS Japan <b>オンデマンド</b>	⑭循環器臨床作業療法研究会 <b>オンデマンド</b>	⑮Occupational Therapy in Oncology Reseachers Ntweek <b>オンデマンド</b>		
専門療法士セミナー (60分)	専門作業療法士セミナー 1 がん <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 2 高次脳機能障害 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 3 摂食・嚥下 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 4 特別支援教育 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 5 手外科 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 6 訪問作業療法 <b>オンデマンド</b>	
	専門作業療法士セミナー 7 脳血管障害 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 8 認知症 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 9 就労支援 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 10 福祉用具 <b>オンデマンド</b>	専門作業療法士セミナー 11 精神科急性期 <b>オンデマンド</b>		
一般演題 (Oral)	A 脳血管疾患等	B 心大血管疾患	C 呼吸器疾患	D 運動器疾患	E 神経難病	F がん	G 内科疾患
	H 精神障害	I 発達障害	J 高齢期	K 認知障害 (高次脳機能障害を含む)	L 援助機器	M MTDLP	N 地域
9月16日(金)配信開始	O 理論	P 基礎研究	Q 管理運営	R 教育	ES 英語セッション		
一般演題 (Poster) PDF	A 脳血管疾患等	B 心大血管疾患	C 呼吸器疾患	D 運動器疾患	E 神経難病	F がん	
	G 内科疾患	H 精神障害	I 発達障害	J 高齢期	K 認知障害 (高次脳機能障害を含む)	L 援助機器	
	M MTDLP	N 地域	O 理論	P 基礎研究	Q 管理運営	R 教育	
9月16日(金)配信開始							



## 第56回日本作業療法学会

### 目次

実施要綱……………	2	一般演題	スペシャルセッション……………	68
協会長挨拶……………	3		英語発表……………	68
学会長挨拶……………	4		口述発表……………	68
式次第……………	5		ポスター発表……………	89
交通アクセス・会場周辺図……………	6	広告団体・企業 / 機器展示出展企業 /		
会場案内図……………	7	書籍販売企業 / 大学院説明ブース一覧…	126	
参加者へのご案内……………	12	第56回日本作業療法学会組織 ……	127	
口述発表者の皆様へ……………	15	編集後記……………	128	
口述発表（一般演題）の座長・司会の皆様へ…	17			
ポスター発表者の皆様へ……………	18			
講演・シンポジウム等一覧……………	20			
抄録 学会長講演……………	27			
基調講演……………	28			
教育講演……………	31			
シンポジウム……………	34			
国際企画プログラム……………	40			
専門作業療法士セミナー……………	42			
企画セミナー……………	53			



## 実施要綱

会 期	<b>2022年9月16日(金)、17日(土)、18日(日)</b> オンデマンド配信 2022年9月19日(月)～10月23日(日)
テ ー マ	<b>持続可能な社会を創る作業療法</b>
会 場	<b>国立京都国際会館</b> (〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地)
主 催	<b>一般社団法人日本作業療法士協会</b>
学 会 長	<b>村田 和香</b> (群馬パース大学 リハビリテーション学部)
運営事務局	株式会社インターグループ内 〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-20-1 インターグループビル TEL: 06-6372-3052 / FAX: 06-6376-2362 E-mail : ot56@intergroup.co.jp



## 協会長挨拶

### 第56回日本作業療法学会開催にあたって



一般社団法人 日本作業療法士協会  
会 長 中村 春基

第56回日本作業療法学会開催おめでとうございます。村田和香学会長の下、「持続可能な社会を創る」をテーマに、超高齢者社会への対応、AI技術の活用、災害対策等について議論が深まり、2040年、2060年問題への対応の指針が出ることを祈念しています。また、本学会は対面とオンライン配信のハイブリッド形式で開催されます。是非、この利便性と対面の良さについてのご意見を頂けると幸いです。

さて、COVID-19は3年目を迎えますが、いまだに1万人以上の感染者を出し、重症者、死亡者の報告がされています。病魔により生命が断たれ、また、多くの後遺症に苦しんでいらっしゃる方々に、哀悼よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。苦難な日常が続いていますが回復されることを祈念しております。一方、COVID-19は我が国の保健、医療の脆弱性を顕在化させました。「持続可能」を考えると、感染症における保健や公衆衛生、災害医療等での作業療法士の役割についても、本学会で議論が深まることを祈念しております。

COVID-19については、あと1点気がかりなことがあります。それは、国はCOVID-19対策として12兆円を支出しましたが、この原資は全て国債で賄われています。従いまして今後税金での返済をしていくわけですが、2023年からはその返済の原資を捻出するために、社会保障費の縮減が断行されるのではないかと懸念しています。その一環として2024年度の3制度同時改定は大変な逆風になるのではないかと懸念しています。本学会におきまして、アカデミアンとしての議論に加え、そのような観点からの議論も深化させていただければ幸いです。

さて、協会は2018年に新定義を作成しました。「人々の健康と幸福」を目的とすることを宣言した次第ですが、ウクライナへのロシア侵攻は看過できない行為です。戦火の中で命を閉ざされた多くの人々、障害を負った人、避難民として、また、戦火の中で平和な日常が断たれた人々に対して、多くの会員が憤りを感じていると思います。支援の方法は多く開かれていますので、定義に基づくその思いを、是非、行動に移して頂きたいと思っております。因みに私は、以前からですが食糧支援基金への賛助を続けております。

本学会は、学術研鑽の場として大変貴重な機会ですが、今後、益々の発展を図るために、学術評議員会発足の準備に取り掛かります。将来的には、協会での学会開催を進展させ、多くの作業療法学会が設立、社会的にアカデミアンとして評価され、それが、診療報酬などに影響を与えるまで発展することを願っています。

最後に、本学会開催に際しまして、ご支援いただきました関係機関、賛助会員、協賛施設、関係団体、会員の皆様に心より感謝を申し上げます。開催の挨拶とさせていただきます。

## 学会長挨拶

### ご挨拶



第56回日本作業療法学会

学会長 **村田 和香**

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

2022年9月16日～18日の3日間にわたり、国立京都国際会館にて第56回日本作業療法学会を開催いたします。いまだCOVID-19の感染に右往左往しながらではありますが、京都での開催を目指し、加えて、ライブ（一部）およびオンデマンド配信のハイブリッド学会としても準備をすすめてまいりました。学会への参加方法を選ぶことができる時代になりました。ご都合に合わせて京都にいらして語り合っていたきたい、ライブ配信で感じていただきたい、そして、その後もオンデマンドで学んでいただきたい、と願っています。

本学会のテーマは「持続可能な社会を創る作業療法 Occupational Therapy for Creating a Sustainable Society」といたしました。持続可能性の領域は広範であり、自然環境や社会経済システムに関わる多様な問題が複雑に絡みあっています。そのため、その実現には環境問題の解決という視点だけではなく、経済・社会問題も含めた相対的な問題解決のアプローチが必要となってきます。持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）の達成に、作業療法士がどのような役割を果たしているかを考えますと、「作業療法は始まりから持続可能の視点であった」という答えが出ます。たとえば、SDGsのGoal3「すべての人に健康と幸福を」について考えますと、協会ですたっている作業療法の定義「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である（2018）」と同じです。私たちは障害のある、なしにかかわらず、大切な作業に従事することがうまくいかない時に、本人の能力はもちろん、環境を含めて調整していきます。生きがいや生活・人生の質を高めること、教育や社会生活や、環境に働きかけている作業療法士の日々の活動が、SDGs達成に大きな役割を持っているわけです。

本学会で敢えてテーマとして掲げたのは、社会に認めてもらえる機会になることを期待しているためです。私たちは普通に職務を全うしているならば、対象となる方たちの個別性や多様性を認め、大切にしています。基調講演やシンポジウム等の企画は、Goal4「質の高い教育をみんなに」、Goal10「ジェンダー平等を実現しよう」、Goal8「働きがいも経済成長も」、Goal10「ヒトや国の不平等をなくそう」、Goal11「住み続けられるまちづくりを」、そして、Goal16「平和と公正をすべての人に」で、作業療法士が多くの任務を果たしているものを選びました。しかし、実は私たち作業療法士は17の目標すべてに関わっているといっても過言ではありません。偉大なる先達から引き継ぎ、実践している作業療法の功績を明らかにしたいものです。変化していく時代に応じる力を、そのための確かな知識と技術に基づく作業療法を、私たちの手をつなげていくことが使命であり、それはSDGsの達成に結びつくという自覚が、自信を持ってすすむことにつながる、そんな思いでいます。

本学会は作業療法の基幹学会として、極めて重要な役割を担っています。第56回学会が作業療法の学問としての発展に寄与することはもちろん、関連学会や関連団体との連携によって、参加者が専門外の領域についての現状と課題も知ることができるような学会を創りたいと思います。同時に、次世代を担う作業療法士の生涯学習として、社会に貢献できる作業療法の姿を真摯に議論し、それらの道筋を発信する学会になることを願っています。

皆さまのご参加を心からお願い申し上げます。



**式次第** 於：第1会場（メインホール）

**開会式**

**2022年9月16日(金) 9:30～10:00**

司会：泉 良太

1. 学会長挨拶 …………… 村田 和香
2. 協会長挨拶 …………… 中村 春基

**協会表彰式**

**2022年9月18日(日) 12:00～12:30**

**閉会式**

**2022年9月18日(日) 12:00～12:30**

司会：泉 良太

1. 学会長挨拶 …………… 村田 和香
2. 次期学会長挨拶 …………… 長尾 徹

## 交通アクセス・会場周辺図



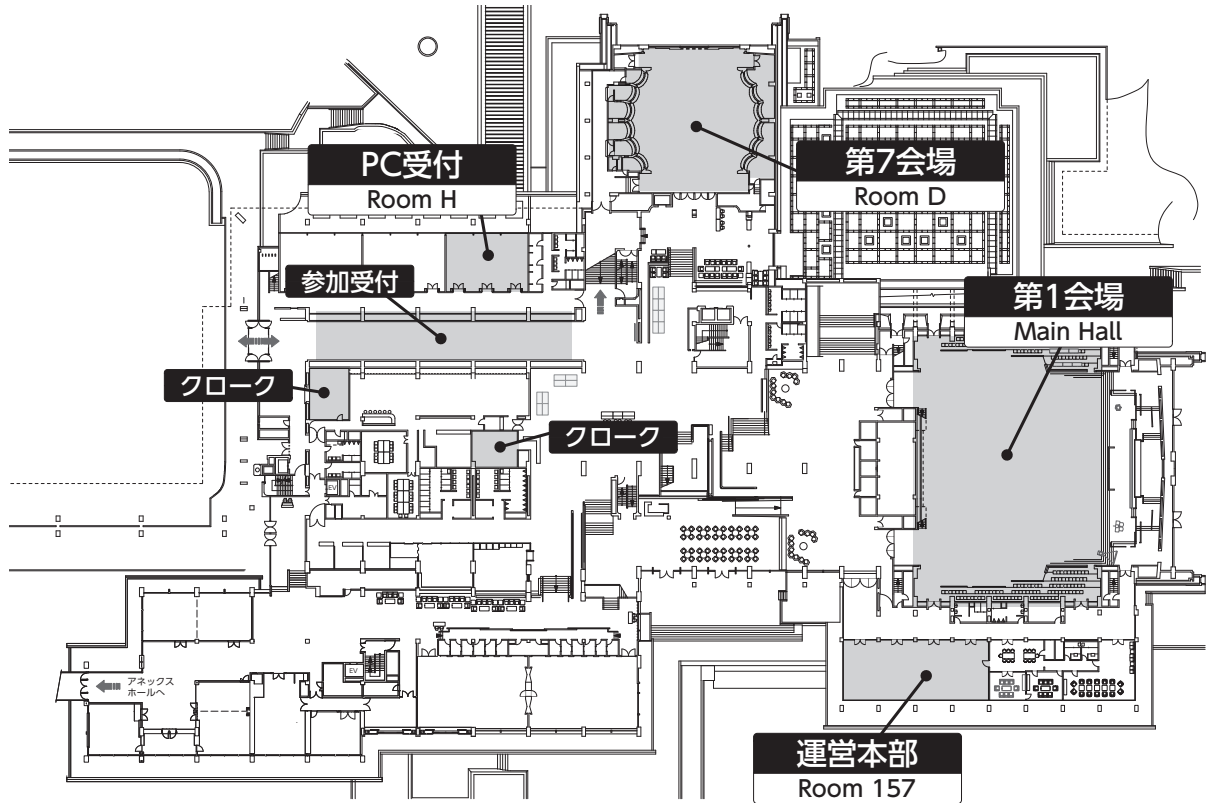
### ご来場方法 (お車・電車・空港)

- お車でのご来場
- 電車でのご来場 (各主要駅から会場最寄駅までの乗換案内)
- 空港からご来場

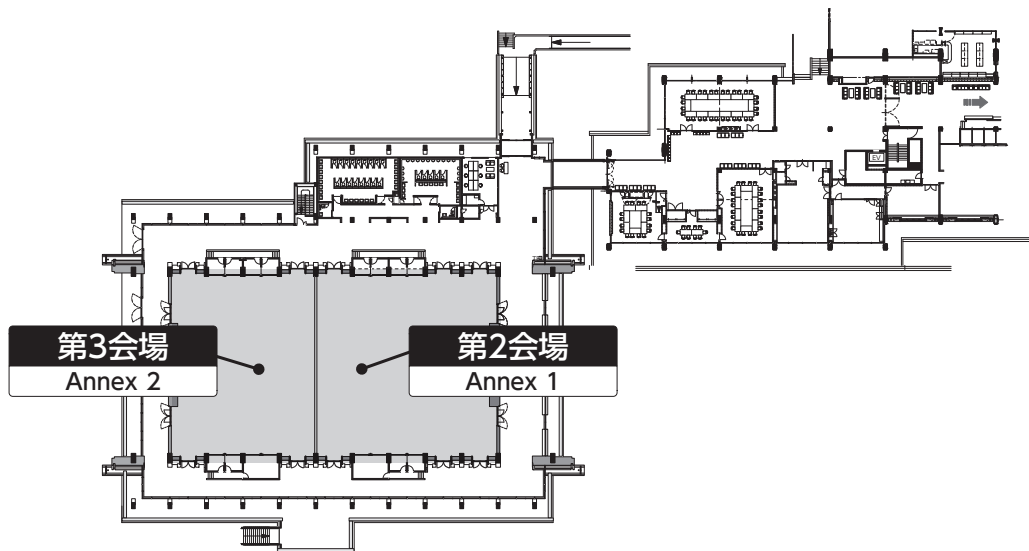


## 会場案内図

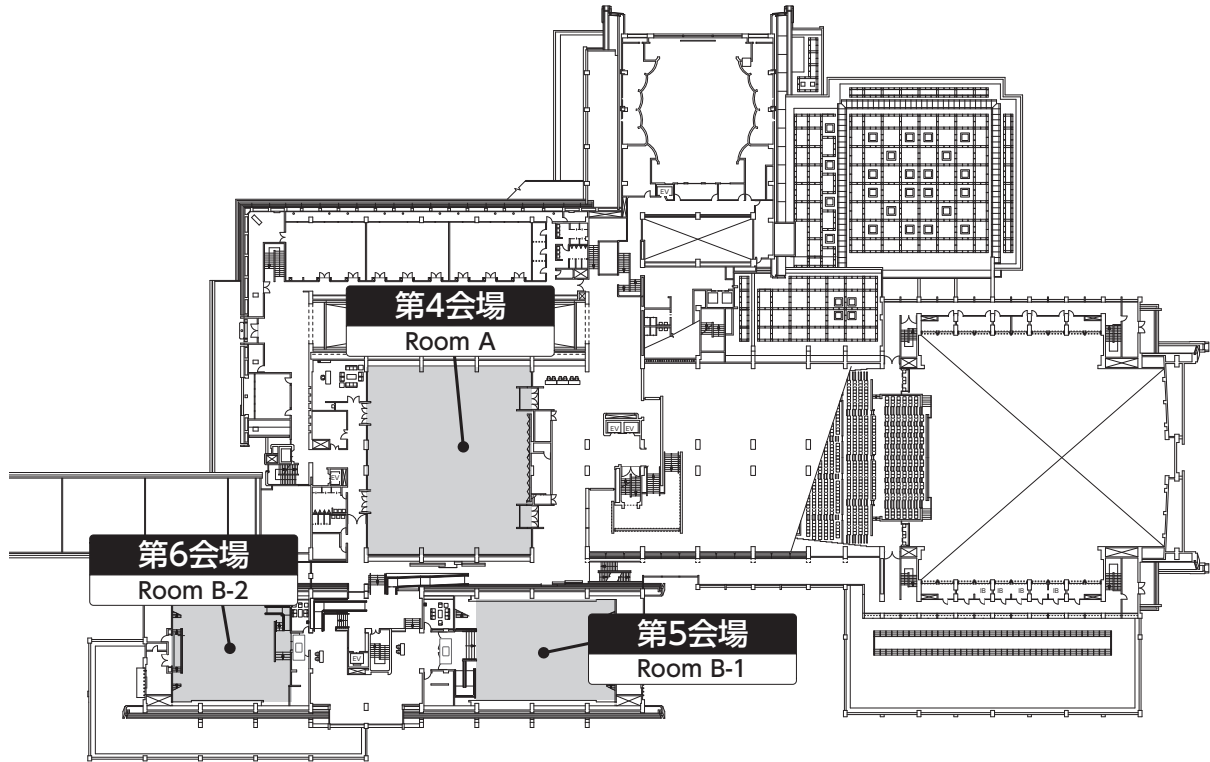
### 1階



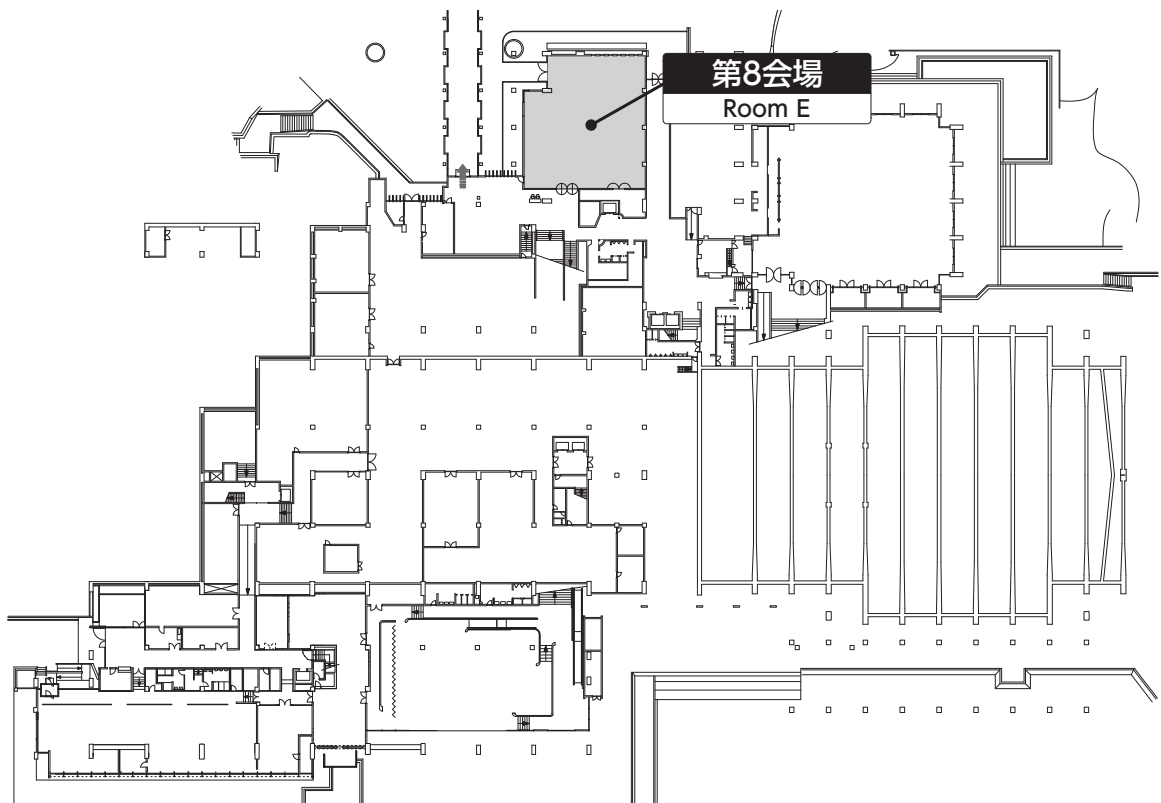
### 1階 アネックスホール



## 2階

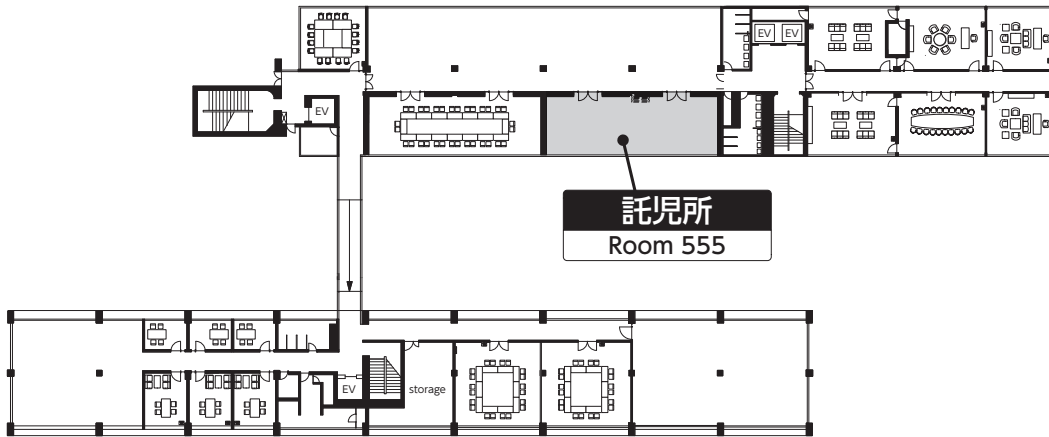


## B1階

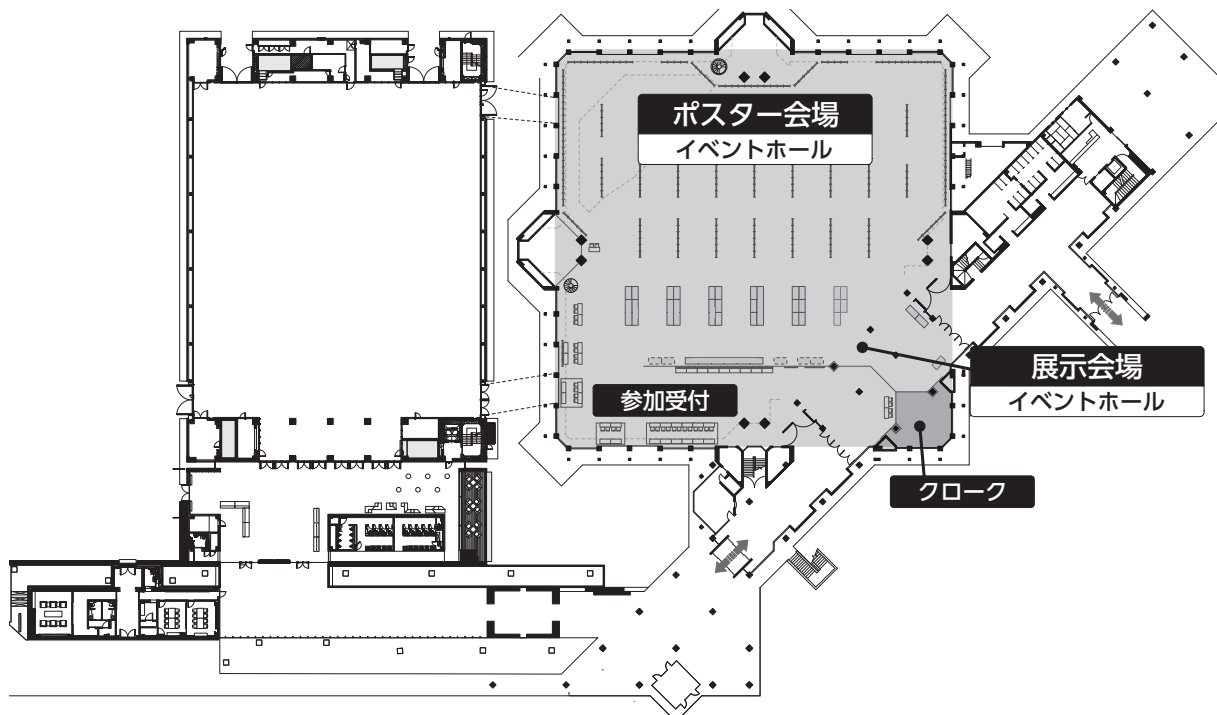




## 5階

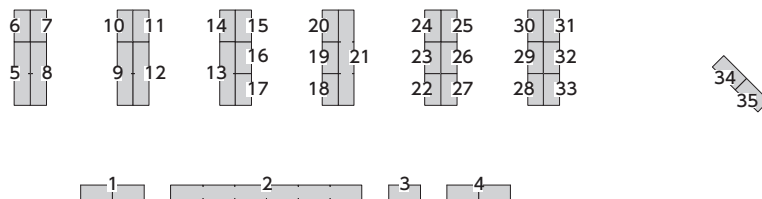


## イベントホール & ニューホール





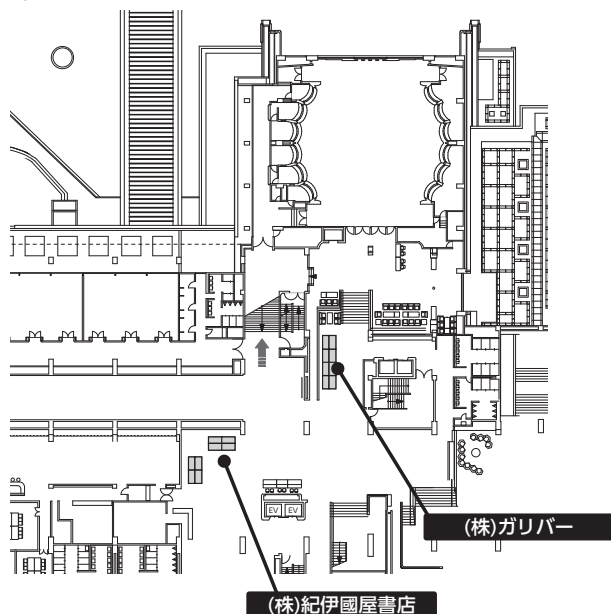
## 展示レイアウト



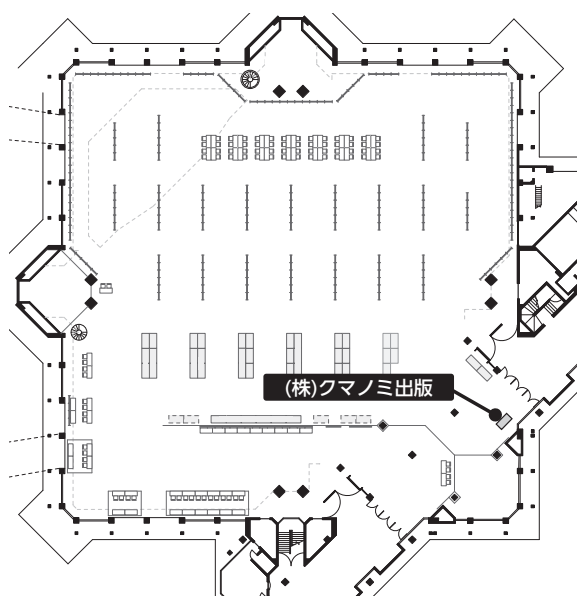
- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1.(株)フロンティア                  | 19.工房SERA       |
| 2.インターリハ(株)                  | 20.キッセイコムテック(株) |
| 3.ラーゴム・ジャパン(株)               | 21.酒井医療(株)      |
| 4.(株)アネビー                    | 22.サン情報サービス(株)  |
| 5.(株)ピーエーエス                  | 23.ラックヘルスケア(株)  |
| 6.(有)ハニーインターナショナル            | 24.クラフトハウス(株)   |
| 7.(株)クリアクト                   | 25.シスネット(株)     |
| 8.テクノツール(株)                  | 26.シナノカメラ工業(株)  |
| 9.(株)メルティンMMI/住友ファーマ(株)      | 27.ミナト医科学(株)    |
| 10.(株)テック技販                  | 28.フランスベッド(株)   |
| 11.(株)コーポレーションパールスター         | 29.(株)アトラス      |
| 12.オットーボック・ジャパン(株)           | 30.未来航路(株)      |
| 13.オージー技研(株)                 | 31.群馬パース大学      |
| 14.伊藤超短波(株)                  | 32.神戸学院大学大学院    |
| 15.イワツキ(株)                   | 33.国際医療福祉大学大学院  |
| 16.アクセスエール(株)                | 34.新潟医療福祉大学大学院  |
| 17.(株)Inspired Medical Japan | 35.吉備国際大学大学院    |
| 18.マクセル(株)                   |                 |

## 書籍展示レイアウト

1階



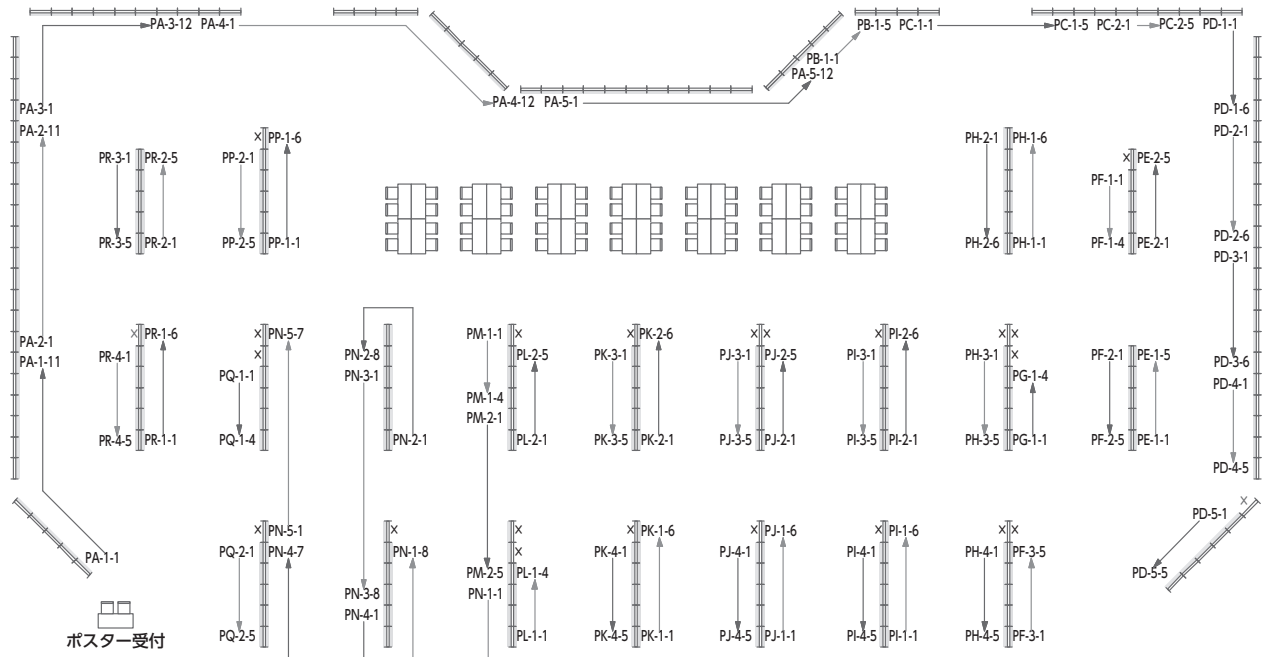
イベントホール & ニューホール



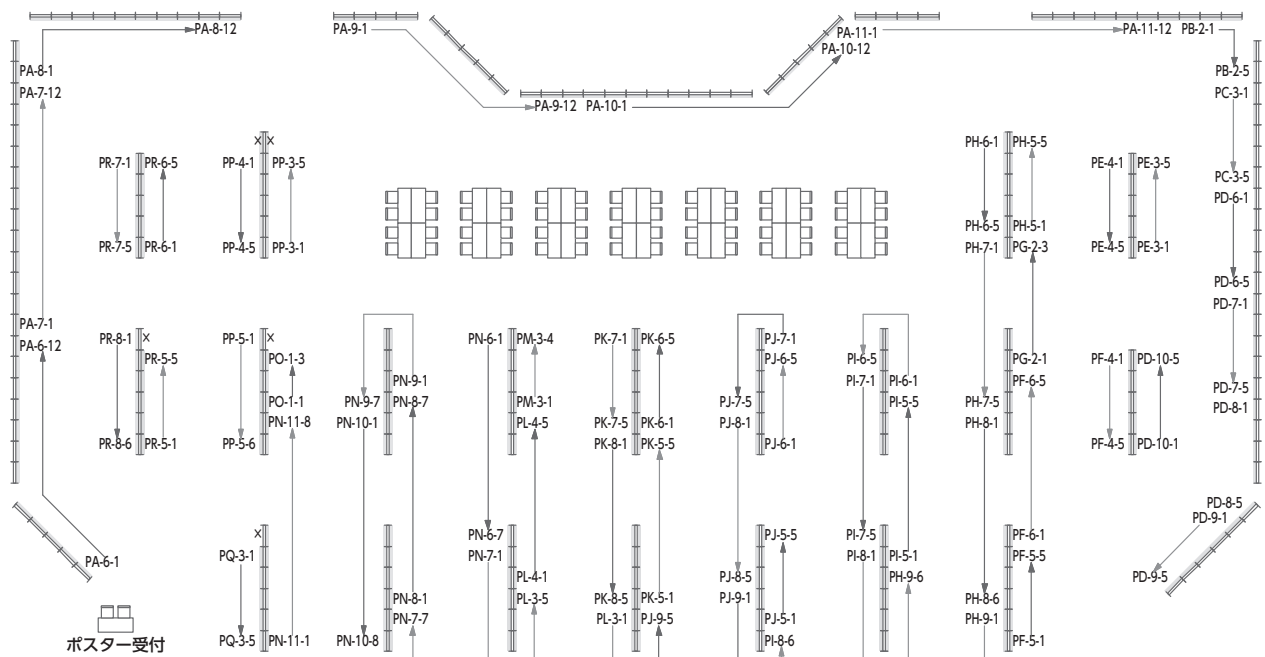


# ポスターレイアウト

9月16日(金)



9月17日(土)



## 参加者へのご案内

### 学会参加費について

区分	正会員 (日本作業療法士 協会の会員)	日本国外での 免許取得者 (WFOT 会員含む)	一般/他職種	学生	非会員 (日本国内で作業療 法士免許を取得し、 日本作業療法士協 会の会員でない作 業療法士)
事前参加登録 2022/5/6 ~ 2022/8/31 (現地全日参加+ オンデマンド)	13,000 円	13,000 円	—	団体登録 5,000 円	—
当日受付登録 2022/9/16 ~ 2022/9/18 (現地全日参加+ オンデマンド)	16,000 円	16,000 円	16,000 円	個人登録 6,000 円	30,000 円
Web 参加登録 2022/5/6 ~ 2022/10/7	10,000 円	10,000 円	10,000 円	2,000 円	30,000 円

※当日参加のお支払いは、当日受付で行ってください。

※一般社団法人日本作業療法士協会の会員でありかつ学生（学部生・大学院生）の方は、正会員としての参加費をお支払いください。

※発表者は事前参加登録での参加登録が必要です。

### 学会参加受付について

#### 【受付場所・時間】

	設置場所	9/16 (金)	9/17 (土)	9/18 (日)
事前参加受付・当日受付	イベントホール (9/16, 9/17) 本館メインエントランス (9/18)	9:00 ~ 18:00	8:00 ~ 18:00	8:30 ~ 11:30

※会場での受付完了後、会場内では、ネームカードを首から提げてください。（確認できない場合は、入場をお断りすることがございます。）



## 日本作業療法士協会正会員の方へ（必ずご確認ください）

**\*当日、会場での入会受付および年会費納入の受付は致しませんので、ご注意ください。**

参加当日の2週間前までに2022年度の年会費を納入のうえ、受付で「電子会員証」をご提示ください。電子会員証のご提示がいただけない場合は、当日参加の受付はできません。

事前に下記 URL からご自身で確認、準備を済ませてからご来場ください。

なお、電子会員証は、協会ホームページ>会員ポータルサイト>会員証>印刷 から印刷できます。

会員ポータルサイト

<https://www.jaot.net/mm/portal>

### 電子会員証(例)



## クロークについて

※日程によって時間が変わりますのでご注意ください。

日付	時間帯	場所
9月16日(金)	9:00～18:00	イベントホール
9月17日(土)	8:30～17:00	
9月18日(日)	8:30～10:00	本館ロビー

お預かりできないもの：現金などの貴重品、PC、傘（日傘）、割れ物、昼食・生もの

### ※クロークご利用の皆様へ（お願い）

荷物は必ず当日中にお引き取りください。

万が一、所定の時間内にお引き取りのない荷物は、スタッフの判断にて保管場所の移動などを行う場合があります。あらかじめご了承ください。

## インフォメーションボードについて

イベントホールに設置します。

## 託児所について

託児室を開設いたします（事前申込制）。詳細については学会ホームページにご案内しております。

## 機器展示について 9月16日(金)・9月17日(土)

イベントホールにて機器展示を行います。各種リハビリテーション機器、福祉機器、アクティビティ素材、遊具等の展示が行われます。また、大学院ブースも設置いたします。

## 書籍販売について

イベントホールと本館ロビーにて販売いたします。



## 口述発表者の皆様へ

### 1. (演者・講師) 受付 (発表データ受付)

1) 時間は下記の通りです。

※セッション開始1時間前までにデータ受付をお済ませください。なお、9月18日(日)の一般演題発表者は、9月17日(土)までにデータ受付を完了しておいてください。

日付	時間帯	場所
9月16日(金)	9:00～16:00	1階 Room H
9月17日(土)	8:00～17:00	
9月18日(日)	8:30～9:50	

2) 発表者は事前参加登録が必要です。

### 2. 口述発表の環境・手続き

- 1) 発表機材はPCプレゼンテーション(1面映写)のみといたします。PC本体は持ち込めません。プロジェクターの解像度はフルHD(1920×1080ピクセル)です。スライド原稿の解像度がこれより大きい場合は、画面周囲が切れる可能性がございますのでご注意ください。
- 2) 学会で準備するパソコンはOS:Windows10で、ソフト:office PowerPoint2013・2019です。スライド作成は必ずWindows版Microsoft PowerPoint2013・2019を使用してください。Macintoshは準備いたしません。
- 3) 再生できない等のトラブルが多いことから、動画の使用はお控えください。
- 4) Windowsに標準装備されているフォント「MS・MSPゴシック」「MS・MSP明朝」「Times New Roman」「Century」のみ使用可能です。これ以外のフォントを使用した場合、文字・段落のずれ、文字化け、表示されない等のトラブルが起る可能性がございます。
- 5) 作成したスライドのファイルはUSBメモリに保存してご持参ください。USBメモリおよび発表者ファイルは必ずウイルスチェックを行ってください。また、保存ファイルが作成されたパソコン以外の環境でも再生できることを事前にご確認ください。
- 6) PowerPointのファイルには下記のように「演題番号—氏名—所属」というファイル名をつけてください。  
例) 01—山田太郎—〇〇大学
- 7) トラブルに備え発表スライドのバックアップCD-R、もしくはDVD-Rをご持参ください。バックアップメディアについても作成されたパソコン以外の環境での動作確認を事前に行ってください。ファイナライズを行っていないCD-R、もしくはDVD-Rについては作成したパソコン以外ではデータを開くことができませんのでご注意ください。
- 8) 発表用データは、会場内のパソコンにいったんコピーさせていただきますが、学会終了後に責任を持って削除いたします。

### 3. 口述発表（一般演題 / スペシャルセッション）の方法

---

- 1) 発表者は、セッション開始1時間前までにPC（演者・講師）受付をお済ませの上、各自の当該セッション開始10分前までに、次演者席にご着席ください。

#### ■発表時間

一般演題：発表7分、質疑応答3分

スペシャルセッション：発表10分、質疑応答5分

※終了1分前と終了時に合図をします。発表者は時間厳守でお願いします。

- 2) 発表用データの画面送りは、発表者に行っていただきます。演台上にはモニター、キーボード、マウスを準備しておりますので、演台上のPCモニタを確認しながら、画面送りの操作を行ってください。レーザーポインターも演台上に準備いたしますのでご利用ください。



## 口述発表（一般演題）の座長・司会の皆様へ

座長・司会の受付は「座長・司会受付」にて行っております。

※日程によって時間が変わりますのでご注意ください。

日付	時間帯	場所
9月16日(金)	9:00～16:30	イベントホール
9月17日(土)	8:00～16:10	
9月18日(日)	8:30～10:20	本館メインエントランス

当該セッション開始30分前までに受付をお済ませの上、10分前までに次座長席にご着席ください。



## ポスター発表者の皆様へ

### 1. ポスター発表の受付

ポスター受付は、開催期間中に行ってください。学会参加受付を済ませた後に、各自でポスター発表会場に掲示してください。

受付場所	受付日時	発表会場
イベントホール	9月16日(金) 9:00～10:00	イベントホール
	9月17日(土) 8:00～9:00	

発表者は事前参加登録（全日参加）が必要です。

### 2. ポスターの掲示・撤去方法

1) ポスター掲示は、9月16日(金)・9月17日(土)の2日間を設定しています。

ポスター演題の発表は、1日目(9月16日)と2日目(9月17日)で張り替えとなります。

ポスターの掲示および撤去はご自身の発表日に合わせて以下の時間帯で行ってください。

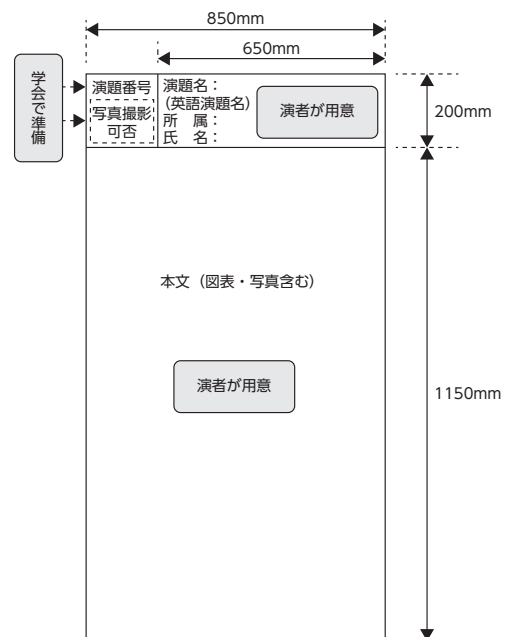
日付	掲示時間帯	撤去時間帯	場所
9月16日(金)	9:00～10:00	17:30～18:30	イベントホール
9月17日(土)	8:00～9:00	16:30～18:00	

2) 学会では以下のものをご用意します。

- ・ 掲示パネル：1題ごとにパネルをご用意します。
- ・ 演題番号：掲示パネルの左上部に、演題番号を取り付け表示します。
- ・ 画鋏・ピン：ポスターを貼り付けるための画鋏・ピンをご用意します。
- ・ 写真撮影可否のシール：写真撮影可否シールは、ポスターボードに準備します。  
演題番号下部に貼り付けてください。

3) ポスターフォームは右図を参照し、演題名・英語演題名・所属・氏名、本文を作成してください。  
なお、文字サイズ、フォントの種類、図表、写真等の枚数は特に定めませんが、必ず指定したサイズ内に収まるように作成してください。

4) ポスターレイアウトはP.11をご覧ください。  
撤去時間を過ぎても掲示してあるポスターは、学会側で撤去処分いたしますのであらかじめご了承ください。





### 3. ポスター発表の方法

---

- 1) 学会参加受付を済ませた後、各自でポスター発表会場に掲示してください。
- 2) 発表者は上記時間内にポスター掲示をお済ませの上、各自のパネル前に当該セッション開始10分前までに待機してください。
- 3) 座長や発表時間を設けておりません。指定時間にポスター前に待機していただき、質問等への対応をお願いいたします。

## 講演・シンポジウム等一覧

### 学会長講演

9月16日(金) 10:00~10:50

第1会場

#### 個人の幸せの追求は持続可能な社会を創る

講師 村田 和香 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科  
座長 長尾 徹 神戸大生命・医学系保健学域大学院保健学研究科

### 基調講演1

9月16日(金) 13:00~14:30

第1会場

#### 「はじまりの・あーと」その理論と実践

講師 郡司ペギオ幸夫 早稲田大学 表現工学科  
座長 石井 良和 群馬パース大学リハビリテーション学部

### 基調講演2

9月17日(土) 10:30~12:00

第1会場

#### ケアとジェンダー—家族社会学の視点から—

講師 木脇奈智子 藤女子大学 人間生活学科  
座長 宇田 薫 医療法人おもと会

### 基調講演3

9月17日(土) 14:40~16:10

第1会場

#### 作業を困難にする「健康の社会的決定要因 (SDH)」とは？

講師 武田 裕子 順天堂大学大学院医学研究科  
座長 村田 和香 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

### 教育講演1

9月16日(金) 11:00~12:30

第2会場

#### 司法領域における作業療法の可能性

講師 棟近 展行 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課  
座長 宮口 英樹 広島大学大学院医系科学研究科

### 教育講演2

9月16日(金) 13:00~14:30

第2会場

#### 教育 2030年に活躍できるOTのために

講師 佐藤 善久 東北福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科  
座長 藤原 瑞穂 神戸学院大学総合リハビリテーション学部



### 教育講演3

9月17日(土) 16:20～17:50

第1会場

#### AIとロボットの活用に向けて

講師 小林 隆司 岡山医療専門職大学 健康科学部 教授  
座長 柴田八衣子 兵庫県立リハビリテーション中央病院

### シンポジウム1

9月16日(金) 14:40～16:10

第1会場

#### 自分らしい働きがいのある仕事のために

シンポジスト 清野 一博 コミニショップLet's  
若尾 勝己 特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター 代表理事  
鈴木 玲央 特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター経営企画課 広報渉外担当  
根本 歩実 特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター経営企画課 広報渉外担当  
座長 馬場 順子 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

### シンポジウム2

9月17日(土) 13:00～14:30

第1会場

#### 生活に寄り添う災害作業療法

シンポジスト 中山奈保子 学校法人彰栄学園 彰栄リハビリテーション専門学校作業療法学科夜間部  
近藤 吉輝 呉市社会福祉協議会  
川又 寛徳 福島県立医科大学保健科学部作業療法学科 講師  
座長 川又 寛徳 福島県立医科大学保健科学部作業療法学科 講師

### シンポジウム3

9月18日(日) 9:30～11:00

第1会場

#### SDGsなまちづくり～ Share, Discover and Greet with smile を楽しもう！～

シンポジスト 小林 敬子 ふれあいほうむ“どうぞ”  
山本安佳里 AKARI DESIGN / コドモト  
岩隈 美穂 京都大学大学院医学研究科 准教授  
座長 白井はる奈 佛教大学 保健医療技術学部 作業療法学科

### 国際企画プログラム（一般社団法人日本作業療法士協会国際部主催）

9月16日(金) 14:40～16:10

第2会場

#### オーストラリアの作業療法：現状と課題

講師 Carol Elizabeth McKinstry オーストラリア作業療法協会会長／  
ラトローブ大学 作業療法学科 准教授  
座長・オーガナイザー 池田 望 国際部副部長、札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 教授

### 専門作業療法士セミナー1 がん

9月16日(金) 11:00~12:00

第3会場

#### 質の高い作業療法を進行がん患者に届けるためにマッピングを模索する ～専門作業療法士の視点からがん作業療法のポイントを学ぶ～

演者	三浦 裕幸	国立大学法人弘前大学医学部附属病院 医療技術部 リハビリテーション部門
	熊野 宏治	パナソニック健康保険 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室
	島崎 寛将	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院
座長	島崎 寛将	社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院

### 専門作業療法士セミナー2 高次脳機能障害

9月16日(金) 11:00~12:00

第4会場

#### 誰でもなれる！高次脳機能障害領域専門作業療法士：問題解決のリーゾニングを体験学習

演者	中島ともみ	藤田医科大学
	浅野友佳子	文屋内科消化器科医院 訪問リハビリテーション らいらっく

### 専門作業療法士セミナー3 摂食嚥下

9月16日(金) 11:00~12:00

第5会場

#### 栄養を考慮した作業療法士による食支援

演者	太田 有美	津山中央病院
	青木 佑介	鈴鹿中央総合病院
座長	神作 一実	文京学院大学

### 専門作業療法士セミナー4 特別支援教育

9月16日(金) 11:00~12:00

第6会場

#### 思春期以降の進路選択と本人・保護者への支援 -チーム学校で作業療法士ができること-

演者	辻 薫	大阪人間科学大学
	石附智奈美	広島大学大学院医系科学研究科

### 専門作業療法士セミナー5 手外科

9月16日(金) 11:00~12:00

第7会場

#### 専門作業療法士（手外科）による養成教育・臨床・研究

演者	野中 信宏	愛野記念病院 手外科センター
	飯塚 照史	奈良学園大学保健医療学部
座長	池嶋 香	社会医療法人清恵会 清恵会病院 作業療法科

### 専門作業療法士セミナー6 訪問作業療法

9月16日(金) 11:00~12:00

第8会場

#### 訪問作業療法の礎～備えておくべき気づき力と考え方～

演者	宇田 薫	医療法人おもと会
	寺本 千秋	紀州リハビリケア訪問看護ステーション
	松澤 良平	IMS<イムス>グループ イムス板橋リハビリテーション病院



**専門作業療法士セミナー7 脳血管障害**

9月17日(土) 9:00～10:00

第1会場

**脳血管障害の作業療法**

演者 長谷川敬一 一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院  
東川 哲朗 医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院  
中里瑠美子 東京女子医科大学附属足立医療センター

**専門作業療法士セミナー8 認知症**

9月17日(土) 9:00～10:00

第2会場

**活動の質評価法(A-QOA)を用いた認知症のある人への生活支援**

演者 西田 征治 県立広島大学 作業療法学コース

**専門作業療法士セミナー9 就労支援**

9月17日(土) 9:00～10:00

第3会場

**医療機関からの就労支援**

演者 北上 守俊 新潟医療福祉大学  
大川 浩子 北海道文教大学/NPO法人コミュニティ楽創  
馬場 順子 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療学科

**専門作業療法士セミナー10 福祉用具**

9月17日(土) 9:00～10:00

第4会場

**持続可能な社会を創るための福祉用具分野の作業療法**

演者 松本 琢麿 神奈川県総合リハビリテーションセンター  
松元 義彦 鹿児島赤十字病院  
鴨下 賢一 株式会社 児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム かもん

**専門作業療法士セミナー11 精神科急性期**

9月17日(土) 9:00～10:00

第5会場

**精神科急性期の作業療法**

演者 早坂 友成 杏林大学保健学部作業療学科  
福田健一郎 医療法人栄寿会 真珠園療養所  
座長 岩根 達郎 京都府立洛南病院

### 企画セミナー1 ロボットと作業療法研究会

9月16日(金) 17:00~18:00

第3会場

#### 重度片麻痺上肢に対する合目的活動と電気刺激療法の実践 -在宅訪問によるアプローチ-

講師 南 征吾 群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科  
司会(コーディネーター) 小林 隆司 東京都立大学健康福祉学部

### 企画セミナー2 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD)

9月16日(金) 17:00~18:00

第4会場

#### 臨床と研究をつなぐ認知症作業療法 ~地域で実践し続けるための臨床と研究~

講師 丸田 道雄 医療法人三州会大勝病院  
横山 和樹 北海道公立大学法人 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科  
司会(コーディネーター) 田中 寛之 大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

### 企画セミナー3 リハビリテーション栄養学会

9月16日(金) 17:00~18:00

第5会場

#### 生活行為向上に奏功する栄養マネジメント

講師 齋藤 嘉子 介護医療院 茶山のさと リハビリテーション課  
助金 淳 医療法人信愛会 日比野病院診療技術部リハビリテーション科  
田中 舞 あうる訪問看護リハビリステーション  
司会(コーディネーター) 齋藤 嘉子 介護医療院 茶山のさと リハビリテーション課

### 企画セミナー4 アディクション関連問題作業療法研究会

9月16日(金) 17:00~18:00

第6会場

#### 作業療法士が実践するアルコール依存症に関する様々な取り組み

講師 前田 大輝 医療法人 見松会 あきやま病院  
中井 伸弥 医療法人正雄会 呉みどりヶ丘病院  
司会(コーディネーター) 佐藤 嘉孝 岡山県精神科医療センター  
池田 望 札幌医科大学保健医療学部(作業療法学科)

### 企画セミナー5 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会

9月16日(金) 17:00~18:00

第7会場

#### 呼吸器疾患患者を作業療法でつなぐ ~急性期・回復期・生活期までシームレスに作業療法を継続するために

講師 熊野 宏治 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 リハビリテーション療法室  
藤原 光樹 大阪府済生会富田林病院 リハビリテーション科  
岡島 聡 ぼると訪問看護ステーション  
司会(コーディネーター) 川邊 利子 自宅



**企画セミナー6 ICTリハビリテーション研究会**

9月16日(金) 17:00～18:00

第8会場

**デジタルファブリケーションで拓く新たな作業療法の可能性Ⅲ  
— 自助具を3Dプリンタで製作する際のガイドラインについて —**

講師 林 園子 一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会  
濱中 直樹 ファブラボ品川  
司会(コーディネーター) 上原 亮介 一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

**企画セミナー7 臨床家・教育者のための生活リスク・コミュニケーション研究会**

9月17日(土) 16:40～17:40

第2会場

**作業療法の臨床場面で活用できる新しい危険予測ツールTP-KYTの紹介と活用**

講師 有久 勝彦 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部  
林 亜遊 大阪医療福祉専門学校  
林 辰博 大阪医療福祉専門学校  
司会(コーディネーター) 大浦 智子 奈良学園大学

**企画セミナー8 クリニカルクラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会**

9月17日(土) 16:40～17:40

第3会場

**クリニカル・クラークシップ臨床実習をブラッシュアップするための成人教育学の活用を考える**

講師 坂本 安令 横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション部  
三崎 一彦 小樽臨床作業療法研究会  
小林 幸治 目白大学保健医療学部作業療法学科  
司会(コーディネーター) 小林 幸治 目白大学保健医療学部作業療法学科

**企画セミナー9 日本作業療法士協会制度対策部障害保健福祉対策委員会(就労支援チーム)**

9月17日(土) 16:40～17:40

第4会場

**就労支援専門職としての成長と課題を考える-作業療法士はどのような価値を高めるべきか-**

講師 若尾 勝己 NPO法人東松山障害者就労支援センター  
芳賀 大輔 NPO法人日本学び協会 ワンモア  
野崎 智仁 国際医療福祉大学保健医療学部/NPO法人那須フロンティア  
司会(コーディネーター) 金川 善衛 医療法人清風会就労支援センターオンワーク

**企画セミナー10 Park-OT Journal Club**

9月17日(土) 16:40～17:40

第5会場

**パーキンソン病と作業療法 ～非運動症状の理解と作業療法のエビデンス～**

講師 坪井 義夫 福岡大学医学部脳神経内科学教室  
長城 晃一 福岡大学医学部脳神経内科学教室  
司会(コーディネーター) 高橋香代子 北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科  
宮口 英樹 広島大学大学院医系科学研究科



**企画セミナー11 司法精神科作業療法全国事例検討会、LAHPE研究会、  
(京都)精神科分野勉強会、アディクション関連問題作業療法研究会**

9月17日(土) 16:40~17:40 第6会場

**生きづらさへの作業療法の関わり**

講師	棟近 展行	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課
	岸 雪枝	兵庫医科大学病院
	児嶋 亮	桜花会クリニック
	小砂哲太郎	久里浜医療センター
司会(コーディネーター)	岩根 達郎	京都府立洛南病院

**企画セミナー12 日本ハンドセラピィ学会**

9月17日(土) 16:40~17:40 第7会場

**上肢および手の損傷例に対する神経生理学を活用した作業療法-研究動向と臨床応用-**

講師	高橋 里奈	獨協医科大学埼玉医療センター リハビリテーション科
	成田 大地	相模原協同病院
司会(コーディネーター)	蓬萊谷耕士	関西医科大学 リハビリテーション学部

**企画セミナー13 CIOTS Japan**

9月17日(土) 16:40~17:40 第8会場

**作業療法士は誰一人取り残さずに作業遂行を支援する**

講師	斎藤さわ子	茨城県立医療大学
	石橋 裕	東京都立大学
	古山千佳子	県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学コース
	南 庄一郎	大阪精神医療センター
司会(コーディネーター)	鈴木 達也	聖隷クリストファー大学

**企画セミナー14 循環器臨床作業療法研究会**

9月18日(日) 10:50~11:50 第2会場

**持続的な心大血管疾患患者に対する作業療法—SDGsを意識した取り組み—**

講師	渡邊 麗子	筑波大学附属病院
	生須 義久	群馬県立心臓血管センター
司会(コーディネーター)	村井 達彦	訪問看護ステーション花あかり
	武田 智徳	埼玉医科大学国際医療センター

**企画セミナー15 Occupational Therapy in Oncology - Researchers Network**

9月18日(日) 10:50~11:50 第3会場

**がん作業療法領域における好循環の創出に向けたエビデンス解釈と臨床実践**

講師	柳井 亮人	群馬県立がんセンター
	壺岐尾優太	日本赤十字社長崎原爆病院
司会(コーディネーター)	小泉 浩平	埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科



学会長講演

9月16日(金) 10:00～10:50 第1会場

個人の幸せの追求は持続可能な社会を創る

The pursuit of individual well-being creates a sustainable society

座長

長尾 徹 Toru Nagao

神戸大学生命・医学系保健学域大学院保健学研究科 *Kobe University Graduate School of Health Sciences*

◆講師

村田 和香

Waka Murata

群馬パース大学リハビリテーション学部  
作業療法学科

*Department of Occupational Therapy,  
Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz  
University*



略歴

北海道生まれ

1984年 北海道大学医療樹技術短期大学作業療法学科卒業 聖愛会  
発寒中央病院に作業療法士として勤務

1987年 北海道大学医療樹技術短期大学部助手

1994年 同講師

1996年 同助教授

2003年 北海道大学医学部保健学作業療法学専攻基礎作業療法学  
講座 教授

2008年 北海道大学大学院保健科学研究院生活機能学分野 教授

2019年 北海道大学名誉教授 群馬パース大学保健科学部 教授

2021年 群馬パース大学リハビリテーション学部 学部長

1992年 明星大学人文学部卒業 学士(教育学)

1996年 北海道教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻修士課程  
修了 修士(教育学)

2004年 広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了  
博士(保健学)

作業療法の歴史、作業行動理論と関連諸理論、作業行動と健康との関連性について、老年学、また、地域で生活するためのヘルスプロモーションを追及している。

作業療法はどんな時でも人の営みを焦点とし、個人の人生の質を大切に楽しさや喜びを作り出すプロフェッショナルとして存在すると信じている。そのうえで、本学会のテーマは「持続可能な社会を創る作業療法」とした。

持続可能性サステナビリティの領域は広範であり、自然環境や社会経済システムに関わる多様な問題が複雑に絡み合っている。サステナビリティの実現には、環境問題の解決という視点だけではなく、経済・社会問題も含めた相対的な問題解決のアプローチが必要となる。持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、17のGoalsで構成されている。

本学会でサステナビリティをテーマとして掲げたのは、作業療法士がもっとサステナビリティのために、新たに、あるいは、今以上に何かやるべきと提案しているわけではない。私たちは普通に職務を全うしているならば、対象となる方たちの個性や多様性を認め、大切にしているはずである。そのことの重要性を認識して欲しいということだ。たとえば、Goal3「すべての人に健康と幸福を」は協会であっている作業療法の定義にある目的と同じだ。SDGsは他にもGoal4「質の高い教育をみんなに」、Goal10「ジェンダー平等を実現しよう」、Goal8「働きがいも経済成長も」、Goal10「ヒトや国の不平等をなくそう」、Goal11「住み続けられるまちづくりを」、そして、Goal16「平和と公正をすべての人に」で、私たち作業療法士は多くの任務を果たしている。いえ、SDGsすべてに関わっているといても過言ではない。だからこそ、作業療法士はもっと遠慮せずに、堂々と頑張っていることを声に出してよいし、社会に認めて欲しいと思ったためである。

私たちの先達が行ってきたことはSDGsを達成する一助となっていたことを、これまでの作業療法の功績をたたえつつ、これを機に明らかにしたい。そして、これからの作業療法士の活躍もSDGsに貢献することを示したい。作業療法への理解は、人々の健康に加え、SDGsの達成や経済成長につながる。全ての人のあらゆる場面で起こりうる変化や対立、そして多様性を柔軟に対応できる人材が今後も育てほしい。個人の幸せを追求するお手伝いは、持続可能な社会を作り出すのだから。そして、そのために、Goal17「パートナーシップで目標を達成しよう」については、協会に期待するものである。

基調講演1

9月16日(金) 13:00~14:30 第1会場

「はじまりの・あーと」その理論と実践

Beginning Art and its theory and application

座長

石井 良和 Yoshikazu Ishii

群馬パース大学リハビリテーション学部

Department of Occupational Therapy, Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz University

◆講師

郡司ペギオ幸夫

Gunji Yukio Pegio

早稲田大学 表現工学科

Department of Intermedia, Art and  
Science, Waseda University



略歴

1959年生まれ。早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授。専門は理論生命学。

1981年東北大学理学部地質学古生物学教室卒業、1987年東北大学大学院理学研究科博士課程後期課程修了、博士(理学)。1987年神戸大学理学部地球惑星科学科助手、1999年同大教授を経て、2014年より現職および神戸大学名誉教授。

単著に『原生計算』(2004年/東大出版会)、『生命理論』(2006年/哲学書房)、『生きていることの科学』(2006年/講談社)、『時間の正体』(2008年/講談社)、『生命番号』(2010年/青土社)、『群れは意識を持つ』(2013年/PHP出版)、『いきものとなまもの哲学』(2014年/青土社)、『生命、微動だにせず』(2018年/青土社)、『天然知能』(2019年/講談社)、『やってくる』(2020年/医学書院)など、共著に郡司・松野孝一郎・オッターレスラー『内部観測』(1997年/青土社)、中村恭子・郡司『TANKURI:創造性を撃つ』(2018年/水声社)、浦上大輔・郡司『セルオートマトンによる知能シミュレーション:天然知能を実装する』(2021/オーム社)など。

作業療法の作業は、仕事の意味でのオキュペーションであり、それはこの世界において、私の占める(オキュパイ)立ち位置、この世界における私の生きる所作を意味するものだ。「生きる所作」とは、私の考えるところの藝術であり、生きることそれ自体である。

藝術に関する著作『TANKURI:創造性を撃つ』(水声社、2018)を共に著した日本画家、中村恭子氏は、正確無比のデッサン力と精緻な描画で、ポストモダンのテーマを掲げ、具象を描く。その中村氏が言うには、「郡司さんは技術を持たないので絵画や彫刻はできないが、その辺の紙を千切り、丸めてはテーブルに並べている。そういう、ひたすら並べるということをすれば、何かできるのではないか」ということだった。確かにそれは思い浮かぶものがある。教科書のページの縁は爪で擦られ、ささくれだち、喫茶店では無意識に、ストローの紙袋やナプキンを裂いて丸めては並べてしまう。それは、まるで虫の所業だが、自分にとっては何か本質的なものである気がした。

私は、『天然知能』(講談社メチエ、2019)やその続編である『やってくる』(医学書院、2020)において、徹底して受動的に外部を受け入れる態度、であり装置を、天然知能と呼び、その装置の構造を示した。それは、浦上大輔氏との共著『セルオートマトンによる知能シミュレーション:天然知能を実装する』において、二項対立的な肯定的アンチノミー(二項を共に成立させる)と否定的アンチノミー(二項を共に排除する)との共立という構造で、より具体的に構想された。「ひたすら」並べる、という作業において、二項とは何か、それは人であり、虫であった。つまり肯定的アンチノミーは、私が「人であり虫である」ように物を並べることで実装され、否定的アンチノミーは、私の作るものが「人でも虫でもない」ものの痕跡となる、ことで実現される。この二つのアンチノミーを心に留めながらする行為は、藝術に類する何か、私のオキュペーションとなるに違いない。それは映画監督山岡信貴氏のドキュメンタリー「アートなんかいらない!」における平仮名のあーとだ。私は、やはり二重のアンチノミーが成立する両親の亡くなった実家を制作の場所として、毎週実家に籠って制作を続けた。本講演は、それが作品となるまでの実践的軌跡とその理論の普遍性を示すものである。



**基調講演2**

**9月17日(土) 10:30～12:00 第1会場**

**ケアとジェンダー—家族社会学の視点から—  
Issue of the care works from the point of gender**

座長

宇田 薫 Kaoru Uda

医療法人おもと会 Medical Corporation Omotokai

◆講師

木脇奈智子

Nachiko Kiwaki

藤女子大学 人間生活学科

Fuji Women's University



<学歴>

- 1985 北海道大学教育学部卒業
- 1993 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修士課程修了
- 2009 城西国際大学大学院人文科学研究科博士後期課程修了 (比較文化博士)

<職歴>

- 1995 羽衣学園短期大学 専任講師
- 2006 羽衣国際大学 (名称変更) 准教授
- 2009 藤女子大学 准教授
- 2011 藤女子大学 教授
- 2013 藤女子大学大学院 教授兼任

このたびは、日本作業療法士学会に招聘いただき、誠にありがとうございます。

筆者が1980年代にお茶の水女子大学大学院でジェンダー研究を始めた時、講座名は「婦人問題」(原ひろ子教授)であり、婦人参政権運動を彷彿とさせる名称でした。

その後、男女雇用機会均等法(1986)や育児介護休業法(1999)、男女共同参画社会基本法(1999)などの法整備がされてまいりました。近年ではSDGsにおける5番目の項目に「ジェンダー平等」が入り、ジェンダーは現在少しずつ注目されてきているように感じます。母校のお茶の水女子大学には、体が男性で心が女性であるトランスジェンダーの女性も入学することが可能になりました。これは大きな進化ではありますが、まだ課題も多くございます。

世界経済フォーラム(WEF)は、「The Global Gender Gap Report 2021」で、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)を発表しました。この指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、2021年の日本の総合スコアは0.656、順位は156か国中120位でした。先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。

日本の女性は「健康」「教育」の指数は高いけれども「政治」「経済」には世界各国と大きな格差があります。これは我が国の今後の課題といえるでしょう。賃金の男女格差については、国連からも複数回指摘されているところです。

経済格差と背中合わせに、家事育児介護などの無償労働を主に女性が引き受けていること、共働きであってもその構造は変わらないこと、仕事と家事・育児の二重労働のために昇進したくない女性や子どもを産み控える女性が増えていること、これらの現象が少子化とリンクしていることなどがあげられます。

諸外国はどのように仕事と子育てを両立しているのでしょうか。また、どのような理念をもって次世代を育てているのでしょうか。当日は、筆者らが行ったアジアおよび北欧での調査からケアとジェンダーの問題を比較し、問題提起をしたいと思います。

基調講演3

9月17日(土) 14:40~16:10 第1会場

作業を困難にする「健康の社会的決定要因 (SDH)」とは？

Why Social Determinants of Health (SDH) Matter for Occupational Therapists

座長

村田 和香 Waka Murata

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz University

◆講師

武田 裕子

Yuko Takeda

順天堂大学大学院医学研究科 教授

Juntendo University Graduate School  
of Medicine



「病気や障害を抱えていて何らかの制約があったとしても、その状態にうまく適応すれば、働いたり社会参加したりできて健康だと感じることができる。同様に、年を取って機能が衰えても、上手な対処法を見出せば自身のQOLは保てる」と、オランダの家庭医であるHuberは言い、「ポジティブヘルス」と名付けました。一方、「どのように社会とかかわれるかは、社会や環境要因といった外的条件によっても変わる」と述べています(1)。

“人々が生まれ育ち、生活し、働き、そして歳をとるという営みが行われる社会の状態”を、WHOは「健康の社会的決定要因 (Social determinants of health : SDH)」と定義し、健康格差の原因になるとしています。舗装されていない道路や段差などの物理的環境にとどまらず、雇用や収入、社会保障制度、さらには自立を阻害する差別や偏見といった社会状況は、困難を抱える人たちにこそ大きく影響します。

カナダの作業療法士であるHammellは、“作業療法は「できるようにしていく」だけでは不十分で、できる機会も提供されないと意味がない”と述べています(2)。そして、障害そのものよりも貧困による環境要因の方がより作業を困難にしていると言います。経済的困窮は、教育や雇用の機会、適切な住居や移動手段を制限することで社会参加を阻害します。貧困の本質は、物質の欠乏ではなく社会的排除にあるとも言われます。居場所やつながりを失い、役割を奪われると、“できるようにしたいこと、できる必要があること、できることが期待されていること”を考えるのすら難しくなるでしょう。

本講演では健康格差の社会や環境要因である「健康の社会的決定要因 (SDH)」について概説します。日本作業療法士協会による「作業療法の定義」の注釈には、“作業に焦点を当てた実践”として、“手段としての作業の利用”“目的としての作業の利用”に加え、“これらを達成するための環境への働きかけ”が挙げられています。「環境」にどのように働きかけるのか、発表者が取り組む「やさしい日本語」(3)や「SOGI (性的指向・性自認)をめぐり配慮と対応」(4)も例に挙げてご紹介します。

“作業を利用し、環境に働きかける”作業療法士は、SDHに真っ先に気づく立場にあります。健康とウェルビーイング、尊厳、生活の質につながる作業の選択肢や機会を提供する“作業的公正性 (occupational justice)”について、SDHの眼鏡をかけて共に考えてみましょう。

1. Huber M., Knottneurs J.A., Green L., Horst H. van der, Jadad A.R. et al.: How should we define health? British Medical Journal, 2011, 343:d4163.
2. Hammell KW.: If human health is impacted by occupational opportunities (and it is), what are we doing about poverty? Occup Ther Now. 2015, 17.5:14-15.
3. <https://easy-japanese.info/>
4. <https://goodhealth.juntendo.ac.jp/social/000253.html>

略歴

1986年筑波大学医学専門学群卒業。90年同大学大学院博士課程修了。1990-94年にハーバード大学Beth Israel Hospitalに臨床留学し、プライマリ・ケアを専攻。米国内科専門医資格取得。その後、筑波大学、琉球大学、東京大学医学教育国際協力研究センターを経て三重大学地域医療学講座教授。地域医療教育および国際保健に従事。その経験から、2010年、学生に戻ってロンドン大学衛生学熱帯医学大学院 (LSHTM) 修士課程留学。キングスカレッジ・ロンドン医学部研究員を務めた後、ハーバード大学で健康格差教育に関する研究を行い、2014年より現職。「自己責任」と言わない医師育成を目指して、健康の社会的決定要因 (SDH) 教育に取り組む。

週に一度、訪問診療に従事。路上生活者の医療相談に定期的に参加。在留外国人を含め、聴こえや理解に困難を抱える方々の健康格差への取り組みとして、医療者に「やさしい日本語」を伝える。順天堂大学医学部附属順天堂医院では、「SOGI (性的指向・性自認)をめぐり患者・家族・職員への配慮と対応ワーキンググループ」委員長を務め、「SOGI相談窓口」を担当。

日本プライマリ・ケア連合学会理事・「健康の社会的決定要因」検討委員会委員長、日本医学教育学会理事・学会誌編集委員会委員長



教育講演1

9月16日(金) 11:00～12:30 第2会場

司法領域における作業療法の可能性

Potential for occupational therapy in the judicial field

座長

宮口 英樹 Hideki Miyaguchi

広島大学大学院医系科学研究科 Graduate School of Medicine, Hiroshima University

◆講師

棟近 展行

Nobuyuki Munechika

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部  
精神・障害保健課

*Mental Health and Disability Health  
Division Social Welfare and War  
Victims' Relief Bureau Ministry of  
Health, Labor and Welfare*



背景にある生きづらさに着目し、理解する姿勢と支援が必要ではないだろうか。

本講演では、司法領域における作業療法を概観し、私たちOTにできることは何か、今後の司法領域における作業療法の可能性について、皆さんとともに考える機会としたい。

略歴

- 1999年 高知リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業  
佛光大学 社会学部 社会福祉学科 卒業  
東京武蔵野病院(作業療法士)
- 2006年 同院 リハビリテーション部主任
- 2008年 法務省横浜保護観察所 社会復帰調整官室 社会復帰調整官
- 2013年 同所 上席社会復帰調整官
- 2017年 法務省保護局 精神保健観察企画官室 生活環境調整係長
- 2019年 法務省東京保護観察所立川支部 処遇部門 保護観察官
- 2021年 厚生労働省社会・援護局 医療観察法医療体制整備推進室  
室長補佐  
現在に至る

近年、司法領域において、OTの職域が障害の種別を越えて拡大している。

「日本の司法領域では何が起きていて、作業療法に何が期待されているのか」

「OTは、求められている社会の要請に応えられるのか」

司法領域は特別な領域ではない。作業療法の着眼点は同じであり、個別支援の原則も同じである。求められることは、生きづらさを抱えた対象者の複雑な過去を理解でき、共感し、自己をコントロールしながら、適切に関わり続けられる技術である。

2005年、医療観察法の施行により、指定医療機関における司法精神科作業療法が開始され、司法領域とリハビリテーションの接点が生まれた。法務省保護観察所に所属するOTも生まれ、法務省内に専門職種の配置が拡充されてきた。心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った精神障害者に対して、OTはリスクマネジメントだけでなく、本人の健康的な側面、その人の強み(ストレングス)に着目し、地域生活支援に尽力してきた。

2007年、刑事収容施設法の改正に伴い、矯正施設において、非常勤のOTが受刑者に関与し始めた。官民協同の刑務所として設置された社会復帰促進センターでは、常勤OTがプログラム等を通じてアプローチする取り組みを開始し、病や障害を有する受刑者に対するリハビリテーションを展開してきた。

2009年、地域生活定着支援センターの設置により、受刑中の障害者や高齢者に対する「出口支援」が始まり、支援対象の位置付けが明確化された。

しかし、依然として、病や障害を抱えた方が必要な支援を受けられずに社会的に孤立した結果、触法行為に至ることがある。

矯正施設の受刑者に占める障害者等の割合が高まっている事実をどのように受け止めれば良いのか。

2019年から、全国の矯正施設において常勤OTが配置され始めた。触法障害者等の社会参加を促進するために、各矯正施設で新たな機能を創造する取り組みが加速している。

犯罪行為は許されることではない。しかし、収監された触法障害者等は、やがて地域社会に戻る。地域共生社会の一員であり、地域包括ケアシステムの対象である。その人が住むべき場所でその人らしい生活を実現するために、その

## 教育講演2

9月16日(金) 13:00~14:30 第2会場

### 教育 2030年に活躍できるOTのために

### Education for Occupational Therapists who can play as a flexible human resource in 2030

座長

藤原 瑞穂 Mizuho Fujiwara

神戸学院大学総合リハビリテーション学部 *The Faculty of Rehabilitation, Kobe Gakuin University*

#### ◆講師

佐藤 善久

Yoshihisa Sato

東北福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科

*Tohoku Fukushi University, Faculty of Health Science, Department of Rehabilitation*



#### 学歴

1983年国立仙台病院附属リハビリテーション学院卒業, その後1992年東北学院大学英文科(二部)卒業, 1995年ウエスタンミシガン大学作業療法学科 修士課程修了, 2000年 東北大学医学系研究科障害科学専攻博士課程修了(博士: 障害科学)

#### 職歴

1983年桑名病院勤務, その後、新潟大学医学部付属病院(文部技官)勤務、国立仙台病院附属リハビリテーション学院(構成教官)勤務、東北医療福祉専門学校(教員)勤務、年東北文化学園大学(大学院)(教員)に勤務の経験を経て、2008年より東北福祉大学に着任、現在に至る。

#### 社会貢献

現在、日本作業療法教育学会会長、日本作業療法士協会 WFOT第2代理、国際部部員、教育部部員、過去、日本作業療法士協会常務理事、国際部部長、第44回日本作業療法学会会長、宮城県作業療法士会会長、宮城県障害者スポーツ協会理事、高齢者生活支援研究会代表ほか。

教育者としてOT教育を考えるときには、どのような人材を育成するかという教育目標と、その教育方法及び効果を確認する教育評価を意識する。学会長より頂いた「2030年に活躍できるOTのために」という課題を、本学会テーマである「持続可能な社会を創る作業療法」を担う人材の育成という視点で考えてみたい。

先ず2030年に活躍するOT養成教育を考える際に2030年をイメージする必要がある。我々が経験した過去10数年間の変化や出来事は、事前に予測不能な状況が続いてきた。SNSやICT等の発展による情報の拡大、地震や豪雨など自然災害による被害、戦争の勃発や新型コロナウイルス感染症拡大による社会の激変など、誰がこの事態を予想できただろうか。こうした激変の時代をアメリカの軍事用語を用いVUCA (Volatile, Uncertain, Complex, ambiguous) の時代と表す人もいる。過去の経験からも2030年のOTを取り巻く環境(文脈)や役割は今とは大きく変わることだけは予想できる。教員の多くが、過去に東日本大震災や感染症拡大で教育目標や方法を修正し、工夫をしながら教育を続けてきた。そこには、明確な答えがなく、教育に携わる者が粘り強くより良い教育を模索し続けてきたことに他ならない。こうしたVUCA時代の柔軟な対応は、今後も求められる教育の姿勢の1つであろう。

子どもの教育の指針として、様々な国際機関(UNESCO、OECD、WFOTなど)や各国の教育機関が、教育の枠組みや求める姿・資質を示してきた。その一つにキー・コンピテンシーの概念(2006年)を提唱したOECD(経済協力開発機構)は、2015年にOECD Future of Education and Skills 2030プロジェクトを始動させ「2030年に望まれる社会のビジョン」と、「そのビジョンを実現する主体として求められる生徒像とコンピテンシー」について議論を重ね、その成果物としてコンセプトノート(OECD Learning Compass 2030)(2019年)を公表した。このLearning Compass(学びの羅針盤)2030は教育の望ましい未来像を描き、進化し続ける学習者の学習の枠組みを示したものであり、VUCA時代のOT教育にも共通するビジョンや求められる資質を述べている。

本講演では、Learning Compass2030が示した学習の枠組みを紹介しながら、2030年に活躍するOTのための教育について教育目標や求められる資質、教育方法・機会、及びその評価について考えてみたい。



**教育講演3**

**9月17日(土) 16:20～17:50 第1会場**

**AIとロボットの活用に向けて  
Toward the use of robots**

座長

柴田八衣子 Yaeko Shibata

兵庫県立リハビリテーション中央病院 Hyogo Prefectural Central Rehabilitation Hospital

◆講師

**小林 隆司**

**Ryuji Kobayashi**

岡山医療専門職大学 健康科学部

Okayama Professional University



ロボットが一番簡単な定義は、「センサー、制御装置、出力装置の3つの要素を持つ機械」である。センサーには、カメラやマイク、タッチセンサー、ジャイロセンサー、筋電センサー、脳波センサーなどがある。制御装置は、コンピューターとプログラムである。そして出力装置には、電動モーターやスピーカー、LEDライト、映像機器、電気刺激装置などがある。このような要素を組み合わせた、様々なリハビリテーション機器が開発され、それらを用いたリハビリテーションはRobot-assisted rehabilitation等と称され、今後ますます私たちの臨床に導入されると思われる。まずはロボットを用いた作業療法について、自験例も含めながら考察を加えていく。

ロボットの機能を飛躍的に向上させるものとして人工知能(AI)が注目されている。レイ・カーツワイルは、AIが人類の知性を超える転換点、つまりシンギュラリティが2045年に到来すると予測している。だが現在のところ、シンギュラリティの実現には、著しい技術的ブレイクスルーが必要と考えられている。例えば、現在のAIは特化型AIと言われ、AIプログラムであるアルファ碁は、囲碁に特化すればプロ棋士に勝つレベルにあっても、その能力を他のタスクに移転させることは難しい。もし仮に対局中に火事が起きたとしても、アルファ碁はどうしたらよいか判断できないだろう。人間レベルの知性とは、身につけた思考力を、将来遭遇する課題に対して柔軟に活用できるということで、そういったことのできる汎用的AIはまだ実現していない。また、人間は過去の身体的経験のメタファーを通じて、抽象的概念を理解することができる(ものを握る意味での把握→物事を理解する意味での把握)が、AIは人間のような身体を持たないので、そのような方法で人間レベルの知性を獲得することはできないと言われている。講演の後半では、AI時代の作業療法における人間の果たす役割について考えていきたい。

なお当日の講演では、引用文献について言及する時間が少ないため、関心のある方は、リサーチマップ(<https://researchmap.jp/ot-kobayashi/>)の資料公開ページをご参照ください。

学歴

- 1966年 京都大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業
- 1991年 青山学院大学文学部第二部教育学科卒業
- 2001年 広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了

教育研究歴

- 2001-2003年 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- 2003-2006年 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- 2006-2014年 吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科
- 2014-2022年 東京都立大学健康福祉学部作業療法学科
- 2022-現在 岡山医療専門職大学健康科学部作業療法学科

ロボット関連の業績

- 2016-2019年 研究分担者：ランダム化比較試験による認知症等を有する高齢者に対するロボットパロの効果(研究代表者：井上薫)日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
- 2019-2023年 研究分担者：動型/随意介助型電気刺激装置の併用と目的動作による重度片麻痺上肢の改善効果(研究代表者：南征吾)日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)
- 2019-現在 ロボットと作業療法研究会会長

教育講演

第2日目 / 9月17日(土)



## シンポジウム1

9月16日(金) 14:40~16:10 第1会場

### 自分らしい働きがいのある仕事のために

### For a meaningful job that can be yourself

障害を持つ方の就労支援施策は、共生社会の実現のための施策へと社会の意識が変化しつつある。持続可能な社会を創る作業療法がテーマの本学会で、本シンポジウムでは「自分らしい働きがいのある仕事のために」何ができるか、2組のシンポジストと参加者と共に考えていく。

#### 【清野一博 氏】

視覚と四肢に重度重複の障害がある自分に、社会で何ができるか。職業訓練さえ不適合とされ、挑戦できる就労チャンスはゼロに等しい現実を目の当たりにし、腹は決まった。自ら起業することで就労に結びつける。独学に加え経験者に助言ももらい、作業療法士に勧められて使えるようになったパソコンで、リスクの少ないWebショップでの販売から始めてみることにした。20年仕事を続けられてきたのは、自ら起業した結果である。身体的にも精神的にもきつい時は自分がセーブすればよく、周囲に合わせる必要がないのは大きい。また、自宅営業なら通勤に体力を奪われることもなく、体力を仕事だけに傾けられることも大きかった。起業は与えられる仕事ではなく、自分が作り出す仕事である。今でも利益は十分とは言えないが、自分が作り出す楽しさと役に立てるやりがいがある自分の仕事の原動力になっている。他に就労チャンスもなく、起業することで就労の場を得たのだが、結果的に見れば最善の選択肢だったのかもしれない。

#### 【若尾勝己 氏】

私の最初の就労支援は、30数年前に入職した入所型障害者福祉施設で、施設を退所し地域社会で暮らすことを希望した1人の知的障害のある方との出会だった。当時の就労・生活支援の制度施策は未整備で、とても困難な支援活動だったが、その経験で学んだ「無いものは自ら新たに創り出すこと」は、私が運営する法人理念、就労支援活動を通じて「誰1人取り残さない社会の創造を実現すること」に繋がっている。その理念の下、様々なご縁で障がいのある職員を採用してきたが、その1人1人にとって、どの様な働き方であれば自身の「働きがい」の創出や自尊心の向上に繋がられるか、また働きがいだけでなく、自身の働きが他の誰かのためになることの気づきと、さらに働き続けることの意義を見出してもらうために職場はどうあるべきか、常にそのあり様を探求してきた。これからの未来に向かい、障がいの有無に関係なく全ての職員の「働きがい」や「自尊心」を高められる組織であり続けることは、社会を変える一つの方法であると考えている。

#### 座長

馬場 順子 Naoko Baba

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Faculty of Rehabilitation, GUNMA PAZ UNIVERSITY



#### ◆シンポジスト

清野 一博

Kazuhiro Seino

コミニショップLet's

cominishop Let's



2001年 自立生活センター アシストMILを退職、独立へ準備

2002年 コミニショップLet'sを開業

2002年~2003年 人件費を含む経費の支払いで精一杯。事業主の利益はほぼゼロに近かった。顧客となる対象との関係づくりを進め、販路拡大に努める。

2004年~ ある程度認知され、売り上げも安定してきた。事業主の利益も多少は確保できるようになった。

2020年~ コロナ禍の始まり。展示会の中止も続出。顧客の購買欲も減退し、売り上げも低下。給付金も活用して事業継続に努めている。

#### 重度重複障害の自分に社会で何ができるのか

What can I do in society as a person with severe multiple disabilities?

#### 略歴

1986年 高専3年時、低酸素脳症に陥る事故により、全身と視覚と言語に重度障害を負う。

1987年 伊豆荏山温泉病院に転院してリハビリ開始。

1988年 病院リハビリと並行してドーマン法リハビリも自主的に開始

1994年 作業療法士の勧めでPCを使い始める

1997年 静岡医療福祉センターへ入所、6カ月白杖歩行訓練を受ける

1998年 国立身体障害者リハビリテーションセンターへ入所、6カ月生活訓練を受ける。(その後、自宅へ戻る)

1999年 在宅就労のためのPC講習を受講

1999年 自立生活センター アシストMILに就職、事業所の経営事例を学ぶ

#### ◆シンポジスト

若尾 勝己

Masaki Wakao

特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター 代表理事

Specified non-profit organization  
Higashimatsuyama Employment  
Support Center for Persons with  
Disabilities



#### 略歴

平成 2年4月 社会福祉法人育心会入職

平成 16年3月 社会福祉法人育心会退職



平成16年4月 特定非営利活動法人東松山障害者就労支援センター入職  
平成27年7月 同法人代表理事就任  
現在に至る

#### 主な役職

特定非営利活動法人トータルサポートネット 代表理事  
特定非営利活動法人ジョブコーチ・ネットワーク 副理事長  
特定非営利活動法人埼玉県障がい者就労支援ネットワーク 代表理事  
特定非営利活動法人全国就労移行支援事業所連絡協議会 理事  
特定非営利活動法人全国ジョブコーチ連絡協議会 理事長

#### 直近の主な国の委員等

令和2年度  
・厚生労働省職業対策課 主催  
「雇用と福祉の分野横断的な基礎的知識・スキルを付与する研修の構築に関する作業部会」委員  
令和2～4年度  
・厚生労働省職業対策課／独法) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 主催  
「就労困難性(職業準備性と就労困難性)の評価に関する調査研究」委員  
令和3年度～  
・厚生労働省障害福祉課 主催  
「就労支援に係る専門コース別研修検討」委員  
令和3年度～  
・厚生労働省職業対策課 主催  
「職場適応援助者の育成・確保に関する作業部会」委員

#### 主な担当執筆

平成24年 「就労移行支援ガイドブック」／日本フィランソロビー協会 作成  
平成24年 「障害者の雇用・就労を進めるジョブコーチ・ハンドブック」  
／小川浩 編著  
平成26年 「発達障害白書2015」／日本発達障害連盟 編集  
平成27年 「発達障害者の職業生活上の課題とその対応に関する研究  
－発達障害就労支援レファレンスブック活用のために－」  
／独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 作成

#### ◆シンポジスト

鈴木 玲央

Reo Suzuki

特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター経営企画  
課 広報渉外担当

*Specified non-profit organization Higashimatsuyama  
Employment Support Center for Persons with Disabilities*

#### ◆シンポジスト

根本 歩実

Ayumi Nemoto

特定非営利活動法人 東松山障害者就労支援センター経営企画  
課 広報渉外担当

*Specified non-profit organization Higashimatsuyama  
Employment Support Center for Persons with Disabilities*

## シンポジウム2

9月17日(土) 13:00~14:30 第1会場

### 生活に寄り添う災害作業療法

### Occupational Therapy Supports People's Lives in Times of Disaster

地震や津波、台風や洪水などの自然災害が毎年のように日本各地で発生している。これら自然災害とは別に、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）も災害の一種と考えれば、災害はいつか起こる特別なものではない。このような災害下において、作業とその環境は大きく変化し、被災した人々の日々の生活には大きな困難が生じる。環境への働きかけも含め、作業に焦点を当てた援助を行う専門職として、被災地とそこで生活する人々の生活に寄り添う作業療法はどのようなものなのだろうか。本シンポジウムでは、当事者の一人として東日本大震災を経験した立場、作業療法士として災害で被災した人々を支援を経験した立場、ボランティアセンターのコーディネーターとして支援する人をマネジメントする立場、これら3つの異なる立場からの話題提供を通して、地域で生活する人々の生活に寄り添う災害作業療法の在り方や実践に向けて今後必要なことは何かディスカッションする予定である。

座長

川又 寛徳 Hironori Kawamata

福島県立医科大学保健科学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Fukushima Medical University

#### ◆シンポジスト

中山奈保子

Naoko Nakayama

学校法人彰栄学園 彰栄リハビリテーション  
専門学校作業療法学科夜間部

Department of Occupational  
Therapy (Evening Course), Shoei  
Rehabilitation Professional Training  
College



現役復帰。2020年星槎大学大学院教育学研究科修士課程を修了（教育学）、東日本大震災を語り継ぐ子どものライフストーリーを主軸として研究活動をすすめる傍ら、就学前の子どもや身近な大人が抱える困難を支える仕組や保育活動、当事者理解のあり方について探求をはじめている。

#### ◆シンポジスト

近藤 吉輝

Yoshiteru Kondo

呉市社会福祉協議会

Kure City Council of Social Welfare



#### 被災後の暮らしと心の軌跡

#### Life After the Disaster and the Trajectory of the Heart

「震災を忘れない」という言葉の本当の意味は、決して自然災害の恐ろしさや命を守る術を伝え続けようとするだけではない。当事者の声なき声に心をよせ続け、自分や自分の大切な人々の生活や命が守られるための場や環境を模索し続けることであると考え。ある日突然かけがえのない日常を奪われた（あるいはその様子に直面した）当事者がどのように困難を乗り越え、今ある日常を築いてきたのかを紐解くことでその指針が得られるだろう。本シンポジウムでは、当事者の一人として被災後の日常を記録した日記や写真、震災記録漫画に掲載された手記をもとに、当事者の暮らしとそこに集った人々との間に生まれた出来事をありのままに紹介する。

#### 略歴

1998年作業療法士免許取得後、宮城・福島県内の医療施設（主に身体障害・老年期障害）、作業療法士養成校に勤務。2011年3月、東日本大震災1週間後にはじめた育児日記（blog：自宅に大津波が到達するまでの様子や避難生活、ボランティアとの交流、子どもや家族の様子を記録したもの）をきっかけに出逢った同志が中心となり、災害を乗り越える親子の暮らしを記録・発信する団体「三陸こぞかなネット」を発足。代表として全国から手記を募り震災記録漫画を監修・発刊し全国の学校や児童施設、海外へ発信するとともに、被災後の日常や幼くして被災した子どもによる「災害の伝承」をテーマとした親子コミュニティ活動の企画・運営、執筆、小中学校、インターナショナルスクール等で講演活動を約5年間にわたり行った。その後、養成校教員として作業療法に

#### 被災するということ

#### What does it mean to be a disaster victim?

被災者及び被災地域の‘真の姿’をご存じだろうか？  
災害ボランティア（センター）の存在をご存じだろうか？  
西日本豪雨災害。呉のまちは道路や鉄道等の寸断により「陸の孤島」になったにもかかわらず、広島県内最多の災害ボランティアが活動した。まさに地域力の賜物である。常に「泥を見ずに人を見よ」と、作業効率ではなく、一人ひとりに寄り添いながら声なき声に耳を傾け、潜在する力をどのように引き出すことができるかを考えてきた。ただ、せっかく助かった命が、その後の対応のあり方によって失われてしまうという事実を、我われ支援者は重く受け止めなければならない。  
今、イチ住民として、そしてイチ作業療法士として、‘あなた’の力が求められていることを知っていただきたい。

#### 略歴

1998年、社会福祉協議会に入局以来、福祉のまちづくり専門家として、住民とともに地域に根ざした福祉活動を創り出す中、保育所・幼稚園や小学校、地域サロン等での防災・減災活動を展開している。呉市の五度に渡る被災（※）をはじめとし、全国の被災地においてボランティアセンターの設立運営に従事。内閣府の防災ボランティア活動検討委員会や防災スペシャリスト養成研修講師を務め、「災害時の対応は日常生活の延長線上にある」ことの重要性を説いてきた。現在も、新たな‘防災対策’へ挑戦し続けている。



社会福祉士、介護福祉士、防災士。  
 ※災害救助法の適用【呉市】  
 広島県集中豪雨水害(平成11年6月)  
 芸予地震(平成13年3月)  
 広島県台風18号災害(平成16年9月)  
 広島県大雨災害(平成21年7月)  
 西日本豪雨災害(平成30年7月)

◆シンポジスト

川又 寛徳  
 Hironori Kawamata

福島県立医科大学保健科学部作業療法学科  
 Department of Occupational Therapy,  
 School of Health Sciences,  
 Fukushima Medical University



災害経験を踏まえて作業療法士の役割を考える

The Role of Occupational Therapists Based on  
 Disaster Experiences

2011年3月、東日本大震災および原子力災害によって福島県民は社会生活において制限を受けた。縁があって、警戒区域から施設ごと別の地へ避難し新たな出発をする介護老人保健施設で働く機会を得た。その後、福島県民の健康に寄与する人材育成を目的とした学部開設に携わるようになった。その最中、2019年10月に福島県は令和元年東日本台風によって大きな被害を受け、避難所の支援に携わる機会を得た。そして2019年、新型コロナウイルス感染症が拡大し、人々の生活は大きな制限を受けることになった。筆者らは、コロナ禍において作業を促進する活動を行なった。

日本各地で災害が発生している中、住民の作業を支援する専門職として作業療法士はどのような役割を果たすことができるのか話題提供したい。

【学歴】

2003年：東京都立保健科学大学保健科学部作業療法学科卒業  
 2008年：首都大学東京大学院人間健康科学研究科博士前期課程修了、  
 修士(作業療法学)  
 2015年：首都大学東京大学院 博士(作業療法学)

【職歴】

2003年：(社医)養生会かしま病院  
 2008年：首都大学東京健康福祉学部作業療法学科 助教  
 2013年：(医社)ときわ会介護老人保健施設檜葉ときわ苑  
 2018年：福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 講師  
 2021年：福島県立医科大学保健科学部作業療法学科 講師

## シンポジウム3

9月18日(日) 9:30~11:00 第1会場

### SDGsなまちづくり～ Share, Discover and Greet with smile を楽しもう！～ Sustainable communities ~ Let's enjoy sharing, discovering and greeting with smile! ~

このシンポジウムでは、背景も年代も様々な京都在住の方々に、シンポジストをお願いしました。それぞれの視点からの「まちづくり」の形をお話し頂きます。

すべての人が地域で安心して暮らし続けるために「まちづくり」は大事だと思っても、日々の臨床の仕事で手一杯で、どのように「まち」に関わればよいのかよくわからない作業療法士も多いのではないかと思います。正直なところ私も若い頃は、地域活動は他人事でしたが、数年前からシンポジストの一人の小林敬子さんと一緒に活動しており、今は地域活動が自分自身も元気になれる大切な作業になっています。シンポジウムでは、私たち一人ひとりが自身の好きなこと、得意なことを活かして、自分も周りもHappyな「まちづくり」をどのように楽しむことができるのかを共に考えたいと思います。まちには素敵の方がたくさんおられます。作業療法士がまちの宝を知って、リンクワーカー的存在になれば、一人ひとりが輝き、活かされるのではないかと思います。

何か楽しいことをしたい方、生活が“仕事”と“ADL・IADL”でoccupyされている方、地域に関心のある方、元気になりたい方…ぜひご参加ください。

座長

白井はる奈 Haruna Shirai

佛教大学 保健医療技術学部 作業療学科 Bukkyo University

#### ◆シンポジスト

小林 敬子

Keiko Kobayashi

ふれあいほうむ“どうぞ”

Hureaihoumu "douzo"



#### 「二条駅かいわいまちづくり実行委員会」の取り組みについて

#### About the community building around Nijo Station in Kyoto

小学校教員を29年勤め、49歳で退職し、1997年に有償ボランティアの会「ふれあいほうむ“どうぞ”」をスタートしました。その後、2006年にランチ・配食・喫茶店の「ハイ・どうぞ」という作業所をつくり、通所者の仕事内容を広げることができました。そして、通所者が暮らしやすい地域をつくりたいという思いで、2011年に「二条駅かいわいまちづくり実行委員会」として呼びかけ、現在“街・絵本でつなぐ”というテーマで活動しています。

#### 略歴

1997年 市民団体「ふれあいほうむ“どうぞ”」を設立  
1999年 小学校教員退職  
2006年 NPO法人「ふれあいほうむ“どうぞ”」理事長  
小規模作業所「ハイ・どうぞ」代表  
2011年 「二条駅かいわいまちづくり実行委員会」代表

#### ◆シンポジスト

山本安佳里

Akari Yamamoto

AKARI DESIGN/コドモト

AKARI DESIGN / KODOMOTO



#### あかちゃんと一緒に 京都でおでかけ・こどもと行こう！ 祇園祭の取り組みについて

#### Go out in Kyoto with baby. About the efforts of "Let's go with children! Gion Matsuri"

こども = 未来。こどもの延長線上に未来が延びてつづいていく。未来を担う子どもと、町と、色々なことをつないでいきたいという想いで活動している。

京都へ移住してまだ1年弱の頃、世界三大祭の一つ、祇園祭に赤ちゃんの我が子を連れて訪れたい！その想いを周囲に話すと、大反対された。そんな自身の経験から「こどもと行こう！祇園祭」プロジェクトを立ち上げた。なぜ、行きにくい場所へ子連れで行きたいのか。なぜ、伝統あるお祭り・祇園祭なのか……。活動の思いと、現在に至る経緯を紹介する。

#### 学歴

2005年3月 札幌市立 高等専門学校 インダストリアルデザイン学科  
工業デザインコース卒業  
2006年4月 多摩美術大学 生産デザイン学科 プロダクトデザイン  
専攻 3年次編入学  
2008年3月 多摩美術大学 生産デザイン学科 プロダクトデザイン  
専攻 卒業

#### 職歴

2008年 4月 セイコーエプソン株式会社 機器デザイン部 入社  
デザイナー  
2016年 3月 AKARI DESIGN を設立 (現在に至る)  
2016年12月 任意団体「コドモト」代表 (現在に至る)  
2017年 7月 「こどもと行こう！祇園祭」プロジェクト開始  
(現在に至る)  
2020年 1月 未来の担い手・若者会議U35-KYOTOに参画  
(現在に至る)  
(京都市の基本計画策定時に、京都市が設置した概ね18歳以上35歳未満の京都ゆかりの若者から成る審議会)  
2021年 9月 京都市政策評価委員(市民公募委員)(現在に至る)  
2022年 4月 NPO法人 京都大原里づくり協会 理事 (現在に至る)



◆シンポジスト

岩隈 美穂

Miho Iwakuma

京都大学大学院医学研究科 准教授

*Kyoto University Graduate School of  
Medicine*



コミュニケーション学×障害学の研究者の視点からみた  
「まち」について

"Community" from a perspective of a  
Communication/Disability Studies researcher

発表者はコミュニケーション学や障害学を専門としている研究者であるが、同時に車いす使用者で京都市に住んでいる生活者でもある。本日の発表では、「健康の社会的決定要因 (SDH)」や「ソーシャルキャピタル」といった概念に触れつつ、京都市上京診療所の「上京健康友の会 (通称 友の会)」の活動を紹介しながら、まちづくりと健康づくりの接点について考える機会としたい。

略歴

- 2002年 米国オクラホマ大学大学院コミュニケーション研究科  
博士課程修了 (コミュニケーション学博士)
- 2005年 米国カリフォルニア大学バークレー校 エド・ロバーツ障害  
学ポストドクトラルフェロー
- 2006年 カナダアルバータ大学Human Ecology学部  
Hidden Costs and Invisible Contributionプロジェクト  
ポストドクトラルフェロー
- 2008年 京都大学医学研究科医学コミュニケーション学分野 准教授

## 国際企画プログラム（一般社団法人日本作業療法士協会国際部主催）

9月16日(金) 14:40~16:10 第2会場

### オーストラリアの作業療法：現状と課題

### Occupational Therapy in Australia : Current status and issues

国際部主催の本企画は、第16回世界作業療法士連盟大会の日本開催決定をきっかけとして、2008年から実施されており、日本の作業療法士が世界の作業療法の状況を俯瞰して捉えられるようになることが狙いの一つである。

今回は、これまでのJAOT会員対象のアンケート調査において、会員からの多くのリクエストがあるオーストラリアより講師を招聘する。オーストラリアは日本に一番近い英語圏の先進国であり、教育水準の高さ、治安のよさ、医療レベルの高さもあり、日本との交流が盛んである<sup>1)</sup>。海外留学や旅行で日本人には最も人気な国の一つでありながら、作業療法の現状に関する情報は思いの外少ない。

オーストラリアはWFOTの初代加盟国<sup>2)</sup>であり、OT数が急増する国の一つである<sup>2)</sup>。国土面積は日本の約20倍、人口は約5分の1であり、州毎に医療保障の体制が異なる。高齢化社会に備えた独自の医療保障制度<sup>3)</sup>やケアシステム<sup>4)</sup>を持ち、国民1人当たりの医療費と国民所得、高齢者比率から見て、日本の実状に最も近いとされている<sup>4)</sup>。

オーストラリアの作業療法全体の概要、COVID-19パンデミックによる作業療法に対する需要の変化など、作業療法に関する最新のトピックが聞ける企画となっている。今後の日本の作業療法の発展に大きな示唆を与えてくれることと思われる。

1) 関西大学国際部: 留学人気国ランキング. <https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/globalnavi/destination/> (参照 2021-11-11)

2) 佐藤善久: 日本と世界の作業療法の動向. [http://iryofukushi.com/images/pdf/ot\\_program/ot07.pdf](http://iryofukushi.com/images/pdf/ot_program/ot07.pdf) (参照 2021-11-11)

3) 八木原大: オーストラリアの福祉制度－医療保障制度を中心に－. 第一工業大学 (29): 155-170, 2017.

4) 對馬均: 豪州の高齢者ケアシステムとその実践に学ぶ. 第37回日本理学療法士協会全国研修会29(3):40, 2002.

座長・オーガナイザー

池田 望 Nozomu Ikeda

国際部副部長、札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 教授

Deputy Dept. Manager, International Affairs Department, JAOT /

Professor at Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

#### ◆講師

### Carol Elizabeth McKinstry

オーストラリア作業療法協会会長/  
ラトロブ大学 作業療法学科 准教授

President of Occupational Therapy  
Australia/Associate Professor in  
Occupational Therapy at La Trobe  
University



できるように、継続的な専門教育を提供し、専門的な水準を確保することも必要である。

Recently demand for Australian occupational therapists has grown exponentially with demand now outstripping supply. There has been an increase in the number of occupational therapy education programs with more graduates entering the profession. There is now over 26,000 nationally registered occupational therapists. Approximately 40% of therapists are aged between 25 to 39 years of age and nearly 10% of the profession is male. The demand for occupational therapists is predicted to increase by at least 17% in the future. The introduction of the National Disability Insurance Scheme has contributed to the increase demand of occupational therapy services and has seen a marked increase in therapists working in private practice or private organizations. Another area of increased demand for occupational therapists has been in mental health, which has steadily increased over the last ten years particularly with the impact of the Covid-19 pandemic on people's mental health. Recent government enquiries into areas such as provision of aged care services and mental health services has highlighted the need for increased input of allied health including occupational therapists. Future challenges include the retention of occupational therapists within the profession and the demonstration of the effectiveness of occupational therapy, particularly economic benefit, in a health system under pressure

近年、オーストラリアの作業療法士に対する需要は飛躍的に伸びており、需要が供給を上回っている。作業療法の教育プログラムの増加に伴って、より多くの卒業生がこの職業に就くようになった。現在、全国で26,000人以上の作業療法士が登録されている。セラピストの約40%は25歳から39歳で、10%近くが男性である。作業療法士の需要は、今後少なくとも17%増加すると予測されている。National Disability Insurance Scheme (全国障害者保険制度)の導入により、作業療法サービスに対する需要は増大し、それによって個人開業や民間組織で働くセラピストが著しく増加している。作業療法士に対する需要が増大しているもう一つの分野は、メンタルヘルス分野であり、特にCovid-19のパンデミックが人々のメンタルヘルスに与えた影響により、過去10年間着実に増大している。最近の政府による高齢者介護サービスやメンタルヘルスサービスに関する調査では、作業療法士を含む医療関連専門家の必要性が強調されている。今後の課題としては、作業療法士を職業として維持すること、そしてパンデミックの圧力下にある医療制度において、作業療法の効果、特に経済的利益を証明することが挙げられる。また、作業療法士が新しい分野で活躍



from the pandemic. Supporting therapists to work in emerging areas of practice through providing accessible continuing professional education and ensuring professional standards will also be needed.

#### 略歴

Carol McKinstry准教授は、現在、オーストラリア作業療法協会の会長であり、La Trobe大学の学者である。2005年に学者になる前は、リハビリテーションの臨床家であった。地方の労働力不足に対処するため、2009年にベンディゴの地域キャンパスに作業療法プログラムを設立した。現在は、学習・教育副学部長を務めている。このキャンパス La Trobe Rural Health Schoolは、地方にあるオーストラリア最大の保健医療に関する学校である。研究テーマは、主に労働力に関することであり、新たな実践分野、地方における労働力の構築、医療関連分野における研究能力の開発、革新的な学習・教育アプローチなどもテーマとしている。また、Australian Occupational Therapy Journalの編集アシスタント、Higher Education Academyのシニアフェロー、その他いくつかのコミュニティ組織の理事を務めている。



## 専門作業療法士セミナー1 がん

9月16日(金) 11:00~12:00 第3会場

質の高い作業療法を進行がん患者に届けるためにマッピングを模索する  
～専門作業療法士の視点からがん作業療法のポイントを学ぶ～

Explore mapping to Provide Quality Occupational Therapy for Patients with  
Advanced Cancer ~Studying the Points of Occupational Therapy from the  
Perspective of a Specialist Cancer Occupational Therapist~

日本作業療法士協会は2017年、専門作業療法士の中に「がん分野」をリハビリテーション関連職種の中でもいち早く設置した。この目的は、がん医療において、すでに活動している専門医や専門・認定看護師、薬剤師等の専門医療チームに参加できる知識・技能をもつ専門作業療法士を育成することにある。専門作業療法士（がん分野）の認定数は、現在13名に留まっており、今後より多くの専門作業療法士を育成することが重要であるとともに、多職種協働のためには、更なる専門性強化も課題である。

「がん」をリハビリテーションの主病名として捉え、疾患特性に配慮した「がんのリハビリテーション」が実践されるようになってからの歴史はまだ浅い。それまで、一部の医療機関でしか取り組まれていなかった「がんのリハビリテーション」は、2010年大きな転機を迎えた。医療保険の改訂により「がん患者リハビリテーション料」が新設されると、多くの医療機関が施設基準を取得するため研修会の受講へと大きく動き出した。それから10年以上の歳月を経て、現在では多くの医療機関が施設基準を取得。研修を修了した療法士の数も年々増加している。「がんのリハビリテーション」は、がん診療連携拠点病院のみならず、療養型病床を有する医療機関や高齢者施設、在宅医療の現場でも広く実践されるものとなってきた。そのため、特に頻度は少ないが、がん患者を担当するという療法士も今後益々増加することが予測される。そのような中、がん作業療法の質の担保は大きな課題である。

今回、「肺がん骨転移患者」「目標設定」をテーマに症例を提示し、各専門作業療法士の思考過程を見える化することでがん作業療法のポイントを探り、ポイントを病期・対象ごとに整理したマッピング制作の可能性を模索したい。専門作業療法士の経験値を共有することで、より多くの作業療法士の臨床に役立つとともに、対象者が質の高い作業療法を受ける機会につながることを期待される。

がん作業療法のポイントを探り、ポイントを病期・対象ごとに整理したマッピング制作の可能性を模索したい。

座長

島崎 寛将 Hiromasa Shimazaki

社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院

Department of Rehabilitation, Osaka Pref. Saiseikai Tondabayashi Hospital

◆演者

三浦 裕幸

Hiroyuki Miura

国立大学法人弘前大学医学部附属病院 医療技術部 リハビリテーション部門

Department of Rehabilitation, Hirosaki University Hospital

◆演者

島崎 寛将

Hiromasa Shimazaki

社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院

Department of Rehabilitation, Osaka Pref. Saiseikai Tondabayashi Hospital

◆演者

熊野 宏治

Koji Kumano

パナソニック健康保険 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室

Department of Rehabilitation, Panasonic Health Insurance Organization Matsushita Memorial Hospital



## 専門作業療法士セミナー2 高次脳機能障害

9月16日(金) 11:00～12:00 第4会場

**誰でもなれる！高次脳機能障害領域専門作業療法士：問題解決のリーゾニングを体験学習**  
**Yes you can！You can be a specialized occupational therapist in higher brain dysfunction：Hands-on Learning of Problem Solving Reasoning**

高次脳障害を伴う対象者の方の抱える問題をどのように解決していったらよいか、多くの作業療法士が悩むところで、様々な勉強会に参加しても、自分の力不足を感じるばかり。学ぶべきことの多さに、どこから手を付けていったらよいかかわからず「難しい」と感じてしまうのではないのでしょうか。そこで、今回は実際の事例の高次脳機能障害の生活活動の問題に対して、一緒にその方の問題を解決しながら、解決の方法と高次脳機能障害の作業療法の学び方を体験学習していただく講座を企画いたしました。

インターネットを使ったり、手持ちの文献を使つての問題解決しながら、作業療法のリーゾニングを確認していくことを一緒に体験しましょう。

まずは、以下のURLにアクセスして一緒に考えてみてください。

・事例紹介

<https://docs.google.com/presentation/d/1JThFWP5hxRLjowGKpCzkd5NrHH1DyZQp/edit?usp=sharing&oid=118258845452407562615&rtpof=true&sd=true>



①基本的な脳機能について次の検索サイト (<https://scholar.google.co.jp/>) もしくは 文献購入サイト、養成校の図書館で以下の文献を手に入れて学んでみましょう。

「脳の機能局在と高次脳機能：森岡 周，理学療法学，第39巻第4号，215-21，2012」  
(無料でWEBサイトからダウンロードできます。)

②文献を読んだら、関連する脳機能や高次脳機能障害の仮説を立て、いくつかキーワードを自分で決めて、文献を検索してみましょう。キーワードは、複数を組み合わせて検索すると、より目的に近い文献が検索されます。

ぜひ事前に、友人同士、先輩後輩と一緒に考えて、意見を交わしていただけると嬉しいです。一人で悩むより、互いに学び教えあう事が重要です。

それでは、会場で皆さんと一緒に考えて行きましょう。

### ◆演者

中島ともみ

Tomomi Nakajima

藤田医科大学

FUJITA HEALYH UNIVERSITY

### ◆演者

浅野友佳子

Yukako Asano

文屋内科消化器科医院 訪問リハビリテーション らいらっく

Bunya Gastrointestinal medicine clinic

## 専門作業療法士セミナー3 摂食嚥下

9月16日(金) 11:00~12:00 第5会場

### 栄養を考慮した作業療法士による食支援

#### Helping to eat by occupational therapists who consider nutrition

##### 【セミナー紹介】

作業療法の対象領域が拡大している。それは栄養に関する分野である。背景には、対象者がより高齢化したことで、発症以前に低栄養やサルコペニアをきたしていることや、より発症早期からの介入機会が増えたことなどがある。今回のセミナーでは、作業療法士が理解しておくべき基本的な栄養療法と、チームのなかで果たすべき役割についてお話ししたい。

##### 【セミナーの内容】

##### ◆専門作業療法士取得までの研修の流れ

専門作業療法士取得研修の摂食嚥下分野の研修会の研修実践（専門基礎Ⅰ～Ⅳ、応用研修）の内容について紹介する。

##### ◆食支援に関連するチーム医療のなかで、他職種から求められる役割

質が高く安全なチーム医療を実現するには、各医療スタッフが高い専門性を持ち、効率的かつ緊密な連携が必要である。食支援に関する主なチームは、栄養サポートチーム（NST:nutrition support team）や摂食嚥下支援チームが挙げられる。これらのチーム内で作業療法士の果たす役割は大きい。双方とも診療報酬における算定要件の職種に含まれず、必要に応じて参加する職種に留まる。今後我々が食支援における職種として必要とされるために、作業療法の特性の示し方を考えたい。

##### ◆チーム医療における作業療法士の活動とその役割

近年、NSTや摂食嚥下支援チーム、排尿ケアチームなど、様々な専門的なチームが発足し、作業療法士が配属されることが増えてきた。しかし、作業療法士養成校では栄養や内部障害（摂食嚥下障害、呼吸障害など）に関連した教育は十分に実施されていることは少なく、自己研鑽に頼らざるを得ず、「臨床でどのように関与し作業療法士の専門性を発揮しているか」と悩むことも多いのではないだろうか。食支援を行う上では、摂食嚥下や呼吸機能の理解だけでなく、栄養状態にも注意する必要がある。栄養やチーム医療に関わる知識の整理を行うとともに、臨床での事例を交え、チーム医療（NSTや嚥下チーム）における作業療法士の役割とその有効性について考える機会としたい。

座長

神作 一実 Hitomi Kamisaku

文京学院大学 *Bunkyo Gakuin University*

##### ◆演者

太田 有美

Yumi Ota

津山中央病院

*Tsuyama Chuo Hospital*

##### ◆演者

青木 佑介

Yusuke Aoki

鈴鹿中央総合病院

*Suzuka Chuo General Hospital*



**専門作業療法士セミナー4 特別支援教育 9月16日(金) 11:00～12:00 第6会場**

**思春期以降の進路選択と本人・保護者への支援 -チーム学校で作業療法士ができること-  
Career selection after adolescence and support for individuals and parents  
-What an occupational therapist can do at a team school-**

今回のセミナーでは、進路選択において本人、保護者、学校教員、教育委員会、進路先等との相談支援や連携について、現在の配慮事項に関する制度や意思決定の流れ、受験の実際、進学後の修学支援などについて事例を通して考えたい。特に、思春期以降、青年期の事例について、本人の意思確認、自己決定プロセスでの自己の能力への気づき、保護者の希望や期待との擦り合わせを丁寧に行っていく必要があると考えている。重度アトピー型四肢麻痺がある中学生が通常の高等学校へ進学した事例、自閉スペクトラム症、発達性協調運動障害がある大学生の事例について、本人、保護者それぞれへのアプローチについて、個人情報に配慮し報告する。

長年、ペアレントトレーニングを通して保護者支援を实践され、ご研究されてきた石附智奈美先生にもご登壇いただき、事例検討を通してご意見、ご助言をいただきながら、参加者の皆様と共に思春期、青年期の本人と保護者への支援について学びを深めていきたい。

◆**演者**

**辻 薫**

**Kaoru Tsuji**

大阪人間科学大学

*Osaka university of Human Sciences Faculty of Health and Medical Care*

◆**演者**

**石附智奈美**

**Chinami Ishizuki**

広島大学大学院医系科学研究科

*Hiroshima University, Graduate School of Biomedical and Health Sciences*

## 専門作業療法士セミナー5 手外科

9月16日(金) 11:00~12:00 第7会場

### 専門作業療法士(手外科)による養成教育・臨床・研究

### Training education, clinical and research by specialized occupational therapists (hand surgery)

作業は手から生まれる。脳内で生成される思考・意図・意志は手で表現される。歩行の多くは脊髄反射で制御される一方で、手は非常に高いレベルでの随意性を有する器官であり、精緻な作業を可能とする精巧な構造が存在する。これの破綻は思考・意図・意志を持った作業の困難性につながる。専門作業療法士(手外科)は、この破綻を正確に捉え、その原因系を正常に近づけるための知識と技術を豊富に持つ。そのため、手外科を専門とする医師からの信頼も厚い。

かつて、鎌倉は第40回日本作業療法学会(京都、2006)にて“揺るがないビジョンと永遠の探求心、そして自力本願と顧客主義(もしくは現場主義)をそなえた者こそが現代のプロフェッショナルである”と説いた。専門作業療法士(手外科)は、徹底的な現場主義を信念とするプロフェッショナルである。

教育場面では実践場面における経過を示すことで治療の成否を明確に示し、作業療法との関連性について説く。実践における成否や対象者の変化は研究疑問の提案につながり、ここで生まれる器官としての手への興味は基礎研究へとつながる。これを基とした次世代への提案は、この分野における発展へと資する。本講演では以上について、臨床家・教員の立場で具体例および考察を示す。

座長

池嶋 香 Kaori Ikeshima

社会医療法人清恵会 清恵会病院 作業療法科

*Social medical corporation Seikeikai Seikeikai hospital occupational therapy department*

#### ◆演者

野中 信宏

Nobuhiro Nonaka

愛野記念病院 手外科センター

*Aino Memorial Hospital Hand Center*

#### ◆演者

飯塚 照史

Terufumi Iitsuka

奈良学園大学保健医療学部

*NARAGAKUEN UNIVERSITY Faculty of Health Science*



**専門作業療法士セミナー6 訪問作業療法 9月16日(金) 11:00～12:00 第8会場**

**訪問作業療法の礎～備えておくべき気づき力と考え方～**

**Foundation of Home-based OT**

**～ force of perceive and the way of thinking we should have ～**

今年も、タイトルに「礎」を置いた。昨年度は訪問作業療法の基本的な考え方は先輩方から継承されていると紹介したが、今年度は、専門訪問療法士同士が訪問作業療法の現場実践を確認し合う中で、確信した「気づき力と考え方」についてお伝えする。まずは訪問作業療法士にとって最も大切となるであろう「気づき力」の6つを提示し、「礎」となる「考え方」については、複数の事例を用いて具体的に紹介していく。

ここでお伝えする「気づき力」とは、言い換えると、「ある状態と現在の状態の違いを認知すること」である。例えば、今日は暑いと気づいた時は、昨日の気温(状態)と今日の気温(状態)に気づいていると言える。さらに「ある状態」を言い換えると「理想の状態」ともいえる。作業療法において、「理想の状態」は「利用者・家族の望む活動や参加」であり、現在の状態と違いに気づき、支援することは質の高いサービスになる。そのため、「気づき力」を身に付け、高めることは重要である。我々は「気づき力」により、紙媒体だけでなく利用者とのやり取りの中から情報を得、五感から変化を感じ、話し合いから解決策や問題点を見出し、提供すべき作業療法へと導かれているのだと考える。実際、みなさんの現場でも、そのような実践が行われているに違いない。

「考え方」を「礎」という形で、専門作業療法士による訪問作業療法実践から複数の事例を通して紹介する。これは今後、幾年たっても、訪問作業療法を提供する際の共通する考え方になるであろう。

本セミナーでは、この「礎」を共有し、その礎により発展してきた訪問作業療法の視点・考え方を伝え、訪問作業療法のさらなる発展のため(発展しなければならない)に我々が必要とされること、介入すべき領域についてみなさんと意見を交わし、明日からのサービス提供に活かしていただきたいと考えている。

◆**演者**

**宇田 薫**  
Kaoru Uda

医療法人おもと会

Medical Corporation Omotokai

◆**演者**

**寺本 千秋**  
Kazuaki Teramoto

紀州リハビリケア訪問看護ステーション

Kishu Rehabilitation Visiting Care Station

◆**演者**

**松澤 良平**  
Ryohei Matsuzawa

IMS<イムス>グループ イムス板橋リハビリテーション病院

IMS Itabashi rehabilitation Hospital

## 専門作業療法士セミナー7 脳血管障害

9月17日(土) 9:00~10:00 第1会場

### 脳血管障害の作業療法

#### Occupational therapy for cerebrovascular disease

2022年3月13日に審査試験が行われ、25名の専門作業療法士（脳血管障害）が誕生しました。本セミナーでは下記の3つのテーマで専門作業療法士3名からお話をさせていただきます。

まず「機能訓練と運動イメージ」と題し、中里が運動イメージについてお話しします。

脳損傷では、頭頂葉に蓄積されている身体像の変質、下頭頂小葉における多種感覚モダリティ間の情報統合の変質、そして小脳を中心とした運動シミュレーションの不適正が生じます。その結果が麻痺や高次脳機能障害として観察できるのですが、問題が上記のような脳システムの変質である以上そこを改変しなければなりません。ここでは、随意運動メカニズムとそこで重要な役割を果たしている運動イメージについて確認し、運動イメージの変質が目に見える麻痺とどうつながっているのか、その構造を確認します。その上で、どの様にしてOT場面の訓練に取り入れていくことが可能なのか、具体的に提案してみたいと思います。

次に「急性期・回復期で考える活動と参加の視点」と題し、東川からお話しします。厚労省からリハビリテーションに活動と参加の視点が求められています。また作業療法士が果たす役割が提示され、日常生活動作を中心に活動面への働きかけが示されています。活動と参加の視点は急性期を過ぎて回復期になってから考えるのでしょうか。生活期になってからでしょうか。どちらでもなく、急性期から常に意識して関わる必要があると考えています。そうした実践のきっかけとなるよう、急性期に語られた作業が回復期転棟時に語られなくなった事例、急性期で語られた作業を行ないながら作業療法を実施した事例を提示します。また、近年増加している急性期から退院する軽症例に対する実践もお伝えしようと思います。最後に「機能訓練と活動・参加への介入をつなぐMTDLPの活用」と題し、長谷川より脳血管障害の急性期・回復期でのMTDLP活用法についてお話しします。急性期・回復期ではMTDLPは活用しにくいとの声がありますが、MTDLPと機能訓練は相反するものではありません。むしろ「その人にとって意味のある作業の実現のためには、基礎的な機能面の評価・計画・介入がとても重要です。急性期・回復期において、MTDLPを活用時につまづきやすい点への対応方法など、お伝えできればと思います。

本セミナーが脳血管障害の専門作業療法士を目指すきっかけとなっていただければ幸いです。

#### ◆演者

長谷川敬一

Keiichi Hasegawa

一般財団法人竹田健康財団 竹田綜合病院

Takeda general hospital

#### 脳血管障害の作業療法

Occupational therapy for cerebrovascular disease

#### ◆演者

東川 哲朗

Tetsuro Higashikawa

医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院

Kanazawa Neurosurgical Hospital

#### 急性期・回復期で考える活動と参加の視点

Viewpoints of activities and participation in the acute and convalescent periods

#### ◆演者

中里瑠美子

Rumiko Nakazato

東京女子医科大学附属足立医療センター

Tokyo Women's Medical University, Adachi Medical Center

#### 機能訓練と運動イメージ

Motor Representation in Functional Exercise

**専門作業療法士セミナー8 認知症****9月17日(土) 9:00～10:00 第2会場****活動の質評価法 (A-QOA) を用いた認知症のある人への生活支援****Life support for people with dementia using the Assessment of quality of activities (A-QOA)**

認知症の人は、進行とともに自分の思いを言語化することが困難となるため、作業療法士の多くは、その人にとって意味や価値のある活動を特定することや、作業療法の効果を説明するのに難渋しているのではないだろうか。そこで筆者らはこれらの問題を解決するために、活動の質評価法 (A-QOA) を開発してきた。A-QOAは、認知症の人が活動に従事しているときの様子や状態を観察によって評価するものであり、活動からどのような影響を受け、また周囲の人にどのような影響を与えているのかを捉えようとするものである。

A-QOAの観察項目は5領域21項目である。認知症の人が行っている活動を評価者としてそばで観察する、あるいは支援しながら観察し、活動が終了した後に評価マニュアルを用いて、それぞれの項目を4段階で評定する。合計点は84点満点となる。これらの粗点を、解析ソフトであるAqoaProに入力するとプロビット値が算出され、その結果から活動との結びつきの強さを数値で示すことができる。A-QOAでは、認知症の人が活動を行う場面を観察しながら、A-QOAの点数に影響を与えたと考えられる要因(人的、物的環境など)を把握し、観察後に記録する。

認知症の人のQOLを高めるためのA-QOAの活用方法は主に3つある。1つ目は、支援の初期にその人にとって意味や価値のある活動を特定するための評価として活用する方法、2つ目は支援計画の立案に役立てる方法、3つ目は介入の成果測定として用いる方法である。認知症ケアにおいてA-QOAを活用する利点の一つは、21項目の観察視点を用いることで、活動に従事することによる効果や影響を言語化するのを助けてくれることである。また、標準化された値であるプロビット値を用いることによって、どの程度活動との結びつきが強く、良い状態で活動を行っているのかを、あるいは介入の成果がどの程度あったのかを客観的に示せることである。

重要な点は、A-QOAを用いて特定された活動をセラピーやグループ活動のみならず、可能な限り日常生活の中に織り込むことである。日々の生活の中にA-QOAの得点が高くなるような活動を生活に織り込むことが可能となれば、その人のQOLをより一層高めることが可能となる。

本セミナーでは、A-QOAの概要と認知症の人の生活支援のための活用方法について解説し、認知症の人がより良い生活を送れるための作業療法について参加者のみなさんと一緒に考えてみたい。

## ◆ 演者

**西田 征治****Seiji Nishida**

県立広島大学 作業療法学コース

Prefectural University of Hiroshima



## 専門作業療法士セミナー9 就労支援

9月17日(土) 9:00~10:00 第3会場

### 医療機関からの就労支援

#### Employment support from health care providers

障害を持つ方への就労支援制度において、支援に従事する専門職として作業療法士が支援者の条件に含まれることが増えてきた。今、作業療法士は就労支援で活躍が期待される職種として社会的に認知されてきているのである。このような中、今年は専門作業療法士制度「就労支援」に新たな専門作業療法士が誕生した。今回は、新たな就労支援スペシャリスト達による、医療機関からの就労支援に注目していく。

作業療法士の関わる就労支援とは、就労前から離職も含め、多岐にわたる。本セミナーでは、就業中にかかわる「両立支援」をテーマに取り上げる。ここで述べる「両立支援」とは、「治療と仕事の両立支援」である。精神科領域においては、2004年より「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」が作成され、メンタルヘルス上の理由で休職した労働者の職場復帰支援が実施されている。一方、身体障害領域に関しては、平成28年に「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」が作成され、改定を重ねている。様々な人が「仕事」を続けるためにも「両立支援」は欠かせないことであり、また、医療機関に勤務するものが多い作業療法士において比較的接点を持ちやすい就労支援であると思われる。今回、北海道文教大学の北川浩子先生より「両立支援」の概要についてご紹介いただき、医療機関に勤務する作業療法士が実施できる就労支援について考える機会を提供していただく。

また、身体障害領域でも就労ニーズは高く実際に就労支援に携わる作業療法士達も多い。今回は、高次脳機能障害を含む脳血管障害を患った方の多機関・多職種連携の課題を中心に、就労支援のポイントを新潟医療福祉大学の北上守俊先生より、ご紹介いただく。医療機関内における役割として、作業療法士が就労支援の実践を多職種から期待されることは少なくないが、診療報酬等の諸課題において医療機関で実践できる就労支援には限界がある。そのため、各地域の障害者支援施設や就労支援機関、企業等との連携は就労支援を実践していく上で必要不可欠である。脳血管障害を患った方の支援は、医療機関からスタートすることが多いため、対象者の状況に合致した移行及び連携先を検討していくことが重要である。そのような状況の中で、作業療法士に求められる就労支援の在り方について考える機会を提供出来ればと思う。

#### ◆演者

北上 守俊  
Moritoshi Kitakami

新潟医療福祉大学

*Niigata University of Health and Welfare*

高次脳機能障害のある人に就労支援のポイント  
～多機関・多職種連携の課題～

#### ◆演者

大川 浩子  
Hiroko Okawa

北海道文教大学/NPO法人コミュネット楽創

*Hokkaido Bunkyo University*

就労支援における仕事と生活の両立支援  
Supporting work-life balance in employment  
support

#### ◆演者

馬場 順子  
Naoko Baba

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

*Department of Occupational Therapy, Faculty of  
Rehabilitation, GUNMA PAZ UNIVERSITY*



**専門作業療法士セミナー10 福祉用具 9月17日(土) 9:00～10:00 第4会場**

**持続可能な社会を創るための福祉用具分野の作業療法**

**Occupational therapy of welfare equipment to create a sustainable society**

我が国は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現することを目標としています。近年、家族の介護力低下や介護人材の不足が叫ばれるなか、高齢者や障害児者が住まいで暮らすためには、生活自立度を維持向上し介護負担を軽減させるような環境調整を必要としています。そして日常生活や社会参加を促すことができる作業療法士（OT）が、地域包括ケアに貢献できる専門職として注目されています。

その一方、時代に応じた変化は目まぐるしく、私たちを取り巻く生活用具や住環境、テクノロジー等は発展進化しています。そのため昨年度の本セミナーでは、『国民生活に合わせた生活支援用具や住環境整備』をテーマとして、(1) 自助具や生活便利品など生活支援用具、(2) 福祉用具や住まいなど環境整備、(3) ICT機器、IoT製品などテクノロジーの3つの観点において、

- 1) 対象者のニーズにあった生活支援方法が選択できるよう、情報や支援技術を備えておくこと
- 2) 時代背景や文化、国民生活の変化に合わせた生活支援用具の作製や開発はOTの責務
- 3) 「～ができない」ではなく、「～ができる」の視点を持ち、成功体験を増やしながらか「できること」の確認作業
- 4) 本人が「できること」を知り、エンパワメントを持ち自立への準備ができるように「活動レベル」へのアプローチ
- 5) より有意義な生活を送るために、患者に寄り添い、ニーズを傾聴することは、他のアプローチと何ら変わらない
- 6) OTは、いつの時代も患者と挑戦し、患者から学ぶ姿勢に、全く変わりはない

と生活支援用具や住環境整備に対するアプローチをまとめました。

今年度のセミナーでは、持続可能な社会を創るために、福祉用具分野においてOTがどのように貢献できるか考えていきたいと思います。まずは(1) セミナーの趣旨と効果検証の観点から松本が説明させていただき、(2) 自助具作成の発想や技術伝承の観点から松元義彦氏、そして(3) 商品化やアプリ開発など製品開発の立場から鴨下賢一氏、以上3名の専門OTの臨床経験を通して、「今まで大事にしていたこと」、「今後さらに大事になること」を話題提供していただき、『持続可能な社会を創るための福祉用具分野の作業療法』を整理していきたいと思っています。

◆**演者**

**松本 琢磨**

**Takuma Matsumoto**

神奈川県総合リハビリテーションセンター

*The Kanagawa Rehabilitation Center*

◆**演者**

**松元 義彦**

**Yoshihiko Matsumoto**

鹿児島赤十字病院

*Japanese Red Cross Society Kagoshima Hospital*

◆**演者**

**鴨下 賢一**

**Kenichi Kamoshita**

株式会社 児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム かもん

*Child Development Support Association, Inc.*

*Rehabilitation and Development Support Room Kamon*

専門作業療法士セミナー11 精神科急性期 9月17日(土) 9:00~10:00 第5会場

精神科急性期の作業療法

Occupational Therapy in Acute Psychiatry

専門作業療法士における精神科急性期分野は、狭義の急性期のみならず、地域生活期における症状悪化時等もその範疇としている。精神科作業療法では、医学モデルと社会生活モデルを両足とし、対象者の人生を共に考え、歩む姿勢が大切である。そのため、対象者への具体的な支援は、急性期症状からの回復だけではなく、地域生活支援における危機介入等も忘れてはならない。また、近年の精神科作業療法における対象は、予防としてのメンタルヘルスへの支援や精神病発症危険状態への支援などから、長期入院を余儀なくされた社会的入院の対象者への支援まで幅広い。現代の作業療法士には、これまで以上に専門的な知識と技術が必要とされている。

今回のセミナーでは、精神障害のある対象者の支援に、より作業療法が活かされることを願い企画した。内容は、精神科急性期に関する基礎的な点を再確認することに加えて、日々の臨床で効果的に対象者と関わるポイントについても学ぶことができる。専門作業療法士における精神科急性期を目指す方の一助になれば幸いである。

座長

岩根 達郎 Tatsuro Iwane

京都府立洛南病院 *kyoto prefectural rakunan hospital*

◆演者

早坂 友成

Tomonari Hayasaka

杏林大学保健学部作業療法学科

*Department of Occupational Therapy, Faculty of Health  
and Sciences, Kyorin University*

精神科急性期の作業療法 -希望を取り戻すための支援-

Introduction of occupational therapy in the  
acute phase of psychiatry: a hope for new life

◆演者

福田健一郎

Ken-ichiro Fukuda

医療法人栄寿会 真珠園療養所

*Shinjuen Hospital*

精神科急性期病棟における作業療法プログラム

Occupational therapy programs in psychiatric  
acute unit



## 企画セミナー1 ロボットと作業療法研究会

9月16日(金) 17:00～18:00 第3会場

### 重度片麻痺上肢に対する合目的的活動と電気刺激療法の実践 -在宅訪問によるアプローチ- Purposeful activity-based electrical stimulation therapy for chronic stroke survivors

#### 【趣旨】

脳卒中重度片麻痺上肢は一般的に、入院中には十分な機能的な動作の回復には至らないとされています(Hendricks,2002)。重度片麻痺上肢のある人は、回復過程の途中で自宅に退院するため、治療の継続を期待しています。しかし現実には、挑戦と失敗の経験が繰り返され、手を動かす機会が奪われていき慢性的な重度麻痺側上肢が作り上げられます。我々は、患者やその介護者にさらなる負担をかけることなく、自宅で高度なリハビリテーションを提供する効果的なひとつのプログラムを開発しています。このプログラムは、合目的的活動を基礎とした電気刺激療法です(合目的電気刺激療法: purposeful activity-based electrical stimulation therapy, PA-EST)。

PA-ESTは、慢性脳卒中患者の重度片麻痺上肢を中等度の補助的上肢に持ち上げる、もしくは上肢片麻痺を緩和するために考案された短期リハビリテーションプログラムです(Minami et al,2020 a, b)。なお、非麻痺側の活動を抑制せず両手動作につなげていき、筋電気刺激も1回に20分以内で1日60分までとし、週3回以上としています。このプログラムの実施の効果について、重度の上肢片麻痺を有する慢性期脳卒中患者の運動機能、麻痺上肢の使用、目標の達成においてストレッチ/エクササイズよりも有効である可能性が示されています。(Minami et al,2021 a) またこの介入は、聴性事象関連電位を用いて評価され、重度上肢麻痺側患者においても、患者をとりまく環境や意図した行動の意思により一定の認知処理速度の向上が示されています(Minami et al,2021 b)。介入方法は、大きく3つのStepに分けられ、重度麻痺側上肢の緩和につながっています。この実践方法を紹介させていただきます。

本セミナーでは、慢性脳卒中の重度片麻痺上肢に対して、本人の動機や習慣、役割を整理しながら、自分の存在をあらゆるような作業に焦点をあてた事例を紹介いたします。これらの実践事例の情報を共有させていただき、慢性脳卒中の重度片麻痺上肢のある人に対する、補助的上肢へむけた介入について、ディスカッションできたらと思います。私たちの実践は重度片麻痺を対象とし、彼らの生活適応力を上げて、CI療法やIVIS療法などの効果的な治療につなぎ、さらに豊かな生活を過ごせる機会を提供できればと考えています。

#### 【文献】

Hendricks H, Limbeek J, et al. Motor recovery after stroke: a systematic review of the literature. Arch Phys Med Rehabil 83, 1629-1637, 2002.

Minami S, Aoki H, et al. Transition of a severely hemiparetic upper limb to a supporting upper limb: Development of a purposeful activity-electrical stimulation therapy rehabilitation program (A report of three cases) . The Japanese Academy of Health Sciences 23, 14-24, 2020a.

Minami S, Kobayashi R, et al. Program for rehabilitation of the chronic severe hemiparesis upper extremity of cerebral stroke survivors: application of purposeful activities and an electrical stimulation therapy program. Cognition & Rehabilitation 1-1, 74-82, 2020b.

Minami S, Fukumoto Y, et al. Effect of home-based rehabilitation of purposeful activity-based electrical stimulation therapy for chronic stroke survivors: a crossover randomized controlled trial. Restor Neurol Neurosci 39, 173-180, 2021 a.

MINAMI S, FUKUMOTO Y, KOBAYASHI R, et al. Effect of purposeful activity-based electrical stimulation on auditory event-related potential in a stroke survivor with a severely paretic upper limb. COGNITION & REHABILITATION 2-1, 36-40, 2021 b.

司会 (コーディネーター)

小林 隆司 Ryuji Kobayashi

東京都立大学健康福祉学部 Tokyo Metropolitan University

#### ◆講師

南 征吾

Seigo Minami

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz University

## 企画セミナー2 Review Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD)

9月16日(金) 17:00~18:00 第4会場

### 臨床と研究をつなぐ認知症作業療法 ～地域で実践し続けるための臨床と研究～

#### Occupational Therapy for dementia connecting clinical practice and study ~Clinical and research to continue practicing in the community~

新オレンジプランにおいては、認知症の人が住みなれた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指している。その施策のもと、作業療法士は地域での研究と臨床実践がますます求められているといえる。申請者らのグループであるReview Circle on Rehabilitation for Dementia (RCRD) に所属する臨床家・研究者らは、オレンジプランが策定される以前から地域における認知症作業療法に着目し、作業療法士の観点から疫学調査やその結果に基づいたアプローチ方法を模索してきた。今回のセミナーにおいては、本学会のテーマに沿うよう地域在住高齢者を対象とした大規模コホート研究結果、および地域に根ざして介入を続けてきた若年性認知症の人に対する就労と社会参加に関する臨床実践の知見について紹介したい。

まず、第一演者の丸田道雄氏においては、大規模コホート研究(垂水研究)の結果と臨床への応用を中心に報告する。このコホート研究は、作業療法における支援の主要な標的の1つである個人が生活の中で大切にしている作業(Meaningful activity)を評価の指標として取り入れた世界的にも数少ない貴重な研究である。具体的な内容として、大切にしている作業の地域在住高齢者における特徴、認知機能や心理症状との関連、そして支援の方法について自身の知見を踏まえてセミナー内で報告する。

次に第二演者の横山和樹氏においては、若年性認知症を含む認知症の人の就労と社会参加の支援をテーマとして、国内外における研究・臨床実践の動向を自身の知見と合わせて報告する。近年、作業療法領域においても就労を継続・再獲得することの重要性は増している。このことは、認知症の人においても同様である。セミナーでは、認知症の症状が進行しても地域の中で就労の役割や大切にしている作業を継続できることの意義を示し、作業療法の臨床を再考するための機会にしたい。

これまでのRCRDのセミナーでは、認知症の重症度別の作業療法などを扱い、近年の国の施策と作業療法士協会の重点課題に沿うように企画してきた。今回は、「持続可能な社会を創る作業療法」という本学会のテーマを鑑みて、「地域で実践し続けることができる臨床と研究」の内容となるように企画している。本セミナーは、地域だけでなく、地域を見据えた病院・施設、研究機関で働く全ての作業療法士にとっても重要な未来志向的なテーマであるといえる。

司会(コーディネーター)

田中 寛之 Hiroyuki Tanaka

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

School of Rehabilitation, Faculty of Medicine, Osaka Metropolitan University

#### ◆講師

丸田 道雄

Michio Maruta

医療法人三州会大勝病院

Department of Rehabilitation, Medical Corporation,  
Sanshukai, Okatsu Hospital

#### ◆講師

横山 和樹

Kazuki Yokoyama

北海道公立大学法人 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, School of Health  
Sciences, Sapporo Medical University



## 企画セミナー3 リハビリテーション栄養学会

9月16日(金) 17:00～18:00 第5会場

### 生活行為向上に奏功する栄養マネジメント

#### Nutritional management improving daily life performance and quality of life

作業療法の対象者には、食思不振、拒食、摂食嚥下障害、貧困による摂食不良等、様々な要因により栄養障害を認める者が少なくない。栄養状態が改善しないと、心身機能や生活行為の改善には結びつきにくい。栄養状態を把握せずに作業療法を行うと、対象者の活動と参加を改善できないばかりか、かえって原疾患の悪化に結び付くこともある。

リハビリテーション栄養の知識は、専門分野・病期・障害の分類を越境し、対象者の「したい・する必要がある・することが期待されている生活行為」の改善や達成に近づける一助になる。2018年に「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」が約20年ぶりに改訂した事に伴い、2020年4月入学の学生から栄養学の履修が必修となった。これは、我々作業療法士も、栄養学の知識を身に付ける必要がある事を意味する。

リハビリテーション栄養とは、『ICFによる全人的評価と栄養障害・サルコペニア・栄養素摂取の過不足の有無と原因の評価、リハ栄養診断・ゴール設定を行ったうえで、障害者やフレイル高齢者の栄養状態・サルコペニア・フレイルを改善し、機能・活動・参加、QOLを最大限高める「リハからみた栄養管理」や「栄養からみたリハ」である』と定義されている。リハビリテーション栄養プロセスの中で作業療法士は、身体計測や食事時の姿勢調整、食器や食具など福祉用具の選定、高次脳機能障害や認知症に対する食環境の設定、在宅生活における調理や買い物などの指導を行い、対象者の目指す生活や活動・参加が最大限可能となるように、多職種・異業種と連携してチームを指向し、コーディネイトする重要な役割もある。

点滴が入っていたら安心なのか、お粥は本当に安全なのか、自助具があれば食べられるのか、サルコペニア・フレイルとは何か、多剤服用による弊害は何かなど、知っているようで知らない知識も、作業療法を实践するうえでは重要となる。

本セミナーでは栄養に関する基礎知識や、病院・在宅・生活期それぞれを対象者に対する評価・実践内容について。

本セミナーを通して、様々な領域で働く多くの作業療法士とリハビリテーション栄養に関するディスカッションを行い、明日からの作業療法支援の新たな道しるべになることを願っている。

司会（コーディネーター）

齋藤 嘉子 Yoshiko Saito

介護医療院 茶山のさと リハビリテーション課

*Integrated Facility for Medical and Long-term Care Tyayamanosato*

#### ◆講師

齋藤 嘉子

Yoshiko Saito

介護医療院 茶山のさと リハビリテーション課

*Integrated Facility for Medical and Long-term Care Tyayamanosato*

#### ◆講師

助金 淳

Atushi Sukegane

医療法人信愛会 日比野病院診療技術部リハビリテーション科

*Hibino hospital*

#### ◆講師

田中 舞

Mai Tanaka

あうる訪問看護リハビリステーション

*OWL Home-visit Nursing Rehabilitation Station in Kurihama*

## 企画セミナー4 アディクション関連問題作業療法研究会

9月16日(金) 17:00~18:00 第6会場

### 作業療法士が実践するアルコール依存症に関する様々な取り組み

#### Various attempts related to alcoholism practiced by Occupational therapists

近年、我が国における様々な依存症治療支援に係る施策が整備される中、アルコール依存症においても「アルコール健康障害対策基本法」が制定され、各都道府県において様々なアルコール依存症治療支援に関する取り組みがなされている。それらは、アルコール依存症が様々な疾患や社会問題につながっていることもあり、あらゆる生活者を対象とし、様々な実践がなされている。そこに作業療法士が関与すると、まさに「持続可能な社会を創る作業療法」につながるであろう。本セミナーでは、2つ精神科医療機関において、作業療法士が関与するアルコール依存症に関する取り組みを報告する。どちらも、病院内にアルコール依存症対策プロジェクトチームを立ち上げ、活動範囲を院外にも広げ、他機関、他職種と連携しながら、普及啓発、予防対策、早期介入なども実践している。それは、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」に通ずるものがあり、他の精神障害に対してもヒントが得られるであろう。当日は、それぞれの報告者からの苦労している点も含めた報告を頂き、フロアの方々とアルコール依存症のみならず、これからの精神障害に対する作業療法を検討する場にしたい。

司会 (コーディネーター)

佐藤 嘉孝 Yoshitaka Sato

岡山県精神科医療センター Okayama Psychiatric Medical Center

池田 望 Nozomu Ikeda

札幌医科大学保健医療学部 (作業療法学科)

Department of Occupational Therapy School of Health Sciences Sapporo Medical University

#### ◆講師

前田 大輝

Taiki Maeda

医療法人 見松会 あきやま病院

Akiyama Hospital

#### ◆講師

中井 伸弥

Shinya Nakai

医療法人正雄会 呉みどりヶ丘病院

Kuremidorigaoka Hospital



## 企画セミナー5 呼吸器・循環器障害の作業療法を検討する会

9月16日(金) 17:00～18:00 第7会場

呼吸器疾患患者を作業療法でつなぐ

～急性期・回復期・生活期までシームレスに作業療法を継続するために

Connecting patients with respiratory diseases through occupational therapy  
～ Seamless continuity of occupational therapy from acute phase to recovery phase to daily life phase

近年の呼吸リハビリテーションは運動耐容能の維持・向上から身体活動性の維持・向上へとパラダイムシフトしてきている。身体活動性は患者のQOLだけでなく、生存率に大きく寄与することが報告されている。身体活動性は、体力維持や向上を目標とする運動だけでなく、家事や仕事などの生活活動を含む概念である。そのため、活動と参加を担う作業療法士の呼吸器分野への介入は急務となってきている。この身体活動性を維持、向上するためには急性期、回復期、生活期までシームレスに作業療法を含む呼吸リハビリテーションを継続的に行うことが重要である。

司会 (コーディネーター)

川邊 利子 Toshiko Kawabe

自宅 No affiliation

### ◆講師

熊野 宏治

Koji Kumano

パナソニック健康保険組合 松下記念病院 リハビリテーション療法室

Department of Rehabilitation, Panasonic Health Insurance Organization Matsushita Memorial Hospital

### ◆講師

藤原 光樹

Kouki Fujiwara

大阪府済生会富田林病院 リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Saiseikai Tondabayashi Hospital

### ◆講師

岡島 聡

Satoshi Okajima

ぼると訪問看護ステーション

porte home-visit nursing station



## 企画セミナー6 ICTリハビリテーション研究会

9月16日(金) 17:00~18:00 第8会場

### デジタルファブリケーションで拓く新たな作業療法の可能性Ⅲ — 自助具を3Dプリンタで製作する際のガイドラインについて —

#### Opening up new possibilities of occupational therapy by digital fabrication -Guidelines for producing self-help devices with a 3D printer-

前回の企画セミナーでは自助具の課題と福祉用具の導入プロセスに着目し、シンポジウム形式での意見交換を行った。デジタルファブリケーション（以下DFと略す）は、インターネット接続環境を前提とした3Dプリンタなどのデジタル工作機械を使った「ものづくり」である。近年それは価格やソフトウェアの使い勝手において、かなり身近なものになってきている。

そして昨今、作業療法場面においてもDFの利活用は少しずつ拡がりを見せている。

しかし、卒前および卒後の作業療法教育の中ではDFの利活用に関して学習・経験する機会は希少であり、利活用する者が自己流でそして手探りで取り組んでいるのが現状だと考えられる。そのため、そこにはプロダクトを使用する者の心身への悪影響を例とした様々なリスクが潜んでいるのではないだろうか。

当研究会は、リハビリテーションへのICTの適切活用を促進すること、そしてクライアントの主体的ICT活用という観点を持ち新たなICT機器の活用方法を具体的に提案し、実現していくことを目指している。

誰もがより安全に、より有用にDFを利活用した自助や支援ができるようガイドラインの必要性を感じ、その中でも特に汎用されている3Dプリンタを利活用した生活支援用具の作製に係るガイドラインの作成に現在着手している。

本セミナーでは、ガイドライン作成に至った経緯やDFを利活用した生活支援用具の作製について作製者が持つべき態度や考え方を示すとともに、参加者の方々と意見交換ができるセッションにしていきたい。

司会（コーディネーター）

上原 亮介 Ryosuke Kanbara

一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

General Incorporated Association ICT Rehabilitation Research Laboratory

#### ◆講師

林 園子

Sonoko Hayashi

一般社団法人 ICTリハビリテーション研究会

General Incorporated Association ICT Rehabilitation  
Research

#### ◆講師

濱中 直樹

Naoki Hamanaka

ファブラボ品川

Fablab Shinagawa



**企画セミナー7 臨床家・教育者のための生活リスク・コミュニケーション研究会**  
**9月17日(土) 16:40～17:40 第2会場**

**作業療法の臨床場面で活用できる新しい危険予測ツールTP-KYTの紹介と活用**  
**Introduction and application of TP-KYT, a new hazard prediction tool that can be used in clinical situations of occupational therapy**

作業療法場面における医療事故で最も多いのは転倒・転落である。領域別にみても身体障害・精神障害・発達障害、どの領域においても医療事故の発生数1位は転倒・転落であり、その対策は必須となっている。転倒・転落の要因として環境や設備機器の問題はもちろんあるが、それ以上に多いのは「確認を怠った」、「判断を誤った」といったヒューマンエラーと呼ばれる要因となっている。主要な事故の80～90%はヒューマンエラーによって起こるといわれているように、作業療法場面においてもリスクを軽減していくためにはシステム面の改善のみならず、作業療法士個人のヒューマンエラーをいかに改善していくかを考えなければならない。

ヒューマンエラーへの対策として、Kiken Yochi Training (KYT) が医療現場や介護現場にてよく利用されている。危険予知は、患者の安全性を改善する上で重要な役割を果たすが、危険予知に使用される評価のほとんどは、患者が転倒する可能性を数値化するような患者側のリスク要因のみを評価するものであり、医療事故の多くの要因を占めるヒューマンエラーに対する評価とはなっていない。また、KYTについても標準化された効果検証ツールは今回紹介する評価の他に存在していないのが現状である。

そこで今回の企画セミナーでは、KYTの効果検証ツールとして、タイムプレッシャーの要素を適応させることで医療従事者の危険予知能力を定量化できるTime Pressure-Kiken Yochi Training 効果測定システム (TP-KYT) を紹介する。その中で、脳血管障害やパーキンソン病などの病態から起こるリスクを捉え発見する能力、及び環境の違いから起こるリスクを捉え発見する能力を養う体験を実施する。また、評価のみに言及せず、リスクへの新しいアプローチとして生活リスクに焦点を当てた教育方法についても提案する。参加者は本企画セミナーに参加することにより、医療従事者側の危険予知能力の評価の理解から管理運営としてリスク教育を実践できる手段を学ぶことができ、翌日からの医療安全教育に役立たせることができる。

**【シンポジウム企画】**

- 1 TP-KYTの紹介と病態や環境から考えられるリスクを発見する体験
- 2 TP-KYTの具体的活用方法の理解  
 実際の冊子を用いて、医療施設で応用する手段を紹介する。
- 3 生活リスクに焦点を当てた教育方法の紹介  
 学生教育の中で実践した成果について紹介し、職場の利用の可能性について検討する。  
 また、これらの報告を基に、協会員から広く意見交換をする場を設ける。

司会 (コーディネーター)

**大浦 智子 Tomoko Ohura**  
 奈良学園大学 *Naragakuen University*

◆講師

**有久 勝彦**  
**Katsuhiko Arihisa**

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部  
*International University of Health and Welfare, School of Rehabilitation Sciences at Fukuoka*

◆講師

**林 亜遊**  
**Ayu Hayashi**

大阪医療福祉専門学校  
*Osaka College of Medical and Welfare*

◆講師

**林 辰博**  
**Tatsuhiko Hayashi**

大阪医療福祉専門学校  
*Osaka College of Medical and Welfare*

## 企画セミナー8 クリニカルクラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会

9月17日(土) 16:40~17:40 第3会場

### クリニカル・クラークシップ臨床実習をブラッシュアップするための成人教育学の活用を考える How to Introduce Adult Education to Brush Up Clinical Clerkship based Clinical Training

作業療法学生は、臨床場面で自信が無く、自分の能力を適切に評価できない存在だと言える。しかし、一方で、臨床教育者(CE)に単に指示されるだけの存在ではなく、自分の学習を自らの関心に基づいて切り開く存在だろう。このように、学生を「学習者」としての成人として捉え、実習環境を心理的に安全な環境に整えて、積極的にCEや他職種や対象者と対話を行い、臨床実践をしながら自ら発見するような学びを作ることが、作業療法士となる礎を作るのではないだろうか。2018年に厚生労働省より「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」が定められたことにより、作業療法臨床実習はクリニカル・クラークシップ(CCS:臨床参加型)で行うことが基準となったが、この方式が導入されたことで、CEが自身の過去の経験に囚われず、目の前の一人の学生に適した指導方法を見だし、常に修正しながら、学習者本人が現場実践の中での経験を次の場面で応用できるように導く実践を行う必要がある。本企画セミナーでは、このような主旨に基づき、作業療法臨床教育をブラッシュアップするための成人教育学の活用について議論したい。なお、ここでは「臨床教育」を、学内教育から臨床的な課題解決に向けた学習を行い、臨床実習で経験を通して学び、臨床的な視点を深めるという意味で用いる。ご参加の方々と共に、以下の3つのテーマで検討し議論したい。テーマ1:成人教育学を作業療法臨床教育にどう活かすか(三崎一彦氏):総論として、成人教育学を通して見えてくる作業療法臨床教育のあり方を検討する。②リフレクションシートを作業療法臨床教育にどう活かすか(坂本安令氏):実習生が自身の臨床実践をリフレクションする中で、次の臨床場面へ応用可能な気づきを引き出せる工夫を紹介する。③CCSによって作業療法臨床実習はアンラーニングされつつあるのか(小林幸治氏):アンラーニングとは学び直し・学びほぐしとも言われ、旧来の方法や経験至上主義から脱し、現状に適した考え方や方法に変えていくような学び方の事を言う。CCSの導入で私たちは旧態依然だった臨床実習指導を大きく入れ替えたと言えるが、これにより本来の臨床教育のあり方をどう考えていけばよいかを検討する。

司会(コーディネーター)

小林 幸治 Koji Kobayashi

目白大学保健医療学部作業療法学科 *Mejiro University*

#### ◆講師

坂本 安令

Yasunori Sakamoto

横浜市立大学附属市民総合医療センター リハビリテーション部

*Yokohama City University Medical Center*

#### ◆講師

三崎 一彦

Kazuhiko Misaki

小樽臨床作業療法研究会

*Otaru Clinical Occupational Therapy Study Group*

#### ◆講師

小林 幸治

Koji Kobayashi

目白大学保健医療学部作業療法学科

*Mejiro University*



**企画セミナー9 日本作業療法士協会制度対策部障害保健福祉対策委員会  
(就労支援チーム) 9月17日(土) 16:40～17:40 第4会場**

**就労支援専門職としての成長と課題を考える-作業療法士はどのような価値を高めるべきか-  
Considering the growth and challenges of the employment support profession  
-What value should occupational therapists add?-**

近年、就労支援の制度に関して、作業療法士は最も注目を浴びた専門職と言って過言ではない。障害福祉サービス就労移行支援、就労継続支援事業における福祉専門職配置加算への職名記載や労働施策である精神・発達障害者雇用トータルサポーターへの職名記載など、障害者就労支援施策において就労支援専門職として作業療法士への期待は高まっている。

一方、就労支援に従事する作業療法士の数は日本作業療法士協会の0.6%程度(2019年会員統計より)であり、期待に応えられていない現状である。私たち作業療法士と、人の生業を成すとても身近な生活行為である「働く・労働」という作業との距離は、離れたものになってしまっている。

就労支援は就労準備から定着まで医療・福祉・雇用と分野を横断的に支援が行われることが特徴である。連携による加算が設けられたり、国の検討会では福祉と雇用における横断的なスキルを兼ね備えた人材育成が議論されているなど、分野を跨いだ知識・技術の取得が求められている。しかし、そのような人材は不足しており、どのようにして育成・確保していくかが課題となっている。

そのような背景の中で、多様な領域に知識・人材配置を行なっている作業療法士は課題に応える人材になりうるのではないかと考えている。しかし、現場の作業療法士自身からは「就労支援における専門性がわからない」「どうやってスキルアップすれば良いかわからない」「医療の立場から何ができるのか」といった戸惑いや迷いの声が聞こえてきたり、養成教育への導入など課題が山積している。作業療法士としての専門性と就労支援従事者としての専門性という双方の向上をイメージする中で、それぞれの専門性とは何かを分析し、明示していく必要があると考える。

今回は、国の作業部会の委員である若尾勝己氏を講師にお招きし、就労支援に求められる人材育成の方針について講義を受けた上で、就労移行支援事業所管理者、養成校教員における実践を交えて、就労支援における作業療法士に求められる価値について考えていきたい。私たち作業療法士が、社会ニーズに対してどうやって応えていくか。作業療法×就労支援において、何を伸ばし、何を強化すべきか。日々悩む作業療法士のヒントになる時間としたい。就労支援において、学術的な視点やエビデンスベースという概念が求められている時代背景において、学術学会という場所から、議論のスタートを切ればと思う。

司会(コーディネーター)

金川 善衛 Zen'e Kanagawa

医療法人清風会就労支援センターオンワーク Seifukai medical corporation Employment support center onwork

◆講師

若尾 勝己

Masaki Wakao

NPO法人東松山障害者就労支援センター

Specified non-profit organization Higashimatsuyama  
Employment Support Center for persons with Disabilities

◆講師

芳賀 大輔

Daisuke Haga

NPO法人日本学び協会 ワンモア

Japan Learning Association, a non-profit organization  
ONEMORE

◆講師

野崎 智仁

Tomohito Nozaki

国際医療福祉大学保健医療学部/NPO法人那須フロンティア

International University of Health and Welfare, School of  
Health Sciences / Nasu frontier

## 企画セミナー10 Park-OT Journal Club

9月17日(土) 16:40~17:40 第5会場

### パーキンソン病と作業療法 ~非運動症状の理解と作業療法のエビデンス~

#### Parkinson's Disease and Occupational Therapy -Understanding Non-Motor Symptoms and the Evidence for Occupational Therapy-

パーキンソン病 (PD) 患者数は国内では年々増加傾向にあり、全世界のPD患者数は2040年までに倍増すると推測されている。直近の2018年に発行されたPD診療ガイドラインでは各リハビリテーション職が明記され、近年PD診療におけるリハビリテーションの役割が大きく認知されてきた。作業療法においては、日常生活関連活動の改善や介護負担の軽減効果があると記載されているが、学術的にはさらに発展させる必要がある。

本セミナーでは、日本パーキンソン病・運動障害疾患学会 (MDSJ) の前々大会長の坪井義夫先生 (脳神経内科医) とPDの臨床研究に取り組まれている長城晃一先生にご登壇いただく。坪井先生にはPD患者への作業療法を実践する上で必要な非運動症状と多職種連携の概要説明を、長城先生には国際的に実践されているPD患者に対する作業療法の近年のトピックス、そしてAging in Place促進のための実践を紹介していただく。その後、会場の参加者をふくめ意見や質問を交えながら討議を行いたい。

本セミナーの受講者がPD患者への作業療法におけるエビデンス活用に繋がり、多職種とのスムーズな連携の促進、さらなる学術的発展に寄与することを期待する。

司会 (コーディネーター)

高橋香代子 Kayoko Takahashi

北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科

*Department of Occupational Therapy, School of Allied Health Science, Kitasato University*

宮口 英樹 Hideki Miyaguchi

広島大学大学院医系科学研究科 *Graduate School of Medicine, Hiroshima University*

#### ◆講師

坪井 義夫

Yoshio Tsuboi

福岡大学医学部脳神経内科学教室

*Department of Neurology, Faculty of Medicine, Fukuoka University*

#### ◆講師

長城 晃一

Koichi Nagaki

福岡大学医学部脳神経内科学教室

*Department of Neurology, Faculty of Medicine, Fukuoka University*



**企画セミナー11 司法精神科作業療法全国事例検討会、LAHPE研究会、  
(京都)精神科分野勉強会、アディクション関連問題作業療法研究会**  
9月17日(土) 16:40～17:40 第6会場

**生きづらさへの作業療法の関わり**

**A new target for mental health: Occupational therapists challenge the client's "Ikizurasa"**

本企画は「生きづらさ」に焦点を当てた企画セミナーになります。OTは人々の健康と幸福に寄与することができますが、近年「生きづらさ」のある人は非常に多く、生きづらさ自体も多様になっています。本企画セミナーでは、【司法精神科作業療法全国事例検討会】から司法・触法に関して、【LAHPE研究会】から自殺・自傷に関して、【京都精神科分野勉強会】からひきこもりに関して、【アディクション関連問題作業療法研究会】からアディクションに関して、それぞれに「生きづらさ」に直接的に関与している4領域の実践者に話題提供いただき、生きづらさのある人の理解と関わりについて学びを深める機会としたいと思っています。

司会 (コーディネーター)

岩根 達郎 Iwane Tatsuro

京都府立洛南病院 *Kyoto Prefectural Rakunan Hospital*

◆講師

棟近 展行

Nobuyuki Munechika

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課

*Mental Health and Disability Health Division Social Welfare and War Victims' Relief Bureau Ministry of Health, Labor and Welfare*

◆講師

岸 雪枝

Yukie Kishi

兵庫医科大学病院

*Hyogo Medical University*

◆講師

児嶋 亮

Ryo Kojima

桜花会クリニック

*Oukakai Clinic*

◆講師

小砂哲太郎

Tetsutaro Kosugo

久里浜医療センター

*Kurihama Medical and Addiction Center*

## 企画セミナー12 日本ハンドセラピー学会

9月17日(土) 16:40~17:40 第7会場

### 上肢および手の損傷例に対する神経生理学を活用した作業療法 -研究動向と臨床応用- Hand therapy utilizing neurophysiology for cases of upper limb and hand injuries - Research and clinical application -

ひとの手は非常にすぐれた機能を備えた精密な器官であり、ひとが人間らしく生きるために重要な器官である。ひとは生涯を通じて手を使い、手のスキルを磨き、様々な作業を学習し生活を送っている。この背景には進化の過程で中枢神経が発達したことが挙げられ、大脳皮質において運動・体性感覚野を占める手の領域は広い。ひとたび手に外傷や炎症が引き起こされると、中枢神経系にも影響が及ぶことが報告されている。そのため、手外科領域の作業療法では、「運動器」だけでなく「その運動器をコントロールする神経系」の両方に着目したアプローチが重要とされる。こうした観点から、近年は手外科領域の作業療法においても神経生理学を活用した作業療法の研究が行われ、臨床応用もなされている。しかし、解明されていない点は多く、研究課題も多い。したがって、これからさらに作業療法士の活躍が期待される領域とも言える。

そこで、今回は手外科領域における神経生理学の研究動向と臨床応用について学べるセミナーを企画した。セミナー講師は、上肢、手外科領域に精通しており、本テーマに豊富な臨床や研究の経験をお持ちの3名の講師にご講演いただく。まず、蓬菜谷耕士OTRに近年の臨床および研究の動向についてご説明いただく。続いて、外傷術後の筋収縮異常に対する作業療法としてバイオフィードバック療法を中心に高橋里奈OTRに、痛みに対する振動刺激と映像観察法について成田大地OTRにご講演いただく。「運動器」、そして「運動器をコントロールする神経系」双方の機能回復を促し、日常生活で使える上肢、手の獲得に活かせる内容とした。

運動器疾患においても中枢神経系に着目したアプローチが求められる時代であり、作業療法士には、神経生理学を活かしたEBMに基づいた作業療法の実践と研究が期待されている。本セミナーを通して、運動器疾患に従事している多くの作業療法士の臨床や研究活動に役に立ち、作業療法がさらに発展することを期待する。

司会 (コーディネーター)

蓬菜谷耕士 Koji Horaiya

関西医科大学 リハビリテーション学部 Faculty of Rehabilitation, Kansai Medical University

#### ◆講師

高橋 里奈

Rina Takahashi

獨協医科大学埼玉医療センター リハビリテーション科

Department of Rehabilitation medicine, Dokkyo Medical  
University Saitama Medical Center

#### ◆講師

成田 大地

Daichi Narita

相模原協同病院

Sagamihara Kyodo Hospital



**企画セミナー13 CIOTS Japan**

**9月17日(土) 16:40～17:40 第8会場**

**作業療法士は誰一人取り残さずに作業遂行を支援する**

**Occupational Therapists Involved in Occupational Performance Without Leaving Anyone Behind**

「誰一人取り残さない」

SDGs(持続可能な開発目標)の合言葉です。SDGsは、医療、保健、福祉などの領域に従事する作業療法士とも関わりがあり、17の大きな目標のうち3番目の「Good Health and Well-Being(全ての人に健康と福祉を)」とサブタイトルの「Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages(あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する)」は馴染みがある言葉となっています。

人々の健康的な生活を確保するために、作業療法士は作業に焦点を当てて関わります。その実践の流れの一つに、作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)があります。このモデルでは、対象者から作業に関するニーズを聴き、作業遂行を評価します。ADL/IADLに関するニーズに対してはAMPSで、学校課題に関するニーズに対してはSchool AMPSで評価します。対人交流に関するニーズに対してはESIで評価します。その結果を踏まえて、作業遂行が上手くできるように介入モデルを選択し実行します。OTIPMを進めることで、時間をかけずに作業に変化を生み出し、対象者は健康的な生活に近づくことができます。

実際の臨床場面の例で、回復期リハビリテーション病棟ではADLの改善と入院期間の短縮が算定要件になっており、AMPSはその有効な手段となりえます。また、高齢者の介護予防・日常生活支援総合事業でもAMPSを活用することで効果をあげています。2021年の障害福祉サービス等報酬改定で、放課後等デイサービス、児童発達支援センター、児童発達支援事業所や就労支援継続支援A型、B型に専門職の配置加算として作業療法士の名前が明記され、今後、School AMPSとESIを活用する場面が増えることが予測されます。

急速に変化する社会、制度の中、私たちは作業に焦点を当てた治療、指導、援助技術を用いることで、幅広い視点から人々の健康的な生活を支援したり、人々を社会につなげることで、持続可能な社会の一端を担うことができます。本セミナーでは、全ての人に健康を促進し社会につなげ、誰一人取り残さず、持続可能な社会を創る一助となるように、2019年に刷新された最新版のOTIPMを紹介し、各評価を使用した事例を紹介します。

司会(コーディネーター)

鈴木 達也 Tatsuya Suzuki

聖隷クリストファー大学 *Seirei Christopher University*

◆講師

斎藤さわ子

Sawako Saito

茨城県立医療大学

*Ibaraki Prefectural Medical University of Health Sciences*

◆講師

石橋 裕

Yu Ishibashi

東京都立大学

*Tokyo Metropolitan University*

◆講師

古山千佳子

Chikako Koyama

県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学コース

*Prefectural University of Hiroshima*

◆講師

南 庄一郎

Shoichiro Minami

大阪精神医療センター

*Osaka psychiatric medical center*



## 企画セミナー14 循環器臨床作業療法研究会

9月18日(日) 10:50~11:50 第2会場

### 持続的な心大血管疾患患者に対する作業療法—SDGsを意識した取り組み— Sustainable occupational therapy for cardiovascular disease

本邦においては持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) が注目され久しい。すべての人々がより良く、より持続可能な未来を築くために貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など我々が直面するグローバルな諸課題の解決を目指している。SDGs 17の目標のうち作業療法士にもっとも関係が深いのは「目標3 : すべての人に健康と福祉を」であり、地域保健・医療・福祉を通してすべての人に包括的かつ継続的なサービスを提供する必要がある。

一方、心臓リハビリテーション (心リハ) とは、心大血管疾患患者の再発・再入院・死亡を減少させ、快適で活動的な生活を実現するための長期的な包括的プログラムである。心リハは多くのエビデンスが蓄積され、循環器治療の一つと考えられている。しかしながら現代医療における入院期間の短期化は急性期病院での回復のための継続的な心リハは困難であるうえ、回復期リハビリテーション病棟ではそもそも診療報酬上の適応疾患外である。また、地域や介護分野では心疾患患者や心リハへの知識や技術が不十分であることなどから患者は継続的な心リハを受け続けることが困難と言わざるを得ない。このような状況で令和4年の診療報酬改定では回復期リハビリテーション病棟の適応患者として心大血管疾患患者が含まれることが検討されている。このことに加え、地域や介護分野においても心リハをさらにすすめるためには携わる作業療法士が心大血管患者、特に高齢者や多疾患有病者、重症者の病態やリスクを理解したうえで安全な心リハを提供できる必要がある。そのためには心リハに精通した (心リハ指導士のような) 主に急性期病院の作業療法士が回復期や地域、介護で活躍する作業療法士にその知識や技術を継続的に伝承してゆく必要がある。この知識や技術の伝承は分野を超えた横断的な場面に限ったものではなく、施設内であっても先輩から後輩や新人への教育でも重要である。多忙な臨床の中でいかに教育を継続し、伝承してゆくかが作業療法士の質的な維持向上に肝要である。

本セミナーでは高齢者や多疾患有病者、重症心大血管疾患患者に対して作業療法を実施する際の経験者の思考をリスク管理を交えてお伝えするとともに臨床場面での教育について論じたい。

司会 (コーディネーター)

村井 達彦 Tatsuhiko Murai

訪問看護ステーション花あかり *visiting nurse station HANA AKARI*

武田 智徳 Tomonori Takeda

埼玉医科大学国際医療センター *Saitama Medical University International Medical Center*

#### ◆講師

渡邊 麗子

Reiko Watanabe

筑波大学附属病院

*University of Tsukuba Hospital*

#### ◆講師

生須 義久

Yoshihisa Namasu

群馬県立心臓血管センター

*Gunma Prefectural Cardiovascular Center*



## 企画セミナー15 Occupational Therapy in Oncology - Researchers Network

9月18日(日) 10:50～11:50 第3会場

### がん作業療法領域における好循環の創出に向けたエビデンス解釈と臨床実践

Evidence-based clinical practice in the field of cancer occupational therapy create a virtuous circle

がん患者に対するリハビリテーションは、各国のガイドラインにおいて強く推奨され、がん患者の心身ならびに生活の支援に重要な役割を担う。本邦では、2013年にがんのリハビリテーション診療ガイドラインが策定され、その後、がん患者からの幅広いニーズに応える実践編として、がんリハビリテーションのためのプラクティカルガイド書が発刊された。日常臨床において作業療法士が、根拠に基づく実践を進めやすい土壌ができてきた。一方、がん患者が求める支援は、がん種、治療、病期別など多岐に渡り、エビデンスの解釈と臨床応用が難しいという課題がある。がんの作業療法領域の発展のためには、臨床研究を推進し専門技能を高めるトレーニングによる好循環が、がん患者ならびに作業療法領域へ資する戦略と考える。今回は、好循環の創出に向けたエビデンスの解釈と臨床応用の実践方法について紹介させていただく。

本セミナーでは、がん作業療法領域の最前線で臨床研究に取り組まれている群馬県立がんセンターの柳井亮人先生と長崎原爆病院の吉岐尾優太先生にご登壇していただく。柳井先生には「急性期緩和ケア病棟における終末期がん患者の全身状態と自己効力感の変化」、吉岐尾先生には、「化学療法による末梢神経障害を呈した患者に対する作業療法介入の有用性」と題して、エビデンスの解釈と臨床応用への方法についてご講義していただく。その後、会場の参加者からの意見や質問を交えながら活発な討議を行いたい。本セミナーが、がん作業療法領域における臨床研究の足掛かりと、この分野のさらなる発展に寄与することを期待している。

司会 (コーディネーター)

小泉 浩平 Kohei Koizumi

埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科

Department of Occupational Therapy, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University

#### ◆講師

柳井 亮人

Akihito Yanai

群馬県立がんセンター

Gunma Prefectural Cancer Center

#### ◆講師

吉岐尾優太

Yuta Ikio

日本赤十字社長崎原爆病院

Japanese Red Cross Nagasaki Genbaku Hospital

## SS スペシャルセッション (口述発表)

### スペシャルセッション (口述発表)

座長：柴田 克之 (金沢大学)

9月16日(金) 11:20～12:30 第1会場

SS-1-1	ReoGo-Jを用いた中等度以上の上肢麻痺患者の機能的予後に関連する因子の検討 Factors Related to Functional Outcome in Patients with Moderate or Higher Upper Limb Paralysis using ReoGo-J	社会医療法人 敬和会 大分リハビリテーション病院 リハビリテーション部 畑辺真乃介
SS-1-2	作業療法士の抱える職業上のストレス要因 ～作業療法士メンタルヘルス支援の構築にむけて～ Occupational therapists' occupational stress factors ～Occupational Therapist To Build Mental Health Support～	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 藤田さより
SS-1-3	軽度認知障害のある高齢者の作業参加と環境要因, 抑うつ, 健康関連 QOL の相互関係 ～健常者との比較検討～ Interrelationship between occupational participation, environment, depression and HRQOL for MCI and healthy older adults	医療法人 宏和会 あさい病院 伊藤 竜司
SS-1-4	男性高齢者の社会活動への参加を促す集団プログラムの開発: 混合研究法 Developing a Group Program for Older Males to Participate in Social Activities: A Mixed-Methods Study	目白大学 保健医療学部 作業療法学科 野村 健太

## ES 英語セッション

### 英語セッション 1

座長：大庭 潤平 (神戸学院大学)

高橋香代子 (北里大学)

9月17日(土) 12:30～13:40 第8会場

ES-1-1	The use of paretic hand has an effect of delay on cognitive process in performing Trail making Test	Gunma University Graduate School of Health Science Ryoto Akiyama
ES-1-2	Functional disability self-assessment and negative self-beliefs in people with schizophrenia	Department of Rehabilitation Science, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University Hiroki Okada
ES-1-3	Relationship between hierarchical visual attention and driving performance in elderly drivers during a course driving.	Gunma University Graduate School of Health Sciences, Doctor's Program Siyeong Kim
ES-1-4	Predictive factors associated with continued disposable diaper use in hospitalized elderly patients	Department of Occupational Therapy Faculty of Rehabilitation, Gunma Paz University ken kondo
ES-1-5	Predictive Factors Affecting Lift Equipment Use after Home Discharge in Hospitalized Patients with Severe Disabilities	Tekiju Rehabilitation Hospital Toshiki Kitagaki
ES-1-6	A report how invented Forearm Orthosis could be effect to forearm rotation	Department of Rehabilitation, Kitasato University Hospital Takenori Jimbo

## OA 脳血管疾患等

### 脳血管疾患等 1

座長：光永 清 (長崎大学病院)

9月16日(金) 12:10～13:10 第3会場

OA-1-1	急性期脳卒中患者における食事場面での麻痺側上肢の使用状況と運動麻痺との関連性についての検討 Study of the relationship between the use of affected upper limb in eating and motor paralysis in acute stroke patients	伊那中央病院 リハビリテーション技術科 池上 正斗
OA-1-2	脳卒中後における生活での麻痺手の使用頻度が乖離した重度体性感覚障害の2例 Two cases of severe somatosensory deficits compared paretic arm impairments and daily arm use after stroke	医療法人 錦秀会 阪和記念病院 リハビリテーション部 與田夏菜恵
OA-1-3	上肢ジストニア様の運動障害に対して皮膚せん断力覚, 圧覚へのアプローチが有効であった視床梗塞の一例 Shear Force and Pressure Stimuli Ameliorate Focal Dystonia-Like Movement Disorders After Thalamic Infarction	川口脳神経外科リハビリクリニック リハビリテーション科, 山形県立保健医療大学 大学院保健医療学研究科 寺岡 優希
OA-1-4	脳卒中急性期における上肢痙攣性評価の試み～痙攣評価装置を用いて～ Evaluation of upper limb spasticity in acute stroke ~ Using a spasticity assessment device ~	長崎大学病院 リハビリテーション部 山園 大輝
OA-1-5	上肢麻痺を呈した脳卒中患者に対する装具療法をはじめとした複合的介入が奏功した一例 ～ホースで作成した手指短対立装具の有用性～ A case of multiple interventions including orthotic therapy for a stroke patient ～Efficacy of orthosis made with a hose～	医療法人 えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 麻原 俊也

### 脳血管疾患等 2

座長：岩波 潤 (信州大学)

9月16日(金) 13:20～14:20 第3会場

OA-2-1	急性期脳卒中患者の神経心理学的検査は J-SDSA の合否を予測できるか? ～J-SDSA 境界型を不合格にした場合の検討～ Can Neuropsychological Testing in Stroke Patients Predict the Outcome of Failing the J-SDSA Borderline Type?	独立行政法人労働者健康安全機構長崎労災病院 中央リハビリテーション部 酒井 愛菜
--------	---	--



OA-2-2	左半側空間無視患者のBIT 行動性無視検査日本版における線分二等分試験と抹消試験にみられる無視空間の特徴 Characteristics of neglect observed in the line bisection task and cancellation task of the Behavioral Inattention Test	総合南東北病院 リハビリテーション科、 国際医療福祉大学大学院 リハビリテーション学分野 高田 善栄
OA-2-3	亜急性期脳卒中患者の日常生活における無視症状と脳損傷領域の特徴 ～ voxel-based lesion-symptom mapping を用いた横断研究～ Neuroanatomy of USN in daily living in patients with subacute stroke ～ a study using voxel-based lesion-symptom mapping ～	医療法人 友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中田 佳佑
OA-2-4	左上肢の意図的な使用と重度注意障害に対する介入が ADL 能力向上に有効であった Alien Hand Syndrome の一症例 A case of AlienHand Syndrome that improved with the use of the left upper limb and intervention for attention disorders	社会福祉法人農協共済別府リハビリテーション センター リハビリテーション部 吉田 梓沙
OA-2-5	失行症患者に対して一人称視点を用いた訓練を行ったことで ADL に汎化した一症例 A case generalized to ADL by training apraxia patients from a first-person perspective	八千代病院 総合リハビリセンター 林 映晃

脳血管疾患等 3

座長：松岡 耕史 (多摩丘陵病院)

9月16日(金) 14:30～15:30 第3会場

OA-3-1	ADL チェックシートを使用した排泄動作の評価～評価者による違いの検討～ Evaluation of excretory behavior using ADL assessment sheet ～ Examination of differences by evaluator ～	特定医療法人 社団 三光会 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 古場 友真
OA-3-2	排尿ケアチーム介入による急性期脳卒中患者のトイレ動作獲得因子の検討 Toilet movement acquisition factors in acute stroke patients by intervention of urinary care team	社会医療法人友愛会 友愛医療センター リハビリテーション科 横江 昭宏
OA-3-3	くも膜下出血後の脳血管攣縮好発期における長谷川式簡易知能評価スケールは転帰検討に有用か？ Is Hasegawa dementia scale effective in the susceptible period of cerebral Vasospasm following subarachnoid hemorrhage?	社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 リハビリテーション部 櫻庭 孝慎
OA-3-4	回復期高齢脳卒中患者の自宅退院と家族構成の関連 Relationship between home discharge and living situation in older subacute stroke patients: a retrospective cohort study	東京湾岸リハビリテーション病院、 筑波大学大学院 人間総合科学学術院人間総合科学研 究群 リハビリテーション科学学位プログラム 渡邊 翔太
OA-3-5	回復期リハビリテーション病棟に入院する脳血管障害者に対する就労支援の実態 ～作業療法士の評価・支援内容～ A survey of employment support for stroke patients admitted to a recovery ward ～ contents of occupational therapists ～	神戸リハビリテーション病院 菊地 理仁

脳血管疾患等 4

座長：天野 暁 (北里大学)

9月16日(金) 15:40～16:50 第3会場

OA-4-1	急性期脳卒中者に多角的な予後予測を参考に箸操作を目指した修正 CI 療法の実践 Practice of modified CI therapy targeting chopstick operation based on prognosis prediction in acute stroke patients	医療法人社団 仁明会 秋山脳神経外科病院 リハビリテーション科 岩崎 竜弥
OA-4-2	不全頸髄損傷患者に対する CI 療法により補助手が実用手へと改善した症例 CI therapy improved the function of an assistive hand in a patient with incomplete cervical spinal cord injury .	北海道せき損センター 中央リハビリテーション部 小島虎太郎
OA-4-3	頸髄損傷患者におけるロボット訓練の有用性の検討 The usefulness of ReoGO-J robot for upper limb training in spinal cord injury patients	千葉県千葉リハビリテーションセンター 成人療法室第二作業療法科 村上 菜穂
OA-4-4	脳卒中後上肢痙性麻痺に対し選択的筋皮神経縮小術施行後、上肢用単関節 HAL と集中的作業療法を併用した症例 A case study of robotic and intensive occupational therapy after selective peripheral neurotomy for arm spasticity	福岡大学病院 リハビリテーション部、 福岡大学医学部 脳神経外科 百武 光一
OA-4-5	課題指向型訓練と能動的な自主練習により麻痺側上肢の機能と日常生活での使用頻度が向上した1例 Subject-oriented training and Voluntary practice Improvement patient's function and frequency of use	医療法人茜会脳神経筋センターよしみず病院 リハビリテーション部 作業療法課 三坂 純
OA-4-6	重度上肢麻痺を呈した回復期脳卒中患者に対して、段階的なニューロリハビリテーションを実施し実用手を獲得した1例 Intervention for upper extremity function according to recovery stage in convalescent stroke patients: A case report.	東京湾岸リハビリテーション病院 中村あゆみ

脳血管疾患等 5

座長：石川 哲也 (済生会神奈川県病院)

9月17日(土) 9:00～10:00 第8会場

OA-5-1	脳幹部海綿状血管腫術後の動眼神経麻痺に対する迷路性眼球反射促進法を用いたリハビリテーション～エステティシャン復帰を目指して～ A case of oculomotor rehabilitation after trabecular vascular tumor surgery to return to esthetician.	社会医療法人財団白十字会 白十字リハビリテーション病院 納富 亮典
OA-5-2	脳損傷による複視を伴う外眼筋麻痺と FIM 運動項目との関連：ケースコントロール研究 Association between external ophthalmoplegia with diplopia due to brain injury and FIM motor items: a case-control study	昭和大学横浜市北部病院 リハビリテーション室、 昭和大学保健医療学部 作業療法学科 渡部 喬之
OA-5-3	One and Half 症候群の一症例～食事動作獲得を目指して～ A case report of one and a half syndrome ~ Aiming to acquire eating behavior ~	済生会京都府病院 リハビリテーション科 齋藤 鴻

OA-5-4	慢性疼痛に対する介入により恐怖回避モデルからの脱却を認め左上肢を使用した活動を獲得した一事例 Through intervention for chronic pain a case of broke free from the fear-avoidance model and improved activity.	IMS グループ 医療法人社団 明芳会 イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 佐々木桃香
OA-5-5	左被殻出血により失語症, 右片麻痺を呈した症例に対して上肢活動量計測と ADOC-H を用いて麻痺手使用に関する行動変容を促した試み A trial of upper limb activity measurement and ADOC-H for hemiplegic patient with aphasia	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 石橋凜太郎
<b>脳血管疾患等 6</b>		<b>座長：秋山 尚也 (浜松市リハビリテーション病院)</b> 9月17日(土) 10:10～11:10 第2会場
OA-6-1	自動車運転再開と神経心理学的検査の関係性 ～退院半年後の電話調査と入院中の検査結果からの分析～ Relationship between resumption of driving and testing ～Analysis from telephone surveys and inpatient examinations～	公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション部 鈴木佳代子
OA-6-2	Rash 分析に基づく脳血管障害者の運轉行動の難易度に関する研究 Investigation on the Difficulty of Driving Behavior of People with Cerebrovascular Disorders Based on Rash Analysis	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター, 筑波大学大学院 人間総合科学研究群 リハビリテーション科学学位プログラム 生田 純一
OA-6-3	回復期リハ病棟で就労パスポートを使用し, 復職した脳卒中事例に関する報告 Report on a stroke case that returned to work using a work passport in a convalescent rehabilitation ward	医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院 リハビリテーション部 中島 恵美
OA-6-4	没入型バーチャルリアリティ技術を用いて外出・買い物動作の評価を行った左同名半盲の一例 Assessment on the Abilities of Going Out and Shopping Using Immersive Virtual Reality for a Patient with Hemianopia	神戸大学大学院 保健学研究科, 神戸掖済会病院 リハビリテーション科 今田 泰裕
OA-6-5	回復期リハビリテーション病棟退院後における軽度脳卒中患者の家事再開予測モデルの開発 Development of prediction models for domestic chores resumption among mild stroke patients	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科学 学域博士後期課程, 練馬駅リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小林 竜
<b>脳血管疾患等 7</b>		<b>座長：大野 勘太 (東京工科大学)</b> 9月17日(土) 10:10～11:10 第8会場
OA-7-1	脳卒中後アパシーを呈した事例に対するアパシー類型化後の介入 Interventions after apathy typing for cases with post-stroke apathy	医療法人 和光会 山田病院 リハビリテーション部 市橋 星香
OA-7-2	NIRS (near infrared spectroscopy) を用いたアパシーの類型化の検証 Verification of the use of near infrared spectroscopy (NIRS) to typify apathy.	医療法人和光会 山田病院 リハビリテーション部, 関西医療大学 大学院保健医療学研究科 海光 拓磨
OA-7-3	やる気スコアの下位項目を用いたアパシー類型の予測 Prediction of apathy type using sub-items of apathy rating scale	医療法人和光会 山田病院 リハビリテーション部 立岩 慧士
OA-7-4	覚醒下腫瘍摘出術後の運動麻痺と高次脳機能障害の回復過程における OT の役割 The role of OT in the recovery process of motor paralysis and higher brain dysfunction after awake tumor removal.	長崎大学病院 リハビリテーション部 光永 清
OA-7-5	脳腫瘍摘出術後に高次脳機能障害が出現した事例 ～ ADOC を用いた作業療法が QOL を向上させた～ A case with higher brain dysfunction following surgery to remove a brain tumor ～ OT with ADOC led to improve QOL ~	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 古橋 啓介
<b>脳血管疾患等 8</b>		<b>座長：能登 真一 (新潟医療福祉大学)</b> 9月17日(土) 11:20～12:20 第2会場
OA-8-1	自発性低下に対し, 精神機能面を考慮した作業に焦点を当てた関わりで, 言動変化が生じた脳卒中の一症例 A case of stroke fall spontaneity who language and action changes after work focused relation consider mental function.	社会医療法人協和会 加納総合病院 リハビリテーション科 山田 順也
OA-8-2	左尾状核梗塞後注意障害と自発性の低下を呈し, 早期からパソコン操作を作業活動として選択し介入した一症例 A case of intervention by selecting personal computer operation as an activity from an early stage	順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科 畑中優佳里
OA-8-3	記憶障害, 病識低下のある事例と家族に対する作業療法実践 ～作業機能障害と生活課題の改善を目指して～ Occupational therapy practice for a cases with memory disorder, anosognosia and family	社会医療法人人生長会 阪南市市民病院 松下 真拓
OA-8-4	脳卒中後のうつ状態に対して情緒面に介入した結果, 意欲向上し日常生活自立した事例 ～作業遂行 6 因子分析ツールを用いて～ Case of increased motivation and independence in daily life as a result of emotional intervention in depression	特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 西田 紘規
OA-8-5	皮質盲を呈した症例に対して認識・情緒に焦点を当てた介入 ～作業遂行 6 因子分析ツール (OPAT6) を用いて～ Intervention focused on recognition and emotion in patients with cortical blindness.	1) 特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター リハビリテーション技師部 上野 佳美
<b>脳血管疾患等 9</b>		<b>座長：小枝 周平 (弘前大学大学院)</b> 9月17日(土) 11:20～12:20 第8会場
OA-9-1	脳卒中後の手指巧緻動作低下に対する視覚フィードバックを用いた介入 Study on effect of visual feedback for dexterity movement in stroke patient	偕行会リハビリテーション病院 山中 信人



OA-9-2	脳卒中後上肢麻痺への治療選択に関する意思決定 ～理学療法士・作業療法士に対する質問紙調査研究～ Decision making about treatment choices for post-stroke upper limb paralysis ～A questionnaire survey study of therapists～	医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 平山幸一郎
OA-9-3	回復期脳卒中片麻痺者における入院時リーチ動作能力が退院時 ADL 自立度に及ぼす影響 Influence of reaching ability on admission on Activity of Daily Living at discharge in recovery phase stroke patients	公益社団法人群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院 作業療法室 大塚 昂弘
OA-9-4	回復期脳卒中患者の運動麻痺の重症度と上肢活動量の特徴分類～クラスター分析を用いて～ Characteristic classification of severity of arm motor impairment and arm activity in subacute stroke patients	西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部、 畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室 南川 勇二
OA-9-5	慢性期脳卒中上肢麻痺の重症度及び麻痺手の使用頻度と脳皮質厚の関係 Relationship between severity and daily use of upper limb paralysis and cortical thickness in chronic stroke patients	福井医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科、 福井大学 学術研究院医学系研究科脳形態機能学分野 酒井 涼

**脳血管疾患等 10** 座長：岡部 拓大 (東京家政大学)  
9月17日(土) 12:30～13:30 第2会場

OA-10-1	メンタルプラクティスの効果と関連する評価法～課題を書き動作とした場合～ Evaluation of motor imagery ability related to mental practice～Use of a writing task～	神戸大学大学院 保健学研究科 リハビリテーション科学領域 奥田 眞矢
OA-10-2	急性期脳卒中患者に対する脳機能トレーニングツール CogEvo の有用性の検討 Evaluation of the usefulness of CogEvo, a brain function training tool for acute stroke patients	昭和大 保健医療学部作業療法学科 青木啓一郎
OA-10-3	脳損傷者の self-awareness 評価法「The Awareness Questionnaire(AQ)」の日本語版作成および信頼性・妥当性の検討 Development of AQ, self-awareness assessment method after acquired brain injury in Japan:reliability and validity.	伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部、 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究室 福山 千愛
OA-10-4	急性期脳梗塞患者に対する転帰先予測における Trail Making Test part A の影響 The Impact of Cognitive Processing Speed on Predicting Post-Discharge Outcomes for clients with Cerebral Infarction.	北里大学病院 リハビリテーション部 千葉 周平
OA-10-5	XGBoost は回復期リハ棟脳卒中患者の自宅退院の予測精度をどこまで高めることができるか To what extent can XGBoost improve the prediction accuracy of home discharge in stroke patients?	福島県立医科大学 藤田 貴昭

**脳血管疾患等 11** 座長：高見 美貴 (秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)  
9月17日(土) 13:40～14:40 第2会場

OA-11-1	急性期病院内入院脳卒中患者における意識障害の変化に関連する要因の検討 A study of related factors for change in impaired consciousness, in stroke patients in acute care hospitals	旭川赤十字病院 リハビリテーション科、 弘前大学大学院保健学研究科 松本 幸樹
OA-11-2	重度失語と重度麻痺を呈した症例に対し心理社会面に焦点を当てて主体的な作業への参加につながった介入 Interventions that focus on psychosocial aspects and lead to participation in work for a patient with aphasia	医療法人社団アルペン会 アルペンリハビリテーション病院 リハビリテーション部 山本 将也
OA-11-3	能動的な社会参加により、麻痺手を使用した生活行為が増加した症例 Active social participation increased amount of paralytic hand use in chronic stroke patient: A case study	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 下村 亮太
OA-11-4	脳死と診断された患者家族に対し交換ノートを用いた介入により感情表出や受容に繋がった一例～予期悲嘆へのケアに焦点をあてて～ A case of acceptance of a brain-dead patient's family through intervention using an exchange note～Anticipatory Grief Care～	医療法人 厚生会 福井厚生病院 竹内奈月美
OA-11-5	特発性正常圧水頭症における両手協調動作評価の有用性 ～両手交互タッピング課題を用いた検討～ Usefulness of assessment for bimanual coordination disorder in INPH ～Study using bimanual alternate tapping task～	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター リハビリテーション科 梅森 拓磨

**脳血管疾患等 12** 座長：大松 聡子 (国立障害者リハビリテーションセンター)  
9月17日(土) 14:50～16:00 第2会場

OA-12-1	脳卒中後の重度上肢麻痺患者に対する高頻度反復性経頭蓋磁気刺激の効果 ～全く使えない手からの脱却を目指して～ Effect of High frequency rTMS for a patient severe upper extremity paralysis after stroke.	本山リハビリテーション病院 リハビリテーション科 井本 浩史
OA-12-2	脳卒中重度上肢麻痺に対する rTMS と上肢機能訓練の5年間の経過 Five-year course of rTMS and upper limb functional training for severe upper limb paralysis after stroke	医療法人相生会福岡みらい病院 リハビリテーション科 田中 大地
OA-12-3	脳卒中後の手の麻痺性浮腫に対する反復末梢磁気刺激 Repetitive Peripheral Magnetic Stimulation for Paralytic Edema of the Hand after Stroke	藤田医科大学 保健衛生学部リハビリテーション学科 藤村 健太
OA-12-4	Pusher 現象を呈した脳卒中患者に対する立ち上がり動作時の非麻痺側上肢への電気刺激の試み Electrical stimulation applied to the non-paralyzed upper limb during standing in stroke patient with pusher syndrome	鶴巻温泉病院 田中 友彬
OA-12-5	急性期脳卒中患者への電気刺激療法が上肢機能に与える影響に関する検討 Examination of the effect of electrical stimulation therapy on upper limb function in patients with acute stroke	医療法人 溪仁会 手稲溪仁会病院 リハビリテーション部 音川 史矢

口述発表

OA-12-6 把持力計と手内筋への低周波刺激を用いた治療効果の検証  
Therapeutic effect using gripping force meter and low frequency stimulation for hand internal muscle group. 医療法人社団清明会 静岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 大石 裕也

脳血管疾患等 13

座長：外川 佑 (山形県立保健医療大学)

9月18日(日) 8:30～9:30 第2会場

OA-13-1 失語症患者の麻痺手に対する Transfer Package の効果  
Effect of Transfer Package on paralyzed hands of an aphasia patient 富岡地域医療企業団 公立七日市病院 リハビリテーション部 今井 卓也

OA-13-2 上肢の痙縮を伴う脳卒中後右片麻痺に対して、HANDS 療法と Transfer Package を実施し、IADL の獲得に繋がった症例  
A case of spastic hemiplegia of the upper limb after stroke: HANDS therapy with Transfer Package improved IADL ability. 医療法人社団健育会 竹川病院 リハビリテーション部 馬淵みずほ

OA-13-3 上肢麻痺と高次脳機能障害に対し、早期の ReoGo-J 実施と多職種での関わりで、上肢機能の改善と使用頻度向上を認めた一症例  
Upper paralysis and higher brain show improve upper function and use early of ReoGo-J and involve Multi-professional 社会医療法人社団 正峰会 大山記念病院 リハビリテーション課 渡辺麻理奈

OA-13-4 回復期における脳卒中後上肢運動失調に対するロボット療法の治療効果  
The effectiveness of robotic therapy for a patient with ataxia of upper limb after stroke in the subacute phase 名古屋市総合リハビリテーションセンター 作業療法科 渡邊 史織

OA-13-5 ReoGo - J を用いた上肢機能訓練の有用性について  
～傾向スコアマッチングを用いた比較検討～  
Usefulness of upper limb function training using ReoGo-J  
～Comparative study using propensity score matching～ 医療法人社団仁泉会畑病院(元 大分リハビリテーション病院) リハビリテーション部 河野真太郎

脳血管疾患等 14

座長：佐賀里 昭 (信州大学)

9月18日(日) 9:40～10:40 第2会場

OA-14-1 右小脳出血を呈したクライアントに対する自動車運転再開に向けた介入の一例  
A case study of an intervention to help a client with right cerebellar haemorrhage to resume driving IMS (イムス) グループ 医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科 有働 克也

OA-14-2 視野欠損、半側空間無視を呈した方の自動車運転再開支援  
The patient with visual field defect and unilateral spatial neglect supported in resumption of driving 前橋赤十字病院 リハビリテーション科 原 大地

OA-14-3 実車リハビリテーションの効果：当院で実施している自動車運転再開支援プログラムの紹介  
Effect of on-road driver rehabilitation: Introduction of the driving resumption support program at Ota atami hospital 一般財団法人 太田総合病院附属太田熱海病院 沼田 歩

OA-14-4 急性期の脳損傷者におけるドライビングシミュレーターを用いた自動車運転評価と運転再開可否の関係性：探索的観察研究  
Relationship between driving evaluation using a DS and resumption of driving in patients with acute brain injury 長野松代総合病院 リハビリテーション部、信州大学医学部大学院医学系研究科 小淵 浩平

OA-14-5 自動車運転動画視聴時の頭部一眼球運動特性の定量評価  
Quantitative evaluation with viewing of car-drive situation 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室、国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 運動機能系障害研究部 大松 聡子

OB 心大血管疾患

心大血管疾患 1

座長：泉 良太 (聖隷クリストファー大学)

9月16日(金) 15:40～16:50 第6会場

OB-1-1 不安・抑うつを伴う劇症型心筋炎に対する作業療法  
Occupational therapy for fulminant myocarditis with anxiety/depression 岩手県立中央病院 リハビリテーション技術科 小豆嶋晃一

OB-1-2 経カテーテル大動脈弁置換術施行症例の退院時抑うつは入院時精神機能と関連する～症例対象研究～  
Depression at discharge in postoperative TAVI cases is associated with mental function at admission ~ a case-control study ~ 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部 高瀬 良太

OB-1-3 大血管術後に生じた脊髄梗塞患者の障害像と術後6か月後の機能評価  
Outcome of acute spinal cord ischemia syndrome after cardiovascular surgery with assessment at 6 months 金沢大学附属病院 リハビリテーション部 仁木 裕也

OB-1-4 高齢心不全患者における前頭葉機能検査と IADL の関連性についての検討  
Correlation between Frontal Assessment Battery and IADL in elderly patients with heart failure 広島大学病院 リハビリテーション部門 爲國友梨香

OB-1-5 『心不全患者の作業療法における生活行為パンフレットの活用』  
Utilization of life behavior pamphlets in occupational therapy for heart failure patients 独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院 リハビリテーション部 今村 恵

OB-1-6 心不全高齢者の ICF と健康関連 QOL との関連性  
Association between ICF and health-related QOL in elderly patients heart failure 広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門、広島大学病院 心不全センター 塩田 繁人



<b>OC 呼吸器疾患</b>		
<b>呼吸器疾患 1</b>		<b>座長：佐野 哲也 (聖隷クリストファー大学)</b> 9月17日(土) 14:50～16:00 第6会場
OC-1-1	慢性呼吸器疾患に対して座位での作業活動により身体活動量の向上が得られた一例 A case in which physical activity was improved by sitting work activity for chronic respiratory disease	いまきいれ総合病院 リハビリテーション課 木原 智美
OC-1-2	在宅酸素療法導入後、復職を目指した症例～在宅酸素療法使用者の復職と現状～ Case at returning to work after introduction of home oxygen therapy ～ Current status of reinstatement of home oxygen user ～	地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立 医療センター西市民病院 リハビリテーション技術部 田口 真衣
OC-1-3	急性増悪後の特発性肺繊維症患者に対する作業療法～生きがいの農作業を継続するために～ Occupational therapy for a patient with an exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. ～ to continue farming as a hobby. ～	神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 早川 貴行
OC-1-4	作業療法を実施した Covid-19 患者の介入状況と自宅退院に至った患者に作業療法介入が 寄与できた要因 Occupational therapy for Covid-19: Intervention status and factors that contributed to discharge.	都立墨東病院 リハビリテーション科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程 山田 優樹
OC-1-5	新型コロナウイルス感染症患者に対する当院でのリハビリテーション治療の実施 Implementation of rehabilitation treatment at our hospital for patients with COVID-19 infection	和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 鈴木 浩之
OC-1-6	日本における新型コロナウイルス感染後の復職に関する経験の探索 Exploring the experience of return to work after COVID-19 in Japan	東京都立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科 学域、JR 東京総合病院 リハビリテーション科 安齋 哲也
<b>OD 運動器疾患</b>		
<b>運動器疾患 1</b>		<b>座長：田村 大 (秋田労災病院)</b> 9月16日(金) 12:10～13:10 第4会場
OD-1-1	上腕骨遠位端骨折後の肘関節屈曲可動域制限に対する振動刺激の効果～シングルケース タディ～ The effect of vibration therapy for limit elbow flexion range of motion by humeral distal fracture 'single case study'	福山市民病院、井笠・備後ハンドセラピィ研究会 藤井 裕康
OD-1-3	変形性肘関節症における患者立脚型評価の術後成績 The Outcome of After Operation for Elbow Osteoarthritis	JCHO 大阪病院 リハビリテーション室 吉田はる香
OD-1-4	肘部管症候群に対する Nerve gliding exercises を主とした保存療法 Effective non-operative treatment for cubital tunnel syndrome by Nerve gliding exercises	もり整形外科・リウマチ科クリニック 西出 義明
OD-1-5	ガス壊疽後の温存肢に対し、術後早期からハンドセラピィを行った一例 A case of upper extremity gas gangrene successfully treated with early hand therapy	関東中央病院 リハビリテーション室 高岩亜紀子
<b>運動器疾患 2</b>		<b>座長：秋山 恭延 (浜松医科大学医学部附属病院)</b> 9月16日(金) 13:20～14:20 第4会場
OD-2-1	無床診療所における屈筋腱一次修復後の後療法の現状と課題 Status and issues of rehabilitation after primary flexor tendon repair at a non-bed clinic	南川整形外科 リハビリテーション科 大平 健二
OD-2-2	長母指伸筋腱再建術後に新型コロナウイルスに罹患し遠隔リハビリテーションおよびチー ムアプローチを実施した一症例 A case of covid-19 after reconstruction of the extensor pollicis longus tendon undergo remote exercise & team approach	社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院 リハビリテーション部 久原 義浩
OD-2-3	強剛母指に対する腱鞘切開術後の splint 療法 Splint therapy after tenosynovectomy for trigger thumb	聖マリア病院 リハビリテーション室 太島 孝也
OD-2-4	CTS における末梢血流促進を目的としたリハビリテーションの即時効果 Immediate effects of rehabilitation to promote peripheral blood flow in Carpal tunnel syndrome	慶友整形外科病院 リハビリテーション科 橋爪 航平
OD-2-5	関節リウマチ尺側偏位の人工指関節置換術後療法に使用する新規装具の試み Clinical trial of new orthosis for ulnar deviation of rheumatoid metacarpophalangeal joints after silastic arthroplasty	北里大学病院リハビリテーション部 佐々木秀一
<b>運動器疾患 3</b>		<b>座長：玉木 聡 (総合上飯田第一病院)</b> 9月17日(土) 10:10～11:10 第4会場
OD-3-1	下肢人工関節置換術後患者に対する運転再開時期の検討 ～ドライビングシミュレーターの反応課題を用いて～ Timing of resume driving after Total Joint Arthroplasty in lower extremity ～ Using a driving simulator reaction test. ～	社会福祉法人 夢の浦リハビリテーションセンター、 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 鍵野 将平
OD-3-2	脊髄損傷者のドライビングシミュレーターを用いた運転再開に向けた支援 ～改造車での運転が不安、いきなり実車は怖いへの介入～ Using a Driving Simulator to support client with spinal cord injuries resume driving	夢の浦リハビリテーションセンター 久木 瑞穂
OD-3-3	人工膝関節置換術後に対処リストを用いた作業療法実践のケースシリーズによる検証 Verification of occupational therapy practice using coping lists after total knee arthroplasty: case series study	福岡リハビリテーション病院 原 竜生
OD-3-4	THA および TKA 術後症例の転帰について～術後痛に着目した検討～ Outcomes of patients after THA and TKA ～ A focus on postoperative pain ～	兵庫医科大学 リハビリテーション学部 田中 陽一



OD-3-5 CSM における Hand20 を用いた主観的 ADL 評価と関連因子の検討  
Subjective ADL evaluation using Hand 20 and examination of related factors in Cervical Spondylotic Myelopathy Patients  
国家公務員共済組合連合会 名城病院  
リハビリテーション部  
飯塚 友美

運動器疾患 4

座長：佐々木秀一（北里大学病院）

9月17日（土）13:40～14:40 第4会場

OD-4-1 前腕切断により幻肢痛を訴えた症例に対してミラーセラピーを用いて介入した経験  
Experience of intervention using mirror therapy for a case complaining of phantom limb pain due to forearm amputation  
市立四日市病院 リハビリテーション科  
上野平圭祐

OD-4-2 重度熱傷後に両下腿切断となり PTSD 関連症状がみられた高齢者に対し早期から作業療法を実践した 1 症例  
A case of occupational therapy from an early stage for elderly people with PTSD-related symptoms after severe burns  
社会医療法人 製鉄記念八幡病院  
リハビリテーション部  
新屋 徳明

OD-4-3 中途失明者への急性期作業療法介入～買い物作業を通して自分らしい生活再獲得への挑戦～  
Acute Occupational Therapy Intervention for blind people  
～ Challenge to regain your own life through shopping ~  
富山大学附属病院 リハビリテーション部  
永原 詩乃

OD-4-4 手掌部に優しい水銀式握力計用カフの開発  
Development of a mercury grip strength meter cuff that is gentle on the palm  
岡山大学病院 総合リハビリテーション部  
藤岡 晃

OD-4-5 手骨骨折患者における痛みの破局的思考と健康関連 QOL の関連  
Relationship between catastrophic pain thinking and health-related quality of life in patients with hand fractures.  
JA 北海道厚生連 帯広厚生病院  
医療技術部 作業療法技術科  
大本 慎也

運動器疾患 5

座長：浦瀬 康太（市立宇和島病院）

9月18日（日）8:30～9:30 第3会場

OD-5-1 バレエ専攻の大学生における痛みと運動障害～在籍学生全員を対象とした実態調査～  
Pain and movement disorders in ballet college students.  
～ Fact-finding survey for all enrolled students. ~  
昭和大学江東豊洲病院 リハビリテーション室, 昭和大学保健医療学部, 昭和大学スポーツ運動科学研究所  
長島 潤

OD-5-2 主成分分析を用いた肩こり有訴者のパターン化  
Patterning of stiff neck complainants using principal component analysis  
福島県立医科大学会津医療センター  
整形外科脊椎外科学講座  
半谷 智辰

OD-5-3 情報機器作業時の頸椎肢位の違いが僧帽筋上部線維および手関節伸筋群の即時的な筋硬度変化に与える影響  
Influence of muscle hardness of wrist extensor in differences cervical spine position during VDT work  
北海道文教大学人間科学部作業療法学科  
金子 翔拓

OD-5-4 疼痛に基づく基準変更デザインによる肩関節周囲炎改善効果  
Effect of pain-guided changing criterion design on shoulder periarthritis  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
リハビリテーション部  
阿部 直人

OD-5-5 鎖骨を残存した肩甲胸郭間切断者における筋電動義手の作業療法経験  
Occupational therapy experience with a myoelectric prosthesis in a forequarter amputee with a residual clavicle  
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター  
竹原脩一郎

OE 神経難病

神経難病 1

座長：清水 兼悦（札幌山の上病院）

9月16日（金）14:30～15:30 第6会場

OE-1-1 パーキンソン病患者に対し Internal Cue を伴う指歩き練習がすくみ足に与える影響  
The effect of finger-walking exercises with internal cue on freezing of gait in patients with Parkinson's disease  
医療法人 瑞心会 渡辺病院 リハビリテーション科  
溝本 恭久

OE-1-2 体性感覚キューの異なる提示リズムがパーキンソン病患者の歩行パラメーターに与える影響  
Effects of different presentation rhythms of somatosensory cues on gait parameters in patients with Parkinson's disease  
一視同仁会 札幌・すがた医院, 札幌医科大学大学院保健医療学研究科  
佐藤飛友悟

OE-1-3 パーキンソン病の書字障害に聴覚 cue と視覚 cue で改善した一症例  
A case report: Effectiveness of visual and auditory cues for dysgraphia in Parkinson's disease  
埼玉県総合リハビリテーションセンター 作業療法科  
鈴木 康子

OE-1-4 折り紙を用いて反復上肢課題訓練を実施した多系統萎縮症の一例  
A repetitive task training based upper extremity program using origami in an elderly woman with Multiple System Atrophy  
国際医療福祉大学市川病院 リハビリテーション室  
大寺亜由美

OE-1-5 ALS 診断後障害受容過程を経て目標立案に至った一例  
An example of achieving a goal through the process of accepting disability after ALS diagnosis  
健和会 大手町病院 リハビリテーション部  
中島 帆南

神経難病 2

座長：麦井 直樹（金沢大学附属病院）

9月17日（土）11:20～12:20 第5会場

OE-2-1 末梢神経障害に対して CI 療法を中心とした介入を行い ADL と調理を獲得した事例  
A case study of gaining ADL and cooking by CI therapy-based intervention for peripheral neuropathy  
IMS グループ 医療法人社団明芳会  
イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院  
荻野 貴也

OE-2-2 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) により四肢遠位に末梢神経障害を呈した 1 症例  
A case of peripheral neuropathy in the distal extremities due to eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (EGPA)  
医療法人 啓仁会 豊川さくら病院  
リハビリテーション室  
山本 侑希

OE-2-3 脊髄性筋萎縮症 I 型患者に対する ICT (情報通信技術) を活用した支援とその効果  
Support and effects using ICT for patients with spinal muscular atrophy type I  
市立椎内病院 リハビリテーション科  
太田 緑



OE-2-4 神経難病患者に対するロボットグローブを使用した在宅遠隔リハビリテーション  
Home-based telerehabilitation using the robotic glove for patients with intractable neurological disease 医療法人社団重会 介護老人保健施設 野洲すみれ苑 加賀山俊平

OE-2-5 線条体黒質変性症の利用者との協働によって生活目標を実現した事例報告  
～総合的な難病支援に基づいた福祉用具支援サービスの有効性～  
Case report of achieving life goals in collaboration with users of SND  
～ Effectiveness of AT based on comprehensive support ~ 大阪市援助技術研究室 池田 真紀

**神経難病 3** 座長：橋本 弘子 (森ノ宮医療大学)  
9月17日(土) 13:40～14:40 第5会場

OE-3-1 筋ジストロフィー患者の就労状況と就労の困難感に関する調査  
Survey on employment status and difficulty of working for muscular dystrophy 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域、国立精神・神経医療研究センター 病院 身体リハビリテーション部 山本 彩花

OE-3-2 症例対照研究による本態性振戦患者における視床熱凝固術後の心身機能変化  
Motor and non-motor symptoms in individuals with essential tremor following thalamotomy  
～ a case-controls study ~ 東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部、埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所 佐藤 淳矢

OE-3-3 軽度パーキンソン病患者の特徴的運動指標抽出に関する研究  
～赤外線 LED センサーによる前腕回内回外運動の評価～  
Motor Indices in Patients with Mild Parkinson's Disease  
～ Evaluation of forearm pronation-supination by LED Sensor ~ 国際医療福祉大学大学院 作業療法分野、防衛医科大学校病院 リハビリテーション部 椎名 義明

OE-3-4 パーキンソン病患者の身体活動とその日内変動は非運動症状によって異なるか？  
Physical activity and its diurnal fluctuations vary by non-motor symptoms in patients with Parkinson's disease 福岡大学 医学部脳神経内科学教室 長城 晃一

OE-3-5 パーキンソン病患者における栄養および運動状況の実態調査  
A study on nutrition and exercise in patients with Parkinson's disease 社会医療法人春回会 長崎北病院 総合リハビリテーション部 山田 麻和

**OF がん**

**がん 1** 座長：阿瀬 寛幸 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)  
9月16日(金) 12:10～13:10 第8会場

OF-1-1 当院の血液がん患者の転倒要因～転倒群と非転倒群から見てきた課題～  
Fall factor of patients with blood cancer of our hospital  
～ The Problem from fall group and the non-fall group ~ 独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院 中央リハビリテーション部 金子 美鈴

OF-1-2 当院血液腫瘍患者における認知機能障害の調査報告  
Cognitive dysfunction survey of the patients with hematological malignancy 独立行政法人国立病院機構広島西医療センター リハビリテーション科 富樫 将平

OF-1-3 同種造血幹細胞移植患者における生活行為の経時的変化  
Longitudinal changes in the daily life performance among recipients of allogenic hematopoietic stem cell transplant 神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 浅井 康紀

OF-1-4 脳腫瘍による右上肢麻痺患者に対し、終末期がん患者に対する作業療法士の実践自己評価  
尺度を用いた一考察  
Research using SROT-TC for patients with right upper limb paralysis due to glioblastoma 聖マリア病院 急性期リハビリテーション室 伊藤 光

OF-1-5 脳腫瘍症例の高次脳機能転帰に腫瘍浸潤が及ぼす影響  
Influence of tumor invasion on outcome of cognitive function in grade 2 and 3 brain tumors 金沢大学 リハビリテーション科学領域 中嶋 理帆

**がん 2** 座長：田尻 寿子 (静岡県立静岡がんセンター)  
9月16日(金) 13:20～14:20 第8会場

OF-2-1 終末期がん患者の退院時の日常生活動作及び看取りの予測因子の検討  
Predictive factors of activities of daily living at discharge and hospital death in terminal cancer patients 公立藤岡総合病院 リハビリテーション室 藤井 洋有

OF-2-2 がん患者の死亡前6か月間における日常生活活動自立度の推移  
Trajectory of independence in Activities of daily living in patients with cancer during last 6months of life. 群馬県立がんセンター 技術部リハビリテーション課 柳井 亮人

OF-2-3 急性期がん患者にカナダ作業遂行測定と終末期がん患者に対する作業療法士の実践自己評価尺度を用いた取り組み  
Using the COPM for Acute Cancer Patients and the SROT-TC 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室 久村 悠祐

OF-2-4 手関節背側悪性軟部腫瘍に対して腫瘍広範切除術、手関節固定術、伸筋腱再建術を施行された症例への作業療法経験  
Occupational therapy for soft tissue sarcoma reconstructed with wrist fusion and tendon graft after wide resection 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター リハビリテーション科 藤本 侑大

OF-2-5 上肢に化学療法誘発性末梢神経障害を呈した患者のQOLに影響を及ぼす因子の検討  
Factors influencing quality of life in patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy of the upper extremity 日本赤十字社長崎原爆病院、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 壱岐尾優太

**がん 3** 座長：下田佳央莉 (群馬大学大学院)  
9月17日(土) 10:10～11:10 第5会場

OF-3-1 育児期のAYA世代に対する家族と行う自主練習の提案  
～腫瘍摘出術後患肢の機能向上に繋がった一症例～  
Proposal of voluntary practice with family for AYA generation during childcare 奈良県立医科大学附属病院 医療技術センター リハビリテーション係 橋本恵梨子

口述発表

OF-3-2	AYA 世代のがん患者に対する過去5年間の作業療法の特徴と今後の課題 Characteristics and future tasks of occupational therapy for Adolescents and Young Adults with cancer	静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 田尻 寿子
OF-3-3	乳癌術後のリンパ浮腫の重症度における危険因子の検討 第2報 Examination of the risk factor in the severity of breast cancer postoperative lymphedema	大和市立病院 坂下 慶多
OF-3-4	センチネルリンパ節生検後の疼痛・不動に対して介入し上肢機能向上を図った症例 Post-biopsy case of sentinel lymph node with intervention for pain and immobility to improve upper limb function	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 伊藤慎太郎
OF-3-5	下腹部自家組織による乳房再建術における作業療法の役割 The role of occupational therapy in autologous breast reconstruction using abdominal tissue.	北海道がんセンター リハビリテーション科 沢田よしみ

がん 4

座長：小泉 浩平 (埼玉県立大学)

9月17日(土) 14:50～16:00 第5会場

OF-4-1	痛みを伴うパancoast腫瘍患者に対し、長期に作業療法を行った一事例 A case of long-term occupational therapy for a patient with a painful Pancoast tumor	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 廣野 葉衣
OF-4-2	化学療法中の肺がん患者におけるがん関連認知機能障害に対する調査 Research of cancer related cognitive impairment in lung cancer patients undergoing chemotherapy	パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室 熊野 宏治
OF-4-3	有茎皮弁と遊離皮弁が頸部郭清術後の肩関節機能に与える影響の比較 Comparison of the effects of pedicle flap and free flap on shoulder joint function after neck dissection	姫路赤十字病院 大道 克己
OF-4-4	選択的頸部郭清術後、副神経麻痺に対する作業療法介入 ～筋電図評価を用いた治療プログラム再構築～ OT intervention for accessory nerve palsy after SND ～Reconstruction of treatment program using EMG evaluation～	近畿大学病院 リハビリテーション部 武田 優
OF-4-5	頭頸部癌摘出者におけるQOLに影響を及ぼす因子の検討 Analysis of factors related to quality of life in patients after head and neck cancer laryngectomy	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション部、 弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 三浦 裕幸
OF-4-6	右上肢類上皮肉腫に対する肩甲帯離断後の患者に対して振動刺激を伴うミラセラピーが幻肢痛の緩和に有用であった事例 Usefulness of mirror therapy with vibration therapy for improving a phantom pain for a patient with Epithelioid sarcoma	自治医科大学附属さいたま医療センター リハビリテーション部 小島 椎

OH 精神障害

精神障害 1

座長：星野 藍子 (名古屋大学大学院)

9月16日(金) 14:30～15:30 第5会場

OH-1-1	精神科デイケアを通所する Serious Mental Illness(SMI) 患者の主観的感覚に影響する背景因子の探索 Exploring background factors affecting subjective sensation in patients with SMI attending a psychiatric day care.	共和病院 デイケア 長嶺 匠
OH-1-2	摂食障害患者に対する精神科作業療法を含む入院治療が生活機能に及ぼす影響 Impact of psychiatric occupational therapy on functioning in patients with eating disorder	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門 足立 海月
OH-1-3	「Real 生活プログラム」に参加する物質使用障害者の治療のニーズや目標に関する報告 Report on the treatment needs and goals of drug addicts participating in the "Real Life Program".	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神科リハビリテーション部 山元 直道
OH-1-4	日本とイギリス、カナダにおける非言語活動に関する研究の比較 Comparison of studies on nonverbal activities in Japan, UK and Canada	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻 阿部 真依
OH-1-5	医療観察法病棟の対象者が入院から退院までに抱く思いの変化のプロセスと司法精神科作業療法の意義 The process of change in feeling clients admitted to the forensic ward and the significance of occupational therapy	国立病院機構やまと精神医療センター リハビリテーション科 南 庄一郎

精神障害 2

座長：新宮 尚人 (聖隷クリストファー大学)

9月17日(土) 13:50～15:00 第8会場

OH-2-1	主観的健康状態を考慮した統合失調症者に対する作業療法介入 Case study: Occupational therapy intervention for a person with schizophrenia considering subjective health conditions	兵庫県立ひょうごこころの医療センター 大畠 久典
OH-2-2	長期入院統合失調症者の口腔嚥下機能と歌唱活動による変化に関する探索的検討 Oral Function of Inpatients with Long-term Schizophrenia and Improvements via Singing :An Exploratory Study	医療法人大仲会大仲さつき病院、 星城大学大学院健康支援学研究所 杉浦 まり
OH-2-3	統合失調症入院患者が感じる認知機能障害と神経認知の関係 Relationship between subjectively-assessed cognitive impairment and neurocognition in schizophrenia inpatients	医療法人社団東峰会 Small Steps 増澤 達彦
OH-2-4	統合失調症患者の社会認知機能と社会生活能力との関連 Relationship between social cognition and social skills in patients with schizophrenia	弘前大学大学院保健学研究科、 津軽保健生活協同組合 藤代健生病院 川西 陽之



OH-2-5	統合失調症の病識と心理防衛的傾向、神経認知機能 ～病識は抑うつや心理的苦痛へとつながるか？～ Insight into Illness, Defense styles and Cognition in schizophrenia. ～Does good insight lead to depression and distress?～	森ノ宮医療大学 作業療法学科、 社会医療法人北斗会さわか院 リハビリテーション科 小川 泰弘
OH-2-6	精神科病棟における隔離・身体拘束患者へ個人作業療法を行った症例を経験して Experienced a case of individual occupational therapy for seclusion and restrained patients in a psychiatric ward	聖マリア病院 リハビリテーション室 甲木 満
<b>精神障害 3</b>		<b>座長：四本かやの（神戸大学大学院）</b> 9月18日(日) 8:30～9:30 第4会場
OH-3-1	リワークデイケア利用に伴う身体活動量(PAL)の変化 Valiation of physical activity level in return to work program users	名古屋大学院医学系研究科総合保健学専攻 包括ケアサイエンス領域予防・リハビリテーション 科学、医療法人成精会メンタルクリニックアンセル 星野 藍子
OH-3-2	リワーク支援における「箱づくり法」の有用性の報告 ～外来OTでのうつ病者の事例を通して～ Report on the usefulness of the "Make-a-Box Test Battery" in rework support ～Through the case of depressed patient～	公益財団法人 豊郷病院 リハビリテーション科 岩田 夏彦
OH-3-3	うつ病リワークプログラム利用者が使用する単語の変化と休職期間との関係 Relationship between duration of sick leave and variation of words used in return-to-work program for depression	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻、 医療法人成精会メンタルクリニックアンセル 沓名 一朗
OH-3-4	気分障害・ストレス関連障害患者の就労継続に影響する要因の探索 Factors affecting the continuation of employment in patients with mood and stress-related disorders	信州大学大学院 総合理工学系研究科医学系研究科、 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 公家龍之介
OH-3-5	長崎市精神障害者ピアサポーター養成講座の実践報告 Practical report of Peer-supporter training course for people with mental disorders in Nagasaki City	NPO 法人長崎のぞみ会 のぞみ共同作業所 河野 知房
<b>OI 発達障害</b>		
<b>発達障害 1</b>		<b>座長：笹田 哲（神奈川県立保健福祉大学大学院）</b> 9月16日(金) 14:30～15:30 第8会場
OI-1-1	脳性麻痺児の就学に向けた作業療法—ADL向上と家族支援に着目して— Occupational therapy for school attendance of child with cerebral palsy: Focusing on ADL improvement and family support	独立行政法人国立病院機構南九州病院 リハビリテーション科 竹下 晃
OI-1-2	発達に特性がある児童へのICTツールを用いた学習支援に関する予備的検討 A Preliminary Study of Learning Support Using ICT Tools for Children	合同会社 BASE ともかな FLOW 郡山 高島 聡江
OI-1-3	Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) Approach に よりスキル獲得に繋がった神経発達症の幼児の事例 A case study of preschooler child with neurodevelopmental disorder acquired new motor skills by the CO-OP approach.	東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 東恩納拓也
OI-1-4	登校が限局的な児と学校授業のアセスメントを行い終日登校に至った一症例 A case study of a child with partial school attendance who began to attend school all-day due to evaluate of classwork	いろは訪問看護リハビリステーション、 山形県立保健医療大学大学院 森川 詩奈
OI-1-5	不登校児に対する訪問作業療法による日常生活活動の変化 Changes in activities of daily living by visiting occupational therapy for school refusal children	いろは訪問看護リハビリステーション 大戸 普賢
<b>発達障害 2</b>		<b>座長：中岡 和代（大阪公立大学）</b> 9月16日(金) 15:40～16:50 第8会場
OI-2-1	児童発達支援事業所に通う幼児と定型発達児の手洗いにおける比較 Comparison of Handwashing between Preschoolers Attending Development Support Facility and Typical Developmental Children	大阪府立大学大学院 松倉 裕理
OI-2-2	自閉スペクトラム症児のくすぐりに対する対人的反応に関する探索的検証 An exploratory study of interpersonal responses to tickling in children with ASD	関西医科大学 リハビリテーション学部 松島 佳苗
OI-2-3	自閉スペクトラム症児と家族の食事時間への介入～事例研究報告～ Mealtime interventions for children with autism spectrum disorder and their families ～ Case Study Report ～	愛徳医療福祉センター 大谷真寿美
OI-2-4	自閉スペクトラム症者とのコミュニケーションに対する支援の検討 ～支援者の社会交流技能に焦点を当てて～ A study of support for communication with people with ASD. ～ Focusing on the social interaction skills of caregivers ～	茨城県立医療大学 木口 尚人
OI-2-5	中高生の自閉スペクトラム症児と養育者の交流の特徴 Characteristics of interactions between caregivers and children with ASD in middle and high school	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部作業療法学科、 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 長 志保
OI-2-6	精神科病院における強度行動障害支援チームの活動報告 Activity report of the challenging behavior support team in a psychiatric hospital	特定医療法人 共和会 共和病院 久留宮なぎ砂

発達障害 3

座長：立山 清美 (大阪公立大学)

9月17日(土) 10:10～11:10 第7会場

OI-3-1	利用者の希望する作業を引き出し、支援者の「難しい」を「出来そう」に変える ～生活介護事業所での支援員への間接支援を通して～ Approach to change the mindset of the staff by eliciting the desired activity through indirect support for the staff	和歌山県福祉事業団 齋藤みのり
OI-3-2	「やりたいことをできるようにする」作業療法の効果について The therapeutic effect of occupation as end	株式会社ピーエーエス 野村 寿子
OI-3-3	小学生における cancelation task 遂行中の前頭前皮質活動と課題成績, ADHD 特性との関連性 Relationships between brain activity during cancelation task and task performance, and ADHD characteristics in children	児童発達支援センター lapoale, 熊本大学大学院社会文化科学教育部 矢野 幸治
OI-3-4	ラジオ体操が神経発達障害特性のある子どもの協調および中核症状, 情緒, 適応行動に与える影響 Effects of Radio Gymnastics on Children with Traits of Neurodevelopmental Disorders	株式会社 フューチャージェニアス 保育所等訪問支援・ 児童発達支援・放課後デイサービス事業所 エントランス スリパティ, 武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科 奥川 純子
OI-3-5	当院における SST の効果とこれから Effects of social skill training and the future in our hospital	自治医科大学附属病院 玉野 彩

発達障害 4

座長：吉岡 和哉 (群馬パース大学)

9月17日(土) 14:50～16:00 第7会場

OI-4-1	板書の書き写し能力を定性的に表す評価方法の検討 ～頭頸部角度と書き写し効率を指標とした類別化～ Assessment of the ability to transcribe the board into notes ～ Categorization by neck angle and transcription efficiency ～	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 鈴木 美咲
OI-4-2	3～12歳児における食行動と月齢および感覚特性の関連 Relationship between mealtime behavior, age, and sensory characteristics in children aged 3-12 years	大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 中岡 和代
OI-4-3	WAVES 数字みくらべ課題を用いた日常生活における視覚関連症状の検討 ～視線解析装置を用いた分析結果から～ Examination of Vision-related Symptoms in Daily Life Using the WAVES Number Comparison Task	国際医療福祉大学病院 リハビリテーション室 鈴木 駿太
OI-4-4	脊髄性筋萎縮症 1 型児に対する作業療法と家族支援について occupational therapy and family support for spinal muscular atrophy type 1	東京医科歯科大学病院 リハビリテーション部 山本 司
OI-4-5	外来作業療法を実施した発達障害者家族の抱える " 困りごと " に関する研究 (第 2 報) A study on the "worries" of families with developmental disabilities who underwent outpatient occupational therapy	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科, 国際医療福祉大学大学院 関森 英伸
OI-4-6	発達障害児を養育する母親が家族と見つけた子育て方略 ～ M-GTA を用いたインタビューの分析～ Mothers raising children with developmental disabilities found childcare strategies with their family.	みなとのこども診療所 倉 昂輝

OJ 高齢期

高齢期 1

座長：木村 大介 (関西医療大学)

9月16日(金) 12:10～13:10 第7会場

OJ-1-1	高齢脳損傷ドライバーにおけるドライビングシミュレータ適性検査基準値の検討 A Study on the Standard Values of Driving Simulator Aptitude Test for Elderly Brain Injured Drivers	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 上杉 治
OJ-1-2	栃木県東北地域在住の高齢自動車運転者の認知機能と運転行動に関わる実態調査 Survey on the cognitive function and driving behavior of elderly car drivers in the northern region of TochigiPrefecture	国際医療福祉大学熱海病院 リハビリテーション部 鈴木 志織
OJ-1-3	回復期リハビリテーション病棟退院時に家族が予測した退院後の IADL の実施頻度は家族の統柄によって差があるか? Does the frequency of IADL predicted by the family differ depending on the relationship of the family?	杏林大学 保健学部 作業療法学科 白石めぐみ
OJ-1-4	廃用後の活動性低下によりリハビリテーション拒否があった患者への対応 Responding to patients who hesitate to rehabilitation due to decreased activity after disuse	医療法人社団桐和会 川口さくら病院 リハビリテーション科 紙谷 綾乃
OJ-1-5	高齢者の退職による役割喪失を予防するために MIC が有効であった事例 A case of the effective of MIC in preventing loss of roles due to retirement of elderly	〈ims〉 イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 木田 聖吾

高齢期 2

座長：西田 征治 (県立広島大学)

9月16日(金) 13:20～14:20 第7会場

OJ-2-1	作業の再獲得を目指した事例 ～仏壇とお酒を飲むことに焦点を当てた OTIPM に基づく作業療法～ Trying to occupation for myself ～ Occupational therapy based on OTIPM focusing on the Buddhist altar and drink thin ～	医療法人和松会六地藏総合病院 古川 裕菜
--------	---	-------------------------



OJ-2-2	作業の意味に焦点化した協業により、作業遂行の改善と新たな作業の可能化に至った認知症高齢者の事例 Importance of the meaning of occupation in enabling occupation and occupational performance: a case study in dementia	福井記念病院 リカバリー支援部 古屋慶一郎
OJ-2-3	OPHI- II と考える楽しさの提供により作業参加が改善した栄養障害の事例 A case study of nutritional disorders in which occupational participation improved by providing OPHI-II and thinking fun	IMS グループ イムス札幌内科リハビリテーション病院 坂元 悠太
OJ-2-4	人間作業モデルスクリーニングツールによる軽度認知障害のリポートに影響する概念の検討 Examination of concepts affecting the revert of Mild Cognitive Impairment with Model of Human Occupation Screening Tool	社会福祉法人 高陽会 介護老人保健施設さくらの丘 渡部 雄太
OJ-2-5	当施設での LIFE 効率化に向けた取り組み Efforts to improve "LIFE" efficiency at this facility	介護老人保健施設 ハートケア市川 リハビリテーション科 荒木美智代
<b>高齢期 3</b>		<b>座長：小池 祐士 (埼玉県立大学)</b> 9月17日(土) 9:00～10:00 第7会場
OJ-3-1	骨折患者における抑うつと FIM 利得の関連 The relationship between depression and FIM gain in fracture patients	ちゅうざん病院 リハビリテーション 療法部 荒木 俊二
OJ-3-2	リハスタッフと介護スタッフが重要視する申し送り内容の相違 Differences in discharge information consider essential by rehab and care staff	医療法人社団主体会 主体会病院 総合リハビリテーションセンター 上田 奈央
OJ-3-3	回復期リハビリテーション病棟における退院支援の方法を考える ～コロナ前とコロナ禍の比較～ Considering methods of discharge support in Recovering rehabilitation wards ～ Comparison of Before Corona and After Corona ～	医療法人社団永生会永生病院 リハビリテーション部 多良麻友美
OJ-3-4	回復期リハビリテーション病棟における栄養状態が認知症に及ぼす影響 The influence of state of nutrition on dementia in a rehabilitation ward	医療法人康生会 泉佐野優人会病院 リハビリテーション部 吉谷 貴大
OJ-3-5	回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養状態が日常生活活動、転帰先に与える影響 The Influence of malnutrition on discharge independence level and destination in patients in a rehabilitation ward	一般財団法人 榛名荘 榛名荘病院 佐藤 里沙
<b>高齢期 4</b>		<b>座長：菅野 圭子 (佛敎大学)</b> 9月17日(土) 13:40～14:40 第7会場
OJ-4-1	重度認知症患者に対する歩行車操作獲得に向けた介入～視覚的敎示と聴覚的敎示を併用して～ Applied Behavior Analysis Intervention for Acquiring Walking car Operation in a patient with severe dementia	医療法人五ヶ月須崎くろしお病院 公文 康輔
OJ-4-2	行動変容の段階を考慮しながら病前役割の再認識による意欲向上を図り、活動参加に改善を認めた事例 A case study of reinvigorating motivation through awareness of pre-disease roles and responsibilities	竹川病院 畠山 知大
OJ-4-3	興味のある作業活動の探索から、継続的な離床へと繋がった一例 An example of how the search for work activities of interest led to a continuous floor	介護老人保健施設 平成苑 笹谷 朋弘
OJ-4-4	生活環境が幻視に影響していたレビー小体型認知症患者に対する環境調整介入の一例 Case Report: Environmental adjustment for a patient with dementia with Lewy bodies exhibiting visual hallucination	大阪大学医学部附属病院 医療技術部 リハビリ部門 神経科・精神科、大阪大学大学院 精神医学教室 石丸 大貴
OJ-4-5	「もの忘れを防ぐ方法を学ぼう：料理・食事の支度編」講座と受講者アンケート A course "learn how to compensate for memory decline: cooking and meal preparation" and questionnaire	信州大学 大学院総合理工学研究科 上村 智子
<b>高齢期 5</b>		<b>座長：佐川佳南枝 (京都橘大学)</b> 9月18日(日) 9:40～10:40 第3会場
OJ-5-1	地域在住高齢者の視線行動と認知機能、生活行為の関連性 Association between gaze behavior, cognitive function, and living behavior among community-dwelling older adults	鹿児島大学医学部保健学科 池田由里子
OJ-5-2	COVID-19 拡大禍における地域在住高齢者の身体機能と生活行為に関する不自由感の縦断的研究 A longitudinal study of physical function and inconvenience of ADL for community-dwelling elderly in COVID-19 pandemic	秋田大学 高齢者医療先端研究センター 小玉 鮎人
OJ-5-3	地域在住高齢者における主観的記憶障害 (SMC) と重要な活動の満足度との関連 Association between SMC and satisfaction with meaningful activities among community-dwelling older adults	垂水市立医療センター垂水中央病院 赤崎 義彦
OJ-5-4	地域在住高齢者における社会的フレイルと心の理論との関連 Relationship between social frailty and theory of mind in community-dwelling older adults	鹿児島大学医学部客員研究員 ハンゴアンヒ
OJ-5-5	高齢者の趣味活動およびその満足度と主観的認知障害との関連 Relationship between hobbies and their satisfaction and subjective cognitive complains in older adults	鹿児島大学医学部保健学科 田平 隆行

**OK 認知障害（高次脳機能障害を含む）**

**認知障害（高次脳機能障害を含む）1**

座長：長山 洋史（神奈川県立保健福祉大学）

9月16日（金）14:30～15:30 第7会場

OK-1-1	面会制限がICUせん妄発症に与える影響 Effects of restrictive visiting policies developing delirium in intensive care unit	地方独立行政法人 りんくう総合医療センター リハビリテーション技術科 藤田 将敬
OK-1-2	急性期病院における認知症ケアチーム依頼患者の実態調査 Survey of patients referred to dementia care teams in acute hospitals	石川県立中央病院 医療技術部リハビリテーション室 杉本 優輝
OK-1-3	左脳梗塞による道具の使用障害に対しエラー分析に基づいた介入を行った事例～症例報告～ Error analysis as an aid for treatment plan of tool use difficulty resulting from left hemisphere stroke ~ A case report ~	京都中部総合医療センター 河合 弥生
OK-1-4	左後頭葉皮質下出血後半盲性難読を呈したが、介入により復職可能となった一例 A case of hemianopic dyslexia after left occipital hemorrhage who was able to return to work after rehabilitation	日本赤十字社大森赤十字病院 リハビリテーション課 伊藤 香織
OK-1-5	両側頭頂～後頭葉領域の病変により Balint-Holmes 症候群を呈した一例 ～視空間認知訓練、生活適応訓練を用いた介入～ Visuospatial cognitive training and life adaptation training in for Balint-Holmes syndrome : A case report	川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 松下 創

**認知障害（高次脳機能障害を含む）2**

座長：生田 純一（農協共済中伊豆リハビリテーションセンター）

9月16日（金）15:40～16:50 第7会場

OK-2-1	右半球損傷患者における着衣障害とUSNの関連性について relevance of dressing disorders and unilateral spatial neglect in patient with right hemisphere brain damage	医療法人相生会 福岡みらい病院、 九州栄養福祉大学大学院健康科学研究科 木村 愛
OK-2-2	@ Attention を用いた反応時間評価と臨床検査との関係性 Relationship between reaction time evaluation using @Attention and clinical tests	特定医療法人 社団 三光会 誠愛リハビリテーション 病院 リハビリテーション部 中村 竜一
OK-2-3	運動負荷により視空間無視範囲が拡大した半側空間無視を呈した症例 ～没入型バーチャルリアリティ装置を用いた検討～ The Impact of Physical Exercise Load on Unilateral Spatial Neglect ～ A Case Study Using Immersive Virtual Reality ~	医療法人社団 健育会 ねりま健育会病院 リハビリテーション部 岡 徳之
OK-2-4	没入型 VR を用いた買い物課題の妥当性の検討 Validity of shopping task using immersive VR	名古屋市長総合リハビリテーションセンター 作業療法科 伊藤 竜二
OK-2-5	回復期脳卒中患者における非麻痺側上肢機能と注意との関連 The relationship between non-paralyzed upper limb function and attention in convalescent stroke patients	医療法人三州会 大勝病院 作業療法課、 鹿児島大学大学院 保健学研究科 溝下 沙歩
OK-2-6	タブレット版 TrailMakingTest において描線能力の低下と認知機能の低下が評価できた症例 A case in which the tablet version of TMT was able to evaluate deterioration of drawing ability and cognitive function.	栃木県医師会 塩原温泉病院 リハビリテーションセンター 齋藤 尚子

**認知障害（高次脳機能障害を含む）3**

座長：浅野 朝秋（秋田大学大学院）

9月17日（土）11:20～12:20 第4会場

OK-3-1	高次脳機能障害者の回復過程で生じる心理プロセス ～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) による分析～ Psychological processes that occur during the recovery process of people with higher brain dysfunction	医療法人社団 苑田会 竹の塚脳神経リハビリテーション病院 平松 恭介
OK-3-2	高次脳機能障害を呈した症例の復職に対する認識の変化 ～就労支援の継続に向けた自立訓練での多職種支援～ Changes in Awareness of Returning to Work in Patients with Higher Brain Dysfunction	大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 西楚 和希
OK-3-3	食事拒否のある高齢認知症利用者にとクティールケアを用いた食事摂取量の変化について ～ ABA シングルケースデザインによる検討～ Changes in dietary intake using taktil care for dementia users with dietary refusal ～ Examination by ABA single case design ~	医療法人 尚生会 アネックス湊川ホスピタル デイケア 小黒 修
OK-3-4	鍵探し検査 (Key Search Test;KST) の認知機能スクリーニング検査としての有効性 Effectiveness of key search test as a screening test for cognitive impairment	高木病院 リハビリテーション部 重藤 旭
OK-3-5	ICT を用いた家屋環境及び家族ニーズの早期多職種共有の有用性 ～オンライン訪問で安全な在宅生活に繋がった認知症を有する一症例～ Telemedicine in home visit early on admission ~ A case report with dementia ~	わかさ電間リハビリテーション病院 リハビリテーション部リハビリテーション課 朝川 弘章

**認知障害（高次脳機能障害を含む）4**

座長：井口 知也（大阪保健医療大学）

9月17日（土）14:50～16:00 第4会場

OK-4-1	回復期リハビリテーション病棟認知症患者における行動・心理症状への介入すべき対象の選定 Selection of targets for intervention of BPSD in patients with dementia in convalescent rehabilitation ward	医療法人 珪山会 鶴飼リハビリテーション病院 リハビリテーション部 石川 稜馬
OK-4-2	回復期リハビリテーション病棟から自宅退院した認知機能低下高齢者の特徴と主介護者の介護負担要因の検討 Characteristics of the elderly with cognitive decline and care burden factors affecting primary caregivers	社会医療法人 仁生会 西堀病院 リハビリテーション課 木村 優斗



OK-4-3	若年性認知症の診断後より実動作を中心とした介入により ADL 拡大に繋がった事例 A case study of ADL expansion through interventions focusing on actual activities after diagnosis of juvenile dementia	地方独立行政法人 市立吹田市民病院 リハビリテーション科 池田 勝彦
OK-4-4	畳屋を営む若年性アルツハイマー病者に工程分析を用いて就業能力を評価し、就労継続支援を実施した一例 Employment support for a person with early-onset Alzheimer's disease.	大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 永田 優馬
OK-4-5	認知症高齢者の行動パターンの類型化と予測 ～クラスター分析とネットワーク解析による行動パターンの類型化と決定木分析による予測～ ～ Using cluster analysis, network analysis, and decision tree analysis ～	関西医療大学 保健医療学部 作業療法学科 木村 大介
OK-4-6	遠隔による在宅生活支援で活動意欲が再起した若年性アルツハイマー病患者の経過に関する報告 A progress report of an early-onset Alzheimer's disease patient who regained motivation through remote support	大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 堀田 牧

## OL 援助機器

援助機器 1		座長：上島 健 (大阪河崎リハビリテーション大学) 9月17日(土) 12:30～13:30 第5会場
OL-1-1	前腕回内位に着目した介入により食事動作が可能となった不全四肢麻痺を呈した1症例 A case of inadequate tetraplegia who was able to eat after intervention focusing on the forearm rotation position	熊本リハビリテーション病院 リハビリテーション部作業療法科 松永 拓己
OL-1-2	肩関節痛がある排痰が必要な脊髄損傷患者に対する体位ドレナージのための体位交換の工夫 Position change for positional drainage in spinal cord injury patients with shoulder joint pain who need expectoration	市立宇和島病院 リハビリテーション科 浦瀬 康太
OL-1-3	脳卒中片麻痺患者の手指機能評価を目的としたマーカーレスモーションキャプチャソフトウェアの臨床応用に向けた試用 A pilot study of new markerless motion capture software to measure finger function of people with stroke.	藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 吉田 太樹
OL-1-4	多発性脳梗塞により重度四肢麻痺患者を呈した症例 ～意志伝達装置の導入により QOL の拡大と楽しみの再獲得を目指して～ Case report of bilateral multiple brain infarction using a communication aid.	藤田医科大学病院 リハビリテーション部 鈴木 卓弥
OL-1-5	補装具の有効な活用方法を促進するための取り組み ～車椅子に関する工学的評価手法の研究・開発～ Initiatives to promote effective use of assistive devices ～ R&D of engineering evaluation methods for wheelchairs ～	大阪市援助技術研究室 米崎 二朗

## OM MTDLP

MTDLP 1/ 理論 1		座長：石川 隆志 (秋田大学大学院) 9月17日(土) 12:30～13:30 第4会場
OM-1-1	地域包括ケア病棟での在宅復帰に向けた MTDLP の有用性の報告～ケースシリーズ～ Report on the usefulness of MTDLP for returning home in a community-based care ward	井原市立井原市民病院 リハビリテーション科 佐野 裕和
OM-1-2	家族と温泉旅行に行きたい～ MTDLP を活用し生きがいの再獲得を目指した症例～ I want to go on a hot spring trip with a family ～ A case that aims to regain the purpose of life by utilizing MTDLP ～	社会医療法人 熊谷総合病院 医療技術部リハビリテーション科 関野 航嘉
OM-1-3	「自分らしさを取り戻したい」という目標のもと、多職種が連携して、自宅復帰を達成した一例 A case that many types of job cooperated based on a goal to "get back myself", and achieved to return home	旭川赤十字病院 知本 幸士
OM-1-4	訪問看護利用者に対する生活行為向上マネジメントを活用した作業療法の介入効果 Effectiveness of Occupational Therapy Intervention Utilizing MTDLP for Home Nursing users	介護老人保健施設 聖十字ハイツ 樋尾 佑介
OM-1-5	60代中途障害者が回復期リハビリテーション病棟退院に至るまでの価値ある作業の認識過程 ～複線径路等至性アプローチによる分析～ The cognitive process of valuable occupation by people with disabilities in 60s leading to discharge home ~ Analysis by TEA ~	東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院 リハビリテーション課、東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 星島 彩

## ON 地域

地域 1		座長：田平 隆行 (鹿児島大学) 9月16日(金) 14:30～15:30 第4会場
ON-1-1	訪問リハビリテーションにおける脳卒中上肢麻痺に対する家族実施型の自主練習と介護負担感について～1症例での検討～ Self-training with family and care burden for upper limb hemiparesis after stroke in a home visit rehabilitation.	医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 近藤 遥夏
ON-1-2	ナラティブスローブにて経過を描き目標を見直した事例 An example of reviewing the goal setting by drawing the progress on the narrative slope	志摩地域医療福祉センター 医療技術部リハビリテーション室 竹内 元輝
ON-1-3	訪問リハビリテーション開始時の FIM スコアが介入 3 か月後の FIM 利得に与える影響 Effect of FIM score at the beginning of home-based rehabilitation on FIM gain after 3 months of intervention	相澤病院 訪問リハビリテーションセンター 安藤 道彦



ON-1-4	訪問作業療法における認知症高齢者への支援の効果 ～BPSDが緩和し、家族と共に穏やかな生活を取り戻した事例～ Effect of support for an aged patient with dementia in home-visit occupational therapy	社会福祉法人 こうほうえん 錦海リハビリ テーション病院 リハビリテーション技術部 佐々木夏美
ON-1-5	墨田区内の訪問リハビリテーションの効果検証 Verification of the effect of visiting rehabilitation in Sumida Ward	医療法人社団健心会 ライフクリニック 訪問リハビリテーション部 馬場 博文
<b>地域 2</b>		<b>座長：石井 清志 (国際医療福祉大学)</b> 9月16日(金) 15:40～16:50 第4会場
ON-2-1	我が国の介護予防領域における多職種連携の実態 The reality of inter-professional working in the field of preventive long-term care in japan	東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域, 医療法人社団哺育会 浅草病院 リハビリテーション科 坂本 泰平
ON-2-2	他職種協働プロジェクト「まちリハ」による社会的包摂を目指した地域づくりへの取り組み Community Building for Social Inclusion through the Collaborative Project "Machi Rehab	東京都保健医療公社荏原病院 大村 隼人
ON-2-3	多職種で連携する通所型サービスCが社会活動に関連する過ごし方満足度に及ぼす効果 Effects of a Preventive Long-term Care on a Social Activities-related Daily Life Satisfaction Scale for The Elderly	森ノ宮医療大学 作業療法学科 由利 禄巳
ON-2-4	作業療法士の視点から見た多職種連携における良い共通目標に関する質的検討 A qualitative study of Occupational therapists' perspectives on good common goals in multidisciplinary collaboration	吉備国際大学大学院 (通信制) 保健科学研究科作業療法専攻修士課程 久世慎太郎
ON-2-5	作業療法士による地域における支援の展望～OT コンサルテーション参加者の声から～ The prospects of the practice that an OT performs in the community	社会福祉法人翔の会 児童発達支援センターうーたん 藤崎 咲子
ON-2-6	地域で暮らす高次脳機能障害者との自立生活アシスタント事業を通じた関わり ～メール活用に向けての取り組み～ The independent living assistance project for residents with higher brain dysfunction ～The efforts to utilize email～	NPO 法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぴなな 倉島 沙耶
<b>地域 3</b>		<b>座長：由利 禄巳 (森ノ宮医療大学)</b> 9月17日(土) 10:10～11:10 第3会場
ON-3-1	短期集中リハビリテーションの対象となる高齢者選定のチェックリストの開発 Development of a checklist for selecting elderly patients for short-term intensive rehabilitation	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 山中 信
ON-3-2	要支援、要介護者における活動・参加への作業療法介入に着目した文献レビュー A literature review of occupational therapy for activity and participation for people requiring support and care	函館市医師会看護・リハビリテーション学院 作業療法学科 山田 竜大
ON-3-3	通所リハビリテーション若年利用者の社会参加としての就労支援事例 ～障害を受容する過程に焦点を当てて～ A case study of employment support as social participation for young users of day-care center	神戸大学大学院保健学研究科 博士課程前期課程 加茂永梨佳
ON-3-4	高齢者にとっての「通いの場」の意味と支え合いの構造 The meaning of "the place of community activities" for older adults and the structure of mutual support	医療法人社団 天宣会 北柏リハビリ総合病院 リハビリテーション科, 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 岩井 英泰
ON-3-5	交流の場を作る「当事者移動カフェ事業」の報告～当事者発信が未来を拓く希望～ Report on "Party Mobile Cafe Business" to Create a Place for Exchange ～Hopes for the future of party communication～	千里津雲台訪問看護ステーション 石山 満夫
<b>地域 4</b>		<b>座長：中本 久之 (帝京平成大学)</b> 9月17日(土) 11:20～12:20 第3会場
ON-4-1	介護者の抑うつ症状を誘発する高い介護負担感と関連する要因の組み合わせ Combination of factors associated with a high care burden	北福島医療センター リハビリテーション科 大橋 拓朗
ON-4-2	訪問作業療法で作業療法学生が作製した自助具を活用し活動性の向上を認めた事例 Case study of using self-help tools created by occupational therapy students	大泉訪問看護ステーション 大津留幸代
ON-4-3	病棟に勤務する若手作業療法士が訪問リハビリテーションに抱く認識 ～計量テキスト分析による構造の把握～ Young occupational therapists' impressions of home rehabilitation. ～Understanding the structure by KH-Coder.～	IMS (イムス) グループ 西八王子病院 リハビリテーション科, 東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域 若松 来夢
ON-4-4	リエイブルメント～訪問型サービスCを活用した自立支援～ The re-ablement～The independence support through home visit service C～	三田尻訪問看護ステーション 古谷 正登
ON-4-5	訪問リエイブルメント!～多職種協働を目指す利用者のありたい姿～ Home-Visit Re-ablement Approach ～The ideal image of users aiming for multidisciplinary collaboration～	独立行政法人山口県立病院機構山口県立 総合医療センター リハビリテーション科, 防府市役所 健康福祉部高齢福祉課地域包括支援係 原 直利
<b>地域 5</b>		<b>座長：中島そのみ (札幌医科大学)</b> 9月17日(土) 12:30～13:40 第3会場
ON-5-1	他職種連携により保育園へ入園し言語表出の向上が見られた一例 A case of entering a nursery school through cooperation in other occupations and improving language representation	LE在宅・施設 訪問看護リハビリステーション 廣澤 健太
ON-5-2	チームアプローチにより地域生活のなかで「遊び」を獲得していった事例 Cases of acquiring "play" through regional cooperation	医療創生大学健康医療科学部 作業療法学科 佐々木充直



ON-5-3	放課後児童クラブにおける作業療法士のコンサルテーション事業の有用性について ～インタビュー調査～ The usefulness of occupational therapist consultation services in after-school children's clubs ~ Interview survey ~	専門学校川崎リハビリテーション学院 作業療法学科 森川 芳彦
ON-5-4	小学校児童の友人や教師との交流に対する母親認識に影響を与える要因 ～母子 4480 組の横断的調査～ Variables impacting Mothers' perceptions of children's interactions with friends and teachers ~ 4480 mother-child dyads ~	公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部 大学院保健医療福祉研究科 中村 裕美
ON-5-5	軽度知的能力障害者が一般就労へ移行していくための作業療法士の取り組み Occupational therapists' efforts to help people with mild intellectual disabilities transition to general employment.	東京都立大学大学院人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程、公益社団法人 発達協会 長田 真歩
ON-5-6	当事業所における事例を通じた就労支援の現状と今後の課題について current states and problems through the cases of our employment support	障害福祉サービス事業所 SOI STANCE 鎌田 亜希
<b>地域 6</b>		<b>座長：河野 眞 (国際医療福祉大学)</b> 9月17日(土) 13:50～15:00 第3会場
ON-6-1	COVID-19 感染予防対策のための緊急事態宣言が地域在住高齢者の身体の状態、作業参加の状況に及ぼす影響～前向きコホート研究～ The Impact of Declared State of Emergency for the Prevention from COVID-19 to Elderly People Living in Community	社会福祉法人十字の園 浜松十字の園 栗田 洋平
ON-6-2	COVID-19 流行下における地域高齢者の余暇活動の制限と生きがいとの関連 ～横断研究(後方視調査)～ Leisure activity limitations and IKIGAI for the elderly under the COVID-19 epidemic ～ Cross-sectional study ~	北里大学 医療衛生学部 今井 忠則
ON-6-3	コロナ禍における余暇活動の制限と主観的健康感との関連 ～地域在住高齢者における横断研究～ Leisure activity limitations and Subjective Health in COVID-19 epidemic ～ Cross sectional Study in Elderly people ~	群馬医療福祉大学リハビリテーション学部 小林 昭博
ON-6-4	長期化する COVID-19 パンデミック下における精神的健康状態と生活満足度の関連 ～第1回と第3回緊急事態宣言下での横断的調査～ Relationship between mental health and life satisfaction under the COVID-19 pandemic ～ Continuous cross-sectional research ~	北里大学大学院医療系研究科感覚・運動統御医科学 群リハビリテーション科学、済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーションセラピスト科 田原 正俊
ON-6-5	COVID-19 影響下に園芸活動を行った地域在住高齢者のロコモティブシンドロームと抑うつ の調査 Effects of gardening on locomotive syndrome and depression for community-dwelling elderly people under COVID-19 pandemic	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部 田崎 史江
ON-6-6	COVID-19 感染拡大は地域在住高齢者の生活機能にどのような影響を与えたか？ ～明石市における基本チェックリストの分析～ How did the spread of COVID-19 infection affect life function of elderly people living in a community?	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 小川 真寛
<b>地域 7</b>		<b>座長：宮寺 亮輔 (群馬医療福祉大学)</b> 9月17日(土) 15:10～16:20 第3会場
ON-7-1	基本チェックリストにてフレイル状態であった地域在住高齢者の要介護認定に関わる回答項目 Items related to care certification for the elderly in the community who were in a frail state on the Kihon Checklist	長野保健医療大学 保健科学部、 信州大学 大学院医学系研究科 古川 智巳
ON-7-2	2020年と2021年における地域在住高齢者の活動・参加の実施状況と、健康関連 QOL・フレイル度・属性が及ぼす影響 Effects of HRQOL, frailty and attributes on the activity/participation in community-dwelling elderly in 2020 and 2021	中部大学 生命健康科学部作業療法学科 谷利 美希
ON-7-3	役割の再獲得に向けて取り組んだ「塗り絵はがき」を用いた効果的な関わり Effective support using "coloring postcards" to reacquire roles	JA 三重厚生連三重北医療センター 孤野厚生病院 リハビリテーションセンター 伊藤 正敏
ON-7-4	地域在住高齢者における墓参り行動の満足度とうつ傾向との関連 Association between satisfaction with visiting to grave and depressive symptoms in community-dwelling older adults	医療法人三州会 大勝病院 日高 雄磨
ON-7-5	高齢者における社会参加と生きがいの関連～ JAGES2013-2016-2019 縦断パネル研究～ Social participation and ikigai among older people ～ JAGES2013-2016-2019 longitudinal study ~	千葉大学 山田 彩恵
ON-7-6	高齢者における通いの場への参加・プログラム種類数と高次生活機能 ～ JAGES2016-2019 縦断研究～ Participation in "Kayoinoba" and higher-level functional capacity in older adults ～ A longitudinal study from the JAGES ~	国立保健医療科学院 山口佳小里
<b>地域 8</b>		<b>座長：南 征吾 (群馬パース大学)</b> 9月18日(日) 8:30～9:30 第5会場
ON-8-1	脊髄小脳変性症の高齢者に楽しさプログラムを提供した事例 A case of a enjoyment program for elderly person with spinocerebellar degeneration.	デイサービスセンタープロディス 奥野 優輝
ON-8-2	社会的行動障害を有する高次脳機能障害者と共に暮らす家族の障害認識の変化 Changes in disability awareness in families living with higher brain dysfunction with social behavioral disorders	医療法人創和会しげい病院 リハビリテーション部 村下 佳

ON-8-3	我が国の高齢者の家庭内役割に関する文献レビュー A Literature Review of the Domestic Roles of Older Adults in Japan	国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーション技術部 加納 裕遵
ON-8-4	シリア難民障害者の母国帰還と国際協力支援の課題 Challenges for returning Syrian refugees with disabilities to their country and supporting international cooperation	大阪保健医療大学作業療法学専攻, 神戸大学大学院保健学研究科パブリックヘルス領域 山本 清治
ON-8-5	一般市民への手指衛生に関する啓発活動の検討 Investigation of the enlightenment about hand hygiene to citizen	広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 高島 千敬
<b>地域 9</b>		<b>座長：野田 和恵 (神戸大学)</b> 9月18日(日) 9:40～10:40 第5会場
ON-9-1	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大による高齢者の活動変化と健康指標との関連 Association between activity changes and health indices in older adults due to the spread of COVID-19	名古屋大学大学院 医学系研究科総合保健学専攻 上村 純一
ON-9-2	コロナ禍で生じた訪問療法士による家屋調査代行からみえた課題と展望 Issues and prospects seen from the house survey agency by a visiting therapist caused by the corona disaster	ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 福地 弘文
ON-9-3	コロナ禍の今、OTとしてできることを考える～認知症カフェで行ったアンケート調査から～ Thinking about what we can do as OTs now that the COVID-19 disaster has occurred. ～ Questionnaire survey conducted at Cafe ～	上尾中央医科グループ 介護老人保険施設 ケアセンター八潮 小林 賢
ON-9-4	Grit (やり抜く力) を用いた地域在住高齢者の心理特性分析 ～ウイズコロナを乗り越える生活機能改善策に向けて～ Analysis of psychological characteristics of elderly people living in the community using Grit	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 田代 大祐
ON-9-5	COVID-19 流行下におけるオンラインによる国際協力の可能性の検討 ～ミャンマーへの継続的支援の経験から～ Exploring possibilities of on-line international cooperation under COVID-19 pandemic ～ through experiences in Myanmar ～	国際医療福祉大学成田保健医療学部 河野 真
<b>OP 基礎研究</b>		
<b>基礎研究 1</b>		<b>座長：中村 充雄 (札幌医科大学)</b> 9月16日(金) 12:10～13:10 第5会場
OP-1-1	Brain-Computer Interface 応用に向けた筋萎縮性側索硬化症患者における脳賦活反応の推定 Estimation of Brain Activation in a Patient with Amyotrophic Lateral Sclerosis for Brain-Computer Interface	名古屋工業大学大学院, 名古屋工業大学情報科学フ ロンティア研究院, 名古屋医歯スポーツ専門学校 増尾 明
OP-1-2	両手フィンガータッピングの速さに依存した指タップフォースとDLPFC脳血流量の変化について Bilateral finger tapping speed-dependent changes in the tap force and DLPFC oxygenation	四條畷学園大学 リハビリテーション学部, 京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 亀井 大作
OP-1-3	セラプラストを対象とした硬さや付着性の物性に関する予備的研究 Preliminary research on physical properties of hardness and adhesiveness for therplast	前千葉県立保健医療大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 吉野智佳子
OP-1-4	嗅覚刺激は幼児のバランス能力を向上の一助となる Olfactory Stimulation Improves Children's Ability to Balance	土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科, 高知大 学大学院 総合人間自然科学研究科 医学専攻 博士課程 稲富 惇一
OP-1-5	ヒトの片手グリップ課題に先行する一次運動野と背外側前頭野間の半球間抑制の変化 Modulation of interhemispheric inhibition between the DLPFC and M1 prior to a unimanual hand grip task in humans	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 認知運動機能制御科学研究室 小川 明莉
<b>基礎研究 2/ 内科疾患 1</b>		<b>座長：東 登志夫 (長崎大学)</b> 9月16日(金) 15:40～16:50 第5会場
OP-2-1	ゴルフスイング速度に対するソフトロボットグローブの効果 ～片麻痺手に着目した生体力学的解析～ Effect of soft robotic glove on golf-swing speed ～ A biomechanical analysis focusing hemiplegic hand ～	びわこリハビリテーション専門職大学 作業療法学科 園田 悠馬
OP-2-2	運動学習進行過程における前頭前野の賦活の変化 Changes in the cerebral blood flow dynamics of the prefrontal cortex during motor learning	関西医療大学保健医療学部作業療法学科, 兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 備前 宏紀
OP-2-3	自己ペースタッピングで生じる repeated rate bout enhancement は楽器演奏経験により抑制される Repeated bout rate enhancement in self-paced tapping is suppressed by instrument playing experience	広島大学大学院 医系科学研究科 感覚運動神経科学教室 伊藤佳奈美
OP-2-4	本邦の救命救急センター・集中治療室における作業療法に関する文献レビュー occupational therapy in critical care center and intensive care unit ～ review of literature in Japan ～	昭和大学 保健医療学部作業療法学科 駒場 一貴
OP-2-5	急性期医療機関における労働者への作業療法に関する考察 Consideration on Occupational Therapy for Workers	独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院 治療就労両立支援センター 佐藤さとみ
OP-2-6	集中治療室入室患者における早期自宅退院に関連する要因の検討 Factors associated with early home discharge in intensive care unit	昭和大学 保健医療学部作業療法学科, 昭和大学病院 リハビリテーションセンター 齋藤 基



<b>基礎研究 3</b>		<b>座長：金子 翔拓 (北海道文教大学)</b> 9月17日(土) 9:00～10:00 第6会場
OP-3-1	大学生における長期休暇中の睡眠の質と生活様式の関係 The relationship between sleep quality and lifestyle during long vacations in college students	社会医療法人 一成会 木村病院, 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 井上 俊輔
OP-3-2	Mental-Checker と質問紙による心理検査の関連と虚構性に関する検討 A Study on the Relationship and Fictionality between Mental-Checker and Questionnaire-Based Psychological Tests	医療法人和光会山田病院 リハビリテーション部 石川真太郎
OP-3-3	リストバンド型活動量計と自己報告による睡眠時間の測定精度の検討 Examination of measurement accuracy of the sleep time by wristband type activity tracker and self-reported survey	福岡国際医療福祉大学 医療学部作業療法学科 佐野 伸之
OP-3-4	脳卒中片麻痺患者の手指開閉運動から筋緊張を推定するアプリケーション開発の予備的研究 A preliminary study on the development of an application to estimate muscle tone from hand motions in stroke patients	埼玉県立大学大学院, 東京歯科大学市川総合病院 リハビリテーション科 斎藤 剛史
OP-3-5	Goal-directed reach が運動準備期及び運動開始時における上肢近位筋の皮質脊髄路の興奮性に与える影響 The corticospinal excitability of proximal upper limb muscles prior to the goal-directed reach	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 認知運動機能制御科学研究室 大島 千尋
<b>基礎研究 4</b>		<b>座長：平川 裕一 (弘前大学大学院)</b> 9月17日(土) 10:10～11:10 第6会場
OP-4-1	健常成人における自閉スペクトラム傾向と言葉の理解に伴う運動促進効果に関する研究 Study of autism spectrum traits and the effect of motor facilitation during language understanding in healthy adults	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 認知運動機能制御科学研究室 入江 啓輔
OP-4-2	健常成人における片手での前開きシャツの脱衣パターンの比較 ～頭部先行型と袖口先行型の所要時間と遂行難易度の違い～ Comparison of undressing patterns of button up shirt using one-handed in healthy subjects	医療社団法人 健育会 ねりま健育会病院 リハビリテーション部 平山 美里
OP-4-3	握力測定における手指の完全伸展が困難な症例に対する握り幅の設定方法の提案 A new proposal for setting the grip width in grip strength measurement	医療法人社団 ねりま健育会病院 新山 真由
OP-4-4	背側及び腹側運動前野による一次運動野に対する抑制は視覚運動制御に重要である Inhibition of primary motor cortex by dorsal and ventral premotor areas is important for visuomotor control	広島大学大学院 医系科学研究科 感覚運動神経科学教室 桑原 貴之
OP-4-5	「脳卒中作業機能障害スクリーニングツール：Stroke Occupational Dysfunction Screening Tool：SODST」の試作版の作成 Development of a prototype version of the Stroke Occupational Dysfunction Screening Tool (SODST)	富山リハビリテーション病院こども支援センター 丸池 駿介
<b>基礎研究 5</b>		<b>座長：上谷 英史 (弘前大学大学院)</b> 9月17日(土) 11:20～12:20 第6会場
OP-5-1	手工芸が健常成人の脳活動に及ぼす効果～実行機能の個人差に着目した fNIRS 研究～ Effects of Handicrafts on Brain Activity in Healthy Adults ～ An fNIRS Study of Individual Differences in Executive Function ～	奈良学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科, 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科 岩崎 智子
OP-5-2	健常高齢者と若年健常成人における電子版 Trail Making Test 遂行時の上肢機能解析 Analysis of upper extremity functions during performing electronic Trail Making Test in elderly and young adults	医療法人尚豊会 みたき総合病院 西川 葵
OP-5-3	食事動作中の把持形態の特徴 Characteristics of grasping form during meal operation	広島大学病院 診療支援部リハビリテーション部門, 広島大学大学院医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 後藤 直哉
OP-5-4	課題難易度の変化に伴う二重課題干渉の相違 Differences in dual task interference caused by changes in task difficulty	時計台記念病院 リハビリテーション部作業療法科 谷村圭一郎
OP-5-5	eLORETA 法による手工芸活動時の Fm $\theta$ 発生源推定 Source estimation of Fm $\theta$ during craft activities using eLORETA method	大阪河崎リハビリテーション大学作業療法学専攻 白岩 圭悟
<b>基礎研究 6/ 援助機器 3</b>		<b>座長：務台 均 (信州大学)</b> 9月17日(土) 15:10～16:20 第8会場
OP-6-1	箸操作時の手内在筋・外在筋の筋活動と協調性～箸開閉操作の検討～ Muscle activity and coordination of intrinsic and extrinsic hand muscles during chopstick manipulation	広島大学大学院医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 車谷 洋
OP-6-2	両側運動前野に対する経頭蓋静磁場刺激が視覚刺激選択反応課題の精度に及ぼす影響 Transcranial static magnetic stimulation over the bilateral premotor cortices affect performance of choice reaction task	広島大学大学院 医系科学研究科 感覚運動神経 科学教室, 日本学術振興会 特別研究員 松本 卓也
OP-6-3	色の先行知識が Go/No-go 課題の反応時間に及ぼす影響は視覚モダリティの違いに依存する The effect of prior knowledge of color on reaction time in a Go/No-go task depends on visual modality	広島大学大学院 医系科学研究科 感覚運動神経科学教室 堀之内峻之
OP-6-4	一側の筋への圧刺激は対側の脊髄前角細胞の興奮性に影響を与えない Pressure stimulation of the muscle does not affect the excitability of contralateral spinal anterior horn cells	関西医療大学大学院 保健医療学研究科, 医療法人和光会山田病院 リハビリテーション部 久納 健太
OP-6-5	アームサポート「MOMO プライム」を使用した食事動作における上肢筋活動の変化 ～成人健常者での表面筋電計による解析～ Changes in upper limb muscle activity when eating with using the MOMO prime ～ Analysis by surface EMG in healthy subjects ～	JCHO 仙台病院 リハビリテーション部 加藤 聡美

OP-6-6 アームサポート「MOMO プライム」の上肢訓練機器としての有用性の検討  
～健常者における表面筋電計を用いたベグ挿し課題の解析～  
Changes in muscle activity during a peg insertion task using the MOMO prime  
～ Healthy subject analysis ～ JCHO 仙台病院 リハビリテーション部  
森 聖香

**OQ 管理運営**

**管理運営 1**

座長：小川 真寛 (神戸学院大学)

9月16日(金) 13:20～14:20 第5会場

OQ-1-1 回復期リハビリテーション病棟作業療法部門における課題分析  
～ Quality Evaluation Strategy Tool (QUEST) を用いた実践～  
Analysis of Issues in the Occupational Therapy Department of a convalescent rehabilitation hospital 神戸リハビリテーション病院  
崎本 史生

OQ-1-2 コロナ禍における当院作業療法課での情報共有システムの再考について  
Reconsidering the information sharing system at our Occupational Therapy Division in the COVID-19 crisis 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院  
リハビリテーション部 作業療法課  
松石健一郎

OQ-1-3 多様性のあるオンライン学会から見えてきたこと～持続可能な社会を創る作業療法士～  
Considerations through the online congress about diversity  
～ Occupational therapist as bridge for sustainable society ～ 介護老人保健施設 茶山のさと  
齋藤 嘉子

OQ-1-4 回復期リハビリテーション病棟における FIM 予後予測を基にした ADL 介入の効果  
～疾患別による比較から得られた知見～  
Effect of ADL intervention based on FIM prognosis in convalescent rehabilitation ward  
～ Comparison by disease ～ 医療法人社団武蔵野会 小平中央リハビリテーション  
病院 リハビリテーション科  
田原 真悟

OQ-1-5 リハビリテーション専門職の場面の違いによるリスク認知の特徴  
Characteristics of Risk Perception in Different Situations of Rehabilitation Professionals 大阪医療福祉専門学校 作業療法士学科  
林 亜遊

**管理運営 2**

座長：鈴木 達也 (聖隷クリストファー大学)

9月17日(土) 12:30～13:30 第6会場

OQ-2-1 新型コロナウイルスの影響による作業療法課内の組織変更について  
Organizational change of occupational therapy section due to the effect of the COVID-19 社会医療法人財団 白十字会 佐世保中央病院  
リハビリテーション部 作業療法課  
末武 達雄

OQ-2-2 作業療法士が体験する信念対立のエスカレーションの質的解明  
Qualitative clarification of belief conflict escalation experienced by occupational therapists 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院  
リハビリテーション部  
安井 茜

OQ-2-3 COVID-19 流行前後の退院前訪問指導の件数の比較と実施者における FIM の変化  
A comparison of the number of visit instruction before and after the COVID-19 and points of the FIM 医療法人 敬愛会 リハビリテーション草野病院  
リハビリテーション部  
阿部 祐美

OQ-2-4 在日外国人患者の医療に関する考察～文献タイトルの計量テキスト分析から～  
Consideration on medical care for foreign patients in Japan  
～ From the quantitative text analysis of the literature title ～ 国際医療福祉大学 成田保健医療学部 作業療法学科  
石井 清志

OQ-2-5 危険の見逃しに着目した熟練者と非熟練者の視線探索の比較～アイトラッカーを用いた分析～  
A comparison of gaze search between Experts and Novices with a focus on missed hazards  
～ Analysis using an eye tracker ～ 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部  
有久 勝彦

**管理運営 3/ 援助機器 2**

座長：林 亜遊 (大阪医療福祉専門学校)

9月17日(土) 13:40～14:40 第6会場

OQ-3-1 秋田大学医学部附属病院における精神科作業療法の開設から1年を振り返る  
Looking back on the year since the establishment of psychiatric occupational therapy at Akita University Hospital 秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部  
林 正喜

OQ-3-2 リハビリテーションスタッフのエンカレッジを目的としたクリニカルラダーの作成  
Development of a clinical ladder for the encouragement of therapists in rehabilitation department 北里大学病院 リハビリテーション部  
松井亜沙美

OQ-3-3 日高リハビリテーション病院リハビリテーションセンターにおけるグループ間で切磋琢磨し成果を挙げるシステムの導入  
Introduction of the system which competes between groups, and gives result in the Hidaka rehabilitation hospital. 医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院  
リハビリテーションセンター  
平石 武士

OQ-3-4 当院作業療法部門における Quality indicator の活動報告  
Activity report of quality indicator of the occupational therapy department at our hospital 聖路加国際病院  
阿部 幸太

OQ-3-5 認知機能支援機器の利活用に関するインタビュー調査～課題及び有効な支援について～  
Occupational Therapists' perspective on suitable support and issues to use of Assistive Products for Cognition 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所  
川崎めぐみ

**OR 教育**

**教育 1**

座長：高島 千敬 (広島都市学園大学)

9月16日(金) 12:10～13:10 第6会場

OR-1-1 作業療法学科女子学生のライフイベントにおける就労意識の在学中の変化  
The life events change attitudes of female students toward work while enrolled in the Department of Occupational Therapy 専門学校 富士リハビリテーション大学校  
市村 紋子

OR-1-2 作業療法士養成校における義手教育の現状と課題～アンケート調査から～  
Current Status and Issues of Upper limb Prosthesis Education in Occupational Therapist Schools ~ From a Questionnaire Survey ~ 神戸学院大学  
大庭 潤平



OR-1-3	作業療法士養成校における義手教育の現状と課題～テキストマイニングによるニーズ分析～ Current Status and Issues of Upper Limb Prosthesis Education in Occupational Therapist Schools ~ Needs Analysis by Text Mining ~	川崎医療福祉大学 妹尾 勝利
OR-1-4	義手の適合判定の現状と課題～能動義手の適合判定の見直しに向けて～ Current status and issues of upper-extremity prostheses checkout ~ Toward a revision of checkout ~	兵庫県立リハビリテーション中央病院 柴田八衣子
OR-1-5	リスク発見時の熟練者と学生の注視部位はどこが異なるのか？ What is the difference between the fixation areas of experts and students when perceive risk?	香椎丘リハビリテーション病院 関 文雄
<b>教育 2</b>		<b>座長：青山 克実 (九州栄養福祉大学)</b> 9月16日(金) 13:20～14:20 第6会場
OR-2-1	コロナ禍により制限された臨床実習が卒後の臨床能力に与えた影響 The impact of restricted clinical practice due to new coronavirus on post-graduate clinical performance	医療法人社団筑波記念会筑波記念病院 リハビリテーション部 岡田 侑香
OR-2-2	性的マイノリティに関する教育が作業療法学生にもたらす影響 ～質問紙を用いた前後比較による検討～ The impact of education about sexual and gender minorities on occupational therapy students: A before-after study	医療法人社団大和会 大内病院 ACT 松本 武士
OR-2-3	オンライン研修会を利用した研究法に関する臨床研究教育の実践： ～コロナ禍における取り組み～ Implementation of clinical research education on research methods using online workshop	関西医療大学保健医療学部 作業療法学科 森本かえで
OR-2-4	リスクマネジメントの能力の向上のための授業 ～リスクコミュニケーションを通じたリスク感覚の変化～ Coursework for improving risk management skills ~ Changes in risk sense through Risk Communication ~	大阪医療福祉専門学校 林 辰博
OR-2-5	専門職大学におけるオンラインを用いたアクティブラーニングの効果 Effects of active learning using online at professional university	高知リハビリテーション専門職大学 足立 一
<b>教育 3</b>		<b>座長：関 一彦 (帝京平成大学)</b> 9月17日(土) 11:20～12:20 第7会場
OR-3-1	Problem-based Learning を用いた肩機能の改善に関する卒後研修プログラムの検証 Verification of a post-graduate training program on shoulder function improvement using problem-based learning	島田市立総合医療センター リハビリテーション 指導室、聖隷クリストファー大学大学院 リハビリテーション科学研究科 四條 敦史
OR-3-2	作業遂行6因子分析ツール(OPAT6)を用いた臨床指導プログラムの実践報告 Practical report of clinical guidance program using Occupational Performance Analysis Tool with 6 Factors	医療法人桂山会鶴飼リハビリテーション病院 池田 隼也
OR-3-3	実践報告 産学連携教育イノベーター育成プログラム2020 Practice report Industry academic cooperation innovator nurturing program 2020	医療法人 岡部病院 診療部 リハビリテーション科 西村 慈子
OR-3-4	作業療法士養成校における生活行為向上マネジメント(MTDLP)に関する学内教育および臨床実習の実施状況 On-campus education and clinical training on Management Tool for Daily Life Performance at occupational therapist school	目白大学 保健医療学部作業療法学科 小林 幸治
OR-3-5	「吹田 OT プロジェクト」に関わってみて ～事例報告を中心としたオンライン学習会からの学び～ What I learned from running the Suita OT Project. ~ Learning from online study sessions centered on case reports. ~	株式会社石山商店 児童ディサービス あおい鳥、 一般社団法人 大阪府作業療法士会 加茂 智子
<b>教育 4</b>		<b>座長：山根 伸吾 (藍野大学)</b> 9月17日(土) 12:30～13:30 第7会場
OR-4-1	コロナ禍における大学病院での臨床実習実施の取り組み Efforts for clinical training at a university hospital under the COVID-19 pandemic	杏林大学保健学部作業療法学科、 杏林大学医学部付属病院精神神経科 長島 泉
OR-4-2	COVID-19 禍における本学の臨床実習の試み Attempt of clinical practice learning of Showa University version in COVID-19	昭和大学保健医療学部 作業療法学科 古賀 誠
OR-4-3	診療参加型実習における学生の臨床思考過程を高める効果的手段の開発に向けた事前調査 ～フォーカス・グループ・ディスカッション～ A Focus Group Study of Effective Teaching Methods to Improve Student's Clinical Reasoning Skills	星城大学 リハビリテーション学部作業療法学専攻 竹内 佳子
OR-4-4	実習地との連携が可能にした新しい臨床実習の形～オンラインによる実習を試みて～ A new form of clinical training that collaboration with the training site make possible ~ Trying training online ~	藤華医療技術専門学校 鳥越 克志
OR-4-5	新型コロナウイルス流行期に学生だった新人職員の実態調査 ～新人職員と先輩職員のアンケート調査より～ Survey of new staff who were students during the new coronavirus epidemic ~ From a survey of new staff and senior staff ~	筑波記念会筑波記念病院 リハビリテーション部 篠崎 圭佑
<b>教育 5/ 理論 2</b>		<b>座長：井村 亘 (玉野総合医療専門学校)</b> 9月18日(日) 9:40～10:40 第4会場
OR-5-1	当院セラピスト教育における課題～アンケート調査におけるテキストマイニング分析～ Issues in the Education of Therapists in Our Hospital ~ Text Mining Analysis of Questionnaire Surveys ~	医療法人大平会 嶺井第一病院 リハビリテーション科 玉那覇 迅

OR-5-2	作業療法士向けのポータルサイト設立におけるアンケート調査 Questionnaire survey on the establishment of a portal site for occupational therapists	医療法人 康生会 豊中平成病院 リハビリテーション部 川畑 祥子
OR-5-3	事例基盤型学習は新人作業療法士のクリニカルリーズニングに影響を与えるか～混合研究法～ Case-Based Learning Influence Occupational Therapists' Clinical Reasoning? ～ A Mixed Methods Research ～	湘南慶育病院 丸山 祥
OR-5-4	医療従事者と学生のリスク発見時の視線特徴の違い～アイトラッカーを使用して～ Differences in gaze characteristics between healthcare professionals and students during risk detection ～ Using eye tracker ～	公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院 本多 亮平
OR-5-5	課題遂行経験が、見通しに与える影響～身体制限を伴った健常成人における実験研究～ The effect of experience on the accuracy of the outlook ～ An experimental study in healthy adults with physical limitations ～	茨城県立医療大学 作業療法学科 高崎 友香



PA 脳血管疾患等	
<b>脳血管疾患等 1</b> 9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場	
PA-1-1	左半側空間無視患者における動的空間認知課題 (Posner test) の遠近空間での 差異と自己認識との関連 Far and near space differences by dynamic space cognitive task and self-awareness in left unilateral spatial neglect 地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 出南亜花里
PA-1-2	右側頭頭頂皮質下出血により重度の半側無視と感覚性失語症を呈した症例に対する体性感覚を利用した介入の一例 A case of somatosensory approach to patients with severe unilateral neglect and aphasia 社会医療法人社団 森山医会 森山脳神経センター病院 荘司さやか
PA-1-3	北海道内の病院・施設における上肢機能評価に用いられるバッテリーの使用に関するアンケート調査 The questionnaire survey on using of assessment batteries for upper limb function in Hokkaido, Japan 札幌医科大学 保健医療学部 作業療学科 齊藤 秀和
PA-1-4	就労支援における麻痺側上肢を積極使用した作業がアウトカム評価へ与える影響～シングルケースデザインによる検討～ Effect of active use of hemiplegic upper limb on outcome assessment in employment support ~ study of single subject design ~ 特定非営利活動法人キセキ みなくろはうす柳井 森脇 善幸
PA-1-5	延髄梗塞により身体パラフレニアと余剰幻視が重複した症例 A case of overlapping somatoparaphrania and supernumerary phantom limb due to medullary infarction 洞野辺病院 脳リハビリテーション部門 相原めぐみ
PA-1-6	脳卒中後遺症による麻痺手に対する課題指向型訓練の有用性～訪問リハビリテーションでの実践～ Usefulness of task-oriented training for paralyzed hands due to stroke sequelae ~ Practice in home-visit rehabilitation ~ 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 訪問看護ステーショングラウチア リハビリテーション部門 飯野 雄太
PA-1-7	ADOC-H と上肢活動量計を用いた介入により麻痺手を生活で使用するための行動変容を促した慢性期脳卒中症例 ADOC-H and upper limb activity measurement increased amount of paralytic hand use in chronic stroke patient 医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 中西 亮太
PA-1-8	回復期脳卒中患者に対する具体的な目標設定による他職種連携の取り組み Collaborative efforts among other professions by setting specific goals for recovering stroke patient 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 内堀 謙吾
PA-1-9	脳腫瘍術後患者における作業療法目標の特徴 Characteristics of occupational therapy goals in postoperative patients with brain tumors 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 伊藤 駿
PA-1-10	障害受容が目標設定につながった一例～失語症患者の障害受容へのリハビリテーション～ Acceptance of disability help set a goal ~ Rehabilitation for acceptance of disability to aphasiac ~ 聖路加国際病院 リハビリテーション科 本田ななみ
PA-1-11	訪問リハビリテーション長期利用者のライフステージに合わせた支援～家庭における役割と向き合った事例～ Taking a step toward acquiring a role in the family ~ Interventions tailored to the life stages in home-visit OT ~ 医療法人健康会嶋田病院 大下 琢也
<b>脳血管疾患等 2</b> 9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場	
PA-2-1	回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の退院時 FIM 予後予測 Prognostic value of FIM at discharge for stroke patients in a rehabilitation ward 済生会吉備病院 野上 達矢
PA-2-2	普通の箸の操作獲得を目指した自助具の有用性の検討 Examinations of the utility of self-help devices aiming at acquiring the operation of ordinary chopsticks 弘前大学 大学院保健学研究科 平川 裕一
PA-2-3	非利き手での箸操作練習の実施時間が箸操作能力に及ぼす影響について Effects of the training time of chopsticks operation with non-dominant hand on chopsticks operation 弘前大学 大学院保健学研究科 上谷 英史
PA-2-4	胎児性水俣病患者の嚥下障害に対する神経筋電気刺激による介入を行った一例 Neuromuscular electrical stimulation for dysphagia in a patient with fetal-type Minamata disease: a case report 環境省国立水俣病総合研究センター 臨床部リハビリテーション室 中村 篤
PA-2-5	非骨傷性頸髄損傷を呈した症例に対するCI療法のコンセプトに基づいた支援 Support based on the concept of CI therapy for a patient with non-osteoporotic cervical spinal cord injury 医療法人桂名会 瀧尾記念慶友病院 リハビリテーション科 高木 克実
PA-2-6	集中的な課題指向型練習によってADLが自立した頸部脊髄硬膜動静脈瘻の事例 A case with cervical dural AVF acquired the independence of ADL by intensive task-oriented approach 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 望月 優太
PA-2-7	ADOCを用いて主婦としての役割の再獲得に繋がった事例～語りから引き出す重要な作業～ Cases that led to the reacquisition of the role as a housewife using ADOC ~ Important work to draw from the story ~ 医療法人三星会 茨城リハビリテーション病院 坂上 大地
PA-2-8	目標設定が脳卒中急性期患者の日常生活活動に与える影響 Influence of goal setting on activities of daily living in patients with stroke in an acute setting 沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 田邊 芽衣
PA-2-9	重度失語症を呈した患者に対して急性期でのADOCを使用した作業の共有～目標設定と意思決定～ Sharing goals in ADOC in the acute phase of severe aphasia patients. ~ Goal setting and decision making ~ 独立行政法人 国立病院機構 関門医療センター リハビリテーション科 佐藤 晟也

ポスター発表



PA-2-10	理学療法プログラムに影響を及ぼす作業療法目標の特徴 ～亜急性期病棟における ADOC を用いた目標の内容的検討～ Characteristics of goals that affect the physiotherapy programs ～ Content study of goals using ADOC in the subacute ward ～	済生会神奈川県病院 リハビリテーションセラピスト科 石川 哲也
---------	--	---------------------------------------

PA-2-11	脳卒中急性期における Assessment of Motor and Process Skills の経過 ～機能的自立度評価表の経過との比較～ Progress of the Assessment of Motor and Process Skills in acute stroke phase ～ Comparison with the progress of the FIM ～	函館脳神経外科病院 作業療法課 麓 文太
---------	--	-------------------------

**脳血管疾患等 3** 9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場

PA-3-1	修正 CI 療法により右上肢の学習性不使用を脱却した脳腫瘍右片麻痺の1例 Reversed from learned non-use by modified CIMT: A case report of right hemiplegia with a brain tumor	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 田中 祐汰
--------	--	---------------------------------

PA-3-2	脳卒中後左片麻痺を呈した蕎麦打ち職人に対する CI 療法のコンセプトに基づいた介入の試み Intervention based on the concept of CI therapy for a soba noodle maker with left hemiplegia after stroke	医療法人養和会 養和病院 田中 卓
--------	---	----------------------

PA-3-3	脳卒中後亜急性期より mCI 療法を実施し ADL 及び IADL の再獲得を目指した一例 A case of regaining ADL and IADL by modified Constraint-induced movement therapy in the subacute phase of stroke	一般財団法人広南会広南病院 長谷川崇寛
--------	---	------------------------

PA-3-4	脳卒中後の上肢麻痺と失語症を呈した患者に modified CI 療法を行い、麻痺手の使用頻度が向上した一例 A case of modified CI therapy improved hand frequency in use for a stroke patient with upper limb paralysis and aphasia.	社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院 リハ技術部 内藤 桃子
--------	--	--

PA-3-5	脳出血を呈したクライアントに対する Cognitive Orientation to daily Occupational Performance(CO-OP) を基盤とした作業療法 Occupational Therapy Intervention based on CO-OP Approach for the Client with Stroke	岩国市医療センター医師会病院 リハビリテーション部 中澤 紀子
--------	---	---------------------------------------

PA-3-6	Pusher syndrome による重度の機能障害事例に対する PT と協働した運動学習効果に関して Effect of motor learning working with PT on cases of severe dysfunction due to Pusher syndrome	大阪急性期・総合医療センター 医療技術部セラピスト部門 齋藤 利恵
--------	---	---

PA-3-7	回復期脳卒中患者に Shared Decision Making for Rehabilitation を使用することで訓練の満足度が高かった一例 A case of high satisfaction with training by using Shared Decision Making for Rehabilitation in a stroke patient	東京都リハビリテーション病院 天内 将広
--------	---	-------------------------

PA-3-8	急性期も膜下出血患者の退院時 FIM に影響を与える因子について Factors Affecting FIM at Hospital Discharge in Patients with Acute Subarachnoid Hemorrhage	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 進藤 潤也
--------	--	--

PA-3-9	くも膜下出血を呈した患者に対する集中治療室からの作業療法介入の一事例 ～ ADOC による目標共有を主とした関わり～ A case of occupational therapy for subarachnoid hemorrhage from the intensive care unit ～ Goal setting through ADOC ～	医療社団法人 明芳会 横浜旭中央総合病院 リハビリテーションセンター、筑波大学大学院 人間 総合科学学術院 人間総合科学研究群 リハビリテー ション科学学位プログラム 博士前期課程 堀内 翔平
--------	---	--

PA-3-10	「クライアントと作業療法士の協業関係尺度 (CRS)」をモニタリングツールとして使用したクライアント中心の実践の一例 An example of client-centred practice using the CRS as a monitoring tool.	ソフィアメディ株式会社 ソフィア訪問看護ステーション岐阜 後藤 紀史
---------	---	--

PA-3-11	スイッチの導入と操作練習によりコミュニケーションの獲得と余暇活動の参加を支援した事例 A case report of supporting communication and leisure activity by utilizing device	湘南慶育病院 リハビリテーション部 長谷川明嶺
---------	--	----------------------------

PA-3-12	車いすを使用している患者の新たなトイレ動作尺度の構造的妥当性の検討 Structural Validity of the New Toileting Behavior Evaluation for the Patients Using Wheelchairs	森ノ宮医療大学、 関西リハビリテーション病院 東 泰弘
---------	--	-----------------------------------

**脳血管疾患等 4** 9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PA-4-1	脳卒中地域連携バスを用いた回復期病院退院時のトイレ動作自立の可否の検討 ～急性期病棟でのデータを用いて～ Factors for self-reliance of toilet behavior in stroke discharged from the convalescence rehabilitation hospital	医療法人 深仁会 手稲深仁会病院 リハビリテーション部 上山 菜
--------	---	--

PA-4-2	バーチャルリアリティ視聴が入院患者のストレス低減に与える効果に関する研究 A study on stress reduction by virtual reality for inpatients	帝京大学 沖 雄二
--------	---	--------------

PA-4-3	MiC を用いて就労資源の獲得や役割認識ができた事で新規就労に繋がった事例 A case in which the acquisition of employment resources and role recognition using MiC led to new employment.	<ims> イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 長嶺 侑佳
--------	--	---

PA-4-4	当院における上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo-J の運用～自主訓練に向けての試み～ Effective use of upper limb robot "ReoGo-J" in our hospital ~ Attempt for self-training ~	社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション 病院 リハビリテーション技術部 西垣 美紅
--------	--	--

PA-4-5	HAL-SJ と簡略化した Transfer Package を含む課題指向型訓練の併用により麻痺手使用頻度が増加した事例：症例報告 Increased frequency of use of the upper limb by the combined use HAL-SJ and TOT including a simplified transfer package	徳島大学病院 リハビリテーション部 大前 博司
--------	---	----------------------------

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表



PA-4-6	ReoGo®-Jを用いたLimb Activationによって左半側空間無視に対する即時効果を認め た脳梗塞の一例 A case of cerebral infarction showed an immediate effect on left unilateral spatial neglect by training using ReoGo®-J	社会医療法人財団白十字会 白十字リハビリテーション病院 向高 朱莉
PA-4-7	作業療法における上肢用ロボット運用方法探索のための文献研究 Literature research for robot operation method for upper limbs in occupational therapy	医療法人社団玉栄会 東京天使病院 石塚雄之助
PA-4-8	重度の自発性低下を呈した症例に対する情動メカニズムに着目した一介入 An intervention focusing on emotional mechanism for a patient with severe post-stroke apathy	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 平見 彩貴
PA-4-9	自転車交通事故後における自転車使用再開～自転車に対する交通事故後の不安軽減を含めて～ Resumption of bicycle use after a bicycle traffic accident ～ Including the reduction of anxiety after a car accident ～	医療法人 橋本病院 リハビリテーション部 山田 隆貴
PA-4-10	複合的アプローチにより復職、趣味であるゴルフの獲得に至った、中等度麻痺を呈した事例 A case of moderate paraplegia where a multidisciplinary approach led to a return to work and the ability to play golf.	埼玉石心会病院 リハビリテーション部 古津 政明
PA-4-11	家事に困難さを感じている脳卒中後遺症者の作業選択に関する研究 ～家事の遂行に焦点を当てた分析～ A study on the occupational choice of post-stroke patients ～ Analysis to focus on the implementation of household chores ～	群馬パース大学 リハビリテーション学部 石代 敏拓
PA-4-12	病院のホームページ作成の経験を通して意志と習慣化が変容しプログラマーとして復職を 果たした事例 A case of returning to being a programmer whose volition and habituation have been changed by creating a homepage	済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション部 村山 潤

脳血管疾患等 5

9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PA-5-1	回復期リハビリテーション病棟入院中にリドカイン注射液と随意運動介助型電気刺激装置 を用いた治療を行った右片麻痺例 Effect of lidocaine and IVES treatment in a patient with right hemiplegic in convalescent phase	京都地域医療学際研究所がくさい病院 回復期リハビリテーション部 加古山 悟
PA-5-2	尿道カテーテル抜去後の排泄に対する活動向上訓練の効果 The effect of improving activity exercise after removing urethral catheter	湖山リハビリテーション病院 リハビリテーション科 酒井 智也
PA-5-3	脳血管障害後の入院患者におけるトイレ動作自立にはどのような高次脳機能が関連するの か?～多重代入とベイズ統計を用いた横断研究～ What higher brain function is associated with toileting independence in inpatients with stroke?	星城大学 リハビリテーション学部 萬屋 京典
PA-5-4	回復期リハ病棟退院後の調理動作に影響する要因の検討(第2報) A study of influences to the meal preparation for patients who discharged from kaifukuki rehabilitation ward	広島市立リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科 三郎丸朋美
PA-5-5	脳卒中・片麻痺患者に対する自転車を用いたアプローチに関する文献レビュー Literature review on bicycle-based Approach for stroke and hemiplegia patients	文京学院大学 保健医療技術学部作業療学科 関川 陽平
PA-5-6	重度記憶障害を呈した患者家族の介護負担感に着目し外来リハビリテーションを実施した 一例 Outpatient occupational therapy focusing on caregiver strain for patient with severe memory impairment: case report	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 空野 楓
PA-5-7	急性期脳卒中患者に対する積極的作業療法が効果的な患者特性の検証 Effectiveness of active occupational therapy on acute stroke patients ～ Identifying patient characteristics by interaction ～	神奈川県立保健福祉大学 作業療法学専攻 長山 洋史
PA-5-8	交代性外斜視と両側 MLF 症候群により複視を呈した症例への介入 Intervention in a patient with diplopia due to alternating exotropia and bilateral MLF syndrome	畿内会 岡波総合病院 リハビリテーション科 狩野 英明
PA-5-9	重度運動麻痺症例の急性期にミラーセラピー導入で麻痺側手指の使用頻度に影響を与える The introduction of mirror therapy in the acute phase of a case of severe paralysis affected the frequency of hand use	埼玉医科大学 国際医療センター リハビリテーションセンター 國府田 剛
PA-5-10	急性期脳卒中患者の上肢機能に対する運動機能評価(MESUPES)の妥当性の検討 To verify the validity of MESUPES for upper limb function in acute stroke patients	順天堂大学医学部附属練馬病院 リハビリテーション科 渡邊 健斗
PA-5-11	作業療法士が脳血管疾患障害者に対し急性期より作業を用いる意義 ～作業療法士の語りから～ The meaning of occupational therapists using occupation for acute stroke patients	済生会横浜市東部病院 丸岡ちひろ
PA-5-12	脳卒中急性期における上肢集中練習の効果 Effects of intensive practice on upper limb paralysis in the acute phase after stroke	医療法人深仁会手稲深仁会病院 リハビリテーション部 武藤 里奈

脳血管疾患等 6

9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場

PA-6-1	急性期脳卒中患者に対し、体幹を固定した修正CI療法を行った一事例 Modified CI therapy with trunk restraint for acute stroke patients : a case report	医療法人社団 脳健会 仙台東脳神経外科病院 リハビリテーション室 斎藤 郁矢
PA-6-2	目印のついた上衣と鏡を用いたFBで着衣動作が即時的に改善した症例 A case of immediate improvement in dressing behavior by feedback using a marked upper garment and a mirror	苑田会 花はたりリハビリテーション病院 リハビリテーション部 前澤 茜里

PA-6-3	発症から1年を経て、使わなかった手を使う手に ～再入院から外来でのOTの関わりを通して～ Disable hands to enable hands after a year from onset ～ Involvement with OT from outpatient from hospitalization ~	医療法人社団明芳会横浜旭中央総合病院 リハビリテーションセンター 中澤 拓巳
PA-6-4	失行症を中心とした高次脳機能障害により行為の障害を呈した症例に対する誤反応の軽減 に向けた介入：シングルケースデザイン Interventions to reduce misreactions in a case with apraxia centered symptoms and action disorder: a single case design	湘南慶育病院 リハビリテーション部 石川 弘明
PA-6-5	運動意図により生じる余剰幻肢の定量的および経時的評価の試み ～ミラーセラピーによる副作用の報告～ The trial of time series evaluation of supernumerary phantom limb caused by motor intention	藤井会リハビリテーション病院 牧田 爽椰
PA-6-6	能力と自己認識に乖離があるクライアントに対し意図的關係モデルの治療的モードを用い 関わった事例 A case of using the therapeutic mode of the IRM to engage a client with a gap between competence and self-awareness	IMS (イムス) グループ 医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科 朝倉 真末
PA-6-7	制作活動により精神的ストレスが軽減した乳がんを併発した脳梗塞患者の報告 A case report of a patient with stroke and breast cancer who reduced psychological stress by art-making activities	公立藤岡総合病院 リハビリテーション室 町田 知駿
PA-6-8	脳卒中後の仕事復帰を目指すために、OBP2.0を基盤としたMTDLPを活用したことによ り多職種連携が促進された実践報告 interprofessional practice report by Management Tool for Daily Life Performance based on OBP2.0 in stroke return to work	朝日大学病院 リハビリテーション部 渋谷 玲二
PA-6-9	脳卒中発症早期から作業に焦点を当てた実践の経験～2症例のケースシリーズ～ Experience of occupation focused practice from early onset of stroke ~ two case series ~	畿内会 岡波総合病院 リハビリテーション科 中森 崇
PA-6-10	Dot 末梢課題とドライブシミュレータとの相関関係についての検討 Analyze of correlation between Dot cancellation tasks and Driving Simulator	京都中部総合医療センター リハビリテーション科 小川 拓実
PA-6-11	統合失調症を持つ癒着性くも膜下炎患者に対し姿勢制御の観点から治療した経験 Posture control treatment for patient with schizophrenia and adhesive subarachnoid hemorrhage	東京女子医科大学附属足立医療センター リハビリテーション部 今井 光
PA-6-12	視覚性運動失調 (ataxie optique) を呈した事例に対し、課題指向型練習を中心とした介 入により上肢機能の改善につながった一例 Task-oriented approach improved upper limb function in a case of patient with ataxie optique	掛川市袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター 井上 信悟
<b>脳血管疾患等 7</b>		9月17日(土) 11:30 ~ 12:30 ポスター会場
PA-7-1	脳卒中患者におけるドライビングシミュレーターでの注視行動と注意機能との関連 ～アイトラッカーを用いた視線計測をもとに～ The relationship between fixation during driving simulation and attention in stroke ～ based on eye tracking ~	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 佐々木智宏
PA-7-2	重度上肢麻痺患者の更衣動作獲得のために自助具が有効であった症例 A case study of the effectiveness of a self-help device in helping a severe upper-extremity paresis to change clothes	医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーション部 福原みなみ
PA-7-3	脳卒中ドライバーのスクリーニング評価実施前基準としての注意機能検査の検討 Examination of attentional function test as a pre-screening evaluation standard for stroke drivers	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 診療技術部 リハビリテーション科 渡邊 郁人
PA-7-4	後天性脳損傷後に自動車運転を中断した当事者と家族の経験 ～質的研究 Meta-study を用いて～ Experiences of Patients and Families Who ceased Driving After Acquired Brain Injury ～ A Meta-study of qualitative study ~	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 作業療法科、東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程 那須 識徳
PA-7-5	ドライビングシミュレータを用いた自動車運転評価における作業療法士の観察視点 ～インタビューによる探索的研究～ Observational Viewpoints of Occupational Therapists in Car Driving Using a Driving Simulator ~ An Exploratory Research ~	公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター 機能回復療法部作業療法科、 秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻 リハビリ テーション科学領域 作業療法学分野 小笠原未久
PA-7-6	ドライブシミュレーターにて境界域であったが運転再開となった一例 A case of Boundary on Drive simulator	京都中部総合医療センター リハビリテーション科 松本 希望
PA-7-7	ドライビングシミュレーター中の視線の工学的解析と作業療法への活用 Technological analysis of the eyesight and utilization to occupational therapy in the driving simulator	東京都リハビリテーション病院 作業療法科 高井真希子
PA-7-8	右大脳半球損傷患者の実車運転中の一時停止場面における右左折での視線動態 ～ unmatched case control study による運転可否問の比較～ Gaze dynamics during turn at a stop intersection in car driving for right hemisphere damaged patients	山形県立保健医療大学 作業療法学科、 旧所属) 新潟医療福祉大学 作業療法学科 外川 佑
PA-7-9	シミュレーター評価を複数回実施した際の変化量と運転再開の転帰との関係性 Relation between Change of Multiple Assessment in Simulator and Outcome of Resuming Driving	公立陶生病院 中央リハビリテーション部 作業療法室 久保田純平
PA-7-10	Michon による運転行動モデルを用いた自動車運転訓練 Driving training based on Michon model of driving behavior	浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 伊奈 杏都
PA-7-11	重度運動麻痺、失行を呈する患者に課題指向型アプローチを提供し復職に至った事例 A case of returning to work by providing a task-oriented approach to patients with severe motor paralysis and apraxia	埼玉石心会病院 リハビリテーション部 糸日谷 誠



PA-7-12	急性散在性脳脊髄炎を呈した症例が自身の在り方を模索し退院するまでの過程 ～複線径路等至性アプローチの分析～ Process of searching for own way and discharging from the hospital for a patient with ADEM ~ Analysis of TEA ~	函館市医師会看護・リハビリテーション学院 作業療法学科 東京都立大学健康福祉学部 作業療法学科 菊池 祐介
<b>脳血管疾患等 8</b>		9月17日(土) 12:30～13:30 ポスター会場
PA-8-1	日本の脳卒中者研究において社会参加はどのように測定されてきたか How has social participation of Japanese stroke survivors been measured in research	医療法人社団健輪会ふれあい平塚ホスピタル, 介護付有料老人ホーム湘南ふれあいの園平塚 重田 優子
PA-8-2	上肢機能改善と薬物療法により社会的行動障害の改善がみられた一事例 A case of improvement in social behavioral disorder by improving upper limb function and drug therapy	上伊那生協病院 回復期リハビリテーション課 橋場 美樹
PA-8-3	外来作業療法における小児片麻痺患者を対象とした修正版 CI 療法の有効性について ～ケースシリーズ～ Effectiveness of modified CI therapy for pediatric hemiplegic patients in outpatient occupational therapy ~ case series ~	千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部 川原 佑亮
PA-8-4	回復期リハビリテーション病棟退院時の脳卒中後麻痺側上肢における整容動作遂行可否の事後確率にもとづく予測精度の検証 Investigation of predictability regarding performance of grooming by the affected arm at the discharge from a hospital.	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 作業療法科 松岡 耕史
PA-8-5	反転映像を用いたメンタルプラクティスと機能的電気刺激の併用で麻痺側上肢の機能向上を認めた一症例 Using inverse video presentation mental practice and functional electrical stimulation for paralyzed upper limb	一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院 藤原 謙吾
PA-8-6	末梢神経刺激と課題志向型練習の併用により箸操作の再獲得に至った一症例 A Case of Reacquisition of Chopstick Manipulation by Peripheral Nerve Stimulation and Task-Oriented Practice	医療法人横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 深谷夏々子
PA-8-7	実動作訓練とリーチ訓練が食事動作自立に至った右片麻痺の一例 A case of right hemiplegia in which practical training and reach training led to independence in eating activities	社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院 リハビリテーション部 岸本 真奈
PA-8-8	視空間認知障害を呈した脳卒中患者に対し感覚フィードバックを用いたリーチ練習により食事自立に至った症例 Reaching practice using sensory feedback for stroke patients with visuospatial cognitive impairment ~ Focus on eating behavior ~	東京都済生会中央病院 リハビリテーション技術科 栗原 拓海
PA-8-9	促進反復療法により上肢機能と物品操作、日常生活動作が改善した頸椎性脊髄症の一例 The effects of RFE for cervical spondylotic myelopathy with article operation and daily living: A case report	恒心会おぐら病院 リハビリテーション部 甲斐 惇平
PA-8-10	回復期リハビリテーション病棟における多職種連携が脳卒中患者の日常生活活動に及ぼす影響 Effect of interprofessional collaboration in a recovery rehabilitation ward on ADL of stroke patients	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 池田 公平
PA-8-11	麻痺肢の使用頻度が低下した症例に対するゲームを用いた介入 Game-based intervention for patient with reduced use of paralyzed limbs	医療法人穂翔会村田病院リハビリテーション部 藤原 瑠平
PA-8-12	退院支援の採り方で家族仲の悪化があったが想いを汲み取った事で事例も納得した退院に繋がった経験 The experience of supporting the patient feeling in the face of family conflicts during discharge support.	IMS グループ イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 吉村 由香
<b>脳血管疾患等 9</b>		9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場
PA-9-1	麻痺側上肢を早期より ADL 場面で使用する重要性を理解し実践したことで、畑仕事やゴルフの再獲得へ繋がった症例 This is a case where the early use of a paralyzed upper limb in ADLs led to the reacquisition of a hobby.	公立河北中央病院 リハビリテーション科 森 咲香
PA-9-2	地域在住脳損傷患者の自動車運転中止後の外出頻度の変化とその要因の検討 Study on the factors of lifestyle changes after giving up driving caused by the brain dysfunction in the community	社会医療法人シマダ嶋田病院 リハビリテーション科, 国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻 末次 亮平
PA-9-3	運動麻痺、運動失調を呈した患者へ運転再開支援を実施し自動車運転再開となった一例 An example of the ability to driving a vehicle for hemiplegia and ataxia patient.	前橋赤十字病院 リハビリテーション科 上村 怜奈
PA-9-4	脳血管障害片麻痺者に対するオンラインでのスピリチュアリティ評価の試み An Attempt to measure spirituality by online for client with post-cerebrovascular accident	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部作業療法学科 坂本 俊夫
PA-9-5	若年性脳血管障害に対する modified CI 療法の実践と効果 Practice and effects of modified CI therapy for juvenile cerebrovascular disorders	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科 清水 雅裕
PA-9-6	脳卒中により手指重度麻痺を呈した患者に対して上肢装具使用にて修正 CI 療法を実施した一症例 A case of modified CI therapy using an upper limb orthotic device in a patient with severe finger paralysis after stroke	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 三宅 保志
PA-9-7	テント下病変における高次脳機能障害と Cerebral Microbleeds との関連 Association of higher brain dysfunction and cerebral microbleeds in infratentorial lesion	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室 前田 亮介

PA-9-8	脳卒中上肢麻痺に対する ReoGo-J 併用効果に関連する要因の検討 Effect of using ReoGo-J in combination with conventional occupational therapy for stroke upper limb paralysis	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 渡部 清寛
PA-9-9	回復期脳卒中上肢麻痺に対する ReoGo-J の併用効果の検討 Effect of using ReoGo-J in combination with conventional occupational therapy for sub-acute stroke upper limb paralysis	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 木村真理恵
PA-9-10	胃瘻を用いた経管栄養の自己管理を目指した両片麻痺症例 A case of bilateral hemiplegia aiming at self-management of tube feeding via a gastrostoma	医療法人穂翔会村田病院 リハビリテーション部 寺田 萌
PA-9-11	脳血管障害患者の回復期施設における上肢運動機能回復: Fugl-Meyer assessment における時間的推移 Arm function after stroke: the Fugl-Meyer assessment of motor recovery in a sub-acute rehabilitation facility	北里大学病院 リハビリテーション部 田口 晴貴
PA-9-12	回復期における被殻出血と視床出血の退院時機能予後に影響を及ぼす阻害因子の検討 Clinical factors of functional outcome of patients with putaminal and thalamic hemorrhage in rehabilitation wards	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 小原 明季
<b>脳血管疾患等 10</b>		9月17日(土) 14:30 ~ 15:30 ポスター会場
PA-10-1	OTIPM に基づいた急性期病院からの短期復職支援の一例 Early intervention of return to work in acute care hospital based on OTIPM: a case report	白鳥大学 保健医療学部 作業療法学科 廣瀬 里穂
PA-10-2	自動車運転評価における神経心理学的検査の結果, 及び評価実施時期が運転再開可否に及ぼす影響 Effects of neuropsychological test results and the timing of the evaluation on whether to resume driving	医療法人深仁会 手稲深仁会病院 リハビリテーション部 石田 早希
PA-10-3	くも膜下出血後の脳梗塞により多様な症状を認め食事動作獲得に難渋した症例 A case of cerebral infarction after subarachnoid hemorrhage with a variety of symptoms difficulty in eating movements	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 紀 皓大
PA-10-4	歯科医への復職を目指した運動失調を呈する右片麻痺患者の治療経験 Treatment experience of a right hemiplegic patient with ataxia who is trying to return to work as a dentist	医療法人社団 心和我 成田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 早坂 智也
PA-10-5	「ジャンプが読みたい」という思いに着目した関わり ～両側重度運動麻痺から食事自立に向けて～ Relationships focusing on the desire to read jumps ～ From bilateral severe motor paralysis to dietary independence ~	一般社団法人巨樹の会 蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 遠藤 拓海
PA-10-6	左橋梗塞発症後に右大脳半球の再発作を認めた症例の右上肢片麻痺における急激な機能改善 Rapid recovery in right upper limb hemiplegia in a case with reattack of the right hemisphere after left pontine infarct	社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 リハビリ テーション部, 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 竹内 利貴
PA-10-7	回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者における入院中の脳卒中後不安の経過と増悪 に関連する要因の検討 An investigation of the course of post-stroke anxiety in stroke patients of a rehabilitation ward	安曇野赤十字病院 鈴木 章仁
PA-10-8	脳卒中後の片麻痺患者が作業に麻痺手を使用するに至った心理的要因の検討 Psychological factors that led to the use of paralyzed hands in work in hemiplegic patients after stroke	医療法人ひまわり会 札幌病院 リハビリテーション療法部 広瀬 大紀
PA-10-9	脳卒中後うつ状態に対して作業療法カウンセリングを行いつつ状態が改善した一例 An example of improvement in depression after occupational therapy counseling for post-stroke depression	社会医療法人社団健生会 健生会ふれあい相互病院 リハビリテーション科 菅野 幸治
PA-10-10	脳卒中患者の患者報告アウトカムに関する文献研究 Literature review on Patient-Reported Outcomes in Japanese stroke patients	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科博士後期課程 林 慎也
PA-10-11	女性の脳卒中者がファッションショーへの参加をきっかけに活動を広げていく心理プロセス ～複線径路等至性モデル (TEM) による分析～ Psychological process of female stroke patients expanding her activities through participation in a fashion show.	神奈川県立保健福祉大学大学院博士前期課程, イムス横浜野場脳神経外科病院 金原衣理子
PA-10-12	片麻痺・高次脳機能障害を呈した若年脳卒中患者の復学へ向けた支援 ～上肢機能に着目した介入～ Support for young stroke patients with hemiplegia and higher brain dysfunction to return to school	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 赤木 詩野
<b>脳血管疾患等 11</b>		9月17日(土) 15:30 ~ 16:30 ポスター会場
PA-11-1	脳卒中患者における, 抑うつ症状と意味のある作業の満足度, 自己効力感との関連 Relationship between depressive symptoms, satisfaction with meaningful occupation, and self-efficacy for stroke patients	医療法人新成医会 総合リハビリテーションセン ター・みどり病院 リハビリテーション科, 新潟医療福祉大学大学院 保健学専攻 作業療法学分野 本間 健太
PA-11-2	脳卒中者のトイレ動作の自立度に関連する患者の要因はなにか～文献レビュー～ What factors are related with toilet independence in stroke patients?	神奈川県立保健福祉大学大学院博士課程前期, 横須賀市立うまち病院 佐藤 慶一
PA-11-3	急性期脳卒中患者の日常生活活動改善と異なる精神心理面の経過 The different trajectories between psychological conditions and activities of daily living in acute stroke patients	沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門 木本 菜佑



PA-11-4	脳卒中後回復期において修正CI療法を実施し、退院後半年にわたり麻痺手の使用行動の改善がみとめられた一症例 Long term effect of occupational therapy with modified CI therapy on a hemiplegic hand in a subacute stroke patient	一般財団法人黎明郷介護老人保健施設つがる 目黒 佑樹
PA-11-5	課題指向型練習後に上肢機能の改善を認めるも麻痺手使用の向上が乏しかった脳卒中症例～停滞要因の考察～ A stroke patient who showed good improvement in hand function but poor improvement in affected arm use	医療法人 友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 原 健介
PA-11-6	性格と認知特性に応じた日誌法の工夫による麻痺手使用の促進：症例報告 Encouraging the affected arm use by using diary methods tailored to personality and cognitive properties: a case report.	医療法人 友誼会 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 本田 朝花
PA-11-7	回復期脳卒中患者のADL自己評価と機能予後との関連 ADL self-assessment and functional improvement in stroke patients in a Kaifukuki rehabilitation ward	メディカルコート八戸西病院 リハビリテーション部 金堀友紀子
PA-11-8	脳卒中高齢者の椅子座位上の仙骨座り姿勢が上肢機能に与える影響 Influence of Sacral Positions during Chair Sitting to Upper Limb Function among Elderly Patients with Stroke	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士後期課程 斎藤 梨菜
PA-11-9	80歳以上の脳卒中患者へのリハビリテーション量とADL能力向上の関連性 The relationship between the amount of rehabilitation and improvement of ADL in stroke patients over 80 years old	公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 リハビリテーション部 石森 卓矢
PA-11-10	意味のある作業を考慮した書字課題によるCI療法 ～麻痺側上肢の使用頻度が向上した一症例～ CI Therapy with Writing Tasks Considering Meaningful Work ～A case of increased use of the paralyzed side of the upper limb～	令和リハビリテーション病院 リハビリテーション療法科 大門 俊貴
PA-11-11	脳卒中重度片麻痺患者の立位訓練における肩関節装具の導入基準の検討 ～重心動揺検査を用いた予備調査～ Examination of introduction criteria for shoulder orthotics in standing training for severe hemiplegic stroke	社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセン ター リハビリテーション部 作業療法科 荒 洋輔
PA-11-12	脳卒中後の上肢機能と病棟生活での麻痺手使用の“mismatch”に関する検討：事例報告 Mismatch between daily arm use and objective improvements in upper limb function after stroke: a case report	医療法人 錦秀会 阪和記念病院 リハビリテーション部 石根 幹久

## PB 心大血管疾患

### 心大血管疾患 1

9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PB-1-1	重症大動脈弁狭窄症の一症例～認知機能面の低下を伴う患者の退院支援～ A case of severe aortic stenosis ~ Support for discharge of patients with cognitive decline ~	特定医療法人 東筑会 東筑病院リハビリテーション課 須崎 優介
PB-1-2	心臓血管外科領域における術後せん妄に対してICUから開始するADL訓練の効果検証 Effects of ADL training postoperatively started in intensive care units on delirium after cardiovascular surgery	医療法人 徳洲会 福岡徳洲会病院 リハビリテーション科 坂下 竜也
PB-1-3	急性心筋梗塞発症後、ARDS・肺水腫を発症し長期人工呼吸器管理となった症例に対するICUからの作業療法経験 Experience from ICU for a case of ARDS / pulmonary edema after the onset of AMI and long-term ventilator management	松山赤十字病院 リハビリテーション科 川崎祐太郎
PB-1-4	急性期腹部大動脈瘤破裂後患者に対して意味のある作業のバドミントンを導入した一事例 A case study of introducing a meaningful task of badminton to a patient after acute abdominal aortic aneurysm rupture	千葉西総合病院 リハビリテーション室 平山 裕太
PB-1-5	活動量の管理が自宅退院への一助になった心不全患者 Heart failure patients whose activity management helped them to be discharged home.	社会医療法人 輝城会 沼田脳神経外科循環器科病院 作業療法課、社会医療法人 輝城会 訪問看護ステーションまつかぜ 松本 哲朗

### 心大血管疾患 2

9月17日(土) 12:30～13:30 ポスター会場

PB-2-1	家事再獲得を目指した初発心不全患者への作業療法 ～心臓リハビリテーションチームにおける作業療法の役割～ Occupational therapy for patients with heart failure to reacquire housework ～The Role of Occupational Therapy in the Team～	地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター：機能訓練部 佐藤 直美
PB-2-2	心臓大血管手術後高齢者の術前フレイルと術後ADL能力の改善が予後に及ぼす影響 Prognostic impact of preoperative frailty and postoperative ADL in elderly patients after cardiovascular surgery	信州大学医学部保健学科、 信州大学医学部附属病院 佐藤 正彬
PB-2-3	大動脈解離術後に脊髄梗塞を発症し不全対麻痺を呈した症例 ～急性期病院における多職種支援～ A case of spinal cord infarction after surgery for aortic dissection ～Multidisciplinary support in an acute care hospital～	長崎大学病院 高橋 弘樹
PB-2-4	大腿義足の装着動作の再獲得に至った胸部大動脈瘤術後に心停止を呈した1症例 Reacquisition of the wearing of the above-knee prosthesis in a case of cardiac arrest after cardiac surgery	東邦大学医療センター大森病院 リハビリテーション科 杉澤 樹
PB-2-5	心疾患症例に対する最適運動強度に基づいた自己管理支援と1年後の経過について Self-management support based on optimal exercise intensity for patient with cardiac disease and progress after 1 year	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 阿部真理奈

PC 呼吸器疾患

呼吸器疾患 1 9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場

PC-1-1	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する作業療法での関わりと課題の報告 Report on occupational therapy involvement and challenges for new coronavirus infections (COVID-19)	川崎市立川崎病院 リハビリテーション科 門脇 優
PC-1-2	COVID-19 患者の嗅覚と抑うつ状態との関連性 ～回復期リハビリテーション病棟に入院する 1 例の重症患者に対する検査結果から～ Relationship between the sense of smell and depression in the patient with COVID-19	東京ちどり病院, 東京都立大学大学院博士後期課程 川田 佳央
PC-1-3	COVID-19 罹患後症状と Post intensive care syndrome を呈した症例に対する作業療法 ～呼吸困難感に対する介入～ Occupational therapy for dyspnea resulted from post-COVID-19 conditions and post intensive care syndrome: A case report	川崎医科大学総合医療センター リハビリテーションセンター 守山 峻
PC-1-4	統合失調症の既往歴がある COVID-19 患者に対し自己管理を行い、家事再開を行った 1 事例 A case of self-management and resumption of housework in a COVID-19 patient with a history of schizophrenia	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 松浦 聖
PC-1-5	重症 COVID-19 患者への作業療法介入の経験 My experience of intervening in occupational therapy for severe COVID-19 patients	栗原市立栗原中央病院 リハビリテーション科 加藤 健人

呼吸器疾患 2 9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PC-2-1	くも膜下出血を合併した COVID-19 患者に対する急性期作業療法の報告 Report of acute occupational therapy for COVID-19 patients with subarachnoid hemorrhage	済生会福岡総合病院 リハビリテーション部 石丸 珠江
PC-2-2	成人終末期がん患者への呼吸リハビリテーションを行った一事例 A case of respiratory rehabilitation for terminal cancer patient in adulthood	地方独立行政法人 那覇市立病院 リハビリテーション室 玉城 希
PC-2-3	当院における呼吸器疾患患者の FIM 利得に影響する因子の検討 Factors affecting FIM gain in patients with respiratory diseases in our hospital	さぬき市民病院 リハビリテーション技術科 藤嶋 孝次
PC-2-4	長期集中治療後、積極的作業療法介入によって日常生活動作自立に至った重症新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 後患者の一例 Occupational therapy for a patient with post-COVID-19 after long-term intensive care: a case report	東海大学医学部付属病院 今林 千尋
PC-2-5	日常との繋がりを取り戻すことで不安やストレスの改善を認めた事例 ～ COVID-19 回復後に重症肺炎を発症した患者と ICU での作業療法～ Reduce anxiety and stress by remembering ordinary life ～ Occupational therapy in the ICU for COVID-19 survivors ~	山口県立総合医療センター リハビリテーション科 角上 勇作

呼吸器疾患 3 9月17日(土) 12:30～13:30 ポスター会場

PC-3-1	短期的な肺炎再発における WRAP の導入がその後の再発予防に有効であった 1 例 A case of short-term pneumonia recurrence that induction of WRAP was effective	公益財団法人 筑波メディカルセンター病院 リハビリテーション療法科 廣瀬 友紀
PC-3-2	呼吸器疾患患者に対する作業選択意思決定支援ソフト (ADOC) を用いた目標の傾向調査 Trend survey of goals using ADOC for patients with respiratory diseases	小山記念病院 リハビリテーション科 小松崎真澄
PC-3-3	呼吸器疾患に対する訪問作業療法の実施状況 Implementation status of home occupational therapy for respiratory diseases	帝京平成大学 健康メディカル学部作業療法学科 宇佐美好洋
PC-3-4	間質性肺炎と心不全増悪を合併した事例に対する回復期での作業療法の経験 experience in convalescent occupational therapy for cases of complications of interstitial pneumonia and heart failure	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院 臨床教育研究センター 座覇 政成
PC-3-5	呼吸困難感により活動意欲が低下したクライアントに対し、認知行動療法を応用した作業療法を実践した 1 症例 The case of occupational therapy using CBT for a patient who had deterioration in physical activity due to dyspnea	昭和大学病院 リハビリテーション室 宮崎加奈子

PD 運動器疾患

運動器疾患 1 9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PD-1-1	人工肘関節置患者に対し術後早期から ADOC-H を用いた実践経験 Practical experience using ADOC-H from the early postoperative period for patients with artificial elbow joints	医療法人社団友志会石橋総合病院 リハビリテーション科 清永 健治
PD-1-2	橈骨遠位端骨折患者の患側上肢の日常使用を促すためのアプリケーションツール (ADOC-DRF) の開発 Development of a decision-aid to promote using of hand in real-life activities for patients with distal radius fractures	東京工科大学 医療保健学部リハビリテーション学科作業療法専攻 大野 勲太
PD-1-3	鎖骨骨折患者に対して ADOC-H を使用した作業を基盤とした実践報告 Occupation-based practice for a patient with clavicle fracture using the ADOC-H	医療法人社団 慶仁会 川崎病院 リハビリテーション科 上田 祐二
PD-1-4	Effect of the therapeutic use of ultrasound on shoulder range of motion was examined by Tau-U analysis ~ a case study ~	Graduate School of Comprehensive Rehabilitation, Osaka Prefecture University, Kyowakai Medical Corporation Kyowakai Hospital Yoichiro Horikawa



PD-1-5	TFCC 損傷, 母指 CM 関節症を呈した症例に対してスプリント療法の効果 Effectiveness of splint therapy for patients with TFCC lesions and osteoarthritis of the thumb carpometacarpal joint	東京品川病院 西山 仁
PD-1-6	先天性握り母指症に対する作業療法介入の 1 例 A Case study of Occupational Therapy for Congenital Clapsed Thumb	JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 リハビリテーション科 笹村 司
<b>運動器疾患 2</b> 9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場		
PD-2-1	母指ばね指に対する IP 関節 Blocking splint の効果 Effect of IP joint blocking splint on trigger thumb	篠路整形外科リハビリテーション科 林 弘樹
PD-2-2	多職種協働により在宅復帰に至った事例 A case of discharged to home by multiple team approach	JA 静岡厚生連 遠州病院 黒飛 陽平
PD-2-3	トイレ動作に対する恐怖心と羞恥心の消失により失禁が改善した症例 ～清拭動作を通じた関わり～ Incontinence improved by the disappearance of fear and shame for toilets ～ Relationship through cleaning operation ～	蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 幸野 聡
PD-2-4	近位手根列切除術を施行された 2 症例に対する作業療法 Occupational therapy for two patients who underwent proximal row carpectomy	社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院 リハビリテーション部 早崎 涼太
PD-2-5	当院における母指 CM 関節症第一中手骨楔状骨切り術後ハンドセラピープロトコルの検討 と課題 Examination and issues of hand therapy protocol for Osteoarthritis of the thumb CM joint after AOO in our hospital	浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科 藤村 裕介
PD-2-6	作業を通じた精神機能の安定から離床促進が促された症例～興味の拡大に向けた関わり～ An example of promoting getting out of bed due to mental stability due to work ～ Involvement to expand interest ～	蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 佐藤 駿伍
<b>運動器疾患 3</b> 9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場		
PD-3-1	プロフルート奏者の母指 MP 関節部痛を軽減させた IP 関節スプリント Splint on thumb interphalangeal joint induced less metacarpophalangeal joint pain with professional flutist	土谷総合病院 整形外科リハビリテーション室 宮本 賢吾
PD-3-2	高齢大腿切断者の在宅復帰に向けた作業療法士の役割 ～義足適応とならなかった症例を通して～ The role of an occupational therapist to return home .for elderly trans femoral amputation	特定医療法人 博仁会 第一病院 リハビリテーション室 村上 奈保
PD-3-3	脊椎圧迫骨折患者の在院日数長期化に関わる要因 Factors associated with prolonged hospital stay in patients with spinal compression fractures	ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 新里 有未
PD-3-4	おしゃべりをして装うことで自分らしさを取り戻した大腿骨転子部骨折の一事例 A case of FTF in which the patient regained sense of self by dressing up	永寿総合病院柳橋分院 リハビリテーション科 島崎夕佳菜
PD-3-5	回復期リハビリテーション病棟から在宅退院後に ADL 能力が向上する運動器疾患患者の特徴 Characteristics of patients with musculoskeletal diseases whose ADL abilities improved after discharge to home	富岡地域医療企業団 公立七日市病院 リハビリテーション部 山浦 卓哉
PD-3-6	整形外科疾患患者における公共交通機関利用に必要な諸動作の難易度 Difficulty of the transportation-related tasks in orthopedic patients	東京湾岸リハビリテーション病院 細瀬 綾菜
<b>運動器疾患 4</b> 9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場		
PD-4-1	目標活動の明確化により在宅生活に至った多発性末梢神経障害の症例 ～全身筋力低下・症状進行・不安への対応～ Neuropathy case that clarified activity and became home life ～ Consideration for muscle weakness progression and anxiety ～	関南病院 山崎 克枝
PD-4-2	「何もできない」と消極的な事例が作業活動を通して意欲向上し新たな目標の構築ができた 一例 Examples of negative cases that have increased motivation and built new goals through work activities	登別すずらん病院 リハビリテーション科 越後希那
PD-4-3	良好な ROM が獲得された肘関節 Terrible triad injury の一例 Case of injury to terrible triad injury of the elbow joint with good ROM	社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院 リハビリテーション部 斉藤 夢乃
PD-4-4	小指 PIP 関節掌側脱臼骨折例に対する作業療法実践 Occupational therapy practice for patients with volar dislocation of the little finger PIP joint	健和会大手町病院 急性期リハビリテーション科 大草 直樹
PD-4-5	手指切断患者への作業療法～義指の動作練習による目的動作を獲得した一例～ Occupational Therapy for fingers amputation ～ A case of acquiring a target movement by practicing with a artificial finger ～	淵野辺総合病院 リハビリテーション室 松井 洋鷹
<b>運動器疾患 5</b> 9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PD-5-1	ADL・IADL 介入促進のための TKA・THA 版院内活動表の作成とその実用性 TKA/THA Postoperative Patients Check list of activities for inpatients and it' s practical use	国際医療福祉大学成田病院 リハビリテーション技術部 白砂 寛基
PD-5-2	大腿骨転子部骨折後にせん妄を呈した事例に対する急性期作業療法の役割 The role of acute phase occupational therapy for a patient with delirium after femoral metaphyseal fracture	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 亀井 勇



PD-5-3	Virtual Reality を用いた筋電義手操作プログラムの開発 ～筋電位情報を付加した運動観察の効果～ Development of a myoelectric prosthesis operation program using VR ～ Effects of action observation with added EMG ～	川崎医療福祉大学 作業療法学科 吉村 学
PD-5-4	肩腱板修復術後患者に対して Hand20 を使用しての検討 An Examination the best use of Hand20 for rotator cuff repair	市立甲府病院リハビリテーション室 青山 俊喜
PD-5-5	転倒により骨折した高齢者における運動イメージ能力の特徴～健康成人との比較～ Characteristics of motor imagery ability in elderly patients with fractures due to fall ～ Comparison with healthy adults ～	国際医療福祉大学塩谷病院 リハビリテーション室、 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 坂主 成美
<b>運動器疾患 6</b>		9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場
PD-6-1	腰椎圧迫骨折後の腰部痛が遷延し難渋した一例～鎮痛薬と抗うつ薬～ prolonged and difficult lumbar back pain after compression fracture of the lumbar spine ～ Analgesics and antidepressants ～	新生会病院 リハビリテーション科 佐藤 有真
PD-6-2	患手の疼痛恐怖を克服し着替えが可能になった症例 ～作業遂行 6 因子分析ツール (OPAT6) を用いて認識に焦点を当てて～ Case that overcomes pain fear and enables clothing ～ by Occupational Performance Analysis Tool focusing on recognition ～	一宮西病院 リハビリテーション科 木村 成男
PD-6-3	手根管症候群術後の手指機能予後に対する訓練期間の検討 A study of training period on the prognosis of hand function after carpal tunnel syndrome surgery	社会医療法人信愛会 脳生脳神経外科病院 リハビリテーション科 柳川 明義
PD-6-4	関節リウマチに伴う手指伸筋腱皮下断裂例に対し ICAM 法の導入と動作指導を行った一例 A case of a hand extensor tendon tear associated with rheumatoid arthritis : utilization of ICAM and movement training	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 リハビリテーション室 阪本 匠太
PD-6-5	ジストニア型書痙に対する感覚・運動訓練の効果 Effect of sensory and motor training on writer's cramp	岩手県立磐井病院 大和 吉郎
<b>運動器疾患 7</b>		9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場
PD-7-1	頸椎脱臼骨折後の上肢挙上障害の回復に、CoCoreeAR2 を用いた自主訓練が有用であった 1 例 A case of recovery through training using AR2 from an upper limb elevation disorder following a cervical fracture	医療法人社団喜峰会 東海記念病院 リハビリテーション部 船戸 敦
PD-7-2	高齢者上腕骨近位端骨折の積極的保存療法を再考する Reconsideration of aggressive conservative therapy for proximal humeral fracture of elderly patients	独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの 医療センター リハビリテーション科 向井 知里
PD-7-3	変形性股関節症に対する人工股関節全置換術後に脱臼を呈した原因の一考察 A study of the causes of dislocation after total hip replacement for osteoarthritis of the hip	山口県済生会山口総合病院 リハビリテーション部 小田 隆史
PD-7-4	介入に難渋した急性期四肢末梢虚血壊死患者に対するクリニカルリズニングの変化 ～作業療法の振り返り～ Changes in Clinical Reasoning for Patients with Peripheral Necrosis ～ Reflection on Occupational Therapy ～	国立成育医療研究センター リハビリテーション科、 東京医科歯科大学病院 リハビリテーション部 佐野 雛子
PD-7-5	腰部脊椎疾患における痛みと精神・心理面に関連する要因の検討 A study of factors related to pain and mental psychological aspects in lumbar spinal disorders	東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法科 高橋 啓
<b>運動器疾患 8</b>		9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場
PD-8-1	全人工膝関節置換術後症例に対する、目標共有を取り入れた作業療法と触圧覚識別課題の 併用効果～術後遷延痛予防に向けた取り組み～ Effects of Occupational Therapy with Shared Goals and Tactile Pressure Discrimination Task on Total Knee Arthroplasty	奈良県総合リハビリテーションセンター 福井 美晴
PD-8-2	慢性疼痛のある手指外傷患者に対しミラーセラピーを実施した症例報告 Case report of mirror therapy for patient with chronic pain caused by finger trauma	国立病院機構 京都医療センター 廣尾 千晴
PD-8-3	浮腫の遷延により関節可動域改善に難渋した橈骨遠位端骨折の 1 症例 A case of distal radius fracture that made it difficult to improve range of motion due to prolonged edema	市立宇和島病院 リハビリテーション科 河野 佑亮
PD-8-4	手根管症候群における母指回内角度の低下がピンチ力に与える影響 Effect of Decreased of Thumb Pronation angle on Pinch Strength in Carpal Tunnel Syndrome	地方独立行政法人 徳島県鳴門病院 リハビリテーション技術科 山家 恭平
PD-8-5	Hybrid suspensionplasty を施行後に 6 か月間の作業療法を実施した母指 CM 関節症患者 者における DASH score の検討 DASH score in patients followed by 6 months of occupational therapy after Hybrid suspensionplasty	昭和大学横浜市北部病院 リハビリテーション室 佐野 太基
<b>運動器疾患 9</b>		9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場
PD-9-1	ローラー損傷による重度両手外傷症例に対する COPM を用いた作業療法 ～作業遂行に関する目標設定が実用手の獲得につながった 1 例～ A Case Report about Improving to Practical Hands by Setting a Goal Using COPM for Severe Bilateral Hand Trauma.	東京慈恵会医科大学附属柏病院 リハビリテーション科 佐橋 郁美



PD-9-2	C5 レベル左腕神経叢損傷に対し神経移行術を施行した一症例 ～ Ope 後 9 か月間の外来作業療法を通して～ A case of C5 brachial plexus injury treated with nerve transfers ～ Through outpatient OT for 9 months after surgery ～	近畿大学病院 リハビリテーション部 端 大輝
PD-9-3	橈骨遠位端骨折の作業療法介入と評価の傾向について～過去 5 年間の文献レビュー～ Occupational Therapy of Distal Radius Fractures Interventions and Evaluations ～ Literature Review for the Last 5 Years ～	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所 博士前期課程、独立行政法人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 中央リハビリテーション部 井上 由貴
PD-9-4	橈骨遠位端骨折における年齢および握力と DASH の傾向と特徴 Effects of age and grip strength on DASH for Distal Radius Fractures	東大和病院 リハビリテーション科 野島 美希
PD-9-5	橈骨遠位端骨折術後患者の握力と可動域の関係性 Relationship between grip strength and range of motion in postoperative patients with distal radius fractures	社会医療法人愛宣会 ひたち医療センター リハビリテーション療法科 佐藤 潤一

**運動器疾患 10** 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場

PD-10-1	重度の橈骨遠位端開放骨折を受傷したのち、復職まで至った事例の介入経過 Intervention course of a case of returning to work after suffering a severe distal radius fracture	社会医療法人 康陽会 中嶋病院 リハビリテーション科 水野 智規
PD-10-2	橈骨遠位端骨折術後の外固定期間～関節内骨折と関節外骨折の術後成績について～ external fixation duration after distal radius fracture. ～ comparison of outcomes intra and extra-articular fractures ～	医療法人財団 荻窪病院 リハビリテーション室 長谷川夏美
PD-10-3	重度感覚障害を伴う頸椎症性脊髄症症例に対する視覚フィードバックを用いたリハビリ テーション介入 Training of object manipulation using visual feedback for severe sensory impairment with cervical spondylotic myelopathy	国立病院機構仙台西多賀病院、 東北大学大学院医学系研究科 高次機能障害学分野 細川 大瑛
PD-10-4	上位頸椎固定術後患者への自宅生活を想定した術前・後の作業療法 Preoperative and postoperative occupational therapy assuming home life for patients after upper cervical spine fusion	社会医療法人 抱生会 丸の内病院 リハビリテーション部 吉岡 洋樹
PD-10-5	意味のある作業に内在する価値に注目した作業形態の変更により病前の日課を再獲得した 頸髄損傷後の一例 Focusing to value of meaningful occupation led to occupation acquisition: a case following Cervical spinal cord injury	医療法人社団健育会なりま健育会病院 リハビリテーション部 松本 優貴

**PE 神経難病**

**神経難病 1** 9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PE-1-1	日常生活の振り返りにより良好な家族関係を再獲得できた視神経脊髄炎患者の作業療法報告 Occupational therapy for a patient with neuromyelitis optica who regained good family relations by reviewing daily life.	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 大八木陽女
PE-1-2	神経難病の QOL 改善における一考察～ ALS 患者に対して SEQoL を用いた経験～ A Study on QOL Improvement in Neurological Disorders ～ Experience with SEQoL for ALS patients ～	島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 森脇 繁登
PE-1-3	ギラン・バレー症候群を呈し全介助の状態から巧緻動作獲得まで至った事例 A case of Guillain-Barre syndrome that was able to perform everything from required assistance to everything	上尾中央総合病院 診療技術部リハビリテーション技術科 田村 彩織
PE-1-4	急性期病棟での作業療法の役割 The role of occupational therapy in the acute care ward	北海道脳神経外科記念病院 豊村 龍人
PE-1-5	手指機能障害に対して装具療法を用いた重症ギランバレー症候群の 1 例 A case of severe Guillain-Barré syndrome treated with orthotic therapy for hand dysfunction	京都民医連あすかい病院 殿内 優斗

**神経難病 2** 9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PE-2-1	重度の機能障害が残存したギラン・バレー症候群に対し、靴と装具の着脱方法の工夫でト イレ動作が自立に至った一例 The detachable orthotic device for Guillain-Barré syndrome, aiming for independence of toilet activities : A case study	国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 リハビリテーション科 小澤 弘幸
PE-2-2	リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法を併用したパーキ ンソン病患者に対する介入 Approach for Parkinson's Disease Patients using self-assessment and interview method based on SAMR	医療法人社団高邦会 柳川リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法室 松本健太郎
PE-2-3	パーキンソン病患者への手工芸の導入～苦痛に対する緩和ケア的視点の利用～ Providing activity capable of reducing pain easing the burdens on a Parkinson's patient	砂川市立病院 医療技術部リハビリテーション科 鈴木 勝也
PE-2-4	パーキンソン病患者の在宅生活の実態調査 Survey on the actual life at home for Parkinson's disease patients	東海記念病院 酒井 美幸
PE-2-5	アイトラッカーを用いたパーキンソン病患者の模擬的な食事場面におけるサッケードと固 視の計測 Measurement of saccade and fixation in a simulated eating scene of a Parkinson's disease patient with an eye tracker	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 中西 一

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表

神経難病 3

9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場

PE-3-1	パーキンソン病における運動症状と前頭葉機能との関連性～BADSを用いた評価～ Relationship between motor symptoms and frontal lobe function in Parkinson's disease ～Evaluation using BADS～	医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院 リハビリテーション部 作業療法科 木村 明博
PE-3-2	高次脳機能が低下しているパーキンソン病患者に対する認知行動療法の効果の考察 A study of effects of cognitive-behavioral therapy on Parkinson's disease patients with impaired higher brain functions	北斗わかば病院 リハビリテーション部 吉田 純平
PE-3-3	パーキンソン病患者に対するVirtualRealityを活用したアプローチ ～趣味活動の再開に向けて～ VirtualReality approach to Parkinson's disease patients ~ To resume hobby activities ~	順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室 林田理紗子
PE-3-4	意思伝達装置の導入で思いが伝えられ満足度向上が得られた筋強直性ジストロフィー患者 について About muscular dystrophy patients whose satisfaction was improved by reacquisition of will expression	医療法人社団大谷会 島の病院おたに 江口 健次
PE-3-5	神経難病患者の上肢使用による作業困難感が軽減した一例～COPMを通じた介入について～ An example of reducing work difficulty due to the use of upper limbs for patients with intractable neurological diseases	医療法人済衆館 済衆館病院 リハビリテーション科 守本 隼大

神経難病 4

9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場

PE-4-1	大脳皮質基底核変性症によりネクタイ操作が困難となった1症例 ～肢節運動失行に対する視覚及び言語代償の効果～ A case of difficulty in necktie manipulation due to CBD ～Effects of visual and verbal compensations on LKA～	松山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 高橋 幸規
PE-4-2	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病患者の作業療法経験 Occupational therapy experience in patient with sporadic Creutzfeldt-Jakob disease	特定医療法人 衆済会 増子記念病院 リハビリテーション科 濱地 亮輔
PE-4-3	多発性硬化症の急性増悪により重度右片麻痺を呈した症例がトイレ動作を再獲得するまで の作業療法経過 Progress of occupational therapy to restore toilet movement in a hemiplegic patient with recurrent multiple sclerosis	埼玉医科大学病院 リハビリテーション科 室橋 里奈
PE-4-4	転倒予防の指導が有効だったパーキンソン病の1事例 ～短期集中リハビリテーション入院を通して～ Effectiveness of Fall Prevention Exercise and Education Program for Parkinson's Disease ～Intensive Rehabilitation～	埼玉県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科 武倉 郁花
PE-4-5	姿勢管理と生活の質の関係性～褥瘡予防のアームサポートの重要性～ Relationship between posture management and quality of life ～Importance of arm support for pressure ulcer prevention～	医療法人社団研仁会 北海道脳神経外科記念病院 リハビリテーション部 古賀三千代

PF がん

がん 1

9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PF-1-1	急性期病院における悪性神経膠腫術後患者に対するOccupation Based Practiceの実践 報告 Case report of Occupation Based Practice for Postoperative malignant glioma patients	北里大学病院リハビリテーション部 黒崎 空
PF-1-2	Employment-related Problems after Completing Initial Treatment of Glioma: 7 Out-patient Cases	Department of Musculoskeletal Oncology and Rehabilitation, National Cancer Center Hospital Takuro Sakurai
PF-1-3	コントロール感に着目して介入した進行がんの1症例 A case study of advanced cancer with an intervention focused on a sense of control	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 西尾 優也
PF-1-4	当院における作業療法部門のがんリハビリテーション ～がんリハビリテーション研修終了作業療法士の増加による実績報告～ Cancer rehabilitation in the occupational therapy department ～Report by occupational therapist after training～	独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 リハビリテーション科 久保 美帆

がん 2

9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場

PF-2-1	悪性リンパ腫患者における化学療法開始後早期の手の知覚および機能の変化 Early changes in hand sensation and function due to chemotherapy in patients with malignant lymphoma	福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科 五百川和明
PF-2-2	人工肛門造設術前の意欲や不安がストーマケアの獲得に対する影響について The influence of preoperative evaluation for vitality and disturbed on care skill acquisition in postoperative stoma	北里大学メディカルセンター リハビリテーションセンター 関根 典子
PF-2-3	前立腺がん骨転移事例に対する作業に焦点を当て続けた作業療法 ～犬の世話をすることで人生への希望を取り戻した男性～ OT that keep on doing occupation-focused practice for bone metastases ～Taking care of his dog has restored hope for life～	山口県済生会豊浦病院 リハビリテーション科 齊藤 隆一
PF-2-4	当院におけるがん作業療法介入等の枠組みの作成 Intervention guidelines of Occupational Therapy for cancer patients	労働者健康安全機構 関東労災病院 中央リハビリテーション部 野村 真弓



PF-2-5	骨および脳への転移を認めた事例 ～夫への支援によって自宅退院後も ADL と QOL が維持された～ A case with bone & brain metastases ～Support for her husband maintained her ADL & QOL at home～	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 関 みなみ
<b>がん 3</b> 9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場		
PF-3-1	化学療法を行った造血器腫瘍患者におけるサルコペニアの影響 Effects of sarcopenia in patients with hematopoietic tumors undergoing chemotherapy	坂出市立病院 リハビリテーション科 三谷真由美
PF-3-2	家事と仕事復帰時期の調整を行った、膀胱がん周術期の一症例 A case of perioperative bladder cancer with adjustment of the timing of return to housework and work	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 井上 慎一
PF-3-3	ストーマリハビリテーションにおける作業療法士の役割 The role of an occupational therapist in stoma rehabilitation	北里大学メディカルセンター リハビリテーションセンター 上田 宏明
PF-3-4	がん患者の ADL による身体活動度の機械学習予測 Machine-learning prediction of physical activity by ADL in cancer patients	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科、埼玉医 科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 小泉 浩平
PF-3-5	選択的頸部郭清術後の上肢機能障害は肩甲骨椎間距離と関連する Upper limb dysfunction after selective neck dissection is associated with scapula-spine distance	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 大木原徹也
<b>がん 4</b> 9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場		
PF-4-1	仕事復帰を契機に発症したリンパ浮腫に対し、作業療法士の介入により改善した乳がん(乳房切除+腋窩リンパ節郭清術後)の1例 Case of OT can be involved in the prevention of lymphedema after total mastectomy and axillary lymph nodes dissection	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 萩原 尋子
PF-4-2	がん再発後の告知より意思決定に基づいた時間の送り方について How to send time based on decision-making rather than notification after cancer recurrence	独立行政法人国立病院機構 栃木医療センターリハビリテーション科 稲川 浩充
PF-4-3	がんサバイバーのケモブレイン評価に関する文献レビュー A scoping review of assessment tools and domains for chemotherapy-related cognitive impairments in cancer survivors	広島大学大学院 医系科学研究科 齊田 和哉
PF-4-4	骨髄同種移植後に対麻痺を発症し、アパシーを呈した患者に対する作業療法 ～野球に関連した作業がアパシー改善の一助となった一事例～ Occupational therapy for patients who develop apathy ～A case where work related to baseball helped improve apathy～	公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 リハビリテーション部 村口 詞紀
PF-4-5	造血幹細胞移植期の作業療法におけるストレスコーピング Stress coping in occupational therapy for patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation.	順天堂大学医学部附属順天堂医院、 順天堂大学大学院医学研究科リハビリテーション医学 阿瀬 寛幸
<b>がん 5</b> 9月17日(土) 12:30～13:30 ポスター会場		
PF-5-1	終末期がん患者に対する作業療法～作業療法介入時に SROT-TC を用いた一事例～ Occupational Therapy for Terminal Cancer patient ～A case evaluated by SROT-TC at the start of Occupational Therapy～	香川県立白鳥病院 リハビリテーション科 池知 良昭
PF-5-2	終末期がん患者に対し、チームにて寄り添った支援 ～SROT-TC による振り返りにより、チームアプローチに繋がった一症例～ Team-based support for end-of-life cancer patients ～A case that led to a team approach by looking back on SROT-TC～	公立八女総合病院 リハビリテーション科 國武亜由美
PF-5-3	終末期がん患者の意味のある作業を支えることと QOL 変化に関する研究 A study on supporting meaningful occupation and QOL change in terminal cancer patients	パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室 松田 直人
PF-5-4	右前頭側頭葉腫瘍摘出術後の意欲低下に対するアプローチで日中の活動性が一時的に向上した一例 Frontal lobe glioblastoma with temporary improvement in daytime activity: A case study	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 新井さやか
PF-5-5	乳がん術後上肢リンパ浮腫 15 年罹患の症例に対する外来作業療法での一症例 A case of outpatient occupational therapy for a case of lymphedema of the upper limbs after breast cancer surgery	JR 東京総合病院 リハビリテーション科 蔵方 祐
<b>がん 6</b> 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場		
PF-6-1	術前化学療法を行った乳がん患者の術前後 QOL と ROM の変化 Changes in QOL and shoulder ROM after surgery for breast cancer with neoadjuvant chemotherapy	静岡県立静岡がんセンター 山下絵理乃
PF-6-2	COVID-19 に罹患したが多職種との協業により在宅復帰が可能となった重度麻痺と失語症を合併した膠芽腫の1例 A case of glioblastoma with paralysis and aphasia was affected by COVID-19 returned home through collaboration	琉球大学病院 リハビリテーション部 宮城 若子
PF-6-3	脳腫瘍患者の健康関連 QOL と ADL の調査 ～健康関連 QOL の経時的変化と退院時 ADL との関連～ Investigation of health-related QOL and ADL in brain tumor patients	新潟大学医学部歯学総合病院 総合リハビリテーションセンター、 新潟医療福祉大学大学院 保健学専攻 作業療法学分野 渡邊 貴博

PF-6-4	WHO Grade 分類によるグリオーマ患者の高次脳機能の特徴 Neurocognitive dysfunction rate in glioma patients classified by WHO grade	京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部 上田 将也
PF-6-5	胸水貯留を繰り返し酸素流量の決定と不安感軽減に難渋した肺癌を合併した気腫合併肺線維症の1例 A case of CPFE with LK who showed pleural effusion with difficulty in Oxygen flow rate and anxiety reduction	一般財団法人 慈山会医学研究所 付属 坪井病院 リハビリテーションセンター 須藤 美和
<b>PG 内科疾患</b>		
<b>内科疾患 1</b>		9月16日(金) 12:00 ~ 13:00 ポスター会場
PG-1-1	下部尿路症状のある中年女性に対する排尿カウンセリングによる QOL の変化 ～ ADOC を併用した事例～ Change of QOL by Urination Counseling for a woman with LUTS ~ Using the ADOC ~	麻生リハビリ総合病院 リハビリテーション室, 東京 都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法学域 佐々木露葉
PG-1-3	全身性強皮症の QOL 低下と関係する障害像～筋力低下を含めた臨床所見の再考～ Clinical findings associated with poor quality of life in systemic sclerosis	金沢大学附属病院 リハビリテーション部 麦井 直樹
PG-1-4	残存機能を活かした介入が大切な作業の再開に繋がった一事例～また好きな占いができる～ A case: Effectiveness of intervention by making use of remaining function, resume the important occupation for patient.	社会医療法人有隣会 東大阪病院 リハビリテーション部 近江 孝之
<b>内科疾患 2</b>		9月17日(土) 12:30 ~ 13:30 ポスター会場
PG-2-1	COVID-19 による新しい生活様式への変化に対して良好な血糖コントロールに必要な因子 の検討 Factors required for good glycemic control in response to COVID-19-induced change to a new lifestyle	医療法人 光陽会 関東病院 リハビリテーション科 成田 雄一
PG-2-2	地域生活事例に対して Transtheoretical Model を用いた介入をし運動習慣の改善に至った事例 The application of the transtheoretical model of community life has led to the improvement of exercise drugs.	光陽会関東病院 リハビリテーション科 小沼 裕紀
PG-2-3	内部障害患者の QOL の身体的側面が影響する生活動作に関する検討 Examination of activities of daily living affected by physical aspects of QOL of patients with internal disorders	静岡市立清水病院 リハビリテーション技術科 杉崎日向子
<b>PH 精神障害</b>		
<b>精神障害 1</b>		9月16日(金) 12:00 ~ 13:00 ポスター会場
PH-1-1	精神科病院で ADOC を利用して希望を引き出し実現した事例 ～あなたの希望を叶えますプロジェクト～ An example of using ADOC in psychiatry to draw out hope and realize it ～ A project that will fulfill your wishes ~	医療法人 社団 緑誠会 光の丘病院 リハビリテーション課 天野今日子
PH-1-2	The effect of the board game group application in the drug prevention education activities of middle school students	Rujia Rehabilitation Home Chi Jen Lee
PH-1-3	COVID-19 流行と重症筋無力症によりうつ病を呈した一例 ～集団から個別活動につなげたアプローチ～ A case of depression due to COVID-19 epidemic and myasthenia gravis ～ An approach that developed from group to individual ~	金沢大学附属病院 リハビリテーション部 小松 瑞生
PH-1-4	新型コロナウイルス感染症罹患後の職場復帰へのプロセスとメンタルヘルスに関する考察 Consideration of the process of returning to work and mental health after suffering from COVID-19	国立病院機構久里浜医療センター 小砂哲太郎
PH-1-5	アルコール依存症患者の再入院のリスクの予測～入退院を繰り返さないために～ Predicting the risk factors for readmission in alcoholic patients ～ Avoiding repeated hospitalization ~	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部 武井 麻喜
PH-1-6	閾値下うつ病の人々の抑うつ気分に対する肯定的な言語刺激を含む動画視聴スマートフォンアプリ介入～パイロットランダム化比較試験～ Pilot randomized controlled trial of a smartphone application intervention for depressed mood in subthreshold depression	倉敷平成病院 リハビリテーション部 打田 博行
<b>精神障害 2</b>		9月16日(金) 13:00 ~ 14:00 ポスター会場
PH-2-1	精神障害者のリハビリと作業参加, 認知機能の関連～入院群と外来群の比較～ Association between Recovery and Occupational Participation and Cognitive Function in Persons with Mental Disabilities	大阪河崎リハビリテーション大学 大類 淳矢
PH-2-2	精神障害当事者の地域生活における化粧行為の現状と課題～インタビュー調査を通して～ Current Status and Issues of Makeup Practices in Community Life of People with Mental Disabilities ~ By interview survey ~	東京工科大学医療保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 石橋 仁美
PH-2-3	長期期在院中の統合失調症患者への回想コラージュブック制作の心理社会的効果を検証する 無作為化比較試験 psychosocial effects of life-review based collage book-making on long-term inpatient with schizophrenia	広島大学 大学院医学系研究科 金子 史子



PH-2-4	<p>転換性障害と診断された症例への身体領域での外来作業療法の一例 An example of outpatient occupational therapy in the body area for cases diagnosed with conversion disorders</p>	筑波記念病院 リハビリテーション部 足立 健太
PH-2-5	<p>気分障害者の復職後の就労継続に関わる要因 Factors of people with affective disorders related to continued employment after returning to work</p>	勤医協札幌病院 林上 紗奈
PH-2-6	<p>急性期神経性食欲不振症患者のリハビリテーション ～多職種介入により身体的・心理的回復とその人らしさの再建を目指して～ Rehabilitation of acute anorexia nervosa patients ～Recover one's physical and mental health and personality with a team～</p>	聖路加国際病院 野口 麻礼
<b>精神障害 3</b>		9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PH-3-1	<p>岡崎医療刑務所における機能向上作業の作業療法実践 Occupational therapy of function improvement prison work in medical prison</p>	法務省矯正局名古屋矯正管内岡崎医療刑務所 岡野 恵美
PH-3-2	<p>精神科リエゾンチームにおける精神科作業療法の有用性～急性骨髄性白血病患者の事例報告～ A Case Study of Occupational Therapy in Patient in Acute Myeloid Leukemia</p>	杏林大学医学部付属病院 二田 未来
PH-3-3	<p>メンタルヘルス不調により休職中の作業療法士の体験 Experience of an occupational therapist on absences from work due to mental health problems</p>	東京都立大学 人間健康科学研究科作業療法科学域博士後期課程 牧 利恵
PH-3-4	<p>若年層を中心とした睡眠と反すうの関連～入眠困難(入眠障害)に着目して～ Relation between sleep situation and negative rumination of the youth.</p>	医療法人栄寿会 真珠園療養所 福田健一郎
PH-3-5	<p>精神科デイケアと公共職業安定所の連携による職業準備プログラムの有効性 Effectiveness of prevocational program in psychiatric day care collaborate with the public employment service</p>	医療法人友愛会 千曲荘病院 竹原亜弥子
<b>精神障害 4</b>		9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PH-4-1	<p>衝動コントロール不良の精神科デイケア利用者に対し金銭管理能力の獲得を目指した一例 Aimed to acquire money management skills: A case report of psychiatric daycare user with diminished impulsive control.</p>	サンメンタルクリニック デイケア 岩淵 彩奈
PH-4-2	<p>精神障害者に対する就労定着支援の内容～1年間の後向きコホート研究～ Contents of vocational support program in patients with mental disorder ～A retrospective cohort study～</p>	医療法人友愛会千曲荘病院, 信州大学大学院総合医理工学研究科 河埜康二郎
PH-4-3	<p>精神科デイケアにおける成人期 ADHD 者への支援 ～自己理解と対処の獲得により就労へ踏み出せた一事例～ A Case Study of Employment Support Based on Obtaining Self-Understanding and Coping for Adult with ADHD in Day Care</p>	昭和大学発達障害医療研究所, 昭和大学附属鳥山病院 リハビリテーションセンター 水野 健
PH-4-4	<p>作業療法士として精神科訪問看護に携わった1年 1 year involved in psychiatric home-visit nursing as an occupational therapist</p>	上松病院 作業療法室 町田 茜
PH-4-5	<p>精神科作業療法士の身体的リハビリテーションに関する質的研究 ～精神科作業療法士一例による M-GTA を用いた検討～ Qualitative study of psychiatric occupational therapists ～Study Using M-GTA by a psychiatric occupational therapist～</p>	昭和大学横浜市北部病院, 昭和大学保健医療学部作業療法学科 嘉部 匡朗
<b>精神障害 5</b>		9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場
PH-5-1	<p>精神科スーパー救急病棟におけるソーシャルスキルトレーニングの実践 Practice of social skills training in a psychiatric acute ward</p>	医療法人友愛会 千曲荘病院 種子 雛乃
PH-5-2	<p>うつ病とパーキンソンニズムを合併した患者の精神科作業療法 Psychiatric occupational therapy for the patient with depression and parkinsonism</p>	岡山大学病院 総合リハビリテーション部 樋之津健二
PH-5-3	<p>コロナ禍におけるリワークプログラムの効果 ～東京都緊急事態宣言下での持続可能なプログラム～ Effect of rework program in COVID-19 ～Sustainable program under the state of emergency in Tokyo～</p>	医療法人社団柏水会 三軒茶屋診療所東京リワークセンター 小林 陽香
PH-5-4	<p>統合失調症患者への摂食嚥下リハビリテーションに対する精神科作業療法士の認識 Psychiatric occupational therapists' perceptions of dysphagia rehabilitation for schizophrenic patients</p>	文京学院大学 保健医療技術学部作業療法学科 滝吉 翔
PH-5-5	<p>神経性やせ症の児をもつ家族に対する集団家族心理教育～作業療法士が関わるメリット～ Study on the group psychoeducation for the families of adolescent patients with anorexia nervosa.</p>	信州大学大学院総合医理工学研究科 医学系専攻医学 分野, 信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 中野 未来
<b>精神障害 6</b>		9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場
PH-6-1	<p>精神障害を抱える親とその子どもへの支援を考える～グループワークの試み～ Support for parents with mental illness and their children～effectiveness of a group work～</p>	特定医療法人楠会 楠メンタルホスピタル 吉原 絵理
PH-6-2	<p>就労支援施設における主観的 well-being と対人関係の関連 Relationship between Subjective Well-Being and Interpersonal Relationships in the Sheltered Workshop</p>	兵庫医科大学 リハビリテーション学部作業療法学科 山田 大豪
PH-6-3	<p>精神障害者の働く経験に着目した先行研究調査 Literature review focusing on the working experience of people with mental illness</p>	びわこリハビリテーション専門職大学 嶋川 昌典

PH-6-4	作業療法士の専門性に対する認識の違い～作業療法士と多職種と比較～ Differences in Perceptions of Occupational Therapists' Expertise ～ Comparison between OT and other professionals ～	東香里病院 精神科作業療法 浜田 実瑠
PH-6-5	地域生活の実現に向けた多職種・多機関協働の取り組み～協議の場と地域基盤の整備～ Interdisciplinary and multi-institutional approach for independent living in community	共和病院 デイケア課 朝倉 起己
<b>精神障害 7</b> 9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場		
PH-7-1	価値ある作業の提供により、不穏が消失した症例 Valuable occupations brought client's calmness	医療法人十全会 十全病院 作業療法室 川上依里子
PH-7-2	コミュニケーション能力向上目的の作業療法 ～境界域知的障害をもつ適応障害の入院患者に対して～ Occupational therapy to improve communication skills ～ For patients with adaptive disorders with intellectual disabilities ～	医療法人達磨会 東加古川病院 大島 諒子
PH-7-3	ポジティブ作業評価の推定システムを活用したポジティブ作業に根ざした実践の臨床有用性 ～ケースシリーズ～ Clinical utility of positive occupation-based practices using an estimation system in APO-15 ～ case series ～	医療法人日明会 日明病院 作業療法室 後藤 一樹
PH-7-4	作業活動により援助希求感と作業機能障害が改善した慢性期統合失調症者の症例 ～割箸アートを通して～ A schizophrenic whose help-seeking and occupational dysfunction were improved by activity ～ Through the art of chopsticks ～	東香里病院 北田 有沙
PH-7-5	長期入院の統合失調症患者における「たたき染め」の治療効果の事例検討 ～唾液アミラーゼ・血圧・脈拍の測定値を用いて～ Case study of the therapeutic effects of tatakai dyeing in schizophrenic patient hospitalized for a long time	九州保健福祉大学 保健科学部作業療法学科 江口喜久雄
<b>精神障害 8</b> 9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場		
PH-8-1	精神科急性期入院治療による統合失調症の認知機能及び精神症状の改善度 Improvement of cognitive function and psychiatric symptoms in schizophrenia with acute inpatient psychiatric treatment	信州大学大学院医学系研究科、 長野県立こころの医療センター駒ヶ根 稲垣 佑輔
PH-8-2	統合失調症に対する RehaCom を用いた認知矯正療法：予備的ランダム化臨床比較試験 Effect of Cognitive Remediation with RehaCom for Patients with Schizophrenia: A Pilot Randomized Clinical Trial	信州大学大学院医学系研究科、 医療法人清泰会メンタルサポートそよかぜ病院 山主あゆ美
PH-8-3	入院中の個別作業療法は統合失調症患者の社会機能を改善する：5年間のフォローアップ 研究 Effect of individualized occupational therapy on social functioning of schizophrenia: A 5-year follow-up study	医療法人清泰会メンタルサポートそよかぜ病院 島田 岳
PH-8-4	"聞くこと" がもたらした現実感～個別 SST・OT を通して～ "The listening" brought realism ～ Through individual SST and OT ～	医療法人内海慈仁会 姫路北病院 診療部 作業療法課 柏山 和也
PH-8-5	精神科長期入院統合失調症者の認知機能と認知バイアスおよび精神症状の関連性 Relationship between cognitive function, cognitive bias and psychiatric symptoms in long- term psychiatric patients	長野保健医療大学 保健科学部、 信州大学 大学院総合理工学系研究科、上松病院 春原 るみ
PH-8-6	認知課題に伴う手掌部発汗反応と前頭前野脳血流動態～統合失調症患者の応対特性 Palmar sweating response and prefrontal cerebral hemodynamics during cognitive tasks among patients with schizophrenia	医療法人清泰会メンタルサポートそよかぜ病院、 信州大学大学院医学系研究科 竹中 愛美
<b>精神障害 9</b> 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場		
PH-9-1	自殺企図経験をもつ初発統合失調症患者に対する作業療法―事例報告― Occupational therapy for an inpatient with schizophrenia after suicide attempts	関西医科大学総合医療センター 早水 静菜
PH-9-2	作業を手段とした関わりの中で拒否的なケアが改善された一例 ～負の時間の共有から得たもの～ An example of improved negative care while using activity as a means of involvement ～ What I got from sharing negative time ～	独立行政法人国立病院機構 八戸病院 リハビリテーション科 坪田 達也
PH-9-3	精神科救急病棟における作業療法に関連する文献レビュー A literature review on occupational therapy in psychiatric emergency wards.	茨城県立こころの医療センター 前嶋 洋平
PH-9-4	精神科訪問看護において不安階層表を目標設定に活用した事例 A case study of using the anxiety hierarchy chart for goal setting in psychiatric home nursing	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース、 株式会社円グループ 訪問看護ステーション卵 勝嶋 雅之
PH-9-5	聴き手が話し手の言葉を繰り返すことによる話し手の心理的影響 The psychological impact on the speaker of the listener repeating the speaker's words.	弘前大学大学院保健学研究科 田中 真
PH-9-6	不安障害患者の余暇活動を改善した短期間の作業療法 Brief occupational therapy for improving leisure activities in outpatients with anxiety disorder	神戸大学大学院保健学研究科、神戸精神分析研究所 四本かやの



PI 発達障害		
発達障害 1		9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PI-1-1	Williams 症候群児における就学前後での生活能力向上の特徴：縦断的事例研究 Longitudinal case study of a child with Williams syndrome on development of activities of daily livings	北里大学 医療衛生学部 高橋香代子
PI-1-2	放課後等デイサービスにおける重要な他者に焦点化した Cognitively Oriented to daily Occupational Performance(CO-OP) の実践 The Cognitive Orientation to daily Occupational Performance focused on a significant other in after-school daycare	放課後等デイサービスアトリエあいだっく川崎, 昭和大学大学院 保健医療学研究科博士後期課程 鈴木 哲理
PI-1-3	健常学齢児における拇指一示指タッピングと線引き課題の加速度分析との関連 Relationship between thumb-index finger tapping and acceleration in line drawing task in healthy school-age children	札幌医科大学 保健医療学部作業療学科 中島そのみ
PI-1-4	発達に問題を抱える幼児の協調運動能力と運動経験に関する予備的研究 Preliminary study on coordination skills and experience of physical activity in preschoolers with developmental problems	弘前大学大学院保健学研究科 三上 美咲
PI-1-5	小学校教諭の相談内容の変化について～定期的な勉強会の取り組みから～ Changes in consultation with elementary school teachers ~ Regular study group initiatives ~	群馬パース大学 リハビリテーション学部作業療学科 吉岡 和哉
PI-1-6	ABC 分析を用いて学童保育における作業療法コンサルテーションを行った事例 An example of occupational therapy consulting in after-school care using ABC analysis	株式会社アシスト 八重樫貴之
発達障害 2		9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PI-2-1	問題行動の軽減につながった強度行動障害病棟の日中活動について～作業療法士の視点から～ Daytime activities that helped reduce problematic behavior in severe behavioral disorders ward	社会福祉法人 埼玉医療福祉会 光の家療育センター リハビリテーション部 小林 健哉
PI-2-2	自閉スペクトラム症児者の視覚処理に関する困難への対処法に関する質的調査 Qualitative analysis of coping strategies with visual processing problems in individuals with ASD	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 米田 直人
PI-2-3	幼児における問題行動と感覚処理特性および睡眠の構造的関連性の検討 Structural relationships among behavioral problems, sensory processing difficulties, and sleep problems in preschoolers	福島県立医科大学 保健科学部 倉澤 茂樹
PI-2-4	先天性上肢欠損児に対する習慣的な義手装着を目指した介入の一事例 An intervention aimed at habitually wearing a prosthetic hand for a congenital upper limb-deficient child	横浜市総合リハビリテーションセンター 山本 健太
PI-2-5	学校教員による児童・生徒の不器用さに対する支援に関するアンケート調査 A questionnaire survey on school teachers' support for students with clumsiness	姫路獨協大学 医療保健学部 作業療学科 仁田 静香
PI-2-6	児童虐待予防の支援に関する文献研究～作業療法士が抱える課題と今後に向けて～ Literature Study on Support for Child Abuse Prevention: Challenges Faced by Occupational Therapists and for the Future	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科 博士前期課程, 三浦市立病院 診療支援部 リハビリテーション科 後藤健太郎
発達障害 3		9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PI-3-1	肢体不自由児における、生活動作の自立度向上を目指した集中リハビリテーションの効果 Efficacy of rehabilitation for improving independence of daily life activities in children with traumatic brain injury	千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部 工藤 大弥
PI-3-2	未就学児に対する、活動の意図を共有できるよう段階付けを行った介入事例 A case study for preschool children "The intervention setting approach understand the intention of the activity."	東浦平成病院 リハビリテーション科 藪中 雅之
PI-3-3	放課後等デイサービスにおいて感覚プロファイルを用いた取り組み Initiatives using sensory profiles in day services such as after school.	有限会社きゅんぼす 放課後等デイサービスきゅんぼす 丹生谷拳志郎
PI-3-4	自発的なアイコンタクトの生起が ASD 児の社会性におよぼす影響 ～児童発達支援での応用行動分析に基づく介入～ Effect of spontaneous eye contact on social skills of a child with ASD ～Intervention based on Applied Behavior Analysis～	児童発達支援デイサービス ファミリアキッズ 花木 陽一
PI-3-5	他機関連携により当センターへの通園に至った一例 An example of going to our center through collaboration with other institutions	社会福祉法人妻の子会 札幌市みかほ整肢園, 社会福祉法人妻の子会 むぎのこ発達クリニック 鳥越 夕妃
発達障害 4		9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PI-4-1	重症心身障害児の自立活動に対するリハビリテーション職種の連携におけるコンサルテーション～各職種の専門性と作業療法士の役割～ The Consultations in the Cooperation of Rehabilitation Professions in Independent Activities of Children with SMID	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科博士後期課程, 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 濱田 匠
PI-4-2	重症心身障害児・者施設における作業療法士によるグリーフケア ～役割の質的解明における予備的研究～ Grief-care of Facilities for Persons with SMID by Occupational Therapist ～Pilot Study for Qualitative Elucidation of Roles～	医療法人財団はるたか会 訪問看護ステーションあおぞら京都, 森ノ宮医療大学 草野菜名美



PI-4-3	後天性脳損傷児の通常学級への適応プロセスに関する保護者の経験の質的解明 ～複線経路等至性アプローチを用いて～ Parent's experiences of the school adaptation process among children with acquired brain injury ~ A qualitative study ~	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻先端作業療法学講座、 京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部 草野 佑介
PI-4-4	レット症候群児(者)の手の常同運動を減らす介入～保護者に対する質問紙調査～ Interventions to reduce hand stereotypies in individuals with Rett Syndrome ～ Questionnaire survey for parents ~	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所、 国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 平野 大輔
PI-4-5	5歳児の人物画発達の遅れに関連する因子 Factors affecting the delay of human figure drawing development in 5 years old children	弘前大学大学院保健学研究科 小枝 周平
<b>発達障害 5</b>		9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場
PI-5-1	知的障害特別支援学校での更衣動作の支援 Helping students to change their clothes at a special school for the mentally disabled	神奈川県立伊勢原養護学校 小林 郁
PI-5-2	作業療法士と小学校の通級による指導を担当する教諭の連携の現状 ～作業療法士への質問紙調査～ The current situation in collaboration between occupational therapist and teachers in elementary school resource rooms	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科 押野 修司
PI-5-3	特別支援学校におけるコンサルテーション ～体操と書字に問題を抱える児童生徒への助言・指導～ Consultation in Special Support School ～ Advice for student who holds a problem in gymnastics and writing ~	秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座 高橋 恵一
PI-5-4	片麻痺の女兒に対する両手機能に着目した目標指向的な介入実践の効果 The goal-directed training to bimanual function of a girl with cerebral palsy : A case report	社会医療法人 大道会 ポハース記念病院 リハビリテーション部作業療法科 菊池 彩未
PI-5-5	Escobar 症候群を呈した男児のピンセット箸操作獲得の経験～みて！できたよ～ Experience of acquiring tweezers chopsticks for Escobar syndrome ~ Look ! I can do it, now ~	川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 谷口 恵美
<b>発達障害 6</b>		9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場
PI-6-1	食べることの困難さを抱える子どもに対し、複合的なアプローチを行った事例 A case study of a multidisciplinary interventions to children with eating difficulties	一般社団法人 CIS space Kid's.con 石井 ハル
PI-6-2	周産期重症型低ホスファターゼ児に対する在宅生活に向けての作業療法の経験 Experience of occupational therapy for living at home for children with severe perinatal hypophosphatasia	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 行 功一郎
PI-6-3	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所で求められる作業療法の専門性 Occupational therapy expertise required at child development support establishments	株式会社アルテディア 田村 孝司
PI-6-4	発達障害児における食具使用状況と姿勢制御の関連 Relationship between tableware usage and posture control in children with developmental disabilities	埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部、文京学院大学大学院 保健医療科学研究科保健医療科学専攻 山本 美咲
PI-6-5	きょうだい児という生育歴よりもたらされる運動発達への影響について Effects on motor development from the history of siblings	社会福祉法人妻の子会 むぎのこ発達クリニック 大坪 光保
<b>発達障害 7</b>		9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場
PI-7-1	学童期の発達障害児における感覚処理・行為機能の経時的変化 Temporal changes in neuropsychological abilities in school-age children with developmental disorders	植草学園大学 千田 直人
PI-7-2	加速度を用いた発達障害児の筆記具操作の特徴の検討 ～描画特徴・運筆動作の特徴・書字の読みやすさとの関連～ Characteristics of Writing Tool Manipulation in Children with Developmental Disabilities Using Acceleration	北海道教育大学札幌校 特別支援教育専攻 池田 千紗
PI-7-3	筆記具の把持形態が書字や描画にもたらす影響に関する文献研究 A Literature Study on the Effect of Grasping Form of Writing Instruments on Writing and Drawing	神奈川県立保健福祉大学大学院博士前期課程、 介護老人保健施設都筑シニアセンター 高見澤広太
PI-7-4	小学国語書写科で使用される教科書で示されている姿勢および鉛筆・毛筆の把持形態の特徴について Characteristics of posture and pencil gripping form shown in textbooks used in elementary school Japanese language	神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科 笹田 哲
PI-7-5	発達障害児のコミュニケーション及び行動・情緒の変化について ～ S-M 社会生活能力検査の変化から～ Communication and behavioral / emotional changes in children with developmental disabilities	自治医科大学附属病院 リハビリテーションセンター 黒淵 永寿
<b>発達障害 8</b>		9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場
PI-8-1	描画を活用した幼児に対する作業療法～言語と非言語のインタフェースとしての活動～ Occupational therapy for children using drawing ～ The activity as the interface between verbal and non-verbal ~	中部大学 塩津 裕康
PI-8-2	日本の作業療法における発達障害者に対する就労支援に関する文献的検討 Literature Review on Employment Support for People with Developmental Disabilities in Occupational Therapy in Japan.	株式会社 三葉 COMPASS 発達支援センター 丸亀 Link 倉本 由伽



PI-8-3	乳幼児期における母子間の身体接触と母子関係との関連性の文献レビュー A literature review of relevance between body contact among mother-child and mother-child relationship during infancy	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科、東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 畠山 久司
PI-8-4	肢体不自由児の作業療法目標の質とその傾向～ SMART-GEM を用いた後方視的調査～ Quality and trend of occupational therapy goals for physical disability with children ～ Retrospective study using SMART-GEM ～	千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療局 リハビリテーション治療部小児療法室作業療法科 吉田 尚樹
PI-8-5	当院の肢体不自由児における ADOC-S を用いた目標共有に対する取り組みについて ～ OT に実施したアンケート結果の分析～ Approach to goal sharing using ADOC-S in children with physical disabilities	社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセン ター リハビリテーション部 迫 知輝
PI-8-6	多施設連携により他害の減少が得られた自閉症スペクトラム症児の一事例 A case study of a child with ASD whose violent behaviors were reduced by collaboration of multiple institutions.	千葉西総合病院 リハビリテーション室 池部 淳

**PJ 高齢期**

**高齢期 1** 9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PJ-1-1	Patient Empowerment Scale 日本語版の開発 Development of the Japanese version of Patient Empowerment Scale	奈良学園大学 保健医療学部、大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 坪内 善仁
PJ-1-2	重度褥瘡患者の意欲・希望の再獲得に向けた作業療法の実践 ～離床日記を用いたコミュニケーションを通して～ Practice of occupational therapy for regaining motivation and hope in patients with severe pressure ulcers	土佐リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 安岡 希和
PJ-1-3	高齢者に対する Virtual Reality を用いた没入型回想法の副反応の検討 Examination of side reaction of immersive reminiscence using Virtual Reality for the elderly	医療法人 善成会 花川病院 リハビリテーション部、 北海道文教大学大学院 リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 今西 優美
PJ-1-4	認知症高齢者のストレスおよび行動・心理症状に対するバーチャルリアリティの効果検討 ～急性期病院での介入効果～ Effects of Virtual Reality on Stress and Behavioral/Psychological Symptoms of Dementia ～ effects in an acute care hospital ～	公立八女総合病院 中島 龍彦
PJ-1-5	回復期リハビリテーション病棟にて MIC を用いたことで作業参加が促進された事例 A case study of the use of MIC to promote occupational participation in a recovery rehabilitation ward	〈ims〉イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 永田 真雄
PJ-1-6	ロジスティック回帰分析を用いた大腿骨近位部骨折患者の入浴動作に及ぼす因子の検討 ～浴槽内台の使用の有無について～ Factors affecting the bathing behavior in patients with femoral fractures using logistic regression analysis	麻生リハビリ総合病院 リハビリテーション室 酒井 紫織

**高齢期 2** 9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場

PJ-2-1	意思決定に寄り添う作業療法 ～発声と書字が困難な高齢入院患者のアドバンス・ケア・プランニング～ Occupational Therapy accompanied decision making ～ Advance care planning of the elderly who cannot vocalize and write down ～	聖路加国際病院、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 客員研究員 小貫 早希
PJ-2-2	認知症重症度の違いによる意味のある活動時に着目すべき観察視点の探索 Exploring observational viewpoints to focus on performing meaningful activities between different dementia severities	社会福祉法人あじろぎ会 宇治病院 リハビリテー ション部 作業療法課、神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 米山 智彦
PJ-2-3	笑顔の輪づくり笑顔交響楽団の取り組み～下手を楽しむ価値観の転換～ Creating a circle of smiles Efforts of the Smile Symphony Orchestra ～ Change of values to enjoy poor skills ～	株式会社スマイルリンク デイサービス笑顔ぶらす 吉川 友
PJ-2-4	排泄介助を一人介助で行うために必要な立位保持時間とその関連要因 In Excretion Assistance Performed Alone: by Maintaining Standing Position and Its Factors Related to It	介護老人保健施設あおみ 甲斐 浩基
PJ-2-5	特別養護老人ホームの現状から見えてきた介護業界の課題 ～〃仕事をしたい、想いに応える生活支援の事例から～ Long-term care industry issues seen long-term welfare facilities ～ From the life support that responds to your feelings ～	社会福祉法人 白梅福祉会 特別養護老人ホーム 白梅の社 下川 和也

**高齢期 3** 9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PJ-3-1	ケアトラポリンを活用した効果的な介護予防プログラムの開発 Development of an effective long-term care prevention program using a care trampoline	日本医療科学大学 作業療法学専攻 西田 典史
PJ-3-2	介護予防自主グループ活動におけるハンドベル演奏の導入方法とその効果 Introducing handbell performances in long-term care prevention voluntary group activities and their effects	富士見市健康増進センター 介護予防係 丸山 桃子
PJ-3-3	介護老人保健施設における日常生活活動の改善要因の検討 Examination of factors to improve activities of daily living of long-term care health facility residents	福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科 澄川 幸志

ポ  
ス  
タ  
ー  
発  
表

PJ-3-4	当院回復期病棟から自宅退院後の再入院要因の検討～在宅継続日数による比較検討～ Examining factors of readmission after discharge from the recovery ward ～ Comparison by the number of days spent at home ～	公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院 リハビリテーション技術部 山田絵里香
--------	---	---

PJ-3-5	回復期リハビリテーション病棟における集団作業活動の効果判定に関する中間報告 An interim report on judging the effectiveness of group activities in the convalescent rehabilitation ward	上伊那生協病院 回復期リハビリテーション課 伊藤 茜
--------	--	-------------------------------

高齢期 4

9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PJ-4-1	回復期リハビリテーションにおける生産的作業の支援と課題 ～作業療法士に対するインタビュー～ Approach and challenges for productive occupation in convalescent rehabilitation ～ Interviews with occupational therapists ～	湘南慶育病院 リハビリテーション部 嶋津美乃里
--------	---	----------------------------

PJ-4-2	回復期リハビリテーション病棟における自宅でのIADL訓練前後の不安変化 Changes in anxiety before and after IADL training at home in a recovery rehabilitation unit	医療法人慈主会 八反丸リハビリテーション病院 中間 賢二
--------	--	---------------------------------

PJ-4-3	高齢者の運転免許返納によるQOL低下の要因の検討 Factors associated with reduced QOL due to driving cessation in the elderly	新潟医療福祉大学大学院 能登 真一
--------	---	----------------------

PJ-4-4	我が国の作業療法領域における高齢者の生活時間調査に関するシステムティックレビュー A systematic review of the life time study of elderly people in occupational therapy field in Japan	医療法人社団 盛翔会 浜松北病院 リハビリテーション科 藤田 尚人
--------	--	---

PJ-4-5	高齢者に対する生産的作業に関する作業療法支援の現状と課題：スコopingレビュー Identify Practical Issues of Occupational Therapy Practice for Elderly's Productive Occupation: A Scoping Review	湘南慶育病院 リハビリテーション部 木村侑里南
--------	---	----------------------------

高齢期 5

9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場

PJ-5-1	整形疾患のある高齢入院患者の入院期間中の認知機能変化に関連する因子の検討 Factors related to cognitive changes during hospitalization of elderly inpatients with orthopedic diseases	医療法人社団曙会 シムラ病院 診療技術部 リハビリテーション科 作業療法 中川 大介
--------	---	--

PJ-5-2	COVID-19下の社会的隔離における高齢者の認知機能への影響に関する文献研究 ～作業療法における今後の展望～ Effects of Social Isolation during the COVID-19 Pandemic on Cognitive Functions in the Elderly: Literature Reviews	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学科作業療法学専攻 上島 健
--------	---	---

PJ-5-3	認知症入所高齢者のオンライン面会 Online visitation of older adult residents with dementia	神戸大学大学院保健学研究科 野田 和恵
--------	--	------------------------

PJ-5-4	急性期病棟における高齢入院患者の身体拘束とテープ付き紙おむつ使用状況の調査 Investigation of the use of physical restraint and disposable diaper in elderly patients in an acute hospital	地方独立行政法人市立吹田市民病院 リハビリテーション科 常深 志子
--------	---	---

PJ-5-5	農園芸の機会を剥奪された患者に対する作業療法士の実践の質的解明 Elucidation of occupational therapists' practice with hospitalized patients deprived of horticultural opportunities	吉備国際大学 作業療法学科 三宅 優紀
--------	---	------------------------

高齢期 6

9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場

PJ-6-1	PSBの使用をきっかけに食事の自力摂取を獲得できた四肢麻痺、認知症を呈した高齢者 Elderly patients with tetraplegia and dementia who were able to take meals on their own after using PSB	IMS(イムス)グループ 医療法人社団明生会 イムス札幌 内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科 後藤 祐希
--------	--	---

PJ-6-2	地域在住要支援・要介護高齢者の肯定的な作業同一性を維持するための要因 Factors for maintaining positive occupational identity among community-dwelling elderly requiring support and care	常葉大学 保健医療学部作業療法学科 鹿田 将隆
--------	---	----------------------------

PJ-6-3	高齢障害者の価値を置く作業に焦点を当てた介入により作業有能性の向上につながった事例 ～MOHOSTを活用して～ A case of improving occupational competence by focusing on meaningful occupation of disabled elderly ~ Utilizing MOHOST ~	公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院 リハビリテーション課 坂本 勇太
--------	--	--

PJ-6-4	新型コロナウイルス感染により自宅復帰困難となったが、人間作業モデルにより前向きに なれた一症例 A Case Study of How Applying MOHO Can Help a COVID-19 Patient Having Difficulty Returning Home to Become More Positive	医療法人 愛全会 愛全病院 江端 健治
--------	---	------------------------

PJ-6-5	帰宅願望が強い認知症患者が生きがいである絵画に取り組めるよう環境設定した一事例 Setting up an environment where dementia patients who have a strong desire to return home can work for ikigai	平成医療福祉グループ 医療法人社団大和会 大内病院 リハビリテーション部 中山 章代
--------	---	--

高齢期 7

9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場

PJ-7-1	24時間の周期回帰分析で解析した入院高齢患者における退院後の生活リズムの変化 Change of circadian rhythms of elderly patients after discharge using the 24 hour periodic regression analysis	大阪人間科学大学 保健医療学部、 神戸大学大学院 保健学研究科 中川 友紀
--------	---	---

PJ-7-2	介護保険制度における介護福祉士の連携の実態 ～作業療法士とのよりよい連携実践をめざして～ The Actual of Cooperation among Care Workers in Long-Term Care Insurance ～ For Better Working with Occupational Therapists ~	介護老人保健施設 都筑シニアセンター 森木勇一郎
--------	--	-----------------------------

PJ-7-3	大腿骨近位部骨折患者の骨折前の認知症とせん妄の機能予後への影響の調査 Investigation of the prognostic impact of pre-fracture dementia and delirium in patients with proximal femur fractures	総合上飯田第一病院 リハビリテーション科 玉木 聡
--------	---	------------------------------



PJ-7-4	地域在住高齢者におけるアパシーとフレイルとの関連 Association between apathy and frailty in community-dwelling older adults	鹿児島大学医学部客員研究員 丸田 道雄
--------	---	------------------------

PJ-7-5	地域在住認知症高齢者における行動症状に関連する ADL の詳細なプロセスの検討 ～生活行為工程分析表 (PADA-D) を用いた横断的調査～ Detailed ADL processes Related to Behavioral Symptoms in Older Adults with Dementia ～ A transverse study using the PADA-D ～	鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程 下木原 俊
--------	---	-------------------------------

**高齢期 8** 9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場

PJ-8-1	通所介護における個別機能訓練の効果～2年間の経過～ Effect of functional training in day service center. ~ progress of 2 years ~	医療法人社団 尚仁会 デイサービスセンター「和」 高槻 聖子
--------	---	-----------------------------------

PJ-8-2	女性認知症高齢者を対象にした動画解析による歩行機能評価手法の検討 ～ Artificial Intelligence アプリットを使用して～ Evaluating Gait Function Using Video Analysis in Elderly Female Dementia ～ Using Artificial Intelligence Application Tort ～	平成医療短期大学 リハビリテーション学科作業療法専攻 井上 忠俊
--------	---	--

PJ-8-3	認知症のある人の活動の質 (Quality of Activities : QOA) を高めるプラクティスガイドの開発 Exploring the practice guidelines that promote quality of activities (QOA) in persons with dementia	佛敎大学 白井はる奈
--------	--	---------------

PJ-8-4	絵画が与えた役割と対人交流への影響～ MOHOST に基づいた一事例の考察～ The role of painting and its impact on interpersonal interaction ～ A Case Study Based on the MOHOST ～	竹の塚脳神経リハビリテーション病院 リハビリテーション部 青木 海
--------	--	---

PJ-8-5	睡眠障害のある認知症高齢者の睡眠の特徴抽出 ～ベッドセンサーシステムと自己組織化マップ (SOM) を用いて～ Extraction of characteristics of sleep in elderly people with dementia who have sleep disorder	信州大学大学院総合医理工学研究科 (博士課程) 鈴木 朝香
--------	--	----------------------------------

**高齢期 9** 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場

PJ-9-1	重度認知症高齢者における非言語的なサインのセラピストによる評価の検討 ～絵カードを用いた作業療法評価の一事例を通して～ Therapist's assessment of nonverbal signs in elderly with severe dementia ～ A case study of assessment using picture cards ～	公益財団法人結核予防会新山手病院 リハビリテーション科, 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 博士前期課程 金井 千秋
--------	---	--

PJ-9-2	シングルケース ABA リバーサルデザインを用いた重度認知症高齢者へのスヌーズレンの効果検証 Evaluating Snoezelen for a person with severe dementia: using single case ABA reversal design	社会福祉法人ノテ福祉会 特別養護老人ホーム ノテふるさと スヌーズレン開発推進室, 日本医療大学認知症研究所 新岡 美樹
--------	---	---

PJ-9-3	拮抗体操時の脳血流動態と主観的難易度および客観的難易度との関係 Relationship between cerebral haemodynamics and subjective and objective difficulty during cognitive-motor task	信州大学医学部保健学作業療法学専攻 佐賀里 昭
--------	--	----------------------------

PJ-9-4	合意目標の達成に向けた過程を細分化して共有した訪問介入事例 A case of visiting intervention that subdivided and shared the process for achieving the agreed goal	富岡地域医療企業団 公立七日市病院 在宅医療支援センター 小澤 貴明
--------	---	--

PJ-9-5	高齢者が余暇活動を行う理由と認知機能の関係 Relationship between the Reasons for Engaging in Leisure Activities and Cognitive Functions in Elderly People	医療法人仁泉会 介護老人保健施設ハートランド リハビリテーション科, 弘前大学保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 小笠原 牧
--------	--	--

**PK 認知障害 (高次脳機能障害を含む)**

**認知障害 (高次脳機能障害を含む) 1** 9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PK-1-1	回復期リハビリテーション病棟における認知機能障害者の QOL に対する影響の仮説検証 A hypothetical study of the effects of cognitive impairment on the quality of life of patients in a rehabilitation ward.	JA 静岡厚生連 遠州病院 青柳 翔太
--------	--	------------------------

PK-1-2	認知症高齢者に対する意味のある作業を用いた作業療法実践の経過報告 ～ KHcoder による計量テキスト分析を用いて～ A Progress Report on Occupational Therapy Practice with Meaningful Work for People with Dementia ~ Using Text Analysis ~	医療法人康生会 泉佐野優人会病院 リハビリテーション部 島崎 愛純
--------	--	---

PK-1-3	眼鏡着用障害の修正行為後適切となる場合の要因に関する検討 The study of the factors that become appropriate after the error-correcting response about disability of wearing glasses	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科 山本 潤
--------	--	--------------------------------------

PK-1-4	記憶障害によるメモの強迫的使用に対し情緒に焦点を当て生活自己管理を目指した事例 ～作業遂行6因子分析ツール (OPAT6) を用いて～ A case that focuses on emotions and aims at self-management of life ～ Occupational Performance Analysis Tool with 6factors ~	医療法人三九会三九朗病院 田平 貴也
--------	---	-----------------------

PK-1-5	抑制課題実行中の前頭前野における脳賦活変化 Prefrontal cortex activation changes during the inhibition task	栃木県医師会塩原温泉病院, 国際医療福祉大学大学院作業療法学分野 川畑 巧
--------	--	---

PK-1-6	高次脳機能障害者に対するグループ練習の取り組み ～試験的研究として支援に関わる作業療法士向けのテキストを使用した試み～ Approaches to group practice for patients with higher brain dysfunction ～ OT involved in support attempt to use the text ~	広島市立リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科 宮下 幸久
--------	---	--

ポスター発表

認知障害（高次脳機能障害を含む）2

9月16日（金）13:00～14:00 ポスター会場

PK-2-1	自動車運転再開評価における神経心理学的検査項目の再検討のための実態調査 Fact-finding survey for reexamination of neuropsychological test items in car driving resumption evaluation	福岡地域医療企業団 公立七日市病院 リハビリテーション部リハビリテーション技術科 榊原 望
PK-2-2	A-ONEによるADL観察で明らかになった神経行動学的障がいに対するOTで情動や感情障がい改善した前頭葉症状の一症例 A case of frontal lobe symptoms with improved emotional disorders by OT for NB impairments revealed by A-ONE	医療法人社団亀山会金沢古府記念病院 リハビリテーション部 西川 拓志
PK-2-3	就労を目指す高次脳機能障害者が課題指向型の作業に取り組むことによるアウェアネスの変化～複雑経路等至性アプローチによる分析～ A Qualitative Study of Changes in the Awareness of People with HBD by Engaging in Task-Oriented Occupation	聖隷クリストファー大学 鈴木 達也
PK-2-4	前脳基底部健忘による作話と行動障害が顕著であった事例 A case of Basal Forebrain Amnesia who has Remarkable Confabulation and Behavioral Disorders	医療法人仁寿会 石川病院 リハビリテーション部 清水 友紀
PK-2-5	高次脳機能障害者の長期就労を支えるものは何か？ ～就労継続に関する認識・価値観についての質的研究～ What supports long-term employment for cognitive impairments? ～ A qualitative study of the perceptions toward job retention ～	埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部、筑波大学大学院 人間総合科学 学研究所生涯発達専攻 リハビリテーションコース 飯塚 航平
PK-2-6	脳損傷により高次脳機能障害を呈した患者に外出訓練を通してビデオフィードバックを行い病態への気づきが得られた一例 An example of self-awareness obtained by outing training and video feedback for patients with higher brain dysfunction	社会医療法人財団白十字会 白十字リハビリテーション病院 寺崎 鈴香

認知障害（高次脳機能障害を含む）3

9月16日（金）14:00～15:00 ポスター会場

PK-3-1	左半球損傷による身体失認に対して末梢神経感覚療法と視覚的フィードバックにより利き手の機能再獲得に至った一例 A case of recovery of dominant hand function by PSS and visual feedback for asomatognosia due to left hemisphere injury	東京都済生会中央病院 リハビリテーション技術科 伊井都優美
PK-3-2	傍腫瘍性辺縁系脳炎患者の家族に対する退院支援の実践 Practice of discharge support for families of paraneoplastic limbic encephalitis patient	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 平野 澁
PK-3-3	高次脳機能障害者を地域生活に繋ぐための支援を通しての一考察 ～高次脳機能障害支援センターの事例から～ Support for people with higher brain dysfunction to live in the community ～ in the case of HBD support center ～	千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター 佐藤美希子
PK-3-4	トラック運転手の自動車運転再開に向けた支援と課題 Support and challenges for truck drivers to resume driving	国立病院機構東京病院 リハビリテーション科 湯浅 信孝
PK-3-5	視覚情報の処理が困難な症例が食事摂取に至るまでの介入経験 Interventions leading up to dietary intake in cases where it is difficult to process visual information	昭和大学藤が丘病院 柳沢 知美

認知障害（高次脳機能障害を含む）4

9月16日（金）15:00～16:00 ポスター会場

PK-4-1	視覚性注意障害を呈した事例に対するパソコン操作再獲得を目指した介入 Training for reacquisition of computer operations for a visual inattention patient after stroke	済生会神奈川県病院 石川 志帆
PK-4-2	鏡像での自己認知による自発性の神経機構への効果 Effect of self-awareness in mirror image on strengthening of spontaneous neural mechanism	IMS グループ医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院 リハビリテーション科 山下 祐輔
PK-4-3	脳損傷患者における自動車運転評価後の安全運転相談に関する実態調査 Fact-finding survey of the Safe Driving Consultation after our driving assessment for brain injury patients	名古屋市長合リハビリテーションセンター 作業療法科、なごや高次脳機能障害支援センター 吉原 理美
PK-4-4	失行症、失語症、病識低下を呈した事例に対する独居生活再開に向けた作業療法 Occupational therapy for resuming living alone for cases with apraxia aphasia and anosognosia	浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 秋山 尚也
PK-4-5	失行に対する模倣課題を用いた治療的介入の効果～モデルの向きを変えた模倣課題～ Effects of therapeutic intervention with imitation task on apraxia ～ Imitation task that changed the direction in models ～	介護老人保健施設ハートランド 太田 康介

認知障害（高次脳機能障害を含む）5

9月17日（土）10:30～11:30 ポスター会場

PK-5-1	失行症の遷延が自己意識の変容による注意機能障害に起因すると考えられた一症例 The prolongation of apraxia was thought to be due to attentional dysfunction due to changes in self-consciousness	一般社団法人巨樹の会江東リハビリテーション病院 リハビリテーション科 尾科 洋輔
PK-5-2	就労支援事業所における高次脳障害者1症例の経過報告 ～ Self-awareness の変化に着目して～ Progress report of a case of higher brain disorder at employment support center ～ Focusing on changes in self-awareness ～	関西福祉科学大学 本多 伸行
PK-5-3	環境調整が中核症状を呈する者の食事動作に与える影響 ～シングルシステムデザインを用いて～ Impact of environmental adjustments on dietary behavior in people with core symptoms ～ Using a single system design ～	済生会吉備病院 小野 希



PK-5-4	注意障害と記憶障害を呈した神経膠腫の一症例～環境調整と代償手段の治療的利用～ A case with glioma presenting attention and memory disorders	京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部 田中かなで
PK-5-5	生活期の外傷性脳損傷者に対する通所リハビリテーションでの集団プログラム・個別対応の支援経過 Group Program and Individual Support for Chronic Traumatic Brain Injury in Outpatient Rehabilitation: A Case Report	大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 三上 泉
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）6</b>		9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場
PK-6-1	頭部外傷により高次脳機能障害を呈した症例に対する認知リハビリテーションについて Cognitive rehabilitation for patient with higher brain dysfunction due to traumatic brain injury	社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院 脇屋 遥
PK-6-2	大腿骨近位部骨折術後高齢者の下衣更衣の動作プロセスにおける二重課題干渉と下衣更衣動作自立度との関連 Relationship between interference of dual-task and independence level in a movement of changing garment among elderly.	市立野洲病院、 放送大学大学院文化科学研究科 岡本 裕一
PK-6-3	要介護高齢者の IADL 障害に対する病識～本人と主介護者の認識との差異～ Insight of IADL disability in elderly requiring care ～ Differences between elderly and caregiver ～	杏林大学 保健学部作業療法学科 鈴木優喜子
PK-6-4	リハビリ介入頻度の違いが認知症患者の BPSD に及ぼす影響について ～ ABAB シングルシステムデザインによる検討～ The effect of frequencies of rehabilitation intervention on Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia	済生会新潟病院 リハビリテーション科 横山 太一
PK-6-5	色カルタを用いた集団活動中に見られる参加者同士の会話の特徴 Characteristics of conversation among participants during a group activity using IroKaruta	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科、 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域博士後期課程 木村 夏実
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）7</b>		9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場
PK-7-1	認知機能と口腔機能の関係性 ～ Revised Oral Assessment Guide 口腔観察ツールを用いた検討～ The relationship between cognitive function and oral function ～ A study using oral observation tools ～	社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション 病院 リハビリテーション部 東原太一郎
PK-7-2	認知症のある人の日常生活と尊厳を高める家族教室の効果（第2報） Family caregivers class on dementia care to learn daily care skills and person centered care in community (Part 2)	県立広島大学 保健福祉学部 西田 征治
PK-7-3	認知症がある高齢女性の自宅における家事動作の再獲得に向けた作業療法 Occupational Therapy for Reacquisition of Housework in Women with Dementia	貴志川リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中野 珠里
PK-7-4	認知症に関連する排泄トラブルの解釈と対処～介護者の思考の質的分析結果より～ Interpreting and coping with toileting problems related to dementia ～ From the results of analysis of caregiver's thoughts ～	秋田大学 医学部保健学作業療法学専攻 浅野 朝秋
PK-7-5	作業療法士による重度認知症高齢者への環境支援の概観 ～日本作業療法士協会事例報告集による調査研究～ Overview of Environmental Support for Elderly People with Severe Dementia ～ Research by Occupational Therapists Case Report ～	無所属 田中 純一
<b>認知障害（高次脳機能障害を含む）8</b>		9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場
PK-8-1	認知症高齢者に対する Twiddle Muff の臨床的有用性 The clinical utility of Twiddle Muff for the elderly with dementia	関西医科大学 リハビリテーション学部 三木 恵美
PK-8-2	脳損傷者への就労支援～作業療法士による疾病・障害・アウェアネスへの支援～ Vocational rehabilitation for brain-injured ～ How do OTs support illness/disability/awareness for brain-injured? ～	帝京平成大学 健康メディカル学部、 神戸大学大学院 保健学研究科博士後期課程 栗原 良子
PK-8-3	半側空間失認と Pusher 現象を呈した一症例に、環境設定や段階的難易度設定を行い、トイレ動作介助量軽減に繋がった介入 A case reducing amount of assist for toilet by setting environment and stepwise difficulty for USN and Pusher syndrome	医療法人財団慈強会 松山リハビリテーション病院 水木 彰宏
PK-8-4	機能的電気刺激が注意反応課題時の脳活動へおよぼす影響～近赤外線分光法を用いた検討～ Effects of functional electrical stimulation on brain activity during Posner task ～ fNIRS study ～	関西医科大学 保健医療学部 作業療法学科、東京都立 大学大学院 人間健康科学研究科 理学療法科学域 吉弘 奈央
PK-8-5	左半側空間無視患者に対する四肢活性化の効果についての検討 The effect of limb activation treatment for patients with unilateral spatial neglect	清伸会ふじの温泉病院 菅原 光晴
<b>PL 援助機器</b>		
<b>援助機器 1</b>		9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PL-1-1	3D プリンターで製作した自助具と手作り自助具の比較～マスクをつける自助具について～ Comparison of self-help device made with 3D printers and handmade self-help device ～ Self-help device for wearing masks ～	湘陽かしわ台病院 リハビリテーション科 木下 剛
PL-1-2	ADOC の活用状況に関するスコアレビュー Scoping review on the use of ADOC	医療法人偕行会 偕行会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 西川可奈子

PL-1-3	意思伝達装置の導入により生活行為の目標が明確になった ALS の一症例 ～クライアントと作業療法士の心理的变化に着目して～ A study on how a communication device helped a person with ALS set clear goals for his activities	医療法人健康会 京都南病院 リハビリテーション部 藤田 有希
PL-1-4	地域在住高齢者における ICT 活用状況と生活満足度の関係 Relationship between ICT utilization and life satisfaction in old-aged community dwellers	群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法専攻 宮寺 亮輔
<b>援助機器 2</b>		9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PL-2-1	作業療法士の視点からみた生活支援におけるコミュニケーションロボットの対象者に対する影響に関する質的研究 Occupational Therapists perspective on the impact of communication robots to support daily life - a qualitative study	東京都市大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科学域 清成 芙美
PL-2-2	3D プリンタによるスプリント作製と新たなスプリントの開発 Fabrication of Splint by 3D printer and Development of new Splint	社会医療法人 抱生会 丸の内病院 リハビリテーション部 田口 真哉
PL-2-3	座面の種類と上肢操作課題が筋活動開始時間に与える影響 Effects of seat type and upper limb manipulation task on the onset time of muscle activity	札幌医科大学保健医療学部 中村 裕二
PL-2-4	日常生活における笑いのアプリケーション開発 Developing applications for laughter in daily life	大阪電気通信大学, びわこリハビリテーション専門職大学 辻村 肇
PL-2-5	ドライブレコーダーを備えたハンドル形電動車椅子のテストコーストライアル ～高齢者と若年健常者の比較～ Test course trial of a mobility scooter equipped with an add-on monitoring system ～ Comparison of older and younger adults ～	帝京科学大学 医療科学部 作業療法学科 竹嶋 理恵
<b>援助機器 3</b>		9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場
PL-3-1	転倒予防のロボットを用いたゲームの活用～新ゲームの提案と印象調査から～ Application of the Game to Fall Prevention System Using Communication Robot ～ An outline of new game and project ～	杏林大学保健学部 鈴木健太郎
PL-3-2	横軸形成障害を有する乳児に対する自助具作製の介入 Intervention by making self-help devices for an infant with transverse deficiencies	JA 静岡厚生連 遠州病院 リハビリテーション科 秋山 恭延
PL-3-3	回復期病棟の上肢装具「MOMO」シリーズの活用実践における利点と課題 ～テキストマイニングによるインタビュー分析から～ Merit and demerit of the 'MOMO' series of equipment in the convalescent ward ～ From interview analysis by text mining ～	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部作業療法科, 東京都市大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科学域客員研究員 横山 雄一
PL-3-4	3D プリント装具導入が手指の関節可動域拡大と拘縮緩和を促しセルフケア関連 ADL を向上させた一例 Patient of 3D print orthosis improves self care by increasing range of motion and reducing contractures in finger joints	IMS グループ イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 リハビリテーション科 鎌本幸大朗
PL-3-5	座位保持困難の患者に対する座位保持装置の作製について～活動と参加に着目して～ Fabrication of sitting position holding device ～ Focus on activities and participation ～	見松会 あきやま病院 早坂 昇平
<b>援助機器 4</b>		9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場
PL-4-1	片手で折りたたみ傘を巻き留める自助具の改良点を明確にするために To clarify the improvements of self-help device that wraps the folding of umbrellas only one hand	総合リハビリ美保野病院 リハビリテーション科 藤田 鈴乃
PL-4-2	一側上肢における手洗いの洗い残しに関する研究～自助具使用による効果について～ A study on improper handwashing using one hand only ～ The efficacy of self-help devices ～	JA 静岡厚生連 遠州病院 リハビリテーション科 鈴木 晶子
PL-4-3	片麻痺患者における玉杓子を用いた靴下畳みの実用性について Practicality of Using a Ladle for Sock Folding in Hemiplegic Patients	城南福祉医療協会大田病院 後村なつみ
PL-4-4	頸髄症術後 C5 麻痺を呈した関節リウマチ合併症症例に対して PSB を応用して食事動作向上を目指した症例 A case study of a rheumatoid arthritis patient with postoperative C5 paralysis whose eating behavior was improved by PSB	昭和大学病院 リハビリテーション室 水嶋 麗咲
PL-4-5	背屈サポート型食事用自助具の再考～自助具づくりのあり方とは～ Reconsideration of a self-help tool for dorsal flexion support type meals ～ With the state of self-help tool making ～	神奈川リハビリテーション病院 一木 愛子
<b>PM</b>	<b>MTDLP</b>	
<b>MTDLP 1</b>		9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PM-1-1	くも膜下出血を呈したクライアントが復職に至った一例 ～生活行為向上マネジメント (MTDLP) を活用した介入～ An example of a client with subarachnoid hemorrhage returning to work ～ Management Tool for Daily Life Performance(MTDLP) ～	医療法人五国会 須崎くろしお病院 リハビリテーション部 岡野 真也



PM-1-2	生活行為の形態を聴取することで掴めた糸口 ～周りのサポートを活用して社会参加を促した事例～ support use to promote social support ～ A case where social participation was promoted by utilizing the support of others～	医療法人社団メドビュー東京ちどり病院 リハビリテーション科 加賀谷祐樹
PM-1-3	生活行為申し送り表のケアプランへの反映状況についての調査 ～ケアプランに活かされるための課題～ Survey on the reflection status of MTDLP's transfer table to care plan ～ Challenges for be utilized to care plans～	医療法人恒仁会 近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター 加藤 智志
PM-1-4	回復期リハビリテーション病棟における生活行為目標と合意目標の特徴と違い Characteristics and Differences between Goals and Agreed-upon goals in Occupational Therapy	国際医療福祉大学小田原保健医療学部 岩上さやか

**MTDLP 2** 9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場

PM-2-1	MTDLPを用いて目標を明確化したことの効果～意欲と活動性が向上した一症例を通して～ Effects of using MTDLP to clarify goals ～ Through a case of increased motivation and activity～	訪問看護ステーション MARE 田村 洋子
PM-2-2	生活行為向上マネジメントを活用し通園に向けて準備した中で、集団生活の輪に主体的に参加出来るようになった事例 A case study of active participation in the communal life of a daycare through the use of management tools	飯塚病院 リハビリテーション部 飛永 昂志
PM-2-3	生活行為向上マネジメントを用いて目標とする生活行為を獲得した脳卒中の一例 ～不安・うつ症状に着目して～ A case of stroke who acquired target activities of daily living using MTDLP ～ Focusing on anxiety and depression～	苑田会苑田第三病院 リハビリテーション科 榎 豊
PM-2-5	生活行為アセスメント演習シートの「視覚化」により MTDLP の満足度が向上した一症例 ～屋外での趣味活動再獲得に向けて～ Better result in MTDLP by visualizing the assessment sheet ～ For increasing patient's interest into outdoor hobbies～	苑田第三病院 リハビリテーション部 杉浦 未来

**MTDLP 3** 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場

PM-3-1	生活行為の聞き取りにより主体的な目標設定を行い、日常生活・家事動作を再開した回復期の1事例 A case in which ADL and housework were resumed by setting independent goals by listening to living activities	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 佐藤はるな
PM-3-2	入院で活気がなくなった90歳代男性に MTDLP を用いて活動量向上に繋げた回復期の1事例 A case study that led to an increase in activity by using MTDLP for a man in his 90s who lost his vitality in hospital	袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 町野 浩樹
PM-3-3	ギランバレー症候群を合併した高齢血液透析患者の退院支援 Discharge support for elderly hemodialysis patients with Guillain-Barré syndrome	新潟県厚生連 村上総合病院 リハビリテーション科 平野 和行
PM-3-4	筋萎縮性側索硬化症患者に対する告知後早期からの MTDLP の実践 Management Tool for Daily Life Performance use for an Amyotrophic Lateral Sclerosis patient	砂川市立病院 医療技術部リハビリテーション科 浅野 祐平

**PN 地域**

**地域 1** 9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場

PN-1-1	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における通所リハビリ利用者の身体・心理・社会参加状況の変化 Changes in physical, psychological, and social participation of day-care rehabilitation patients with COVID-19	大和大学保健医療学部 総合リハビリテーション学科 作業療法学専攻 瀬川 大
PN-1-2	COVID-19流行下における地域在住高齢者の余暇活動の制限と習慣化との関連 Leisure activity limitations and habituation in the elderly during the COVID-19 epidemic	北里大学医療衛生学部 前場 洋佑
PN-1-3	コロナ禍で入院中の退院支援が制限され、自宅退院後の活動機会拡大に難渋した症例 A case in which COVID-19 limited discharge support during hospitalization and made it difficult to expand activities	社会医療法人北斗十勝リハビリテーションセンター 訪問リハビリテーションさくら 佐々木ひな子
PN-1-4	福島県作業療法士会によるコロナ禍における県民の作業、健康支援の取り組み Occupation and Health promotion Approach in the Corona Disaster	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科、 福島県作業療法士会 コロナ禍における 県民の健康支援検討委員会 川又 寛徳
PN-1-5	職域におけるアルコール関連問題に対する Google フォームを用いた調査及び介入 ～産業精神保健への広がりを目指して～ Google Forms research and intervention for alcohol-related issues in the workplace ～ Spread to industrial mental health～	医療法人 見松会 あきやま病院 前田 大輝
PN-1-6	介護認定前の地域在住高齢者における性・年齢別の精神機能の比較 Mental functions of over 90-year-old community-dwelling decline a few years before the certification as long-term care	長野保健医療大学 保健科学部 作業療法学専攻、 群馬大学 大学院保健学研究科 北澤 一樹
PN-1-7	パーキンソン病者の通いの場における情報交換の満足度と時間および人数設定との関係 ～活動後アンケートを通して～ Relationship between satisfaction of discussion and time/the number of participants in people with Parkinson's Disease	日本医科大学付属病院 リハビリテーション科 吉田 円香

ポスター発表



PN-1-8	家族会支援における作業療法士の役割～親子への支援を通して～ The Role of Occupational Therapists in Supporting Family Associations ～ Through Support for Parents and Children ～	宇治おうばく病院 米澤 知紀
<b>地域 2</b>		9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場
PN-2-1	ひきこもりと地域をつなぐインターンシップ～地域連携による就労支援～ An internship that connects people with hikikomori and the community ～ Employment support utilizing regional cooperation ～	特定非営利活動法人コネクトスポット 山下 祐司
PN-2-2	アパシーを呈する脳血管性認知症者の在宅復帰後の支援 ～リハビリテーションの継続が生活意欲につながった事例～ Support for patients with cerebrovascular dementia who are apathetic after returning home	広島都市学園大学 健康科学部リハビリテーション 学科, いでした内科・神経内科クリニック 渡邊 哲也
PN-2-3	クライアントのニーズに寄り添った移乗方法の提案により外出が楽しみになった一事例 A case study of a client who was able to look forward to going out by proposing a transfer method that met her needs.	一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団 東灘しあわせ訪問看護ステーション 峰岡 真菜
PN-2-4	地域在住世帯の家事の分担とこれに関わる負担感・生活満足度に関する実態調査 Sharing status, burden, and life satisfaction of the housework for the people living in the community	杏林大学 保健学部作業療法学科 岩崎也生子
PN-2-5	認知症の人を介護する家族介護者のエンパワメントを高めるための支援の検討 ～心理教育介入の予備的研究～ Study of support for enhancing empowerment of primary family caregiver who cares for elderly persons with dementia	京都橘大学 菅沼 一平
PN-2-6	「家族介護者の生活行為への関与」に関する質問紙の併存妥当性の検討 ～在宅生活を支援する家族介護者の心境の整理～ Examination of the occupational experiences and psychological adjustment scale for family caregiver	群馬パース大学 リハビリテーション学部 南 征吾
PN-2-7	本人と家族をつなげる作業療法～面会制限の中で～ Occupational therapy links a patient and the family ~ While meeting restriction ~	横浜旭中央総合病院 リハビリテーションセンター 牧山 大輔
PN-2-8	作業療法関連の記事に含まれる介護予防関連の新聞記事数の年次推移 Annual Trends in the Number of Care prevention Newspaper Articles included in Occupational Therapy Articles	医療法人 紀典会 北川病院 大森 大輔
<b>地域 3</b>		9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場
PN-3-1	通所型サービスC卒業後から6か月後の追跡調査から見えてきた課題 The problem seen from tracking 6 months later from the tsusyo type service C graduation later	高知リハビリテーション専門職大学 有光 一樹
PN-3-2	住民主体の一般介護予防事業におけるフレイル予防の取り組み ～高知県仁淀川町における実践～ Efforts to prevent frailty in general long-term care prevention business ～ Practice in Niyodogawa Town, Kochi Prefecture ~	高知リハビリテーション学院 金久 雅史
PN-3-3	大阪府における生活課題アセスメント訪問指導者養成の取り組み A Practical Report on the Training of Visiting Assessment Instructors for Daily Life Performance in Osaka Prefecture	大阪府作業療法士会, 介護老人保健施設ハーモニイ 名倉 和幸
PN-3-4	「IADL向上教室」における生活行為向上マネジメントを用いた作業療法介入の効果 Effect of occupational therapy intervention using MTDLP in "IADL improvement classroom"	多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部 作業療法科 青木 佳子
PN-3-5	地域在住高齢者を対象とした作業療法実践としての単回介護予防事業前後における, 生活満 足度の変化と関連要因 Changes in life satisfaction before and after the single-time care prevention project for the elderly in the community	医療社団法人ゆみの ゆみのハートクリニック 小林 萌花
PN-3-6	山形県における放課後児童クラブへの作業療法コンサルテーションを支える取り組み(ちよ きちよきクラブ)について Efforts to Support Occupational Therapy Consultations in Yamagata Prefecture (Choki Choki Club)	山形県立こころの医療センター リハビリテーション科 梅津 憲栄
PN-3-7	在宅で生活する要支援・要介護高齢者が安全で健康的な生活環境を構築するために重要と なる改善項目 Improvement items that are key factors for a safety and healthy living environment for elderly with needed care support	一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団 地域包括ケア推進室, 神戸学院大学大学院 総合 リハビリテーション学 研究科 博士後期課程 見須 裕香
PN-3-8	マスク着脱自助具作製により外出頻度の増加を支援した訪問リハビリテーションの事例 Helped clients go out more often by creating self-help tools for wearing masks: A Case Study	訪問看護ステーションわざケア 井上 恵美
<b>地域 4</b>		9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PN-4-1	興味関心は活動量によって変化するのか Will the amount of activity change the interests?	九州大学大学院 統合新領域学府ユーズー感性学専攻 博士前期課程, 医療法人斎藤内科医院 通所リハビリ テーションふれあい, 藤刑務所 処遇部処遇部門 西村 彬
PN-4-2	高齢受刑者の健康運動指導に対する意識～テキストマイニングを用いた体操日誌の分析～ Awareness of Occupational Therapy for Elderly Prisoners ～ Analysis of Gymnastics Diary Using Text Mining ~	熊本県作業療法士会刑務所支援チーム, グループホーム ヒューマンケア富合 松岡 明子
PN-4-3	災害支援に従事する作業療法士が抱える困難さのスコopingレビュー A Scoping Review of Difficulties Faced by Occupational Therapists Engaged in Disaster Relief	群馬パース大学 リハビリテーション学部作業療法学科 宮寺 寛子



PN-4-4	災害復興期における地域で実践される集団活動についてのスコーピングレビュー Community Based Group Activities at reconstruction period: A Scoping Review	福島県立医科大学 保健科学部作業療法学科 石川 陽子
PN-4-5	出会いそして支援へ ～西日本豪雨災害が発生し支援へ、背景には平時からの「つながり」があった。～ To meet and support ~ There was a "connection" from normal times. ~	砥部病院ケアサービス株式会社介護付有料老人ホーム To-be 中塚 翔三
PN-4-6	病院・介護事業所での農作業活用の可能性と課題 ～滋賀県作業療法士会の3年間の活動からの考察～ Significance and problem of using farming and gardening in a hospital and a nursing and care facilities.	滋賀県作業療法士会、 藍野大学 医療保健学部作業療法学科 中井 秀昭
PN-4-7	作業形態の特性と動脈硬化との関連：わかやまスタディ Association between characteristics of occupational form and arterial stiffness: the Wakayama Study	大阪府立大学 総合リハビリテーション学研究所 横井賀津志
<b>地域 5</b>		9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PN-5-1	地域在住高齢者の疼痛関連要因が価値ある作業への参加に与える影響 Impact of pain-related factors on participation in valuable occupation among community-dwelling older adults	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部 井上 貴雄
PN-5-2	地域在住フレイル高齢者における作業機能障害と主観的幸福感の関連性 ～無作為抽出による大規模郵送調査～ Association between occupational dysfunction and subjective well-being in community-dwelling frail older adults	関西医療大学 保健医療学部作業療法学科 藤井 啓介
PN-5-3	作業療法理論を応用した健康経営アプローチによる労働損失軽減効果 Effectiveness of health management approach based on occupational therapy theory in reducing labor loss	株式会社 Canvas 元廣 惇
PN-5-4	介護老人保健施設における環境に焦点をあてた作業療法士の取り組み ～過去5年間の文献研究から～ Occupational therapist efforts focused on the environment ～ From literature research over the last 5 years ~	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所博士前期課程、株式会社ハーフ・センチュリー・モア 有料老人ホームサンシティ横浜 田中 萌子
PN-5-5	東京2020パラリンピック競技大会活動報告 ～パラスポーツにおける作業療法士の取り組み～ Tokyo 2020 Paralympic Games Activity Report ~ Occupational therapists in para-sports ~	特定医療法人仁寿会 総和中央病院 総合リハビリテーションセンター 三木 孝太
PN-5-6	地域在住高齢者に対して自己効力感に着目した課題指向型アプローチを施行し、社会参加復帰に至った症例 A case study of an elderly who returned to social participation after a task-oriented approach focusing on self-efficacy	北里大学大学院 医療系研究科 吉原 翔太
PN-5-7	宮崎県における高次脳機能障害者を対象とした自動車運転支援の取り組みについて About car driving support efforts for people with higher brain dysfunction in Miyazaki Prefecture	九州保健福祉大学 中田 富久
<b>地域 6</b>		9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場
PN-6-1	千歳市における高齢ドライバーサポート事業の報告 the practice report of elderly driver support in Chitose	北海道千歳リハビリテーション大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 山田 恭平
PN-6-2	臨床現場における自動車運転支援で支障となっている要因についての調査 A survey of factors that barrier driving support in clinical settings	医療法人社団六心会 伊丹恒生脳神経外科病院 上町 彩夏
PN-6-3	臨床現場における作業療法士による自動車運転支援の実態についての調査 Survey on driving support provided by occupational therapists in clinical settings	社会医療法人ささき会 藍の都脳神経外科病院 宗田 紗耶
PN-6-4	精神障害者の定着率を高める非視覚的な職場環境要因～企業インタビューを通じて～ Non-visual work environment factors that increase retention of people with mental disabilities. ~ corporate interviews ~	医療法人清風会 就労支援センターオンワーク 金川 善衛
PN-6-5	精神障害者の疾病要因と社会生活技能が1年以上の就労定着に与える影響の分析 Analysis of the effects of illness and social skill on employment retention of mental disorders for more than one year	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科、 NPO 法人那須フロンティア 野崎 智仁
PN-6-6	職場訪問を行い復職が可能となった若年脳卒中患者に対する外来リハビリテーションの経験 experience of rehabilitation to visiting to the workplace for the young stroke patient.	ちゅうぞん病院 リハビリテーション療法部 濱田 隆広
PN-6-7	就労支援事業所の農福連携における作業療法の役割と可能性 Role and possibility of occupational therapy in agricultural and welfare collaboration at employment support offices	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科、就労支援事業所 POWOW(朋有我有) 齋藤 久恵
<b>地域 7</b>		9月17日(土) 11:30～12:30 ポスター会場
PN-7-1	新病院の就労支援体制強化に向けて～地域の職業特性を踏まえて～ To strengthen the employment support system of the new hospital ～ Based on occupational characteristics of the community ~	社会医療法人 高橋病院 リハビリテーション科 酒谷 景介
PN-7-2	デイサービスの作業療法士の役割～COVID-19を契機に～ The role of occupational therapist in day service center ~ With COVID-19 as an opportunity ~	社会福祉法人和悦会 デイサービスセンター加美北 今 かおり
PN-7-3	精神障害者向け共同生活援助における作業療法士配置の影響に関する予備的検討 A preliminary study on the effects of occupational therapist assignment in group homes for persons with mental illness.	グループホームなんがいの 鈴木 一広

PN-7-4	横断性脊髄炎を発症し、排泄障害を合併しながら復職した一事例 Coming back from Transverse Myelitis with excretory disorder	文屋内科消化器科医院 訪問リハビリテーションらいらくく 浅野友佳子
PN-7-5	住宅改修における作業療法士が多職種と連携する意義 The meaning of occupational therapist's collaboration with multidisciplinary professionals in home improvement	医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 但野 修理
PN-7-6	通いの場の現状と作業療法士の役割に関する文献レビュー The current status of commuting places and the roles of occupational therapist :A literature review	東京都立大学大学院 人間健康科学研究科作業療法科学域 金丸 皓慈
PN-7-7	作業療法の地域での介入の現状～文献レビュー～ Occupational Therapy Current status of regional interventions ~ Literature review ~	横浜 YMCA 学院専門学校 作業療法科 遠藤 陵晃
<b>地域 8</b>		9月17日(土) 12:30～13:30 ポスター会場
PN-8-1	作業療法士と学童保育支援員を中心に多職種で行ったオンライン勉強会の取り組み第2報 Report of occupational therapist, after-school care instructor and multidisciplinary web conference 2nd report	一般社団法人ユニバーサルケアユニケア訪問看護 リハビリステーション葛西 門脇 結衣
PN-8-2	短期集中訪問型サービス C での閉じこもり高齢者に対する訪問作業療法 ～作業に焦点をあてた記録(活動日記)と対話を通して～ Home-visit occupational therapy to the housebound elderly	日本リハビリテーション専門学校 田中 克一
PN-8-3	地域在住高齢者の就労役割の有無に関連するフレイルの要因 Factors of frailty related to the vocational roles in community-dwelling elderly	札幌医科大学 保健医療学部作業療法学科 横山 和樹
PN-8-4	地域在住虚弱高齢者におけるアクティブラーニング型健康教育の取り組みについて About active learning type health education efforts for frail elderly living in the community	アール医療福祉専門学校 久保田智洋
PN-8-5	介護老人保健施設でボランティア活動に参加する後期高齢者が生活の価値を高め 方略性をもって活動を継続するプロセス A process for elderly volunteers at a nursing facility to enhance the value of life and continue activities in strategy	松戸市立福祉医療センター東松戸病院 小島 弘行
PN-8-6	多職種で連携する通所型サービス C の参加により、抑うつ状態から社会参加につながった一症例 A Case of Social Participation Through Participation in Preventive Care of Through Multidisciplinary Cooperation	大阪市浪速区社会福祉協議会 久保田奈美
PN-8-7	高次脳機能障害を有する当事者家族の作業機能障害の実態の質的検討 A qualitative study of Occupational Dysfunction of Caregivers in families with cognitive dysfunction after ABL	株式会社奏音 いろは訪問看護リハビリステーション 吉本 裕介
<b>地域 9</b>		9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場
PN-9-1	運動特化型デイサービス利用者の転倒の要因について About the factors of falls of exercise-specialized day service users	歩行リハビリセンターホコル 北原 菜実
PN-9-2	当施設利用者における公共交通機関の利用再開できなかった要因の検討 Examination of the factor that used it, and was not able to reopen of the public transport in our facilities user	医療法人社団三雅会古賀整形外科、東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域研究生 二村 元気
PN-9-3	作業の成功体験から意味のある作業の表出に至った事例 A case report from successful occupation experience to the expression of meaningful occupation	合同会社 LOCUS デイサービスセンタープロティス D0 門田 剛
PN-9-4	生活介護事業所を利用する重症心身障害者に対する生活支援員の日中活動支援 Life support staff's supporter for daytime activities for severely handicapped persons using life care business	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究所博士後期課程 杉山いずみ
PN-9-5	機能訓練型デイサービスにおける農作業活動の介入実践と課題の報告 Report on intervention practice of agricultural work activities in functional training day service	びわこリハビリテーション専門職大学 作業療法学科 杉本久美子
PN-9-6	看護小規模多機能型居宅介護における作業療法士の遠隔介入の試み Attempt of remote intervention of occupational therapist in nursing multifunctional home care	東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 秋元 美穂
PN-9-7	認知症カフェにおける作業療法士の役割と運営における課題の検討 Examination of the role of occupational therapists in dementia cafes and challenges in management	西九州大学 仙波 梨沙
<b>地域 10</b>		9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場
PN-10-1	認知症予防教室の効果の検討～参加者の意欲の分析から～ Effects of prevention on cognitive function for elderly. ~ From analysis of motivation ~	医療法人さざなみ 鈴木病院 林田 浩司
PN-10-2	認知機能障害を有する高齢者の排泄トラブルへの解釈と対応 ～介護職員への聞き取り調査より～ Interpreting and coping with toileting problems of elderly with cognitive disorder ～ From the interview of care staff ~	東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法専攻 王 治文
PN-10-3	自営する理容室へ理容師としての復職を果たした脳卒中事例に対する作業療法経験 The occupational therapy interventions for the patient who returned to work as a self-employed barber after stroke.	株式会社 PLAST プラスト訪問看護ステーション 森 彩華



PN-10-4	コロナ禍において医療的ケア児をもつ母親2名のつながりを支援した事例 ～ソーシャルメディアを使用して～ Supporting the relationship between two mothers with children requiring medical care, using social networking	キョーワこども訪問看護リハビリステーション 寄り添い屋 長谷川陽子
PN-10-5	回復期病棟から訪問リハビリテーションへのシームレスな連携により、自宅で入浴、妻とカラオケに行くことが再開できた事例 A case reacquiring bathing and going to karaoke through seamless linkage from the hospital to home rehabilitation.	近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター 近江訪問リハ・ステーション 仲野 剛由
PN-10-6	当訪問リハビリテーション卒業者が介護保険サービスを利用せず生活行為を維持・向上させる要因～卒業1か月後のインタビュー調査～ Factors to maintain and improve the living activities of visiting rehabilitation graduates without using insurance	特定医療法人 萬生会 合志第一訪問リハビリテーション, 特定医療法人 萬生会 合志第一病院 坂田 亮
PN-10-7	地域在住高齢者への訪問リハビリテーションについての検討～活動と参加に関する分析～ An investigation of home-visit rehabilitation for community-dwelling elderly ～ The analysis of activity and participation ～	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院 地域医療部 訪問リハビリテーション科, 信州大学 大学院医学系研究科保健学専攻修士課程 山田 剛史
PN-10-8	買物の再開に至った訪問リハビリテーション事例から買物に関する評価介入の要点を考える Consider shopping evaluation intervention from the home-visit rehabilitation case that led to the resumption of shopping	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院 訪問リハ科塩田サテライト 霜鳥 将

**地域 11** 9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場

PN-11-1	不安を呈する小脳梗塞患者の復職に向けた訪問リハビリテーション Home-visit rehabilitation for reinstatement of anxious cerebellar infarction patients	医療法人八千代会 ストレスケアつくばクリニック 緑川 学
PN-11-2	訪問リハビリテーションにて他職種連携を図り、環境整備や適応訓練を実施することで早期にQOL改善が認められた一症例 A visit rehabilitation case of an early creation of living environment suitably in multidisciplinary collaboration	社会福祉法人 こうほうえん 錦海リハビリ テーション病院 リハビリテーション技術部 川上 紘司
PN-11-3	循環器疾患に対する訪問作業療法の実態調査 Web survey of home-visit occupational therapy for cardiovascular disease	帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科 中本 久之
PN-11-5	脳卒中後遺症をもつ受け身な若年者が家族と協力し第一歩を踏み出した症例 A passive young person with stroke sequelae took the first step in cooperation with his family	社会医療法人若弘会 わかさ老人訪問看護ステーション 野出 恵美
PN-11-6	笑いアプリケーションの活用によるストレス変化について About stress changes due to the use of laughter applications	社会福祉法人 誠光福祉会 須崎 恭平
PN-11-7	未知の余暇活動の経験が与える影響 Impact of experience with unknown activities	いねいがる たつの市地域活動・相談支援センター 中田梨紗子
PN-11-8	当院における病院から地域の移行に伴うリハビリテーション情報提供の課題についてのインタビュー調査 Interview on barriers of rehabilitation information provision to the transition from hospital to community	福岡リハビリテーション病院 田代 徹

**PO 理論**

**理論 1** 9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場

PO-1-1	興味の再生成に関わる要因の質的研究 ～障害のある当事者の視点からの「障害受容」理論の構築に向けて～ Qualitative Study of Factors Related to Interest Regeneration ～ Disability Acceptance from Perspective of Disabled Persons ～	湘南医療大学 田島 明子
PO-1-2	作業療法における Evidence-based practice の概念分析 A concept analysis of evidence-based practice in occupational therapy	湘南慶育病院 リハビリテーション部, 吉備国際大学大学院保健科学研究科博士後期課程 廣瀬 卓哉
PO-1-3	作業療法実践におけるクライアントの認識とカナダ作業遂行測定の変動の要因 Factors of client perception and COPM fluctuations in occupational therapy practice	医療法人社団 明芳会 イムス板橋 リハビリテーション病院 リハビリテーション科 若林 実里

**PP 基礎研究**

**基礎研究 1** 9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場

PP-1-1	箸での物体把持動作中の物体の大きさと重さが筋活動に及ぼす影響 Effects of size and weight of an object on muscle activity during grasping with chopsticks	広島大学大学院医系科学研究科 上肢機能解析制御科学 倉内 和哉
PP-1-2	非利き手の書字練習における書字能力の改善と手指機能との関係性 Relationship between the handwriting ability and the hand function in the non-dominant hand writing practice	信州大学 医学部保健学作業療法専攻 務台 均
PP-1-3	Web会議システムを利用し、遠隔でバランス検査を実施した場合の再現性と信頼性の検討 ～若年層の健康者を対象とした予備実験～ Examining the reliability of remote balance inspections for healthy young people using a web conferencing system	星城大学 リハビリテーション学部 藤田 高史

ポスター発表

PP-1-4	回復期リハビリテーション病棟における入院時訪問指導が患者・療法士に与える影響 Impact of on-site visit guidance in convalescent rehabilitation wards on patients and therapists	社会医療法人若弘会わかかさ竜門 リハビリテーション病院 リハビリテーション部 永井 信洋
PP-1-5	急性期において対象者は目標設定への参加をどのように経験しているのか Experience of participating in goal setting for clients in acute rehabilitation	地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院 リハビリテーション科 須藤 梨佳
PP-1-6	モーションキャプチャーを用いた近位箸のずれの評価 Evaluation of the stability of the lower chopsticks using motion capture	新潟リハビリテーション大学 医療学部 丁子 雄希
<b>基礎研究 2</b>		9月16日(金) 15:00 ~ 16:00 ポスター会場
PP-2-1	ミラーセラピー実施時の運動条件が皮質脊髄路興奮性に与える影響 The effect of motor conditions on corticospinal excitability during the mirror therapy	信州大学 医学部保健学科 岩波 潤
PP-2-2	ストレスに対する芳香療法の効果の有無 ～回復期リハビリテーションにおけるパイロットスタディ～ Effectiveness of aromatherapy on stress ~ Pilot study in the Convalescence Rehabilitation ~	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科作業療法コース 関 一彦
PP-2-3	コロナ禍における家族支援の問題点と工夫の検討 Examination of problems and ingenuity of family support in corona sickness	医療法人 三星会 茨城リハビリテーション病院, 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域 客員研究員 中村 美歌
PP-2-4	最大握力を発揮できる適切な握り幅の再検討 Recheck the proper grip width to maximize grip strength	新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 知名 規人
PP-2-5	作業療法前後での健康関連 QOL の変化と MCID の解明 ～運動器, 心大血管, 呼吸器疾患での調査～ Elucidation of HRQOL changes and MCID of before and after OT ～ Musculoskeletal, cardiovascular and respiratory diseases ~	聖隷クリストファー大学 泉 良太
<b>基礎研究 3</b>		9月17日(土) 12:30 ~ 13:30 ポスター会場
PP-3-1	Characteristics of hand-intrinsic muscle activities in manipulating real and simulated foods with chopsticks.	Gunma University Graduate School of Health Sciences Naoto Noguchi
PP-3-2	Characteristics of Hand-intrinsic Muscle Activities and Grip Force Control During Precision Grips	Gunma University Graduate School of Health Sciences, Master's Program Quoc Duy Vo
PP-3-3	パーキンソン病患者に対する 3D Arterial Spin Labeling を用いた脳血流変化の計測に向けた予備的研究～健康成人を対象として～ Preliminary study in cerebral blood flow using 3D Arterial Spin Labeling with Parkinson's disease. ~ For healthy adults ~	文京学院大学 保健医療技術学部作業療法学科 國重 雅史
PP-3-4	回復期リハビリテーション病棟患者における入院時の QOL と不安との関係について Relationship between quality of life and anxiety of patients at admission in rehabilitation ward	JA 静岡厚生連 遠州病院 リハビリテーション科, 聖隷クリストファー大学大学院 リハビリテーション科学研究科 佐貝 拓郎
PP-3-5	作業療法士が現場で作製可能な肘伸展固定スプリントの有用性について ～アンドロイドモデルでの運動検証に基づいて～ Usefulness of elbow extension fixation splint that occupational therapists can make in the field. ~ Based on android model ~	社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 リハビリテーション技術室 小森 健司
<b>基礎研究 4</b>		9月17日(土) 13:30 ~ 14:30 ポスター会場
PP-4-1	反復末梢性磁気刺激と神経筋電気刺激による脊髄反射の変調作用の比較 Neuromodulation on spinal reflex by repetitive peripheral magnetic stimulation and neuromuscular electrical stimulation	新潟医療福祉大学 作業療法学科 浅尾 章彦
PP-4-2	注意の焦点が主動筋と近接筋の皮質脊髄路興奮性に与える影響について The corticospinal excitability of the intrinsic agonist and adjacent muscles during an attentional focus task	京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 認知運動機能制御科学研究室 松本杏美莉
PP-4-3	利き手・非利き手におけるつまみ力調整能力と長さ知覚を用いた手指固有感覚との関連 Relationship between the ability of pinch power coordination and haptic length perception with thumb and index finger	札幌医科大学保健医療学部 作業療法学科 中村 充雄
PP-4-4	袖通し動作へ衣服形状の相違が及ぼす影響の検討～半袖と長袖かぶりシャツに着目して～ Impacts of the clothing types on the putting arm into the sleeves: the length of sleeves	国際医療福祉大学 松野 豊
PP-4-5	座位リーチ時の肩関節肢位が肩甲骨および体幹屈曲運動に与える影響 The effects of shoulder rotation angle on scapula and trunk flexion movement during reach motion in a sitting position	札幌朗愛会病院 リハビリテーション科, 北海道文教 大学大学院 リハビリテーション科学研究科 大坂 隆介
<b>基礎研究 5</b>		9月17日(土) 15:30 ~ 16:30 ポスター会場
PP-5-1	いわてリハビリテーションセンターにて運転再開支援を行った患者への追跡調査 ～前回調査との比較と考察～ Follow up of Driving Resumption Support in Patients ～ Comparison with previous survey and discussion ~	公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター 機能回復療法部 平 彩花



PP-5-2	男性独居高齢者の被援助志向性が日常的な作業の意味・機能・形態に与える影響についての質的研究 A Qualitative Study on the Effect of Help-Seeking on the Daily Occupation among Male Elderly People Living Alone	医療法人松田会 介護老人保健施設 エバーグリーン・ヤギヤマ 白木 望
PP-5-3	職種における車椅子観察点の違い ～回復期リハビリテーション病棟での下肢位置に着目したアンケート調査～ Difference of view point on wheelchair in medical staffs ～ Questionnaire survey focusing on the lower limb in recovery ward ～	東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科 浮田 徳樹
PP-5-4	制御焦点理論における促進焦点と防止焦点の関係性についての研究 Relationship between facilitative focus and preventive focus, based on regulatory focus theory	弘前大学大学院保健学研究科 小山内隆生
PP-5-5	三次元動作解析を用いた箱作り法の特徴：事例研究 Characteristics of the make-a-box test battery using 3D motion capture analysis: A case study	びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 寺井 淳
PP-5-6	視線に対する教示の有無が健康成人の箸操作能力に与える影響について The effect for the availability of instruction on gaze on the ability to use chopsticks in healthy young adults.	九州中央リハビリテーション学院 大塚 開成

**PQ 管理運営**

**管理運営 1** 9月16日(金) 13:00～14:00 ポスター会場

PQ-1-1	リハビリテーション専門職者における Time Pressure-Kiken Yochi Training (TP-KYT) の構成概念妥当性の検討 Examining Construct Validity of Time Pressure-Kiken Yochi Training (TP-KYT) for Rehabilitation Professionals	大阪人間科学大学 木下 亮平
PQ-1-2	回復期リハビリテーション病棟における園芸活動導入に向けての取り組み Efforts to Introduce Horticultural Activities in the Rehabilitation Ward for the Recovering Patients	医療法人幸生会 琵琶湖中央病院 リハビリ療法部 竹内 章子
PQ-1-3	回復期リハビリテーション病棟における実績指数に関する現状と課題 ～ナラティブレビュー～ Current status and issues regarding performance indices in recovery rehabilitation wards ～ A narrative review ～	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 作業療法学科、神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科 博士後期課程 村仲準一郎
PQ-1-4	日常生活動作の予後予測～対数モデルと経験的判断の特徴比較～ Predicting recovery of activities of daily living ～ Characteristic comparison between logarithm model and empirical judgment ～	東京家政大学 健康科学部 磯 直樹

**管理運営 2** 9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場

PQ-2-1	回復期リハビリテーション病棟での食事評価用紙の導入について ～導入後アンケートの調査より～ About the introduction of the meal evaluation paper ～ After introducing it, it is investigated the questionnaire ～	医療法人双葉会 西江井島病院 川端 絵美
PQ-2-2	FIM 予後予測と実績指数を基にした回復期リハビリテーションの戦略 Strategies for convalescent rehabilitation based on FIM prognostic and performance index	東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 岡部 拓大
PQ-2-3	当院回復期リハビリテーション病棟退院後の健康関連 QOL を改善させる因子 Factors that improve health-related quality of life after discharge in recovery phase rehabilitation ward	聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部作業療法学科、医療法人弘遠会 すずかけヘルスケア ホスピタル リハビリテーション技術部 佐野 哲也
PQ-2-4	作業療法士と介護福祉士を中心とした腰痛予防対策チームの取り組み ～チェックリストを用いたラウンドとアンケート調査を通して～ Low back pain prevention team led by an occupational therapist and a care worker ～ Through rounds and questionnaire surveys ～	医療法人財団慈強会 松山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 加藤 真弘
PQ-2-5	リハビリテーションセンターにおける障害者雇用の取り組み ～就労定着に向けた OT の役割～ Employment of People with Disabilities in Rehabilitation Centers ～ The Role of OT for Employment Retention ～	医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院 玖島 弘規

**管理運営 3** 9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場

PQ-3-1	急性期における院内デイケアの取り組みとその効果について Effectiveness of a day care intervention to promote delirium remission among inpatients in an acute care hospital	聖路加国際病院 リハビリテーション科 並木 千裕
PQ-3-2	新型コロナウイルス感染拡大の影響による種目減少と作業療法出席者数の関係 Relationship between the decrease in events and the number of participants due to the spread of covid-19.	医療法人ほがらか会 もとだて病院 リハビリテーション科 大内 泰
PQ-3-3	当院における精神科リエゾンチーム対象者の傾向と課題についての検討 Examination of trends and issues of psychiatric liaison team patients at our hospital.	秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 加賀美 開
PQ-3-4	看護職とリハビリテーション職における「チーム医療に対する態度」と「対人葛藤方略」の関連 The relationship between "Attitude toward health care team" and "Conflict management" among Nurses and Therapists	公立藤岡総合病院 深澤 彩

ポスター発表

PQ-3-5 兵庫県内のリハビリテーション情報提供書の現状と課題  
～急性期リハと回復期リハの情報共有の促進に向けて～  
Current status and issues of rehabilitation information provision documents in Hyogo Prefecture  
社会医療法人三栄会 ツカザキ病院  
松本 圭太

PR 教育		
教育 1		9月16日(金) 12:00～13:00 ポスター会場
PR-1-1	作業療法士学生の臨床実習における COVID-19 が与える影響について ～リスク予測能力に着目した3年間の縦断研究～ Impact of COVID-19 on clinical education for occupational therapy students	国際医療福祉大学福岡保健医療学部 作業療法学科 松下 航
PR-1-2	作業療法士のための新しいEvidence-Based Practice (EBP) 自己評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討 Development, Reliability and Validity of Evidence-Based Practice Self-Assessment for Occupational Therapists	湘南医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 増田 雄亮
PR-1-3	Interactive online international exchange program for occupational therapy students during COVID-19 pandemic	Division of Occupational Therapy, Faculty of Health Sciences, Tokyo Metropolitan University Natsuka Suyama
PR-1-4	アイトラッカーを用いた危険予測における療法士と学生の視線行動の比較 ～周辺視に着目して～ A comparison of gaze behavior between therapists and students in hazard prediction using ～ Focusing on peripheral vision ~	公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院 大町 昭彦
PR-1-5	当院で実施している新人教育プログラムの有用性検証 Verification of usefulness for new staff educational program of Hokusoh Shiroy hospital	北総白井病院 リハビリテーション科 岩田 哲治
PR-1-6	教育用アームロボットを活用した作業療法学生の運動療法技術学習の効果検証 An educational arm robot improves exercise therapeutic motion techniques skills of occupational therapy students	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科 小池 祐士
教育 2		9月16日(金) 14:00～15:00 ポスター会場
PR-2-1	アナログゲームを用いた講義による作業療法学科学生の社会的スキルの変化 Changes in social skills of occupational therapy students by lectures using analog games	白鳳短期大学 福永 寿紀
PR-2-2	急性期脳血管障害者に対する作業基盤の実践に関する勉強会が若手作業療法士の職業的アイデンティティに及ぼす影響 Impact of a workshop on occupation-based practice for patients with acute CVA on the professional identity of new OTs	県立広島大学 池内 克馬
PR-2-3	初年次の基礎医学科目の学修チェックリストの利用が定期試験に与える効果 The effect of a learning checklist on first-year examinations in basic medical sciences	北海道医療大学 児玉 壮志
PR-2-4	作業療法学会登録演題から読み取る日本の作業療法教育の焦点～テキストマイニング～ Focus of Japanese OT Education Read from Abstracts of the OT Congress ~ A Text Mining ~	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、 神奈川県立保健福祉大学大学院前期博士課程 神保 匡良
PR-2-5	アクティブラーニングにおける「反転授業」の試み Attempt of Flipped Classroom in Active Learning	東京福祉専門学校 作業療法士科 小泉 雄一
教育 3		9月16日(金) 15:00～16:00 ポスター会場
PR-3-1	社会情勢を踏まえた新しい新人教育体制の構築に向けて ～チェックリストの導入と学習機会の工夫～ For building of a newcomer education based on the social situation ～ Induction of checklists and devised a learning method ~	一般社団法人 巨樹の会 蒲田リハビリテーション 病院/リハビリテーション科 松本宗一郎
PR-3-2	COVID-19 パンデミックを契機とした実習教育改革 ～ OSCE を用いた Problem-based Learning によるリハビリテーション学習システムの 確立～ Practice Education Reform in the Wake of the COVID-19 Pandemic	東京家政大学健康科学部 趙 吉春
PR-3-3	当院作業療法科における新人教育プログラム評価シートの有効性について Effectiveness of Evaluation Sheet for New Employee Occupational Therapist in Tokyo Rehabilitation Hospital	東京都リハビリテーション病院 作業療法科 山崎 稜
PR-3-4	作業療法学生の非意識的な視野に潜在している認知症患者に対する認知 The implicit cognition to the dementia patients owned by the occupational therapy students	帝京科学大学 医療科学部作業療法学科 黒川 喬介
PR-3-5	国家試験対策の早期導入 Early introduction of national examination measures	彰栄リハビリテーション専門学校 眞々部仁美
教育 4		9月16日(金) 16:00～17:00 ポスター会場
PR-4-1	作業療法学生の臨床実習において実習指導者(作業療法士)が心理学大学院生と連携して学 生援助を行った教育的効果に関する検討 Occupational therapists and graduate students of psychology collaborate to educate occupational therapy students.	医療法人社団青葉会新座病院 リハビリテーション科 滝澤 宏和
PR-4-2	学内実習における作業療法実践現場からの情報提供と卒業生による指導の効果 Effect of information provision from occupational therapy practice sites and guidance by graduates in on-campus training	学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校 渡辺 陵介



PR-4-3	職場内での科学的研修システム導入の試み ～インストラクショナルデザインに基づく実践例～ Attempt to introduce a scientific training system in the workplace ～ An example of support based on instructional design ～	医療法人社団メドビュー 東京ちどり病院 阿諏訪公子
PR-4-4	問題解決型学習を経験した作業療法学生のレジリエンスの特性分析 Characterization of Resilience in Occupational Therapy Students Experiencing Problem-Based Learning	東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 生方 剛
PR-4-5	作業療法独自の理論を学んだ学生の作業療法に対する認識 ～キャッチフレーズ課題からの一考察～ Recognition for the occupational therapy of the student who learned an occupational therapy original theory.	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ 作業療法学科 谷淵加奈子

**教育 5** 9月17日(土) 10:30～11:30 ポスター会場

PR-5-1	理学・作業療法学科学生に対する立位姿勢の観察による足圧中心位置推定能力の向上に向けた教授の効果 Effectiveness of teaching to estimate the Center of Pressure by Physical and Occupational Therapy Department Students	玉野総合医療専門学校 作業療法学科、 川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻 博士課程後期 井村 巨
PR-5-2	作業療法学生に対する3Dプリント自助具教育プログラム(第3報) ～2019年度と2021年度の比較～ Comparison of Education program of 3D printing Assistive Technology Devices for OT students between 2019 and 2021	帝京科学大学 医療科学部作業療法学科 澤田 有希
PR-5-3	作業に焦点を当てた作業療法実践自己効力感尺度の開発 ～信頼性・妥当性の検証～ Development of the Self-Efficacy Scale of Occupation focused Practice ～ Investigation of the reliability and validity ～	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 青山 克実
PR-5-4	作業療法士養成教育における就労支援に関するアンケート調査～自由記載の分析から～ A Questionnaire Survey on Employment Support in Occupational Therapist Training Education ~ Analysis of Open-ended Comments ~	北海道文教大学 人間科学部作業療法学科、 NPO法人コミニネット楽創 大川 浩子
PR-5-5	生活行為向上マネジメントを活用した評価実習における学生の理解度・習熟度について The level of students' mastery utilizing of the MTDLP during the fieldwork for evaluation.	国際医療福祉大学福岡保健医療学部 作業療法学科 長谷 麻由

**教育 6** 9月17日(土) 13:30～14:30 ポスター会場

PR-6-1	回復期リハビリテーション病棟における新人作業療法士の職務遂行能力向上に対する動機づけ要因に関する研究 A Study on Motivational Factors for gain of Expertise by first-career Occupational Therapists in a Rehabilitation Ward	神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科博士前期課程、 公立学校共済組合 関東中央病院 田中 雅士
PR-6-2	現場のリーダーが希望する研修内容 ～チャットを用いた模擬的なグループインタビューより～ Training contents needed by playing managers revealed by simulated group interviews using chat	平成医療福祉グループ 医療法人社団大和会 大内病院 リハビリテーション部 古御門幸奈
PR-6-3	作業療法学生への動作観察場面における口頭での助言の効果～視線分析装置を用いた検討～ Effects of verbal advice to occupational therapy students in movement observation situations.	はくほう会医療専門学校赤穂校 作業療法学科 赤堀 将孝
PR-6-4	作業療法士経験を活かした特別支援教育実践例 ～書字学習から巧緻性が獲得され、ADLへの汎化に至った例～ Example of the Practice Use Experience as an OT in Special Support Education	群馬県立特別支援学校 秋元裕太郎
PR-6-5	作業療法学科学生の認知症の人に対する態度尺度の変化～1年次と2年次の比較～ Changes in the attitude scale of students toward people with dementia ～ Comparison of 1st year and 2nd year ～	国際医療福祉大学 保健医療学部作業療法学科 関 優樹

**教育 7** 9月17日(土) 14:30～15:30 ポスター会場

PR-7-1	新型コロナウイルス感染症禍における評価実習の学内代替実習の取り組み Efforts for on-campus alternative training for evaluation training in the COVID-19.	湘南医療大学 / 保健医療学部 鈴木 雄介
PR-7-2	Communication and intervention skills assessment in clinical setting の開発のためのデルファイ法を用いた内容妥当性の検討 Delphi method study for examining the content validity to develop the CISA	常葉大学 保健医療学部 篠原 和也
PR-7-3	目標設定における作業療法士の臨床的リズニングと傾向 ～回復期病棟を対象としたインタビュー調査～ Clinical reasonings and trends of occupational therapists in goal setting ～ An interview survey in the recovery ward ～	医療法人社団 苑田会 竹の塚脳神経リハビリテーション病院 古田憲一郎
PR-7-4	実習代替授業における自助具作成体験の成果 ～作業療法教育ガイドラインに基づいた取り組み～ Achievements of creating self-help tools in alternative training ～ Based on occupational therapy education guidelines ～	日本リハビリテーション専門学校 五十嵐千代子
PR-7-5	2週間の身体領域臨床実習において作業療法学生が経験したスキル Skills experienced by occupational therapy students in a two-week physical function area internship	植草学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科 館岡 周平

ポスター発表



教育 8

9月17日(土) 15:30～16:30 ポスター会場

PR-8-1	作業療法学生の就職に向けた不安と就職先選定での重要因子に関する調査報告 ～実習経験の有無による比較～ Report of the uneasiness and the importance for the work on OTS ～ comparison of presence or absence of clinical training ～	多摩リハビリテーション学院専門学校 作業療法学科 鎌田小百合
PR-8-2	臨床実習における学生の課題認識～共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み～ Occupational Therapy Students' Perception of Issues in Clinical Practice	仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科作業療法専攻 熊谷 竜太
PR-8-3	作業療法学生がコロナ禍の臨床実習で抱いた不安感の解明 To Elucidate the Anxiety Felt by Occupational Therapy Students in Clinical Practice during Covid-19 Pandemic	岡山医療専門職大学 健康科学部 作業療法学科 野口 泰子
PR-8-4	認知的徒弟制に基づいた臨床実習で、教え上手・学び上手になろう！ ～マーストリヒト臨床教育評価票（MCTQ）× 対話の活用紹介～ Let's become good at teaching and learning in clinical practice ! ～ Introduction to the use of MCTQ × Dialogue ～	医療法人社団欣助会介護老人保健施設花水木 機能訓練室 佐藤 純
PR-8-5	作業療法士学科実習生が臨床実習で学んだことについての一考察 A study that occupational therapist academic trainees learned in clinical clerkship	北海道千歳リハビリテーション大学 和田 義哉
PR-8-6	複数の実習形態を組み合わせた学内実習の取り組み On-campus training initiatives that combine multiple training formats	東京福祉専門学校 作業療法士科夜間部 泉 良太

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

# MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

# MEMO

A series of 25 horizontal dotted lines for writing.

## 広告団体・企業 / 機器展示出展企業 / 書籍販売企業 / 大学院説明ブース一覧

### < 広告団体・企業一覧 (お申し込み順) >

#### ■プログラム集広告

医歯薬出版株式会社  
株式会社医学書院  
株式会社三輪書店  
学校法人国際医療福祉大学  
協同医書出版社

株式会社アネビー  
サン情報サービス株式会社  
北海道文教大学  
群馬パース大学

#### ■ホームページバナー広告

国際医療福祉大学  
群馬パース大学

株式会社日本メディックス

### < 機器展示出展企業一覧 (お申し込み順) >

有限会社ハニーインターナショナル  
株式会社ピーエーエス  
株式会社クレアクト  
テクノツール株式会社  
株式会社テック技販  
インターリハ株式会社  
株式会社メルティン MMI  
住友ファーマ株式会社  
株式会社 Inspired Medical Japan  
株式会社フロンティア  
株式会社コーポレーションパールスター  
株式会社アネビー  
サン情報サービス株式会社  
クラフトハウス株式会社  
オットーボック・ジャパン株式会社  
ミナト医科学株式会社

シスネット株式会社  
オージー技研株式会社  
ラーゴム・ジャパン株式会社  
マクセル株式会社  
ラックヘルスケア株式会社  
シナノカメラ工業株式会社  
酒井医療株式会社  
伊藤超短波株式会社  
イワツキ株式会社  
キッセイコムテック株式会社  
工房 SERA  
アクセスエール株式会社  
フランスベッド株式会社  
未来航路株式会社  
株式会社アトラス

### < 書籍販売企業一覧 (お申し込み順) >

株式会社クマノミ出版  
株式会社ガリバー

株式会社紀伊國屋書店

### < 大学院説明ブース一覧 (お申し込み順) >

新潟医療福祉大学大学院  
国際医療福祉大学大学院  
吉備国際大学大学院

神戸学院大学大学院  
群馬パース大学大学院



## 第56回日本作業療法学会組織

### 【学会運営委員会】

泉 良太 (委員長)  
天野 暁  
岩波 潤  
柴田 克之  
清水 兼悦  
長尾 徹  
羽田 舞子  
宮口 英樹  
村田 和香

### 【学会長】

村田 和香

### 【副学会長】

長尾 徹

### 【プログラム部会】

村田 和香  
長尾 徹  
泉 良太

### 【演題採択部会】

泉 良太  
岩波 潤

## 編集後記

第56回日本作業療法学会のプログラム集をお届けいたします。今回はハイブリッド開催であり、オンデマンド配信の利便性も活かしつつ、現地での雰囲気も味わえる学会になります。現地での学会発表時の議論や学会参加の高揚感を感じることはもちろんのこと、久しぶりの仲間・先輩・後輩との再会、新しい仲間作りができる良い機会になると思います。また、オンデマンド配信についても、引き続き取り入れており、現地参加が困難な方も学会参加が可能なスタイルにしております。

学会運営委員会としては、はじめてのハイブリッド開催ということもあり、試行錯誤しながら幾度となくディスカッションを行い、丁寧に準備を進めてまいりました。その際には、講師および発表者の皆様には色々とお願ひすることが多く、お手数をおかけいたしました。皆様のご協力のおかげで、現地参加者、オンデマンド参加者の双方に満足していただける準備ができたと思います。

今回のテーマは、「持続可能な社会を創る作業療法」です。本テーマは、まさに今後の作業療法の生き残りをかけた重要なことだと考えます。つまり、新型コロナウイルスも含め、世の中が変化していく中でも、その変化に合わせて作業療法の知識や技術をつなげていくことが、私たち作業療法士の使命です。是非、このような学会という機会を利用して、「持続可能な社会を創る作業療法」について学んでみてはいかがでしょうか。

ここ数年で学術活動についてはパラダイムシフトが起こり、現地のみではなく、オンラインやオンデマンドを利用した方法で行われることが多くなりました。そのため、学術研究への情熱さえあれば、様々な形で参加できるようになり、以前よりも学会参加や質疑応答へのハードルが低くなったように思います。是非とも、現地およびオンデマンドでの活発な討論をお願いいたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

学会運営委員長 泉 良太



事例で学ぶ

# 生活行為向上マネジメント

第2版

一般社団法人日本作業療法士協会 編著

B5判 234頁 定価4,400円(本体4,000円+税10%)

ISBN978-4-263-26634-2

作業療法士にとって必須の「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」をまとめた書籍が満を持しての改訂！今改訂では具体的な利用方法や連携方法についての解説を強化し、より実践的な内容へとシフトチェンジ！



読める！解ける！

## OT国試「実地問題」読解力トレーニング

吉田 健 著

B5判 120頁 定価2,970円(税10%込)

ISBN978-4-263-26649-6

“きちんと読める”が正解への近道！OT実地問題の読解に特化した初の問題集。「設問構造の確認」で情報を整理し、着目ポイントを洗い出すことで、長文問題や疾患名がない問題も完全攻略！



国立長寿医療研究センター開発

## コグニサイズ 入門

楽しく取り組む認知症予防

島田裕之・李相侖 編

B5判 76頁 定価1,980円(税10%込)

ISBN978-4-263-26658-8

認知症予防のために「楽しくできる」認知課題と運動方法をまとめた、最もやさしいコグニサイズ入門書。認知症予防に関する最新研究や、コロナ禍での「集いの場」の工夫なども解説した指南書。



## 高次脳機能障害学 第3版

石合純夫 著

B5判 320頁 定価4,950円(税10%込)

ISBN978-4-263-26651-9

高次脳機能障害学の基本から最新の動向までを解説した一冊。新たな診断基準、検査・評価法、メカニズムなどを追加・修正し、最新の知見を紹介。図表をさらに充実させてよりわかりやすく改訂。



2022(令和4)年度改定対応版

## リハビリテーション 診療報酬&介護報酬マニュアル

制度のしくみと算定のきほん

本橋隆子 編著

金沢奈津子・永田修 著

B5判 292頁 定価5,500円(税10%込)

ISBN978-4-263-26660-1

「アノ本」がわかりづらい！そんなあなたに朗報。複雑極まりないリハビリテーションの診療報酬・介護報酬の仕組みと基本をまるっと解説。医療施設・介護施設・訪問・通所とあらゆる場面に対応。

こんなときどうする？  
ここが知りたい！！

リハビリ専門職のための

## がんリハビリテーション

島崎寛将・井上順一郎 編著

A5判 316頁

定価4,400円(税10%込)

ISBN978-4-263-26653-3

がんのリハビリテーションの臨床力を高めるためのポイントやヒントをまとめた、ハンディサイズの実践書。現場のお供に！



脳卒中・神経難病・がん患者の  
「言葉をつくる・声を出す」を助ける！

## コミュニケーション サポートブック

川上途行・和田彩子・岡阿沙子 編

B5判 144頁

定価3,520円(税10%込)

ISBN978-4-263-26628-1

患者さんの“伝えたい”をサポート！「言葉をつくる」「声を出す」が困難な患者さんへの、現場で役立つ支援策が満載。



## リハビリテーション専門職のための 教育学

現場で役立つ「教える技術」

丸山仁司・堀本ゆかり 編著

B5判 180頁

定価3,960円(税10%込)

ISBN978-4-263-26639-7

教育学が必要なのは教員だけ？そんなことはありません！臨床でも役立つ「教える技術」を教育学の専門家がやさしく解説！







# 国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

## 貴方の『臨床疑問』を『研究疑問』へ

作業療法学分野では、充実したゼミ時間の確保により皆さんの臨床疑問を研究できる形に発展させます。

自ら立案した研究計画に基づいて成果を確認する過程は作業療法士の専門性を高めることに役立ちます。



東京赤坂キャンパス

## 社会人が学びやすい国際医療福祉大学大学院 3つのポイント

### ① カリキュラム

授業の多くを平日夕方以降と土曜日に開講しています。また、インターネットを利用したVODで都合の良い時間帯に映像を見ながら受講できる「eラーニングシステム」を整備しています。さらに、夏季・冬季や日曜日の集中講義も設置し、働きながら学びやすい環境を整えています。

### ② 7つのキャンパス

大田原(栃木県)、成田(千葉県)、赤坂(東京都)、小田原(神奈川県)、熱海(静岡県)、福岡・大川(福岡県)に大学院のキャンパスを設置しています。7キャンパスをオンラインで結び、自宅や職場に近い場所で授業を受けることが可能です。

### ③ オンラインによる研究指導の充実

コロナ禍でも大学院への進学、研究力・臨床力を少しでも高めたいという皆さんの希望に応えるため、オンラインによる研究指導も充実しています。また、研究および論文作成の進捗状況に応じた対面による研究指導も各キャンパスで行っております。

# 2023年度大学院生募集

※短大、専門学校を卒業された方でも、修士課程の出願が可能ですが(各分野の出願資格、出願資格審査要件をご確認ください)

## 作業療法学分野(修士課程・博士課程)

本分野には、実にさまざまな領域で活躍される作業療法士の方々が集います。その皆さんの実践における臨床疑問を、研究できる形の研究疑問に育て、実際に研究できる形にするプロセスはとてもエキサイティングです。研究活動を通して自分の臨床を振り返り、論理的思考を高めましょう。また、教育機関に所属する皆さんとは、学生の豊かな人間性を大切に教育者をめざして研究を進めたいと思います。

## 作業療法学分野 2領域の特長

### ■ 作業活動分析学

人の日常生活や社会生活の基盤となる作業活動とその遂行を科学的にとらえる方法論を学び、作業療法の実践に寄与する研究法を探索します。

作業療法学分野には脳機能計測装置として近赤外分光法(NIRS: Near-infrared spectroscopy)、脳波による事象関連電位(ERP: event-related potential)などの設備も充実しています。



分野責任者  
谷口 敬道教授

東京理科大学、日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻博士課程修了。本学の創設に参画し、現成田保健医療学部作業療学科長ならびに本分野責任者。

### ■ 作業活動支援学領域

作業療法の実践を支える理論、すなわち損なわれた精神と身体に対して作業活動を提供する意味を説明する諸理論を歴史的に考慮し、作業療法の原理を探ります。また、精神や身体が損なわれることによって生じる作業行動の障害を分類しその体系を考察します。これらの体系を通じて、作業(作業活動)を臨床的に応用する適用水準について考察を深めます。



杉原 素子教授

前日本作業療法士協会会長、日本作業療法士連盟会長、日本保健科学学会理事。本学副学長、保健医療学部長、新宿けやき園(特別養護老人ホーム/障害者支援施設)施設長等を歴任。

出願前に、指導教員との事前相談が必要です。事前相談の詳細や募集要項などはホームページをご覧ください。

連絡先

[taniguchi@iuhw.ac.jp](mailto:taniguchi@iuhw.ac.jp)

特に具体的な研究計画がない場合でも、ご相談ください

お問い合わせ

東京赤坂キャンパス入試事務室

TEL 03-5574-3903

MAIL

[daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp](mailto:daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp)

HP

<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>



“手を救う手”となるために——新時代のハンドセラピーの教科書、ここに誕生

## 動画で学ぼう PT・OTのためのハンドセラピー

編集 斎藤和夫・飯塚照史・下田信明

編集協力 秋山洋輔

●B5 2022年 頁228 定価：4,620円(本体4,200円+税) [ISBN978-4-260-04886-6]

Web  
付録付



症例把握をルーティン化すれば、もう困らない。自分なりの「型」を身につけませんか?

## 回復期リハビリテーションで 「困った!」ときの臨床ノート

監修 杉田之宏・藤原俊之 / 編集 高橋哲也・藤野雄次

●B5 2022年 頁256 定価：4,180円(本体3,800円+税) [ISBN978-4-260-04648-0]



上肢への作業療法アプローチのエビデンスを学べる! 臨床で活かせる!

## 作業で紡ぐ上肢機能アプローチ

作業療法における行動変容を導く機能練習の考えかた

編集 竹林 崇

編集協力 上江洲 聖・齋藤佑樹・澤田辰徳・友利幸之介

●B5 2021年 頁216 定価：4,400円(本体4,000円+税) [ISBN978-4-260-04640-4]



高齢者のリハビリテーション医学を深く理解するためのテキスト決定版

## 老人のリハビリテーション

原著 福井 圀彦

著 前田眞治・下堂 蘭 恵

第9版

●B5 2022年 頁440 定価：6,600円(本体6,000円+税) [ISBN978-4-260-04805-7]



### ◆2022年発行予定の関連書籍

#### 作業で語る事例報告 第2版

編集 齋藤佑樹

#### 臨床で使える 半側空間無視に対する実践的アプローチ

監修 前田眞治 / 編集 菅原光晴・原麻理子・山本潤

#### OT 国家試験専門問題

できるもん・でたもん 一問一答!!

編集 「標準理学療法学・作業療法学」編集室

#### PT・OT 国家試験問題集

できるもん・でたもん 過去問 Online 2023

編集 「標準理学療法学・作業療法学」編集室



# 「ことば」を使う人間の力をテーマにして書かれた、 リハビリテーションのための姉妹編

- 人間は対話する存在です。人や環境と対話しながら人間は成長し、創造し、喜怒哀楽を生きます。リハビリテーション治療において、これはいっそう切実な真実です。
- 「臨床のなかの対話力」では、人間に備わったこの「対話によって成長し、支え合って現実を創造し、そのなかで希望を求めて生きていく」という原理を、ヴィゴツキーに始まる「対話」の学術理論の理解から始まり、創造的なリハビリテーションを実践していくための具体的な思考や方法をめぐって、教育心理学者、詩人、そしてセラピストが縦横に対話していきます。そして続編である「臨床のなかの物語る力」では、この「対話力」の実体を「他者との対話を通して自己の経験の記述し、創り上げていく能力」と捉え、新たに哲学者と認知言語学者も迎えてより実践的な議論を展開していきます。
- リハビリテーションの現場のなかで「ことば」のもつ力に対する実感を養い、これを臨床能力の向上に結びつけていくための手がかりを提案する姉妹編です。



[レクチャー] 「対話」の意味を確かめる (佐藤公治/教育心理学)

[対話①] 「対話の理論」を読む  
(佐藤公治・本田慎一郎/教育心理学、リハビリテーション治療学)

[対話②] ことばをさがす  
(本田慎一郎・菊谷浩至/リハビリテーション治療学、詩学)

## 臨床のなかの対話力

リハビリテーションのことばをさがす

●B5・188ページ 定価3,300円(本体3,000円+税10%)

## 臨床のなかの物語る力

高次脳機能障害のリハビリテーション

●B5・196ページ 定価3,300円(本体3,000円+税10%)

[レクチャー①] 臨床のなかの物語る「私」(佐藤公治/教育心理学者)

[レクチャー②] 「私」の多様なありかた(田中彰吾/哲学者)

[レクチャー③] 「私」と身体メタファー(篠原和子/認知言語学者)

[対話①] リハビリテーションにおける「私」と「あなた」  
(本田慎一郎・玉木義規/セラピスト)

[対話②] ダイアログが創るモノログ(中里瑠美子・三上恭平/セラピスト)



### 関連書

## 臨床ノートの余白に 発達支援と高次脳リハビリテーション

本田慎一郎・菊谷浩至 ●著 ●A5・236ページ 定価3,300円(本体3,000円+税10%)

「対話」は「ことば—声—身体」の融合した仕組みであると捉え、この仕組みがもつ力を引き出す臨床のプロセスを、セラピストと詩人が実際の臨床経験を追体験しながら読み解いていきます。

[第1部 重度発達障害の臨床へ]

●言葉にならない世界を言葉へ  
(重度発達障害編)

●「重度発達障害編」を読んで。遊泳  
禁止、泳ぐ

[第2部 高次脳機能障害の臨床へ]

●言葉として語られた世界を言葉へ  
(豚足編)

●「豚足編」を読んで。不滅の憑依

[第3部 対話]

●言葉への向き合い方  
～セラピストの場合、詩人の場合



協同医書出版社

〒113-0033 東京都文京区本郷3-21-10  
TEL03-3818-2361 FAX03-3818-2368  
http://www.kyodo-isho.co.jp/

最新情報は  
こちらから

twitter



facebook



ホームページ





# 群馬パース大学

Gunma Paz University

看護学部

リハビリテーション学部

医療技術学部

■看護学科

■理学療法学科 ■作業療法学科 ■言語聴覚学科

■検査技術学科 ■放射線学科 ■臨床工学科



## 1 医療に特化した3学部体制

9つの医療専門職を目指す医療に特化した大学として、低学年から多職種理解ができるカリキュラムを導入しています。学科間を越えた授業を通して「チーム医療」を学んでいきます。そして、学生全員が「国家試験合格」という同じ目標に向かって、全学的に学んでいく環境が整っています。

## 2 チーム医療の基盤を築く初年次教育

学生が受け身ではなく主体となって学修に取り組む「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れ、チームワークの難しさ、リーダーシップ、自ら考え解決する力を養います。また、初年次からアカデミックスキルの修得と医療専門職への興味喚起を目的として、少人数による「PBL教育」を導入しています。問題解決技法について学ぶとともに、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を図ります。

## 3 「教育」「医療・福祉」「研究」PAZグループの連携

群馬パース大学は、群馬パース病院をはじめとする医療施設で構成される医療法人社団ほたか会、介護施設やグループホームを運営する株式会社ヴィラージュなどの組織とともに、学校法人群馬パース大学としてPAZグループを構成しています。「教育」「医療・福祉」「研究」の各分野の施設連携で地域貢献や社会貢献を目指しています。

To the Next stage 医学・医療・保健の分野におけるプロフェSSIONALに

# 群馬パース大学大学院

Gunma Paz University Graduate School

保健科学研究科  
保健科学専攻

博士前期課程

- 看護学領域
- 病因・病態検査学領域
- 臨床工学領域
- リハビリテーション学領域
- 放射線学領域
- 公衆衛生学領域

博士後期課程

- 医療科学領域

## リハビリテーション学領域

高度な研究計画の立案および研究遂行能力を持ち、リハビリテーションの実践に活かせるリーダーや高等教育に携わる専門職の育成を目指す

リハビリテーションに携わる職種の方を対象として専門科目には総合理学療法学および総合作業療法学、コミュニケーション障害学があります。総合作業療法学では、作業療法士がかかわる作業機能障害には直接的な疾患やけがなどの個人的な要因の他に環境的な要因が大きく作用することをシステム論的に理解できる能力を身に付けます。臨床における素朴な疑問から研究命題へとつながれるように高齢期障害、発達障害、身体障害、精神障害等における各領域のトピックスを提示し議論する中で、複雑な要因の関連が作業機能障害とその治療的变化を引き起こす可能性に言及できる知識を学びます。

作業療法学特別研究 特別研究指導教員



### 村田和香 教授

作業を治療に用いる作業療法実践の可視化、すなわち、論理的に説明し、実証的に明らかにする研究を目指します。人と環境、作業の相互作用、作業と健康の関連性、および、作業療法の効果判定の確立等について説明することを目標としています。



### 石井良和 教授

人間作業モデルでは、人の作業には意志、習慣化、遂行能力といった個人的資質と環境が影響し、疾患名にとられないアプローチが可能と考えるため、関連する諸概念と評価、システム論、現象学などの理解をもとに研究課題に取り組みます。



### 竹原敦 教授

保健、医療、介護の研究課題の中から、人生における社会的役割や習慣の変化と健康、高齢者や認知症の人の社会参加の評価とウェルビーイング・モデルの構築、地域包括ケアシステムの評価と関与など臨床実践に関連する研究に取り組みます。



### 南征吾 教授

人の生活を視点にした作業療法の実践技術は、福祉機器、地域創生、社会実装等をさらに促進すると考えています。そのため、作業療法の実践理論の理解をもとに研究課題に取り組み、その内容を説明することを目標とします。

お問合せ先

入試広報課

〒370-0006 群馬県高崎市間屋町1-7-1 ☎ 027-365-3370

HP

www.paz.ac.jp





**8th APOTC.2024**  
Sapporo. Japan

**Empowering Collaborative Community:  
Sustainable and Evidence-Based Occupational Therapy**

Dates  
**November 6<sup>WED</sup> – 9<sup>SAT</sup>, 2024**

Venue  
**Sapporo Convention Center  
SAPPORO, JAPAN**

Convenors  
**Ling-Hui Chang** President of APOTRG  
**Haruki Nakamura** President of JAOT



ヘルスケアシステムで培ったノウハウとバーチャルリアリティの技術でリハビリの分野に貢献します。



【東京支社】  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目4-10  
アクロポリス21ビル  
TEL 03-6630-4671 FAX 03-6630-4675  
【九州支社】  
〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目9-3  
博多駅前シティビル  
TEL 092-418-7100 FAX 092-475-1330  
URL <https://www.sisco.co.jp/>  
E-Mail [sales@sisco.co.jp](mailto:sales@sisco.co.jp)



**sisco**

サン情報サービス株式会社  
Sun Information & Service Corporation

## ハビル遊具®の環境を創る

遊具は発達支援の道具だから  
「効果」と「楽しさ」の空間に



aneby 株式会社 アネビー

[www.aneby.co.jp](http://www.aneby.co.jp) お問い合わせはこちら



## OTの未来のために



## 日本作業療法士連盟

連盟事務局:

東京都台東区寿 1-5-9

盛光伸光ビル 302号室

e-mail: [info@ot-renmei.jp](mailto:info@ot-renmei.jp)

TEL 03-6802-7964 FAX 03-6802-7963



人間科学部 健康栄養学科  
国際学部 国際教養学科  
医療保健科学部\*看護学科  
国際コミュニケーション学科  
リハビリテーション学科  
理学療法学専攻  
作業療法学専攻  
※2023年4月スタート

大学院  
グローバルコミュニケーション研究科  
健康栄養科学研究科  
リハビリテーション科学研究科  
こども発達学研究科

北海道文教大学 人とともに。人のために。

**HBU**  
HOKKAIDO BUNGYO UNIVERSITY

- 〈学科の特色〉
- 最新設備・充実のカリキュラム・最新技術の習得
  - 国際化・情報化にも対応
  - 経験豊富・屈指の実力派教授陣が指導

〒061-1449 恵庭市黄金中央5丁目1-96番地の1  
TEL:0123-34-0160 FAX:0123-34-1640

作業療法学科  
Instagram



HBU.OT2007

# こんなときどうする？ 運動器の作業療法ナビ

作業療法ジャーナル 2022年増刊号 Vol.56 No.8

● 定価 4,400 円 (本体 4,000 円+税) B5 240頁

回復期リハビリ病棟入院患者の疾患は、整形外科系疾患が脳血管障害を上回り、作業療法の対象者も、特に回復期では運動器疾患への支援が必要な方が増える傾向にある。一方で、臨床の場からは「学校で学んだ運動器の知識だけでは臨床現場に十分対応する自信がない」、「制限や痛みに対してどう対処すればいいのかわからない」等の声が聞かれる。

そこで、本増刊号ではまず運動器疾患の基本的な知識を身につけ、作業療法の視点から基礎医学に基づいて対象者の症状の分析ができるよう解説し、さらに臨床でよく遭遇するであろう症状・疾患・状況ごとに、作業療法の過程を紹介する。実践のなかで何に着目しなければならないか、作業療法の効果をどのように確認しているのか等も、事例をもとに説明する。

運動器疾患の作業療法の経験が少ない方も、自ら行動でき、臨床力を向上できることを目指す構成としている。本誌をもとに、OTが介入することの効果を、対象者にも支援するOTご自身にも、実感いただきたい。



## 【目次】

- 第1章 運動器の解剖と生理
- 第2章 運動器に現れやすい症状と改善方法
- 第3章 運動器の作業療法実践
- 第4章 地域・在宅支援
- 第5章 合併症としての運動器の問題

※編集作業上の都合により内容の一部が変更になる場合がありますので予めご了承下さい



## 12カ月8段階の正常発達分析から脳性まひリハビリの糸口を見つけ出す 近代ボバース概念による正常発達分析

監修 紀伊 克昌 / 著 金子 断行



本書は、こどもが生まれてから二足立を獲得するまでの12カ月に焦点をあて、その姿勢コントロールを分析することで、脳性まひのこどもの姿勢制御に必要な要素を導き出し、適切な発達支援に活かすことを目的としています。脳性まひのこどもに関わるPT、OT、ST、医師などの医療従事者、福祉教育や発達支援事業の関係者、またこどもの家族など、すべての方に役立つヒントが満載です。

● 定価 4,950 円 (本体 4,500 円+税)  
B5 184頁 2022年 ISBN 978-4-89590-750-7



## ボツリヌス治療+リハビリテーション 適切な痙縮治療とさらなる機能改善を目指すための基礎～実践的な知識が詰まった一冊！ エビデンスに基づくボツリヌス治療

監修 安保 雅博 / 編集 原 寛美・高橋 忠志



ボツリヌスによる痙縮治療には、リハビリテーションを併用することが必須である。適切なリハビリテーションを行うには痙縮の病態と臨床症状を知り、ボツリヌスの作用機序等の基礎的な知識を持つことが必要である。本書はボツリヌス治療とリハビリテーションによる適切な上肢・下肢の痙縮治療と、さらなる機能改善を目指すために欠かせない理論と実践の知識が詰まった手引書である。

● 定価 5,280 円 (本体 4,800 円+税)  
B5 256頁 2022年 ISBN 978-4-89590-751-4



## ことばの発達を促すイラストが満載！言語聴覚士の「あったらいいな」を本にしました！ 言語聴覚士が作った 思わず話したくなるイラストBOOK

編 綿野 香・鳥居 千登勢・小山 久実



子どもが主体的に考えを伝えることを促進するイラストブック。子どもの言語表出を促進するためには、「事実を客観的に伝えること」と「自分の意見を自分のことばで伝えること」を意識する必要があります。強制的に大人側が言わせたいことではなく、子どもが主体的に話したくなるように、言葉のヒントとなる要素をちりばめ、トレーニングのような難しさを廃して自発的に言葉を促すように工夫しました。

● 定価 2,420 円 (本体 2,200 円+税)  
B5 108頁 2021年 ISBN 978-4-89590-738-5



## 運動学習の再構築 運動学習を持続させる「動きのコツ」を徹底解説！ 実践 運動学習のREBUILDING

著 生野 達也



リハビリテーション介入直後は患者が身体の変化を感じることができても、効果が持続しない、という問題を抱えている療法士は多いのではないだろうか？どのような手技を用いるうえでも、運動学習効果を持続させるためには、患者が「理解しているか」を確認するという視点が重要です。本書を用いて、認知運動療法の観点から「動きのコツ」を効果的に伝えるポイントを整理した一冊。

● 定価 3,300 円 (本体 3,000 円+税)  
B5 140頁 2022年 ISBN 978-4-89590-754-5



## 住環境整備のバイブル、9年ぶりの全面改訂！！ OT・PTのための住環境整備論 第3版

監修 野村 歡 / 著 野村 歡・橋本 美芽・植田 瑞昌・西村 顕



最新の知見・情報をもとに、設計に関する初歩的な建築関連法規、生活行為に応じた福祉用具・機器の選択および使用方法、具体的な寸法を記載した住まいの設計・改修の手法を、豊富なイラストで分かりやすく説明している。作業療法士・理学療法士などの医療職、ケアマネジャー・ソーシャルワーカーなどの介護職が現場ですぐに使える実践に即した究極のテキスト、9年ぶりの全面改訂。

● 定価 4,840 円 (本体 4,400 円+税)  
AB 370頁 2021年 ISBN 978-4-89590-731-6



## 無料！簡単！すぐできる！！ものづくりのための3Dプリンタガイドブック第2弾！！ 無料データをそのまま3Dプリント 作業に出会える道具カタログ/事例集

著 林 園子・濱中 直樹



ものづくりのための3Dプリンタガイドブック第2弾！！「この本があれば必ず3Dプリントできる！！」をテーマにした道具カタログ。「まず出力してみること」に焦点を当て、QRコードからデータを直接ダウンロードしてすぐに出力できるようにした。200を超える暮らしの道具のデータを掲載！当事者にカタログを見せて「こんな自助具がほしい」とニードを引き出すきっかけとして使用することもできる。

● 定価 4,400 円 (本体 4,000 円+税)  
B5 216頁 2021年 ISBN 978-4-89590-728-6



書名、価格等は2022年5月現在の情報です。変わることがございます。ご了承下さい。



三輪書店

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-17-9 本郷網ビル

編集 ☎03-3816-7796 ☎03-3816-7756 販売 ☎03-6801-8357 ☎03-6801-8352

ホームページ : <https://www.miwapubl.com>

